

久下前遺跡Ⅴ(F 1 地点)・久下東遺跡Ⅵ(G 1 地点)

—本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6—

2013

本庄市教育委員会

序

本庄早稲田駅周辺土地地区画整理事業は、新幹線本庄早稲田駅周辺の広大な事業予定地を対象として住宅地、商・産業用地、公共施設用地、道路、公園・緑地などを整備する大規模な街づくり、地域の拠点を創出する事業です。平成18年より着手した同土地地区画整理事業に関連する発掘調査も早や7年におよび、旧石器時代にはじまり、近世にいたる様々な遺跡の調査により、膨大な資料が得られただけでなく、この地に繰り広げられた人々の多様な生活の諸相、往時の社会の歴史の一端が少しずつ明らかになりつつあります。

街づくりは、ようやく道路や街区などが整いつつある段階であり、まだまだ長い道程でしょうが、そうした現代の技術の粋を尽くした新しい街づくりの事業にこそ、先人の暮らしぶり、生活に根差した工夫の跡に思いをめぐらし、学ぶことも必要であろうかと思えます。

本書は、この土地地区画整理事業地内の都市計画道路建設に先立ち、平成22・23年度に実施した久下前遺跡F1地点と久下東遺跡G1地点の記録保存を目的とした発掘調査の報告書です。

久下前遺跡では、奈良・平安時代を中心とする集落跡を調査しました。遺跡の残り具合は必ずしも良好とは言えませんが、重なり合う多数の住居跡を精査しました。また、源頼朝が建立した寺院の瓦の破片が住居跡から出土しており、住居跡の時期とは異なりますが、中世においてもこの地が要地をなしていたことを物語るようです。

久下東遺跡では、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡や中世～近世の掘立柱建物跡や溝跡、井戸跡が高い密度で分布していました。調査区の南東端の古墳時代の住居跡の一つは、一辺が8mを優に越える大型住居跡で、当時の集落の中心をなすような住居かとも思われます。いずれ遺跡の全体像がとらえられて後、個別の諸成果は、より大きな成果へとまとめ上げられ、実を結ぶことでしょう。

この報告書が地域の歴史について考える一助として、多くの方々にご活用いただければ何よりの幸いと存じます。

末筆ながら、発掘調査から報告書作成にあたり、多大なご協力を賜った独立行政法人都市再生機構本庄都市開発事務所をはじめ、様々なご尽力、ご教示を賜った関係諸機関並びに各位に対して、心から御礼申し上げます。

平成25年3月

本庄市教育委員会

教育長 茂木孝彦

例 言

1. 本書は、埼玉県本庄市北堀1786-1・2、1955、1958-3、1968に所在する久下前遺跡F1地点、同本庄市北堀1559-1・3~5・7、1560-1、1561-1・2に所在する久下東遺跡G1地点の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う都市計画道路の新都心環状線の建設に先立ち実施した。発掘調査期間は、久下前遺跡F1地点が平成22年6月9日から平成23年2月28日まで、久下東遺跡G1地点が平成23年1月5日から6月29日までである。
3. 発掘調査は、本庄市教育委員会が行ない、現地調査に関しては、久下前遺跡を恋河内 昭彦が、久下東遺跡を松本 完が担当した。
4. 発掘調査から報告書刊行に要した経費は、独立行政法人都市再生機構本庄都市開発事務所の委託金である。
5. 本書で使用した地図のうち、第2図は、国土地理院発行の5万分の一地形図（「本庄」）、第4・5図に関しては、2千5百分の一都市計画図をもとに作成した。
6. 本書で用いたXY座標値は、世界測地系による新座標値である。
7. 土層および遺物の色調表現の多くは、『新編標準土色帳』を基準とした。
8. 写真図版中の遺物の縮尺は、原則として挿図中の遺物の縮尺とほぼ同じである。
9. 本書で用いた全体図、遺構図面に関しては、現地作業時の図化作業、および報告書作成段階の製図作業、編集作業の一部を、株式会社測研、および株式会社協同測地開発に委託した。遺跡上空からの写真撮影は、株式会社測研、および株式会社協同測地開発に委託した。遺跡全景写真などの写真図版は、その成果に基づく。
10. 久下前遺跡、久下東遺跡の出土土器・土製品、陶磁器類、石製品の一部に関しては、整理作業の一部と写真撮影を、有限会社毛野考古学研究所に委託した。なお、写真図版に関しては、的野善行の協力のもとに編集作業を行った。
11. 本書の執筆、および編集は、松本が行なった。
12. 発掘調査および整理作業、報告書の作成にあたって、ご協力頂いた方々は、下記のとおりである（敬称略、五十音順）。
青山 力 明戸 広美 新井千都子 新井 正治 新井 嘉人 池田 一彦 磯崎 勝人 今井 豊和
落合智恵美 河田 倫子 川中子浩史 熊谷由美子 倉林 美紀 黒沢 律子 黒澤 恵 小暮 悠樹
小林美代子 小松 帝一 斉藤真理子 塩原 晴幸 篠原 朗 菅野 裕子 関根 静枝 高田 和正
高橋 愛子 高橋 辰馬 高橋 好男 高柳とみ子 立石 益一 為貝 祐恵 塚越 金作 土屋 牧子
戸沢ミチ子 戸谷佐知子 中原 好子 野本ミチ子 福島 礼子 藤重千恵子 逸見百合子 細谷 悟
町田 泰三 三木きよ子 最能 秀行 山田マサミ 山崎 和子 山本 勇 吉田 耕作 吉田 重政
渡辺 典子 渡辺 裕子
13. 発掘調査及び本書の作成に関しては、下記の方々や諸機関からご助言、ご協力を賜った。ここに記し、感謝する次第である（敬称略、五十音順）。
荒川 正夫 石坂 俊郎 市毛 勲 大谷 徹 柿沼 幹夫 金子 彰男 菊地有紀子 小出 輝雄
小林 康幸 昆 彭生 坂本 和俊 佐々木幹夫 佐々木由香 篠崎 潔 杉崎 茂樹 外尾 常人

高林 真人 田村 誠 鳥羽 政之 中沢 良一 長井 正欣 長滝 歳康 日沖 剛史 福田 聖
 藤根 久 丸山 修 水谷 貴之 宮本 久子 矢内 勲

埼玉県教育庁市町村支援部生涯学習文化財課 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 早稲田大学本庄考古資料館
 株式会社測研 株式会社協同測地開発 有限会社毛野考古学研究所

14. 発掘調査及び整理事業、報告書の刊行にかかる本庄市教育委員会の組織は、以下のとおりである。

発掘調査組織（平成22・23年度）

主体者	本庄市教育委員会	
	教育長	茂木 孝彦
事務局	事務局長	関和 成昭
	文化財保護課	
	課長	金井 孝夫
	副参事兼課長補佐	鈴木 徳雄
	埋蔵文化財係	
	課長補佐兼	
	埋蔵文化財係長	太田 博之
	主幹	恋河内昭彦（久下前遺跡）
	主査	大熊 季広
	主査	松澤 浩一
担当者	主任	松本 完（久下東遺跡）
＃	臨時職員	的野 善行（久下前遺跡）

整理・報告書刊行組織（平成24年度）

主体者	本庄市教育委員会	
	教育長	茂木 孝彦
事務局	事務局長	関和 成昭
	文化財保護課	
	課長	金井 孝夫
	副参事兼課長補佐	鈴木 徳雄
	埋蔵文化財係	
	課長補佐兼	
	埋蔵文化財係長	太田 博之
	主幹	恋河内昭彦
	主査	大熊 季広
	主査	松澤 浩一
担当者	主任	松本 完（久下前遺跡・久下東遺跡）
	臨時職員	的野 善行

久下前遺跡V(F 1 地点)・久下東遺跡VI(G 1 地点)

目次

序	
例言	
目次	
第Ⅰ章 調査にいたる経緯	1
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境	2
第1節 遺跡の立地	2
第2節 周辺の遺跡と歴史的環境	3
第Ⅲ章 久下前遺跡F 1地点の調査	8
第1節 調査の概要	8
第2節 検出された遺構と遺物	9
1 竪穴住居跡	9
2 井戸跡	42
3 土坑	42
4 溝跡	51
5 遺構外出土遺物	52
第Ⅳ章 久下東遺跡G 1地点の調査	53
第1節 調査の概要	53
第2節 検出された遺構と遺物	54
1 竪穴住居跡	54
2 掘立柱建物跡	121
3 井戸跡	124
4 土坑	129
5 溝跡	141
6 ビット	147
7 遺構外出土遺物	147
第Ⅴ章 まとめ	148
引用・参考文献	149
図版	

挿図目次

第1図	埼玉県の地形……………	2	第46図	457～460号土坑平面・断面図……………	48
第2図	周辺の主要遺跡(1)……………	4	第47図	土坑出土遺物……………	49
第3図	周辺の主要遺跡(2)……………	5	第48図	6・12・11号溝跡平面・断面図……………	50
第4図	発掘調査地点近傍の遺跡……………	6	第49図	6・11号溝跡出土遺物……………	51
第5図	発掘調査地点位置図……………	7	第50図	遺構外出土遺物……………	52
久下前遺跡					
第6図	久下前遺跡F1地点全体図……………	8	久下東遺跡		
第7図	13・21・22号住居跡平面・断面図……………	10	第51図	久下東遺跡G1地点全体図……………	52・53
第8図	21・22・29号住居跡平面・断面図……………	11	第52図	208号住居跡出土遺物……………	54
第9図	21号住居跡出土遺物……………	12	第53図	206～208号住居跡平面・断面図……………	55
第10図	22号住居跡出土遺物……………	12	第54図	209・210号住居跡平面・断面図(1) ……	56
第11図	31・176号住居跡平面・断面図……………	13	第55図	209・210号住居跡平面・断面図(2) ……	57
第12図	31号住居跡出土遺物……………	14	第56図	209号住居跡出土遺物……………	58
第13図	172・173号住居跡平面・断面図……………	15	第57図	210号住居跡出土遺物……………	58
第14図	172号住居跡出土遺物……………	16	第58図	211号住居跡平面・断面図……………	59
第15図	174号住居跡平面・断面図……………	17	第59図	211号住居跡出土遺物……………	60
第16図	174号住居跡出土遺物……………	18	第60図	212～214号住居跡平面・断面図……………	61
第17図	175号住居跡平面・断面図……………	19	第61図	214号住居跡カマド・貯蔵穴平面・断面図 ……	62
第18図	175号住居跡出土遺物……………	20	第62図	214号住居跡出土遺物……………	63
第19図	177号住居跡平面・断面図……………	22	第63図	215号住居跡出土遺物……………	64
第20図	177号住居跡出土遺物……………	23	第64図	215号住居跡平面・断面図……………	65
第21図	178・179号住居跡平面・断面図……………	26	第65図	216～220号住居跡平面・断面図……………	66
第22図	178号住居跡カマド平面・断面図……………	27	第66図	220号住居跡出土遺物……………	67
第23図	178号住居跡出土遺物(1)……………	27	第67図	222号住居跡平面・断面図……………	68
第24図	178号住居跡出土遺物(2)……………	28	第68図	222号住居跡カマド平面・断面図……………	69
第25図	179号住居跡出土遺物……………	29	第69図	222号住居跡出土遺物……………	70
第26図	180～182号住居跡平面・断面図……………	30	第70図	223号住居跡出土遺物……………	71
第27図	180・181号住居跡平面・断面図……………	31	第71図	224a号住居跡出土遺物……………	71
第28図	181号住居跡カマド平面・断面図……………	32	第72図	223・224a・224b号住居跡平面・断面図…	72
第29図	180号住居跡出土遺物……………	32	第73図	223・224b号住居跡カマド平面・断面図…	73
第30図	181号住居跡出土遺物……………	33	第74図	225号住居跡平面・断面図……………	74
第31図	182号住居跡出土遺物……………	33	第75図	226号住居跡平面・断面図……………	76
第32図	183・188号住居跡平面・断面図……………	34	第76図	226号住居跡出土遺物……………	77
第33図	183号住居跡出土遺物……………	35	第77図	230・231号住居跡平面・断面図(1) ……	78
第34図	184・185・187号住居跡平面・断面図(1) ……	37	第78図	230・231号住居跡平面・断面図(2) ……	79
第35図	184・185・187号住居跡平面・断面図(2) ……	38	第79図	230号住居跡出土遺物(1)……………	80
第36図	184号住居跡出土遺物……………	39	第80図	230号住居跡出土遺物(2)……………	82
第37図	186号住居跡平面・断面図……………	39	第81図	230号住居跡出土遺物(3)……………	83
第38図	185号住居跡出土遺物……………	40	第82図	231号住居跡出土遺物……………	86
第39図	187号住居跡出土遺物……………	40	第83図	232・233号住居跡平面・断面図……………	87
第40図	3・24号井戸跡平面・断面図……………	42	第84図	232号住居跡出土遺物……………	88
第41図	12・28・421～424号土坑平面・断面図……………	43	第85図	233号住居跡出土遺物……………	88
第42図	425～430・434号土坑平面・断面図……………	44	第86図	234号住居跡平面・断面図……………	89
第43図	431～433・435～438号土坑平面・断面図……………	45	第87図	234号住居跡出土遺物(1)……………	89
第44図	439～443・447～448号土坑平面・断面図……………	46	第88図	234号住居跡出土遺物(2)……………	90
第45図	449～456号土坑平面・断面図……………	47	第89図	235号住居跡平面・断面図……………	91
			第90図	235号住居跡出土遺物……………	92

第91図	236号住居跡平面・断面図	93	第119図	250号住居跡出土遺物	116
第92図	236号住居跡カマド平面・断面図	94	第120図	251号住居跡出土遺物	118
第93図	236号住居跡出土遺物	94	第121図	252号住居跡出土遺物	119
第94図	237号住居跡平面・断面図	95	第122図	14号掘立柱建物跡平面・断面図	122
第95図	237号住居跡出土遺物	96	第123図	15号掘立柱建物跡平面・断面図	123
第96図	238号住居跡平面・断面図	96	第124図	18～21号井戸跡平面・断面図	125
第97図	238号住居跡出土遺物	97	第125図	19号井戸跡出土遺物	126
第98図	239号住居跡出土遺物	97	第126図	20号井戸跡出土遺物	126
第99図	239・240号住居跡平面・断面図	98	第127図	22～24号井戸跡平面・断面図	127
第100図	241号住居跡出土遺物	99	第128図	24号井戸跡出土遺物	128
第101図	242号住居跡出土遺物	99	第129図	25号井戸跡平面・断面図	128
第102図	241号住居跡平面・断面図	100	第130図	25号井戸跡出土遺物	129
第103図	242号住居跡平面・断面図	101	第131図	308・309・440～445号土坑平面・断面図	130
第104図	243号住居跡出土遺物	102	第132図	446～453号土坑平面・断面図	131
第105図	243～245号住居跡平面・断面図	103	第133図	454～460号土坑平面・断面図	132
第106図	245号住居跡カマド・貯蔵穴平面・断面図	104	第134図	461～468号土坑平面・断面図	133
第107図	244号住居跡出土遺物	104	第135図	469～475号土坑平面・断面図	134
第108図	245号住居跡出土遺物	105	第136図	476～483号土坑平面・断面図	135
第109図	246号住居跡平面・断面図	107	第137図	484～488号土坑平面・断面図	136
第110図	247・248号住居跡平面・断面図	108	第138図	489～496号土坑平面・断面図	137
第111図	247号住居跡出土遺物	109	第139図	497～504号土坑平面・断面図	138
第112図	248号住居跡出土遺物	109	第140図	土坑出土遺物	140
第113図	249号住居跡出土遺物	110	第141図	56号溝跡平面・断面図	142
第114図	249号住居跡平面・断面図	111	第142図	56号溝跡出土遺物	143
第115図	250～252号住居跡平面・断面図(1)	113	第143図	88号溝跡出土遺物	144
第116図	250～252号住居跡平面・断面図(2)	114	第144図	69・87・89号溝跡平面・断面図	145
第117図	251・252号住居跡カマド平面・断面図	115	第145図	88号溝跡平面・断面図	146
第118図	252号住居跡貯蔵穴平面・断面図	116	第146図	ピット出土遺物	147
			第147図	遺構外出土遺物	147

挿表目次

久下前遺跡

第1表	21号住居跡出土遺物観察表	12
第2表	22号住居跡出土遺物観察表	12
第3表	31号住居跡出土遺物観察表	14
第4表	172号住居跡出土遺物観察表	16
第5表	174号住居跡出土遺物観察表	18
第6表	175号住居跡出土遺物観察表(1)	20
第7表	175号住居跡出土遺物観察表(2)	21
第8表	177号住居跡出土遺物観察表(1)	24
第9表	177号住居跡出土遺物観察表(2)	25
第10表	178号住居跡出土遺物観察表	28
第11表	179号住居跡出土遺物観察表	29
第12表	180号住居跡出土遺物観察表	32
第13表	181号住居跡出土遺物観察表	33
第14表	182号住居跡出土遺物観察表	33
第15表	183号住居跡出土遺物観察表(1)	35
第16表	183号住居跡出土遺物観察表(2)	36

第17表	184号住居跡出土遺物観察表	39
第18表	185号住居跡出土遺物観察表	40
第19表	187号住居跡出土遺物観察表	41
第20表	土坑計測および観察表(1)	48
第21表	土坑計測および観察表(2)	49
第22表	土坑出土遺物観察表	49
第23表	6・11号溝跡出土遺物観察表	51
第24表	遺構外出土遺物観察表	52

久下東遺跡

第25表	208号住居跡出土遺物観察表	54
第26表	209号住居跡出土遺物観察表	58
第27表	210号住居跡出土遺物観察表	58
第28表	211号住居跡出土遺物観察表	60
第29表	214号住居跡出土遺物観察表(1)	63
第30表	214号住居跡出土遺物観察表(2)	64
第31表	215号住居跡出土遺物観察表	64
第32表	220号住居跡出土遺物観察表	67

第33表	222号住居跡出土遺物観察表	70	第55表	244号住居跡出土遺物観察表	104
第34表	223号住居跡出土遺物観察表	71	第56表	245号住居跡出土遺物観察表(1)	105
第35表	224a号住居跡出土遺物観察表	71	第57表	245号住居跡出土遺物観察表(2)	106
第36表	226号住居跡出土遺物観察表	77	第58表	247号住居跡出土遺物観察表	109
第37表	230号住居跡出土遺物観察表(1)	81	第59表	248号住居跡出土遺物観察表	109
第38表	230号住居跡出土遺物観察表(2)	82	第60表	249号住居跡出土遺物観察表	110
第39表	230号住居跡出土遺物観察表(3)	84	第61表	250号住居跡出土遺物観察表(1)	117
第40表	230号住居跡出土遺物観察表(4)	85	第62表	250号住居跡出土遺物観察表(2)	118
第41表	231号住居跡出土遺物観察表	86	第63表	251号住居跡出土遺物観察表(1)	118
第42表	232号住居跡出土遺物観察表	88	第64表	251号住居跡出土遺物観察表(2)	119
第43表	233号住居跡出土遺物観察表	88	第65表	252号住居跡出土遺物観察表	120
第44表	234号住居跡出土遺物観察表(1)	90	第66表	19号住居跡出土遺物観察表	126
第45表	234号住居跡出土遺物観察表(2)	91	第67表	20号住居跡出土遺物観察表	126
第46表	235号住居跡出土遺物観察表	92	第68表	24号住居跡出土遺物観察表	128
第47表	236号住居跡出土遺物観察表(1)	94	第69表	25号住居跡出土遺物観察表	129
第48表	236号住居跡出土遺物観察表(2)	95	第70表	土坑計測および観察表(1)	139
第49表	237号住居跡出土遺物観察表	96	第71表	土坑計測および観察表(2)	140
第50表	238号住居跡出土遺物観察表	97	第72表	土坑出土遺物観察表	141
第51表	239号住居跡出土遺物観察表	97	第73表	56号溝跡出土遺物観察表	143
第52表	241号住居跡出土遺物観察表	99	第74表	88号溝跡出土遺物観察表	144
第53表	242号住居跡出土遺物観察表	99	第75表	ビット出土遺物観察表	147
第54表	243号住居跡出土遺物観察表	102	第76表	遺構外出土遺物観察表	147

図版目次

久下前遺跡F1地点

図版1	久下前遺跡F1地点遠景、久下前遺跡F1～F3地点
図版2	久下前遺跡F1地点西半遺構群・中央遺構群
図版3	21・22・31・172号住居跡
図版4	172～176号住居跡
図版5	177～180号住居跡
図版6	180～182号住居跡
図版7	21・183～187号住居跡
図版8	3・24号井戸、28・421～425号土坑
図版9	426～435・437・443号土坑
図版10	448～455・456・457号土坑、6号溝跡
図版11	11・12号溝跡
図版12	出土遺物(1)
図版13	出土遺物(2)

久下東遺跡G1地点

図版14	久下東遺跡G1地点遠景、同全景
図版15	久下東遺跡G1地点北西半・中央遺構群
図版16	206～210号住居跡
図版17	210～220号住居跡
図版18	222～224a・224b号住居跡
図版19	224b～226・229～231号住居跡

図版20	230号住居跡
図版21	232～236号住居跡
図版22	237・238・240号住居跡
図版23	241・242・244号住居跡
図版24	245～247号住居跡
図版25	248～250号住居跡
図版26	250号住居跡
図版27	251・252号住居跡
図版28	14・15号掘立柱建物跡、21～24号井戸跡
図版29	25号井戸跡、307・309・440・441・445・446・454・456・458号土坑
図版30	457～460・462～464・466～468号土坑
図版31	469～471・474～478号土坑
図版32	479～483・487・490号土坑
図版33	488・491・492・495～499号土坑
図版34	500・502～504号土坑、56号溝跡
図版35	87～89号溝跡
図版36	出土遺物(1)
図版37	出土遺物(2)
図版38	出土遺物(3)
図版39	出土遺物(4)
図版40	出土遺物(5)

第 I 章 調査にいたる経緯

本庄市は、利根川を境に群馬県域と隣接する埼玉県北部の中心都市である。その地理的位置から古来現在の群馬県域や周辺他県域と緊密な関係をもち、交通・交流の結節点として、文物が逸早く流入する地域でもあった。

そうした地の利を活かし、平成5年に地方拠点法に基づく「本庄地方拠点都市地域」の指定を受け、埼玉県北部の中心拠点として、現在の上越新幹線本庄早稲田駅周辺における「本庄新都心地区」の整備計画を進めてきた。また、平成8年以降、整備事業地内に所在する埋蔵文化財の取扱いについて、埼玉県教育委員会、本庄市、本庄市教育委員会の三者は、具体的な協議を積み重ね、平成14年3月20日に「本庄新都心地区画整理事業地区内の埋蔵文化財に関する協定書」を締結するに到った。

その後、平成16年の上越新幹線本庄早稲田駅開業を経て、独立行政法人都市再生機構への事業主体の移行を機に事業の再検討が行なわれるとともに、平成18年には「本庄都市計画事業本庄早稲田駅周辺土地画整理事業」の施行規定、および事業計画が認可された。これを受け、平成18年11月10日、都市再生機構本庄都市開発事務所、埼玉県教育委員会、本庄市、本庄市教育委員会、の四者により、本庄早稲田駅周辺土地画整理事業地内における埋蔵文化財の取扱いについて定めた「本庄早稲田駅周辺地区埋蔵文化財に関する協定書」を締結した。

事業地内における発掘調査に関しては、平成18年度に七色塚遺跡A・B地点(53-071)と北堀新田前遺跡A地点(53-063)の2遺跡の調査を実施し、平成19年度には、浅見山I遺跡A・B地点(53-114)、北堀久下塚北遺跡A地点(53-066)、久下東遺跡A・B地点(53-064)の3遺跡の発掘調査を順次実施した。続く平成20年度には、北堀久下塚北遺跡B・C1・D1地点、久下前遺跡A・B地点(53-065)、久下東遺跡C・D・E地点、平成21年度には、久下前遺跡C1～C3地点、北堀新田遺跡A1地点(53-062)、および同遺跡A2地点の一部、宥勝寺北裏遺跡A1・A2・B1・B2地点(53-109)、北堀久下塚北遺跡C2・D2地点の調査を行なった。

平成22年度には、久下前遺跡C4地点、D1～D3地点、E1・E2地点、F1～F3地点、久下東遺跡F1・F2地点、北堀新田遺跡A2・B地点、平成23年度には、久下前遺跡G地点、久下東遺跡G1～G3地点、同H地点の各調査地点の調査を行なった。

以上の調査を行なった各遺跡、地点の内、都市再生機構の事業に係る調査を実施した地点(浅見山I遺跡B地点を除く)に関しては、調査の翌年度に整理作業を行ない報告書を刊行している(恋河内・松本 2008、松本・大熊・藤波・亀田他 2009、恋河内・的野 2010、松本・的野 2010、恋河内 2012)。

ここに報告する久下前遺跡F1地点、久下東遺跡G1地点は、平成22・23年度の調査地点の内、都市再生機構の事業に係る調査を実施した地点にあたる。久下前F1地点の調査は、平成22年6月9日から平成23年2月28日まで、久下東遺跡G1地点の調査は、平成23年1月5日から同年6月29日まで実施した。

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

第1節 遺跡の立地

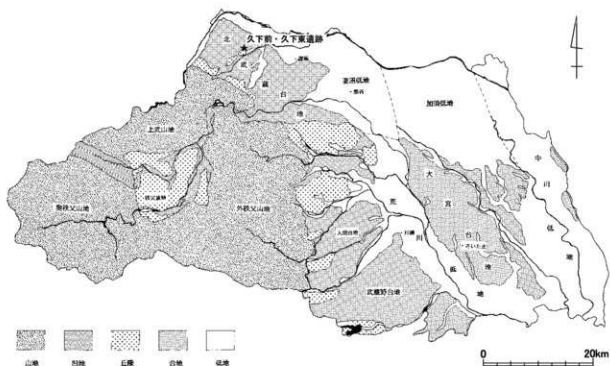
久下前遺跡、久下東遺跡は、本庄市域北半のほぼ中央に位置し、上越新幹線本庄早稲田駅の北東350～450mほど離れた位置にある。

本庄市は、東西に長い埼玉県の北端、利根川をはさみ群馬県伊勢崎市と境を接し、北関東の入り口とも呼ぶべき位置を占めている（第1図）。平成18年に児玉町と合併したことで、本庄市域は、南に大きく市域を拡げ、上武山地に連なる山地、丘陵部をその内を含むこととなった。

本庄市の地形は、利根川右岸の低地、沖積地からなる北東部、市街地化の中心をなす台地、低位段丘、残丘の織りなす中央部、丘陵、山地の広がる南西部の3つに大きく分けることができる。

低地は、利根川や烏川の氾濫原で、下流に広がる妻沼低地、加須低地へと連なる。台地は、いわゆる北武蔵台地最北の本庄台地であり、主に神流川扇状地と身馴川扇状地の複合扇状地性の台地である。神流川扇状地は、群馬県鬼石町浄法寺付近を扇の要とし、扇の端は本庄段丘を形作っている。身馴川扇状地は、北西側を児玉丘陵、生野山丘陵、浅見山丘陵に、南東側を松久丘陵、櫛引台地には含まれた一帯である。この女堀川、身馴川（小山川）などの諸河川に刻まれた低位段丘、台地を主とする中央部の一帯が、市域でも最も遺跡が稠密に分布する範囲である。山地は、上武山地に属する陣見山、不動山などの山並で、北東斜面は裾野を広げ、児玉丘陵へ、さらに北東の生野山丘陵、浅見山丘陵など切れ切れの残丘へと連なる。

以下報告する久下前遺跡、久下東遺跡は、市域中央部の男堀川と女堀川に挟まれた低位段丘に立地する。



第1図 埼玉県の地形

第2節 周辺の遺跡と歴史的環境

久下前遺跡、久下東遺跡周辺を中心に主要な遺跡に限り、概略を記すことにしたい(第2～4図)。

旧石器時代の遺跡は、近隣では、久下東遺跡D1地点(2:以下、()内の数字、アルファベットは、第2～4図の遺跡番号、遺跡略号と一致する)、有勝寺北裏遺跡(9)、浅見山I遺跡(11)、大久保山遺跡(12)、古川端遺跡(44)、社具路遺跡(83)、西富田四方田条里遺跡(a)などがあげられる。因みに久下前遺跡(1)でも、今回報告するF1地点の西、200mほど離れたA1地点の時期の新しい河川跡から黒曜石製のナイフ形石器が1点出土している(恋河内・的野 2010)。

縄文時代の遺跡も、周辺に限れば、多くはない。遺構の検出された遺跡は、七色塚遺跡(8)、大久保山遺跡(12)、西富田前田遺跡(19)、西富田・四方田条里遺跡(a)などごく少数である。いずれも縄文時代前期後半からそれ以降の小規模な集落跡の一部である。より上の女堀川の中流域では、縄文時代中期中葉以降、遺構の検出割合が増加するとともに、将監塚遺跡(94)、古井戸遺跡(95)、新宮遺跡(101)のような大規模な集落が営まれる端緒が開かれるようである。縄文時代後・晩期の遺跡は、とくに少ない。

弥生時代の遺跡は、中期前葉から中葉にかけて、丘陵部の浅見山I遺跡(11)の土坑群をはじめとして、低位段丘や台地上でも、今井条里遺跡(b)や夏目西遺跡(81)の土坑のように、遺構の検出割合が見られるようになる。また、近年、中期前葉から中葉、あるいは後葉にかけての土器片が出土するだけの遺跡も、根田遺跡(22)、四方田遺跡(23)、雷電下遺跡(24)、笠ヶ谷戸遺跡(33)、小島本伝遺跡(118)など、確実に増加しており、住居跡は見られないものの、とくに沖積地をめぐる低位段丘や台地縁辺に、かなりの範囲で該期の人々の営為が及び始めていることは間違いない。

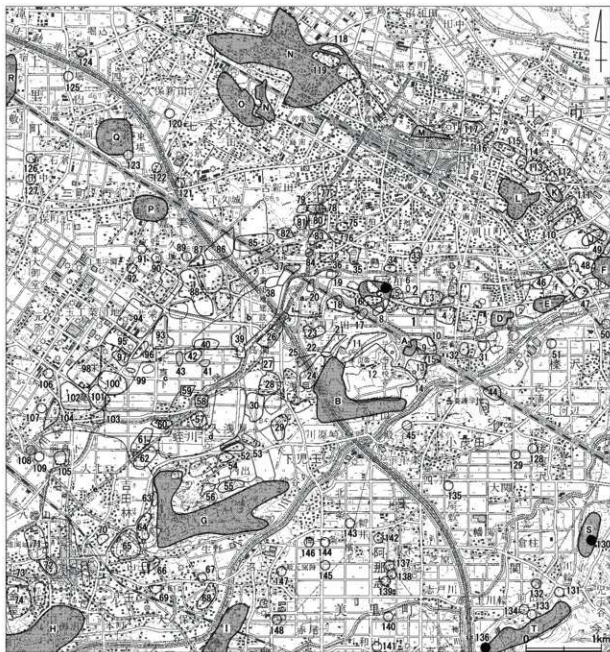
弥生時代後期に関しては、散発的な資料を除けば、後期前半代の遺跡がきわめて乏しい状態である。後期でも後半代になると、浅見山I遺跡(11)、大久保山遺跡(12)、山根遺跡(21)、飯玉東遺跡(25)、生野山遺跡(G)、美里町塚山本遺跡(B)と、丘陵上や丘陵裾の低位段丘や微高地などを中心に、小規模で短期的な集落跡が見られるようになる。

古墳時代前期の遺跡は、丘陵部に散開する弥生時代後期の遺跡の様相から一変し、河川に縁取られた台地縁辺、低地内の自然堤防、低位段丘上に多数の集落遺跡が形成されることが特徴的である。また、弥生時代後期から古墳時代へと継続する遺跡が、ほとんど見られないことも特色の一つである。

周辺に限っても北堀新田前遺跡(4)、七色塚遺跡(8)、下田遺跡(17)、地神遺跡(37)、塔頭遺跡(38)、今井条里遺跡(b)と、東から西へ枚挙にいとまがない。中流域でも後張・川越田遺跡(26)など有数の遺跡が居並ぶ。この段階に沖積地の本格的な開発が始まったのであろう。

古墳時代前期の傾向を引き継ぎ、さらに倍加したのが、古墳時代中期の集落遺跡の様相である。中期、そして中期以降、遺跡の規模、遺跡数、流域内での広がり、いずれをとっても、急激な増加を見ることは間違いない。上記した古墳時代前期の遺跡の多くで、中期以降、竪穴住居跡の数が増すとともに生活域の規模が大きく拡大する。丸反田遺跡(20)、笠ヶ谷戸遺跡(33)、雌漆遺跡(35)、弥藤次遺跡(79)、夏目遺跡(80)、夏目西遺跡(81)、西富田新田遺跡(82)など、中期段階より新たに開村したと思しき集落遺跡も多数見られる。この集落の拡大、増加傾向は、7世紀半ば頃まで続くようである。

また、この一帯は、古墳時代前期から中期にかけて方形周溝墓や古墳に関しても、興味深い遺跡が集中する一帯でもある。まず、久下前遺跡の東側隣接地には、古墳時代前期の方形周溝墓1基、前方



(本庄市) 1. 久下前 2. 久下東 3. 北堀新田 4. 北堀新田前 5. 北堀久下塚北 6. 北堀久下東北 7. 公卿塚古墳 8. 七色塚 9. 有勝寺北裏 10. 有勝寺裏塚輪案跡 11. 浅見山 I 12. 大久保山 13. 大久保山寺院跡 14. 東谷古墳 15. 東谷 16. 元富 17. 下田 18. 観音塚 19. 西富田前田 20. 九反田 21. 山根 22. 根田 23. 四方田 24. 雷電下 25. 飯王東 26. 後張・川越田 27. 東牧西分 28. 間根氏館跡 29. 鷺山古墳・鷺山南 30. 浅見山境北 31. 東本庄 32. 栗崎館跡 33. 笠ヶ谷戸 34. 伊丹堂前 35. 雌漆 36. 西富田本郷 37. 地神 38. 塔頭 39. 今井川越田 40. 前田甲 41. 柿島 42. 藤塚 43. 堀向 44. 古川端 (美里町) 45. 村後 (本庄市) 46. 田端屋敷 47. 台 48. 西五十子大塚 49. 東五十子赤坂 (深谷市) 50. 六反田 51. 大寄 (本庄市) 52. 新屋敷 53. 城の内 54. 金鑽神社古墳 55. 向田 56. 老丁田 57. 共和小学校校庭 58. 蛭川氏館跡 59. 左口 60. 蛭川坊田 61. 辻堂 62. 南街道 63. 吉田林割山 64. 阿知越 65. 御林下 66. 兎玉清水 67. 下町古墳群 68. 大久保 69. 兎玉大天白 70. 女堀 71. 埴岡城 72. 八幡山 73. 金星北原 74. 金星西 75. 薬師 76. 薬師元屋舗 77. 二本松 78. 西富田 79. 弥藤次 80. 夏目 81. 夏目西 82. 西富田新田 83. 社具路 84. 社具路南 85. 今井諏訪 86. 久城前 87. 久城往來北 88. 今井原屋敷 (上里町) 89. 往來北 90. 熊野太神南 91. 八幡太神南 92. 立野南 (本庄市) 93. 将監塚東 94. 将監塚 95. 古井戸 96. 内出 97. 古井戸南 98. 南共和 99. 平塚 100. 塚島 101. 新宮

第2図 周辺の主要遺跡(1)

後方墳(前方後方形周溝墓)2基が検出された北堀新田前遺跡(12)があり、北西500m余には、古墳時代中期前葉とも目される墳径65m前後の短い造り出しの付いた円墳とされる公卿塚古墳(7)がある。

さらに久下前遺跡の沖積地を隔てた南側の丘陵上には、古墳時代前期末葉の前方後円墳、方墳である前山1・2号墳(A)がある。前山1・2号墳のある丘陵先端をわずかに下った痩せ根根上で、古墳時代前期の7基の方形周溝墓が確認されており、前山1・2号墳の北西400mほど離れた北東に細長くのびた支丘先端の南斜面には、古墳時代前期後半～末葉の12基の方形周溝墓からなる墓域の調査がなされた浅見山I遺跡がある。浅見山I遺跡の墓域の中でも丘陵裾の最も低い位置に造られた周溝墓は、周溝の形状から前方後方墳(前方後方形周溝墓)の一種であることが推定されている。

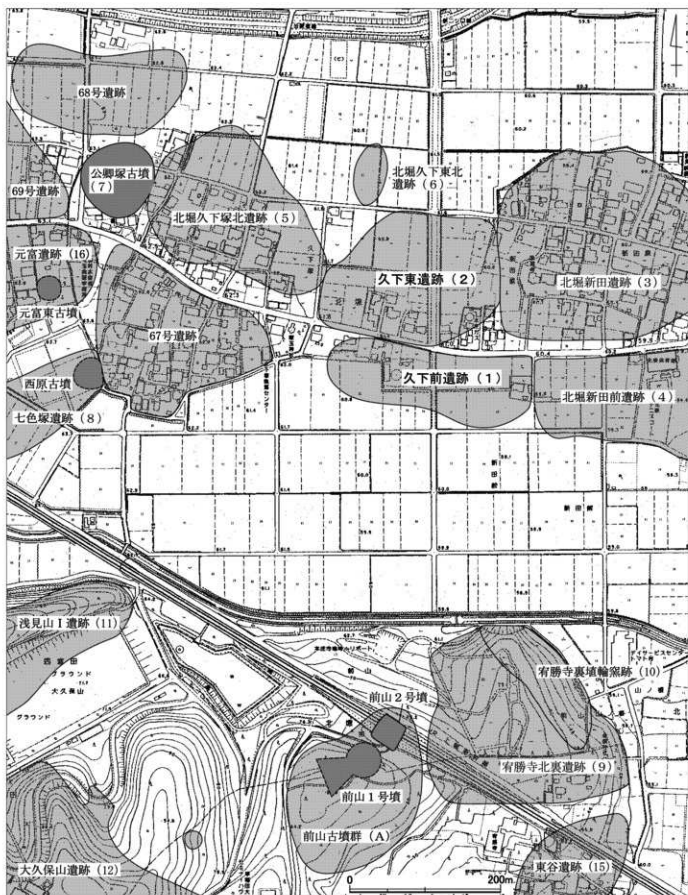
周辺の奈良・平安時代の集落跡に関しては、今回報告する久下前遺跡(1)、久下東遺跡(2)をはじめとして、北堀新田遺跡(3)、北堀久下塚北遺跡(5)、七色塚遺跡(8)、下田遺跡(17)、観音塚遺跡(18)と沖積地をめぐる微高地や自然堤防、低位段丘面上に、多数の遺跡が形成されたようである。この段階は、こうした中小河川流域に展開する集落と並んで、本庄台地の利根川や烏川の沖積地にのぞむ本庄台地の縁辺に、ほとんど切れ目がないまでに集落が展開する段階でもある。

本地域が平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて活躍した武藏七党の児玉党の本貫地であり、また中世後期には、関東管領上杉家の防衛線としての五十子陣があったことから、由緒ある地名や時期的に関連する遺跡が多数見られる。

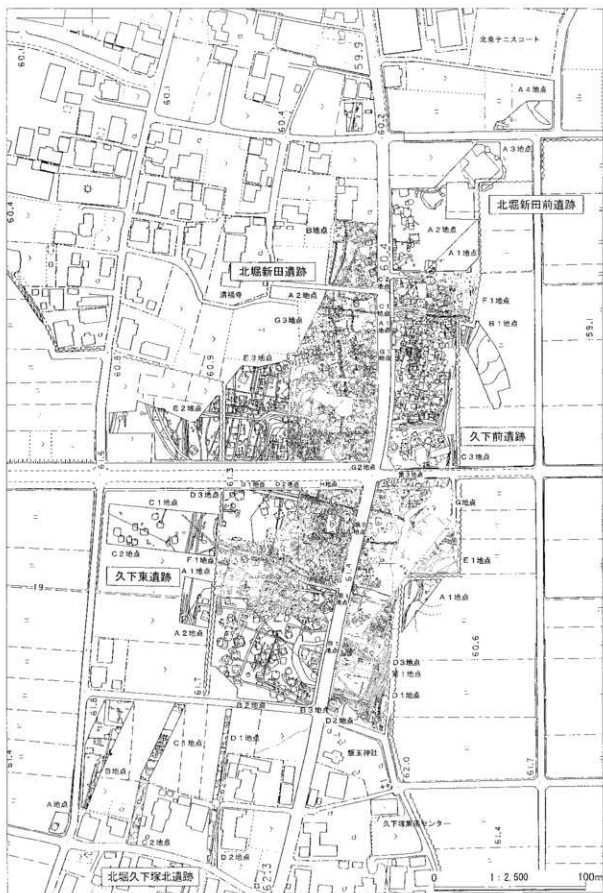
中世、あるいはそれ以降の遺跡に関しては、久下前遺跡(1)で区画の溝や地下式墳、多数の土坑、井戸跡が検出されており、久下東遺跡(2)でも、館跡を取り巻くと思われる濠状遺構や溝、掘立柱建物跡、井戸跡、地下式墳や土坑が検出されている。また、対岸の浅見山丘陵では、浅見山I遺跡(11)I次調査で検出された中世瓦窯跡や寺院跡とも見られる遺構、大久保山遺跡(12)内の中世後期の屋敷跡や館跡その他の中世遺構群、東谷中世墓群、大久保山寺院跡(13)と、様々な考古学的な情報が得られている。

102. 辻ノ内 103. 上真下東 104. 真下境東 105. 金佐奈(神川町) 106. 元屋敷 107. 真下境西 108. 八荒神南 109. 反り町(本庄市) 110. 諏訪新田D 111. 諏訪新田A～C 112. 御堂坂 113. 薬師堂東 114. 薬師堂 115. 天神林II 116. 天神林 117. 本庄城址 118. 小島本伝 119. 元屋敷(上里町) 120. 窪前 121. 本郷東 122. 愛宕 123. 愛宕耕地 124. 耕安地B地点 125. 中堀 126. 田中西 127. 田中前(深谷市) 128. 石苜A 129. 石苜B 130. 西山5号墳(美里町) 131. 川輪聖天塚古墳 132. 石神 133. 長坂 134. 長坂聖天塚古墳 135. 日の森 136. 諏訪山古墳 137. 向居 138. 勝丸稲荷神社古墳 139. 道灌山古墳 140. 志渡川遺跡・志渡川古墳 141. 南志渡川 142. 堂山古墳 143. 十条条里 144. 新倉館跡 145. 烏森 146. 樋之口 147. 水殿瓦窯跡 148. 宮下
A. 前山古墳群 B. 塚本山古墳群 C. 東富田古墳群 D. 西五十子古墳群(西群) E. 西五十子古墳群(東群) F. 東五十子古墳群 G. 生野山古墳群 H. 長沖古墳群 I. 広木大町古墳群 J. 鶴森古墳群 K. 御堂坂古墳群 L. 塚古墳群 M. 北原古墳群 N. 旭・小島古墳群 O. 三田古墳群 P. 本郷古墳群 Q. 東堤古墳群 R. 帯刀古墳群 S. 西山古墳群 T. 諏訪古墳群
a. 西富田・四方田条里 b. 今井条里 c. 児玉条里(児玉北部地区) d. 児玉(蛭川)条里 e. 児玉条里 f. 五十子陣跡

第3図 周辺の主要遺跡(2)



第4図 発掘調査地点近傍の遺跡

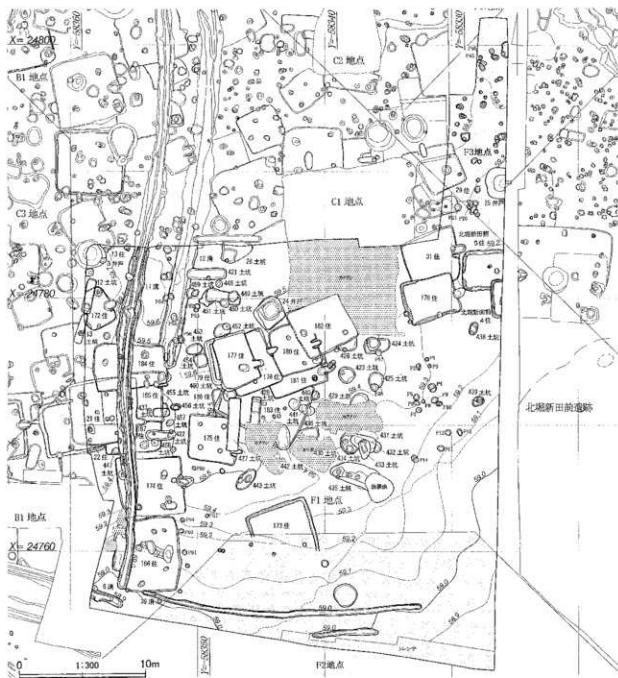


第5図 発掘調査地点位置図 (平成25年現在)

第三章 久下前遺跡F1地点の調査

第1節 調査の概要

久下前遺跡は、女堀川と男堀川にはさまれた東西に長い低段位丘の南面する平坦地から緩斜面にかけ位置する遺跡である。同遺跡では、これまで本庄早稲田駅周辺区画整理事業に関連して平成20年度から平成23年度にかけて15地点7か所の発掘調査を実施し、それ以前に3箇所の発掘調査、あるいは確認調査がなされている（増田 1985、松本・町田 2002、恋河内・的野 2010、松本・的野 2010、恋河内 2012）。ここに報告するのは、一昨年度に発掘調査を実施したF1～F3地点の内、都市計画道路建設予定地であるF1地点についてである（第6図）。低段位丘の南辺にあたり、低地



第6図 久下前遺跡F1地点全体図

へと移行する微傾斜地であるこの一帯は、遺構の残存状態が悪く、とくに南半の遺構は、覆土の多くが失われた状態であった。今回報告するF1地点は、平成21年度に報告したB1地点と西側で（恋河内・的野 2010）、平成22年度に報告したC1地点（松本・的野 2010）と北側で、北堀新田前遺跡と東側で接している。F1地点の調査面積は、約801㎡である。

F1地点で検出した遺構の内、本報告書で記載する遺構は、竪穴住居跡22軒、井戸跡2基、土坑39基、溝跡4条、多数のピットである（本年度以前に一部調査した遺構を含み、遺構の全容が本調査地点内で把握できないものに関しては、相当する地点で報告する）。

なお久下東遺跡G1地点を含む低位段丘の、古墳時代とそれ以降の基本層序は、以下の通りである。

I層：暗褐色土～灰黄褐色土層。台地や段丘で通有の表土層であり、現耕作土である。

II a層：暗褐色土層。次に記すII b層に近く、II b層に比し、やや黒みが弱く、しまりも弱いようである。層相の大きな違いはないが、この層の上部までA s - Aが散漫ながら含まれる。全体としての「II層」が厚く堆積した部分にしかみられない。

II b層：暗褐色土層：ローム粒・ローム小ブロックを含み、場所により焼土粒、炭化物、土器片などが集中するが、これは、多く古墳～奈良・平安時代の遺構が断面観察では、この層中から掘りこまれているためである。上記諸時代の遺構覆土は、基本的にこの層と同じ土を基調とし、様々な含有物の違い、性状や質感の種々の違いにより分層される。II a層、II b層の分層が困難な場合、両層まとめて「II層」と記載している。

第2節 検出された遺構と遺物

1 竪穴住居跡

13号住居跡（第7図）

調査地点北西端でわずかに検出した遺構である。すでに報告済みであり（松本・的野 2010）、事実関係に大きな変更がないため、平面図・断面図のみ掲載する。

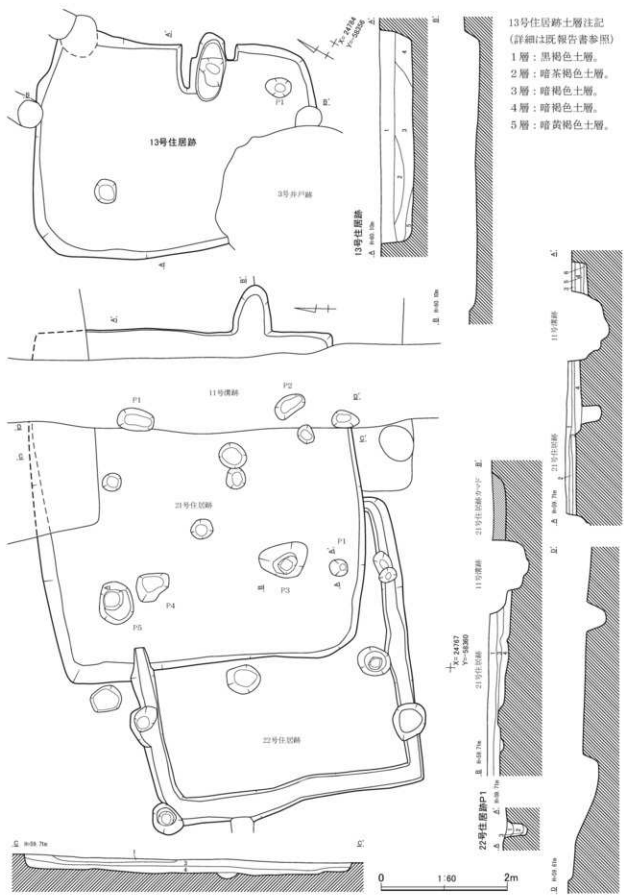
21号住居跡（第7～9図、第1表、図版3・12）

調査地点西縁のほぼ中央で検出した遺構である。22・184・185・187号住居跡を切っており、11号溝跡が遺構の東半を横切っている。西壁周辺は、B1地点の調査時に精査した部分である。

平面形はほぼ方形で、主軸長は5.27m、副軸長は5.22m、主軸方位は、N-83°-Eである。

壁の立ち上がりは比較的緩やかで、床面はおおむね平坦である。主柱穴は、P1～P4の4つである。P5も主柱穴、あるいは付け替えられた柱穴であろうか。深さは、P1が25cm、P2が29cm、P3が50cm、P4が35cm、P5が50cmである。カマドは、東壁の南に寄った位置に設けられている。覆土に焼土や粘土ブロック、炭化物が含まれ、カマドであることは間違いないが、袖が不明瞭で、壁に直交する掘り込みだけが残存する。燃焼面も不明瞭である。

出土遺物は、カマド内から出土した土器（第9図）や土製紡錘車（同図5）などわずかである。住居形態、B1地点調査時に出土した遺物を勘案すれば、平安時代の住居跡の可能性がある。

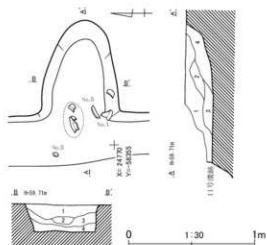


13号住居跡土層注記
(詳細は既報告書参照)
1層: 黒褐色土層。
2層: 暗茶褐色土層。
3層: 暗褐色土層。
4層: 暗褐色土層。
5層: 暗黄褐色土層。

第7图 13・21・22号住居跡平面・断面图

21号住居跡土層注記

- 1層：黒褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロック、焼土粒、炭化物粒を微量含む、5mm大の焼土ブロックを少量含む。しまっている。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、10mm大のロームブロックを少量、炭化物粒を微量含む。一番新しい住居の床、別住居の床？ しまっている。
- 3層：黒褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロックを少量、焼土粒、炭化物粒を微量含む。しまっている。



- 4層：暗褐色土層。ローム粒を少量、10、30mm大のロームブロック、焼土粒、炭化物粒を微量含む。しまっている。4～6層は、掘り方埋土。
- 5層：5mm大の暗褐色土層。ロームブロック、焼土粒、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 6層：黒褐色土層。ローム粒を少量、10、30mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。しまっている。

22号住居跡P1土層注記

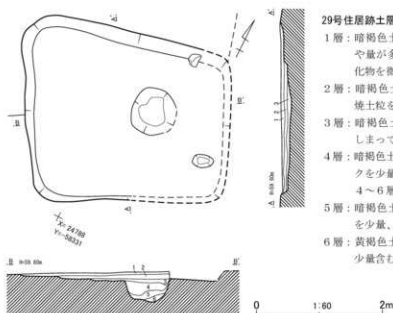
- 1層：暗褐色土層。ローム粒、焼土粒を微量含む。しまっている。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、5mm大のロームブロック、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 3層：褐色土層。ローム粒を少量、10mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。

21号住居跡カマド土層注記

- 1層：黒褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロック、30mm大の焼土ブロックを微量、焼土粒を少量含む。しまっている。
- 2層：灰黄褐色土層。5mm大の焼土ブロック、炭化物粒を少量含む。灰を多量に含む。
- 3層：暗褐色土層。5mm大のロームブロック、10mm大の褐色粘土ブロック、5mm大の焼土ブロックを微量含む。しまっている。
- 4層：黒褐色土層。ローム粒、30mm大の焼土ブロックを微量含む。焼土粒を少量含む。

29号住居跡土層注記

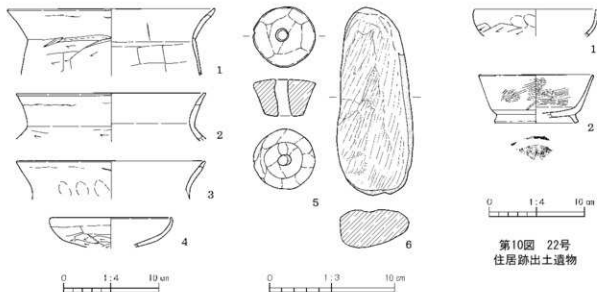
- 1層：暗褐色土層。ローム粒を微量含むが、北壁側ではやや量が多い。10mm大のロームブロック、焼土粒、炭化物を微量含む。1～3層は、住居跡掘り方埋土。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。しまっている。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、50mm大のロームブロックを少量、炭化物を微量含む。粘性、しまりともに強い。4～6層は、床下土坑覆土。
- 5層：暗褐色土層。黒みの強い暗褐色土を主に、ローム粒を少量、炭化物を微量含む。しまっている。
- 6層：黄褐色土層。ローム粒、30mm大のロームブロックを少量含む。粘性、しまりともに強い。



第8図 21・22・29号住居跡平面・断面図

22号住居跡(第7・8・10図、第2表、図版3・12)

21号住居跡に、東側を大きく壊された住居跡である。報告済みであり(恋河内・的野 2010)、新たな知見は、21号住居跡に壊された東側にカマドが想定できること、主軸長と思われる東西方向での全長が、5.27mほどになるということだけである。出土遺物からみて、奈良・平安時代の住居跡であろう。



第9図 21号住居跡出土遺物

第10図 22号住居跡出土遺物

第1表 21号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考		
1	甕	口径 21.8 底径 一 器高 (7.0)	口縁部外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナダ。胴部上位ヨコケズリ。内面一口コナダ。	角閃石、白色岩片、石英 内外-明赤褐色	口縁部へ胴部上位1/5残存		
2	甕	口径 19.8 底径 一 器高 (5.0)	口縁部外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナダ、胴部上位ヨコケズリ。内面一口コナダ。	角閃石、白色岩片、石英 内外-にぶい赤褐色	口縁部へ胴部上位1/5残存		
3	甕	口径 19.8 底径 一 器高 (4.0)	口縁部外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナダ、指押え。内面一口コナダ。	角閃石、白色岩片、石英 外-にぶい褐色 内-明赤褐色	口縁部1/5残存		
4	坏	口径 12.8 底径 一 器高 (3.1)	口縁部内彎。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナダ、体部ヨコケズリ。内面一口コナダ。	角閃石、白色岩片 内外-にぶい褐色	口縁部へ体部1/3残存		
5	土製紡錘車	上径 5.0 下径 3.0 孔径 1.0 厚さ 2.9	手捏ね成形。焼成前穿孔。	外面一指ナダ。一部に黒斑あり。	角閃石、片岩、石英、白色岩片 内外-にぶい黄褐色	完形		
No.	器種	石材	残存	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
6	磨石	片岩	完形	15.0	6.1	3.0	410	側面の一部に磨面あり。

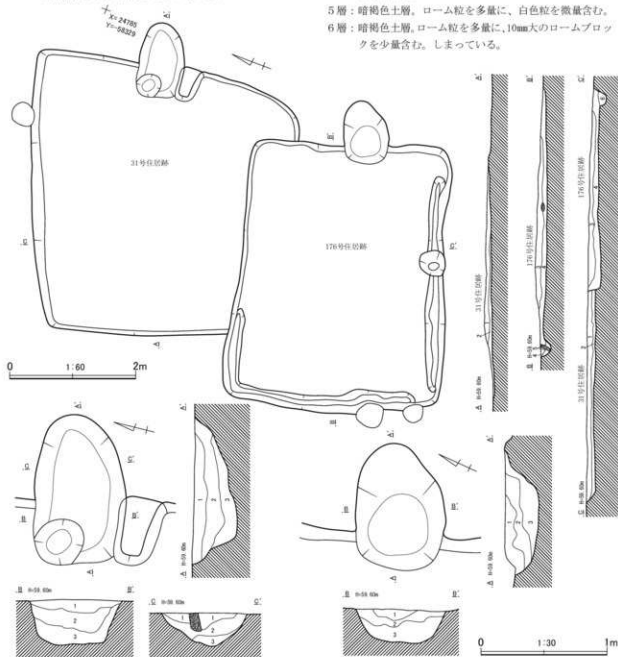
第2表 22号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 13.0 底径 一 器高 (2.8)	口縁部内彎する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナダ後、一部指押え。体部ケズリ。内面体部に黒色付着物。	角閃石、白色・褐色岩片 内外-にぶい褐色	口縁部へ体部1/5残存
2	高台坏	口径 12.0 台端径 (8.4) 器高 5.1	体部下位に明確な稜をもち、口縁部直線的に立ち上がる。ロクロ成形。酸化焼成。	外面一体部ロクロナダ後、ミガキ。底部回転的に立ち上がる。内面一口コナダ後、ミガキ。	角閃石、白色・褐色岩片 内外-褐色	口縁部へ体部1/5残存

31・176号住居跡土層注記

- 1層：黒褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロック、炭化物粒を微量、焼土粒少量含む。1・2層は、31号住居跡覆土。
- 2層：黒褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロックを少量、炭化物粒を微量含む。しまっている。

- 3層：黒褐色土層。ローム粒、5mm大のローム小ブロックを微量、焼土粒を少量含む。3～6層は、176号住居跡覆土。
- 4層：黒褐色土層。ローム粒、5mm大のローム小ブロックを少量、10mm大のロームブロック、焼土粒、白色粒を微量含む。
- 5層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、白色粒を微量含む。
- 6層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、10mm大のロームブロックを少量含む。しまっている。



31号住居跡カマド土層注記

- 1層：暗褐色土層。にぶい黄褐色シルト質ローム粒、5mm大の灰を微量、10mm大の同ロームブロックを少量含む。
- 2層：黒褐色土層。同ローム粒、30mm大の同ロームブロックを少量含む。しまっている。
- 3層：黒褐色土層。10、50mm大の同ロームブロックを微量含む。

176号住居跡カマド土層注記

- 1層：暗褐色土層。5mm大のローム小ブロック、30mm大の粘土ブロックを微量、焼土粒を少量含む。
- 2層：黒褐色土層。ローム粒を多量に、10mm大のロームブロック、焼土粒、10mm大の焼土ブロックを少量含む。しまっている。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒、焼土粒を少量、10mm大のロームブロックを多量に、同大の焼土ブロックを微量含む。

第11図 31・176号住居跡平面・断面図

29号住居跡（第8図）

調査地点の北東隅で検出した遺構である。本調査地点にかかるのは、ごくわずかな範囲であり、図のみ掲載する。

31・176号住居跡（第11・12図、第3表、図版3・4）

31号住居跡は、調査地点の北東隅近くで検出した遺構であり、南壁の大半を、176号住居跡により壊されている。

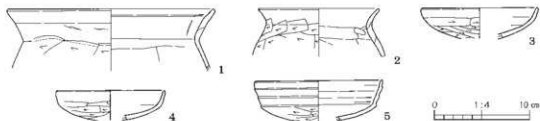
平面形は、南壁側がすぼまるやや歪な方形で、主軸長は4.33m、東壁側での現存長は4.28m、主軸方位はN-76°-Eである。遺存状態が悪く、壁も辛うじて検出できた状態であった。床面はほぼ平坦であるが、床面の硬化は顕著ではない。カマドは、東壁の中央に設けられている。東壁に直交する掘り込みと右袖がわずかに残るのみである。燃焼部は深く掘り込まれているが、燃焼面の被熱赤化は顕著ではない。出土遺物は、土師器破片が少数出土しているのみである（第12図）。同図5は、混入した土器であろう。他の出土土器からみて、古墳時代終末期～奈良時代の住居跡の可能性がある。

176号住居跡は、31号住居跡と北壁側で重複する住居跡である。

平面形は、長方形に近く、主軸長は4.25m、副軸長は3.23m、主軸方位はN-76°-Eである。遺存状態が悪く、壁の立ち上がりはわずかである。床面はおおむね平坦で、床面の硬化は顕著ではない。北壁の一部、西壁、南壁には、壁溝が設けられているが、南西隅、南東隅では途切れる。

カマドは、東壁中央に直交して造られている。覆土に焼土や粘土のブロックなどが含まれ、カマドとみて間違いないが、袖も残らず、燃焼面の被熱赤化も不明瞭である。

土師器小破片が少数出土している。住居平面形からみて、奈良・平安時代の住居跡であろう。



第12図 31号住居跡出土遺物

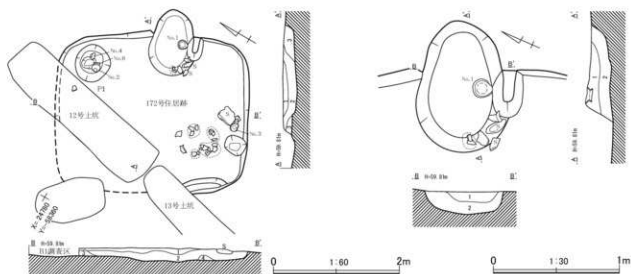
第3表 31号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 底径 器高 (6.5)	口径部外反する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口径部ヨコナデ、体部上位ヨコケズリ。内面-ヨコナデ。	角閃石、白色岩片 外-明赤褐色 内-赤褐色	口径部～ 胴部上位 破片
2	小形甕	口径 底径 器高 (5.0)	口径部外反し、頸部の屈曲はやや弱い。粘土組織み上げによる成形。	外面-口径部ヨコナデ、胴部ヨコケズリ。内面-ヨコナデ。内面に黒色付着物あり。	角閃石、白色・赤 色岩片 内-赤褐色	口径部～ 胴部上位 1/3残存
3	坏	口径 底径 器高 (3.2)	口径部は閉き気味で立ち上がり屈曲は弱い。丸底。粘土組織み上げによる成形。	外面-口径部ヨコナデ、体部ケズリ。内面-ヨコナデ。	白色岩片、角閃石 外-にぶい赤褐色 内-明赤褐色	口径部～ 体部1/5残 存
4	坏	口径 底径 器高 (3.1)	口径部は閉き気味で立ち上がり屈曲は弱い。粘土組織み上げによる成形。	外面-口径部ヨコナデ、体部ケズリ後、上位ヨコナデ。内面-ヨコナデ。	角閃石、白色岩片 内外-にぶい橙 色	口径部～ 体部1/4残 存
5	坏	口径 底径 器高 (4.2)	有段口径。粘土組織み上げによる成形。	外面-口径部ヨコナデ。体部ケズリ。内面-ヨコナデ。内外面に黒斑、黒色処理の可能性あり。	角閃石、白色岩片 外-灰黄褐色 内-黒褐色	口径部～ 体部1/5残 存

172号住居跡（第13・14図、第4表、図版3・4・12）

調査地点の北西隅近くで検出した遺構で、遺構西半の大半を、12～14号土坑により壊されている。

平面形は、全体に丸みの強い長方形、あるいは隅丸長方形である。主軸長は2.56m、カマド寄りでの副軸長は3.97m、主軸方位はN-63°-Eである。壁の立ち上がりははかなり緩やかで、掘り込みも浅い。南西壁の南隅近くには壁溝がみとめられる。床面には微妙な凹凸があり、硬化は顕著ではない。P1は深さが33cmほどの上端が円形に近いピットで、貯蔵穴の可能性はある。土器と砥石が出土している。



172号住居跡土層注記

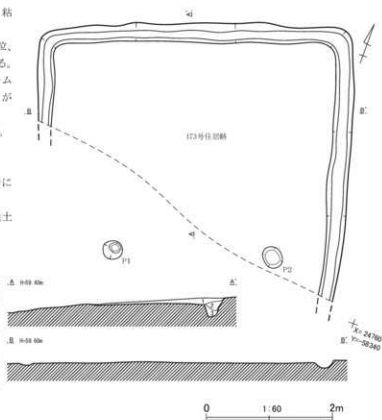
- 1層：黒褐色土層。ローム粒、焼土粒を微量含む。粘性がある。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、ロームブロック、焼土粒、炭化物粒を微量含む。粘性あり、しまっている。
- 3層：暗茶褐色土層。ローム粒を均一に含み、ロームブロック、焼土粒を微量含む。粘性、しまりが強い。
- 4層：暗黄褐色土層。ロームブロックを均一に含む。

172号住居跡カマド土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒を微量、焼土粒を均一に含む。粘性、しまりが強い。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、ロームブロック、焼土粒を微量含む。粘性、しまりが強い。

173号住居跡土層注記

- 1層：黒褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロック、焼土粒を微量、5mm大のロームブロック少量含む。
- 2層：黒褐色土層。ローム粒を少量、10mm大のロームブロックを微量含む。1層より黒み強い、しまっている。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒を微量、30mm大のロームブロック多量に含む。



第13図 172・173号住居跡平面・断面図

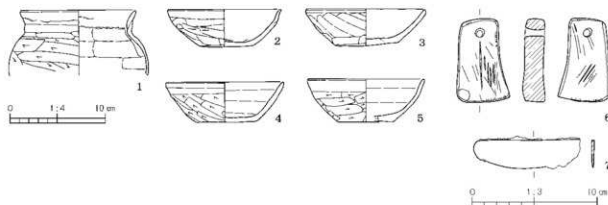
カマドは、北東壁の中央、わずかに南寄りの位置にある。残存状態が悪く、北東壁に直交する掘り込みと右袖しか検出できなかった。カマド内の覆土には、焼土がかなり含まれるが、燃焼面の被熱赤化は著しくない。右袖の全面および脇で、土師器や磁器がややまとまって出土している。他に南隅周辺の床面からも土師器片がやや分散して出土している。

出土遺物からみて、平安時代の堅穴住居跡であろう。

173号住居跡（第113図、図版4）

調査区の南縁の中央で検出した遺構である。3辺をめぐる壁溝と覆土の広がりによって、住居跡として確認することができた。南半は、南側のF2地点にかかるが、残存状態が悪く、南半はほとんど失われた状態であった。また、覆土が残存するのは、北半部分に限られる。

平面形は、3辺が直線的な方形に近い形態になろうか。北西-南東方向での現存長は4.25m、北東-南西方向での軸長は4.98mである。遺存する3つの壁に沿って、幅21~33cm、深さ5~19cmの壁溝が巡らされている。床面はほぼ平坦であり、硬化はそれほど顕著ではない。P1、P2は、主柱穴と思われる上端が円形に近いビットである。深さは、P1が46cm、P2が22cmである。カマドは検出で



第14図 172号住居跡出土遺物

第4表 172号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・裝飾手法の特徴		胎土・色調	備考	
				調整	裝飾			
1	小形甕	口径 12.3 底径 6.8 器高 (6.8)	口縁部コの字状を呈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部ヨコケズリ、内面ヨコナデ。		角閃石、雲母、白色岩片 外-褐色 内-黒褐色	口縁部~胴部3/4 残存	
2	坏	口径 12.0 底径 5.7 器高 3.9	体部直線的に立ち上がり、口縁部にやや稜あり。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ。底部ケズリ。内面ナデ。		角閃石、石英、白色岩片 内外-ぶい褐色	完形	
3	坏	口径 12.4 底径 6.7 器高 3.9	体部直線的に立ち上がり、口縁部にやや稜あり。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナメナデ、底部ケズリ。内面ナデ。外面体部に黒斑あり。		角閃石、石英、白色岩片 外-ぶい褐色 内-褐色	ほぼ完形	
4	坏	口径 12.4 底径 6.5 器高 4.2	体部直線的に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形後ロクロ成形。	外面一口縁部ロクロナデ、体部ケズリ、底部ケズリ。内面ロクロナデ。		角閃石、白色岩片 内外-褐色	ほぼ完形	
5	坏	口径 12.4 底径 (5.9) 器高 4.4	体部やや内彎しながら立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形後ロクロ成形。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヨコケズリ、底部ケズリ。内面ロクロナデ。		角閃石、白色・赤色岩片 内外-ぶい褐色	口縁部~底部1/3 残存	
6	器種	石材	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径	備考
Na	砥石	流紋岩	完形	6.7	4.3	1.8	0.7	良く研磨される。側面以外に刀跡。
Na	器種	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考		
7	鉄鎌	2/3	(8.5)	2.3	0.2	錆び著しい。		

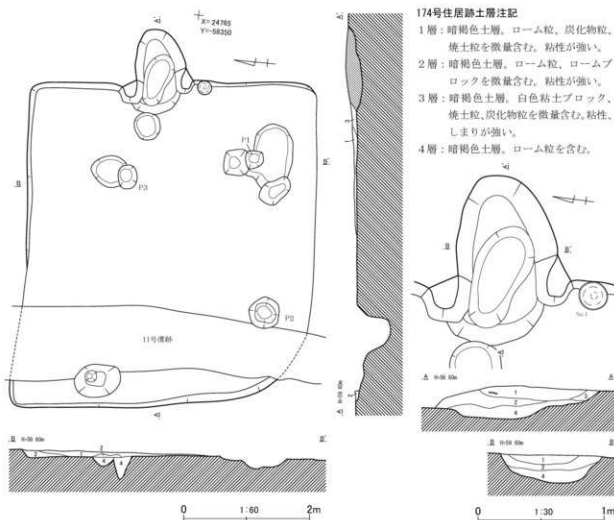
きなかった。壊されている南半にあったが、カマドのない時期の住居跡と考えられる。

微量の土師器細片が出土しているのみである。平面形からみて、古墳時代の住居跡であろうか。

174号住居跡（第15・16図、第5表、図版4）

調査地点の南西部分で検出した遺構で、西壁寄りの一部を、11号溝跡が南北に横切っている。カマドや壁周辺に覆土がわずかに残る状態であり、南壁は失われている。

平面形は、方形とみてよいであろう。主軸長は5.15m、副軸長は4.59m、主軸方位はN-5°-Wである。床面はほぼ平坦であり、硬化は顕著ではない。P1～P3は、主柱穴であろうか。P3は先細りとなり、位置的にもやや難がある。深さは、P1が58cm、P2が49cm、P3が40cmである。カマドは、東壁の中央にあり、壁に直交して掘り込まれた燃焼部、両袖を検出した。両袖も低く短く、燃焼面の被熱赤化も不明瞭である。



第15図 174号住居跡平面・断面図

右袖脇の壁際で土師器坏が出土している他、土師器片が少数出土しているのみである。出土遺物からみて、奈良・平安時代の住居跡と思われる。

175号住居跡（第17・18図、第6・7表、図版4・12）

調査地点の中央、南西寄りで見出した遺構である。北東隅から東壁北半にかけて183号住居跡、427号土坑に壊され、北壁の一部が188号住居跡を壊している。

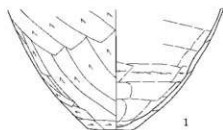
平面形は、やや歪な方形で、主軸長は3.97m、副軸長は3.63m、主軸方位はS-86°-Eである。北壁は立ち上がりもしっかりしているが、その他の壁は低く、立ち上がりも緩やかである。床面は中央がやや高いもの、おおむね平坦である。P1～P4は、支柱穴である。上端での平面形は、円形、ないしは楕円形に近く、深さは、P1が26cm、P2が15cm、P3が20cm、P4が19cmである。カマドは、東壁の南東隅に大きく寄った位置に設けられている。左袖と燃焼部左半を、427号土坑により壊されている。カマド内の覆土にはロームブロックや焼土小ブロックなどが含まれ、袖の構築材は、しまっているが、粘土などの芯はみられない。燃焼面の被熱赤化も顕著ではない。カマド内の右袖寄りの位置で甕の破片が出土している。

カマド前面から南壁にかけて、あるいはP3-P4間で、土師器甕・坏などが分散して出土している。出土遺物から、奈良時代末葉～平安時代の住居跡と思われる。

177号住居跡（第19・20図、第8・9表、図版5・12）

調査地点の中央、やや西寄りで見出した遺構である。178・179・183・188号住居跡を切って造られており、452号土坑と北壁が接している。

平面形は、北壁側が広がる台形に近く、短辺方向が主軸となる形態である。主軸長は2.83m、副軸長は4.10m、主軸方位はN-68°-Eである。床面は、中央が微妙に高くなるが、ほぼ平坦である。床面の硬化は顕著ではない。P1は、深さ23cm前後の上端が楕円形をなすピットであり、本住居跡に

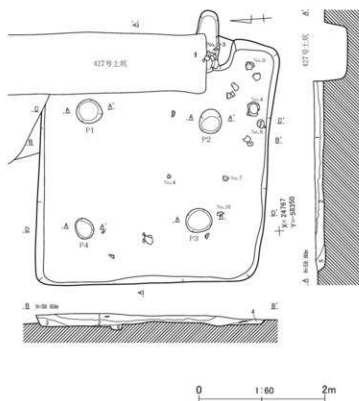


第16図 174号住居跡出土遺物

伴うようである。カマドは、東壁の南東隅寄りに設けられている。東壁を若干南に振れた形で掘り込んで設けられており、左右の袖は、残存状態によるためか、低平な小突起状である。燃焼部の平面形は微妙に角張った楕円形である。燃焼面には掘り込みがみられず、床面とほぼ同じ高さであり、被熱赤化の痕跡は微弱である。カマドの前面から住居跡の南半、南東半を中心に、土師器甕・坏などが出土している。平安時代の住居跡であろう。

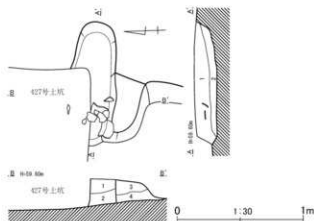
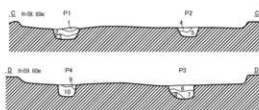
第5表 174号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・裝飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 — 底径 4.8 器高 (12.7)	径の小さい底部から胴部は丸みをもって立ち上がる。粘土組織み上げによる成形。	外面—サナメケズリ、底部ケズリ。内面—ヨコナデ。	白色岩片、角閃石、石英 内外—赤褐色	胴部中位以下ほぼ完形



175号住居跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、炭化物粒、白色粒を微量、焼土粒を少量含む。しまっている。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、焼土粒を少量、30mm大のロームブロック、5mm大の炭化物、白色粒を微量含む。しまっている。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒、焼土粒、白色粒、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 5層：暗褐色土層。10mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。しまっている。
- 6層：暗褐色土層。ローム粒、10、50mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。しまっている。



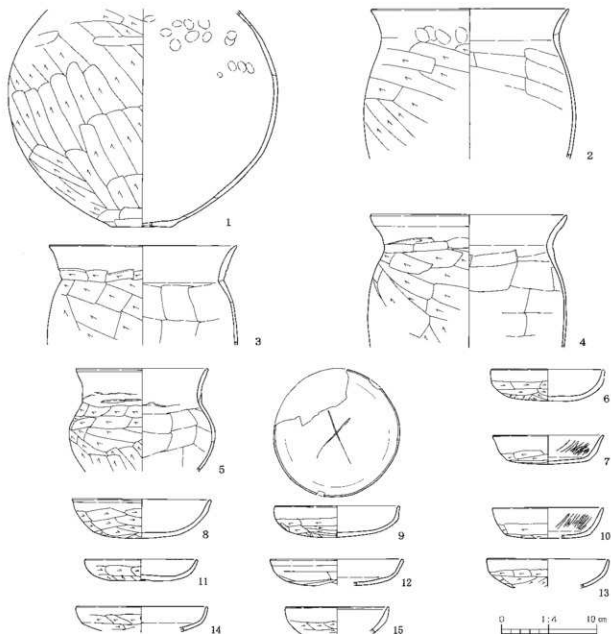
175号住居跡カマド土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロック、5mm大の炭化物を微量、焼土粒、5mm大の焼土小ブロックを少量含む。しまっている。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、5mm大のローム小ブロック、焼土粒、10mm大の焼土ブロックを微量含む。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒を微量、5mm大の焼土小ブロックを少量含む。しまっている。3・4層は、カマドの袖構築材。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒、5mm大の焼土小ブロックを少量、30mm大のロームブロック、10mm大の焼土ブロックを微量含む。しまっている。

175号住居跡P1～P4土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、5mm大の焼土小ブロック、同大の炭化物を微量含む。しまっている。1～3層は、P1覆土。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロック、焼土粒、5mm大の焼土小ブロックを微量含む。しまっている。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒を少量、10mm大のロームブロックを微量含む。
- 4層：黒褐色土層。ローム粒、径5mm大の焼土小ブロックを微量含む。しまっている。4・5層は、P2覆土。
- 5層：黒褐色土層。ローム粒を多量に、径30mm大のロームブロックを少量、焼土粒を微量含む。しまっている。
- 6層：暗褐色土層。ローム粒、径10mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。しまっている。6～8層は、P3覆土。
- 7層：暗褐色土層。ローム粒、径5mm大の炭化物を微量、径10mm大のロームブロックを少量含む。
- 8層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、径30mm大のロームブロックを微量含む。
- 9層：暗褐色土層。ローム粒、径30mm大のロームブロック、焼土粒、径5mm大の炭化物を微量含む。しまっている。9・10層は、P4覆土。
- 10層：暗褐色土層。ローム粒、径30mm大のロームブロックを少量、焼土粒を微量含む。しまっている。

第17図 175号住居跡平面・断面図



第18図 175号住居跡出土遺物

第6表 175号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甃	口径 — 底径 6.4 器高 (22.8)	最大径を中位にもつ球胴形。粘土紐積み上げによる成形。	外面—胴部タテケズリ、底部ケズリ。 内面—荒れ著しい。指押えの痕跡が観察できた。外面胴部に焼成黒斑。	角閃石、石英などの大小砂粒・小礫多い 外—にぶい橙色 内—にぶい黄褐色	胴部～体部1/3残存
2	甃	口径 20.9 底径 — 器高 (15.8)	口縁部が外反するものの頸部の屈曲はゆるい。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ナデ、指押え。胴部ケズリ。 内面—ヨコナデ。	白色岩片、角閃石、石英、赤色岩片 外—にぶい褐色 内—にぶい橙色	口縁部～胴部上半1/4残存
3	甃	口径 19.8 底径 — 器高 (10.5)	口縁部外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヨコケズリ。 内面—ヨコナデ。	石英、角閃石などの大小砂粒・小礫多量 外—にぶい赤褐色 内—明赤褐色	口縁部～胴部上位1/5残存

第7表 175号住居跡出土遺物観察表(2)

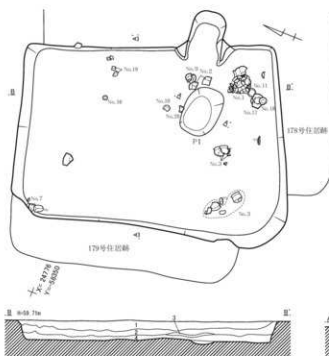
No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・裝飾手法の特徴	胎土・色調	備考	
4	甕	口径 底径 器高 (14.0)	20.8 — —	口縁部外反する。粘土組織み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナデからナナメケズリ後、頸部ヨコナデ。内面—ヨコナデ。	白色岩片、角閃石、石英 外—にぶい赤褐色 内—明赤褐色	口縁部～胴部上半 3/4残存
5	小形甕	口径 底径 器高 (10.8)	13.8 — —	口縁部は直立の後外反する。胴部は中位に最大径をもつ。粘土組織み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヨコケズリ。内面—ヨコナデ。外面に焼成黒斑あり。	角閃石、白色岩片 内—暗褐色 内—にぶい赤褐色	口縁部～胴部中位 1/4残存
6	坏	口径 底径 器高 (8.6)	11.8 — 3.3	丸底。口縁部はやや直立する。粘土組織み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面—ヨコナデ。	角閃石、石英 内外—にぶい褐色	1/3残存
7	坏	口径 底径 器高 (8.6)	11.8 — 3.0	平底。口縁部は外反する。粘土組織み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部・底部ケズリ。内面—ヨコナデ後、口縁部に放射状暗文あり。	角閃石、白色岩片、石英 外—にぶい褐色 内—にぶい黄褐色	1/4残存
8	坏	口径 底径 器高 (8.8)	14.6 — 4.1	丸底。粘土組織み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面—ヨコナデ。	白色岩片、角閃石、石英 内外—褐色	ほぼ完形
9	坏	口径 底径 器高 (8.8)	13.1 — 3.3	丸底。口縁部は直立する。粘土組織み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面—ヨコナデ。内面見込みに線刻「X」。内外面口縁部に黒斑。	角閃石、白色岩片 外—にぶい褐色 内—にぶい黄褐色	4/5残存
10	坏	口径 底径 器高 (8.8)	11.8 — 3.2	平底。口縁部は外反する。粘土組織み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部・底部ケズリ。内面—ヨコナデ後、口縁部に放射状暗文あり。	角閃石、白色岩片、石英 外—にぶい褐色 内—にぶい黄褐色	1/5残存
11	坏	口径 底径 器高 (6.6)	11.8 — 2.3	平底。口縁部はやや内彎する。粘土組織み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部・底部ケズリ。内面—ヨコナデ。	角閃石、白色岩片、石英 外—にぶい褐色 内—にぶい赤褐色	1/4残存
12	坏	口径 底径 器高 (3.1)	14.0 — 2.7	丸底。口縁部はゆるやかに外反する。粘土組織み上げによる成形。	外面—ヨコナデ。内面—ヨコナデ。	角閃石 内外—明赤褐色	1/5残存
13	坏	口径 底径 器高 (3.1)	12.8 — —	口縁部はゆるやかに外反する。粘土組織み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ後、ヨコケズリ。体部ケズリ。内面—ヨコナデ。	白色岩片、角閃石、石英 内外—にぶい赤褐色	1/5残存
14	坏	口径 底径 器高 (2.6)	13.8 — 2.6	口縁部はやや内彎する。粘土組織み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ後、ヨコケズリ。内面—ヨコナデ。	角閃石、白色岩片、石英 内外—にぶい褐色	口縁部破片
15	坏	口径 底径 器高 (2.8)	10.8 — —	口縁部とやや直立する。粘土組織み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面—ヨコナデ。	角閃石、白色・赤色岩片 内外—褐色	口縁部破片

178号住居跡 (第21～24図、第10表、図版5・13)

調査地点の中央、やや北西寄りで検出した遺構である。177号住居跡に北西半を大きく壊され、179～181号住居跡を切って造られている。

平面形は、副軸方向がやや長い長方形で、主軸長は推定で3.7m前後、副軸長は4.61m、主軸方位はN-67°-Eである。壁の立ち上がりは垂直に近い。床面は、ほぼ平坦であり、硬化も明瞭である。図示したP1～P4のビットは、位置的に無理があるため、179号住居跡の主柱穴とすると、本住居跡には柱穴がないことになる。カマドは、東壁の中央、わずかに北に寄った位置にあり、東壁に直交する掘り込みと短い両袖が残存するのみである。カマドの側壁はよく焼けており、赤化も顕著である。カマド内の奥壁、左袖寄りを中心に、土器破片がややまとまって出土している。また、カマド前から南に寄った位置の床面で、粘土が張り付くような状態で検出されている。

カマド内や右袖脇から壁際にかけて、土師器甕・坏、須恵器坏などが出土している。出土遺物からみて、平安時代の住居跡であろう。



177号住居跡土層注記

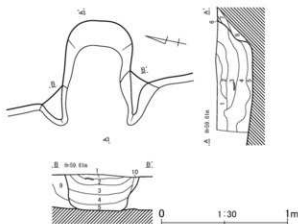
- 1層：暗褐色土層。ローム粒、炭化物粒を微量、焼土粒を少量含む。しまっている。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロック、炭化物粒、5mm大の炭化物を微量、焼土粒を少量含む。しまっている。
- 3層：黒褐色土層。ローム粒、焼土粒を微量、薄層状の灰を少量含む。しまっている。
- 4層：黒褐色土層。ローム粒を少量、30mm大のロームブロック、焼土粒、5mm大の焼土小ブロック、炭化物粒を微量含む。しまっている。



0 1:60 2m

177号住居跡P1土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、10mm大の褐色粘土ブロックを微量、焼土小ブロックを少量含む。しまっている。
- 2層：黒褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロック、焼土粒を微量、10mm大の焼土ブロックを少量含む。しまっている。



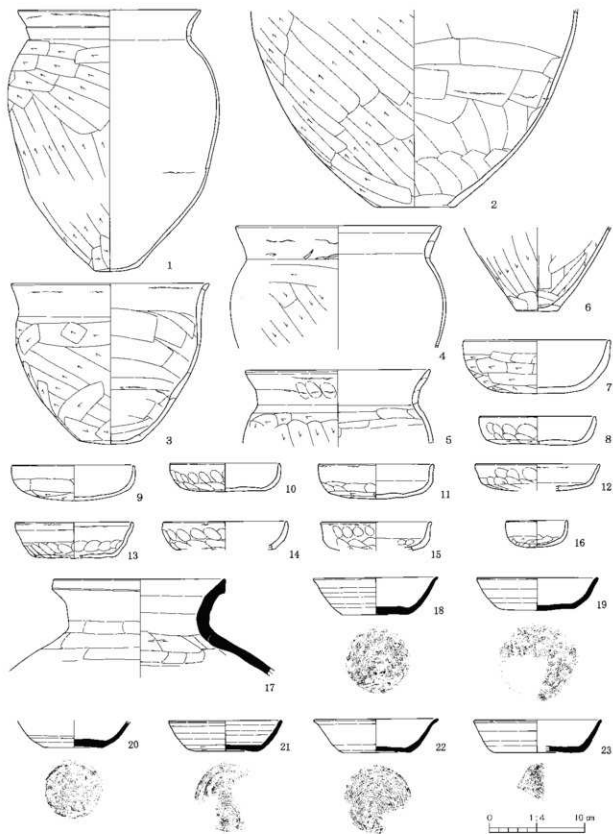
- 3層：にぶい黄褐色土層。ローム粒、30mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。粘性、しまりが強い。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒を少量、30mm大のロームブロックを多量に、焼土粒を微量含む。しまっている。

- 3層：暗褐色土層。白色粒、径10mm大の白色粘土ブロック、焼土粒、10mm大の焼土ブロック、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒、10mm大の焼土ブロック、同大の炭化物、灰を微量、焼土粒、炭化物粒を少量含む。しまっている。
- 5層：黒褐色土層。10mm大のロームブロック、焼土粒、10mm大の焼土ブロック、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 6層：暗褐色土層。焼土粒を少量、5mm大の焼土小ブロックを微量含む。しまっている。
- 7層：暗褐色土層。焼土粒、5mm大の焼土小ブロックを微量含む。しまっている。
- 8層：暗褐色土層。焼土粒を多量に、5mm大の焼土小ブロックを少量含む。しまっている。
- 9層：暗褐色土層。白色粒、炭化物粒を微量、焼土粒を多量に、5mm大の焼土小ブロックを少量含む。被熱による赤化がみられる。しまっている。9・10層は、袖構築材。
- 10層：赤褐色土層。焼土粒を多量に含む。しまっている。被熱による赤化範囲。

177号住居跡カマド土層注記

- 1層：暗褐色土層。白色粒、炭化物粒を微量、焼土粒を少量含む。しまっている。1～5・9・10層は、6～8層に比し、粘性が強い。
- 2層：暗褐色土層。白色粒、炭化物粒を微量、焼土粒を多量に、10mm大の焼土ブロックを少量含む。しまっている。

第19図 177号住居跡平面・断面図



第20图 177号住居跡出土遺物

第8表 177号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 19.2 底径 4.7 器高 27.5	口縁部有段。胴部上位が張る。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部下位タテケズリ後、上半ヨコケズリ。胴部上位にスス付着。底部ケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	角閃石、白色岩片 内-黒褐色	4/5残存
2	丸甕	口径 — 底径 8.5 器高 20.8	丸みを帯びる胴部。底部欠根。粘土組織み上げによる成形。	外面-タテケズリ。底部ケズリ。内面-下部タテナデ後、中位ヨコナデ。外側に黒斑。内面にヨグレあり。	角閃石、白色岩片、石英 外-にぶい褐色 内-黒褐色	胴部下半 1/3残存
3	甕	口径 20.8 底径 6.6 器高 16.9	胴部最大径を上位にもち、口縁部はゆるやかに外反する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ。底部ケズリ。内面-ヨコナデ。内外面に胴部に黒斑あり。	石英、片岩、角閃石などの大小砂粒・小礫多量 外-暗灰黄色 内-灰黄褐色	ほぼ完形
4	甕	口径 21.6 底径 (12.9)	口縁部の屈曲はやや弱い。胴部上位に最大径をもつ。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ後、上位ヨコケズリ。頸部に工具の当たり顕著。内面-ヨコナデ。	石英、白色・赤色岩片、閃石 内外-赤褐色	口縁部～胴部上半 1/4残存
5	甕	口径 19.5 底径 (7.7)	口縁部コの字状を呈する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、指押え。胴部ヨコケズリ後、タテケズリ。内面-ヨコナデ。	角閃石、白色岩片 外-にぶい赤褐色 内-にぶい褐色	口縁部～胴部上位 1/4残存
6	甕	口径 (7.1) 底径 4.3 器高 (8.8)	小ぶりに底部から胴部は直線的に立ち上がる。粘土組織み上げによる成形。	外面-胴部タテケズリ後、下位はヨコナデ。胴部に黒斑。底部ケズリ。内面-ナデ。	角閃石、石英 内外-にぶい赤褐色	胴部下半 ～底部3/4 残存
7	坏	口径 15.4 底径 10.0 器高 5.7	底部から屈曲をもち、ゆるやかに直立する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ケズリ後、ヨコナデ。底部ケズリ。内面-ヨコナデ。	角閃石、白色岩片 外-にぶい赤褐色 内-にぶい黄褐色	1/2残存
8	坏	口径 12.2 底径 10.6 器高 3.0	平底。底部は外反するが、口縁部は内彎。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部指押え、ナデ後、底部ケズリ。内面-ヨコナデ。底部中央に孔径0.3の焼成後穿孔あり。内外面黒色処理か。	角閃石、白色・赤色岩片、石英 赤色岩片 内-黒褐色	1/2残存
9	坏	口径 12.9 底径 — 器高 3.7	丸底。口縁部は緩やかに内彎する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ナデ後、底部ケズリ。内面-ヨコナデ。	赤色岩片、角閃石、白色岩片 内外-明赤褐色	ほぼ完形
10	坏	口径 11.5 底径 9.0 器高 2.9	平底。口縁部は内彎する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、指押え後、底部ケズリ。内面-ヨコナデ。	白色岩片、角閃石、赤色岩片 内外-明赤褐色	ほぼ完形
11	坏	口径 12.1 底径 10.0 器高 3.6	平底。体部は直立し、口縁部のみやや外反する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、指押え後、底部ケズリ。内面-ヨコナデ。内面黒色処理か。	白色岩片、角閃石、石英 外-褐色 内-黒褐色	ほぼ完形
12	坏	口径 13.0 底径 11.4 器高 2.8	丸みをもち平底。口縁部外反。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、指押え後、底部ナデ。内面-ヨコナデ。	角閃石、白色岩片 内外-にぶい褐色	1/5残存
13	坏	口径 12.3 底径 9.0 器高 3.8	平底。体部は腰を有し、口縁部は内彎する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ナデ、指押え後、底部ケズリ。内面-ヨコナデと体部には指押え。内外面に黒斑あり。	角閃石、白色・赤色岩片 外-にぶい赤褐色 内-黒褐色	1/2残存
14	坏	口径 13.0 底径 10.6 器高 (3.0)	平底の可能性。体部口縁部内彎。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、指押え後、底部ケズリ。内面-ヨコナデ。内面口縁部に黒斑あり。	角閃石、白色岩片 内外-にぶい赤褐色	口縁部1/4 残存
15	坏	口径 11.6 底径 10.2 器高 (3.0)	体部屈曲をもち口縁部は外反。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、指押え後、底部ケズリ。内面-ヨコナデと一部指押え。	角閃石、白色岩片 内外-赤褐色	口縁部～体部1/4 残存
16	手捏土器	口径 6.4 底径 6.0 器高 2.8	丸底。口縁部は内彎気味に直立。手捏成形。	外面-口縁部ヨコナデ後、体部と底部はケズリ。内面-ヨコナデ後、底部指ナデと指押え。	赤色、白色岩片、角閃石 内外-にぶい黄褐色	完形
17	須臾器甕	口径 18.0 底径 (10.3)	口縁部外反し、口端部は肥厚する。口縁部ロクロ成形成。胴部粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ロクロナデ後、胴部ヨコナデ。内面-口縁部ロクロナデ後、胴部ヨコナデ。頸部付近は強いナデ。	石英、角閃石、白色岩片 外-黄灰色 内-灰黄褐色	口縁部～胴部上位 2/3
18	須臾器坏	口径 13.2 底径 7.0 器高 3.9	口縁部外反する。ロクロ成形成。	外面-ロクロナデ。底部回転系切り。内面-ロクロナデ。還元不良。	石英、片岩、角閃石 内外-にぶい黄褐色	ほぼ完形
19	須臾器坏	口径 12.8 底径 8.0 器高 3.4	口縁部はゆるく外反する。ロクロ成形成。	外面-ロクロナデ。底部回転へら切り。内面-ロクロナデ。	石英、角閃石、片岩、白色岩片 内外-灰黄色	4/5残存
20	須臾器坏	口径 — 底径 6.0 器高 (2.8)	底部中央部は接地しない。ロクロ成形成。	外面-ロクロナデ。底部回転系切り。内面-ロクロナデ。	片岩、石英、角閃石、白色・赤色岩片 内外-黄灰色	体部～底部2/3残存

第9表 177号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
21	須恵器 環	口径 12.0 底径 7.2 器高 3.2	口縁部ゆるやかに外反する。 ロク口成形。	外面-ロクロナデ。底部回転糸切り後 縁辺部回転ケズリ。内面-ロクロナデ。	石英、白色岩片、 角閃石 内外-黄灰色	1/4残存 内外-黄灰色
22	須恵器 環	口径 13.0 底径 7.1 器高 3.5	口縁部外反する。ロク口成 形。	外面-ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面-ロクロナデ。	石英、角閃石、片岩、 白色・赤色岩片 外-黄灰色 内-褐色	1/5残存 内外-黄灰色
23	須恵器 環	口径 13.4 底径 (9.6) 器高 3.4	口縁部直線的に立ち上がる。 ロク口成形。	外面-ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。 内面-ロクロナデ。	石英、白色岩片、 角閃石 内外-黄灰色	1/5残存 内外-黄灰色

179号住居跡 (第21・25図、第11表、図版5・13)

調査地点の中央、やや北西寄りで検出した遺構である。177・178号住居跡に、遺構の東側の大半を壊されている。

平面形は不明であるが、下記のように主柱穴を推定するなら、東西方向にやや長い長方形に近い形態が想定できる。東壁に沿って、一部南北壁の一部まで、幅30センチ前後の壁溝が設けられている。微妙に南東に偏した位置にあり、多少問題が残るが、P1～P4の4つを主柱穴と考えた。上端の平面形は、円形、楕円形で、深さは、P1が22cm、P2が54cm、P3が28cm、P4が30cmである。

南西隅から土師器環や須恵器環などが出土している。出土遺物からみて、平安時代の住居跡と考えられる。

180号住居跡 (第26・27・29図、第12表、図版5・6・13)

調査地点の中央、やや北寄りで検出した遺構である。181号住居跡と重複し、182号住居跡を切って造られており、178号住居跡のカマドが西壁を壊して設けられている。

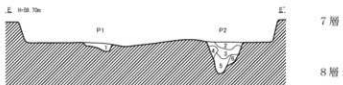
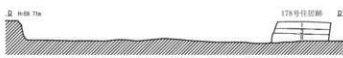
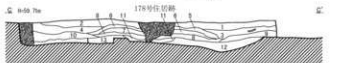
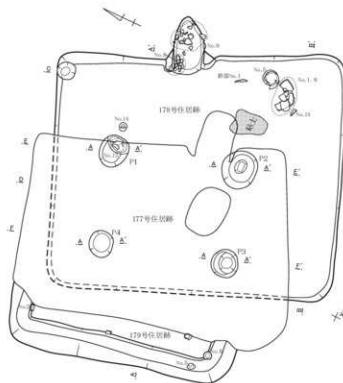
平面形は、微妙に丸みのある方形で、主軸長は3.70m、副軸長は3.93m、主軸方位はN-21°-Wである。床面はほぼ平坦で、中央部はよく硬化している。床面でP1～P4の4つのピットを検出したが、主柱穴の可能性があるのは、P1のみである。P1は、上端がやや歪な円形で、深さは29cmである。他のピットの深さも30cm前後である。カマドは、東壁中央に付設されている。壁に直交する掘り込みを有し、にぶい黄褐色粘土や暗褐色土、黒褐色土を突き固めた袖が残存している。側壁の被熱赤化も比較的顕著である。

覆土全体から万遍なく土師器小破片などが出土しているが、北西隅付近ではやや大きめの土器破片が出土している。出土遺物から、古墳時代終末期～奈良時代の住居跡と考えられる。

181号住居跡 (第26～28・30図、第13表、図版6)

調査地点の中央で検出した遺構である。遺構の北半部分を、178・180・182号住居跡により大きく壊されているようにみえる。

残存部分から推定される平面形は、東西方向、主軸方向が長い長方形である。主軸長は4.56m、東壁の残存部分の長さは2.07mである。壁は直に近く立ち上がり、掘り込みもしっかりしている。床面はほぼ平坦で、硬化している。P1は、上端が楕円形、深さが18cmのピットである。位置的には柱穴とも考えられるが、カマドの前面にあり、問題が残る。カマドは、東壁の著しく南東隅に偏した位置



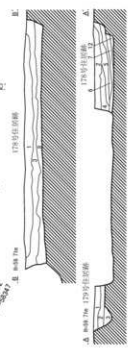
0 1:60 2m

179号住居跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、5mm大の焼土小ブロックを微量含む。しまっている。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、5mm大の焼土小ブロックを少量、同大のローム小ブロックを微量含む。しまっている。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、10mm大のロームブロック、炭化物粒を微量、焼土粒を少量含む。しまっている。

178号住居跡土層注記

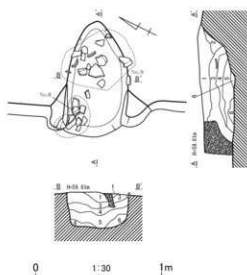
- 1層：暗褐色土層。ローム粒、焼土粒を微量、5mm大の焼土ブロック、炭化物を少量含む。しまっている。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、10mm大の焼土ブロック、炭化物粒を微量、焼土粒、5mm大の焼土小ブロックを少量含む。しまっている。
- 3層：暗褐色土層。5mm大のローム小ブロック、同大の焼土小ブロック、炭化物粒を微量、焼土粒を少量含む。しまっている。



- 4層：暗褐色土層。ローム粒、30mm大のロームブロック、5mm大の焼土小ブロックを微量含む。しまっている。
- 5層：にぶい黄褐色土層。ローム間に暗褐色土を少量、10mm大の焼土ブロックを微量含む。しまっている。
- 6層：暗褐色土層。ローム粒、径5mm大の焼土小ブロック、炭化物粒を微量、焼土粒を少量含む。しまっている。

- 7層：黒褐色土層。ローム粒、10mm大のにぶい黄褐色粘土ブロックを微量、焼土粒、10mm大の焼土ブロックを少量含む。薄層状の灰を少量含む。しまっている。
- 8層：黒褐色土層。ローム粒、30mm大のロームブロック、10mm大の焼土ブロック、5mm大の炭化物を微量、焼土粒を少量含む。集塊する炭化物粒を少量含む。しまっている。
- 9層：暗褐色土層。ローム粒を少量、径10mm大のロームブロック、同大の焼土ブロック、炭化物粒を微量含む。焼土粒を多量に含む。しまっている。
- 10層：暗褐色土層。ローム粒、30、100mm大のロームブロック、5mm大の炭化物を微量、5mm大の焼土小ブロックを少量含む。しまっている。
- 11層：黒褐色土層。ローム粒、焼土粒、5mm大の焼土小ブロック、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 12層：暗褐色土層。ローム粒、30、50mm大のロームブロック、10、30mm大の焼土ブロックを微量含む。12・13層は、掘り方埋土。
- 13層：黒褐色土層。ローム粒、5mm大の焼土小ブロック、炭化物粒を微量含む。しまっている。

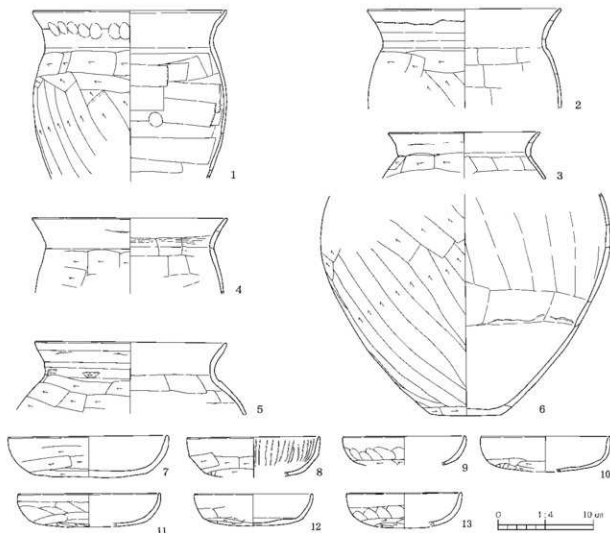
第21図 178・179号住居跡平面・断面図



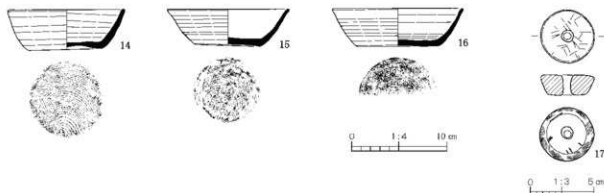
178号住居跡カマド土層注記

- 1層：暗褐色土層。10mm大のにぶい黄褐色粘土ブロック、焼土粒、焼土小ブロックを少量、5mm大の炭化物を微量含む。しまっている。天井部崩落土か。
- 2層：暗褐色土層。焼土小ブロックを多量に、10mm大の焼土ブロックを少量含む。しまっている。天井部崩落土か。
- 3層：にぶい黄褐色粘土層。焼土粒、10mm大の炭化物を微量、10mm大の焼土ブロックを少量含む。焚口側に暗褐色土が少量混入する。しまっている。天井部崩落土か。
- 4層：暗褐色土層。焼土粒を微量、5～10mm大の焼土ブロック、炭化物を少量含む。しまっている。
- 5層：黒褐色土層。ローム粒、にぶい黄褐色粘土粒、焼土粒、焼土小ブロック、5mm大の炭化物を微量含む。しまっている。
- 6層：暗褐色土層。焼土粒、10mm大の焼土ブロックを微量含む。しまっている。

第22図 178号住居跡カマド平面・断面図



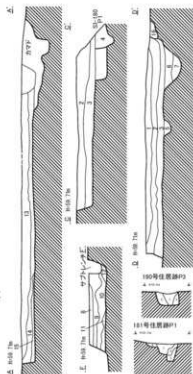
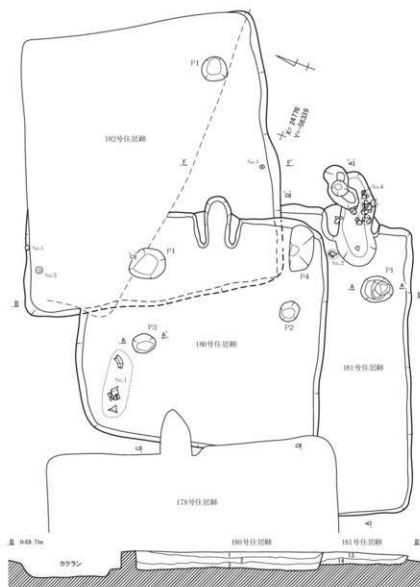
第23図 178号住居跡出土遺物(1)



第24図 178号住居跡出土遺物(2)

第10表 178号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・裝飾手法の特徴	胎土・色調	備考		
1	甕	口径 20.4 底径 17.8 器高 (17.8)	口縁部から頸部は緩くコの字状を呈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ、指押え。胴部タテケズリ後、上位ヨコケズリ。内面ヨコナデ。	角閃石、白色岩片、石英 内外-褐色	口縁部～胴部上半 1/3残存		
2	甕	口径 20.4 底径 10.4 器高 (10.4)	頸部梗をもち、口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部タテケズリ後、上位ヨコケズリ。内面ヨコナデ。	角閃石、石英、白色岩片 内外-ぶい赤褐色	口縁部～胴部上位 1/4残存		
3	甕	口径 16.0 底径 11.0 器高 (4.9)	頸部明瞭に屈曲し、口縁部は外反。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位ヨコケズリ。内面ヨコナデ。	角閃石、白色岩片多量。 内外-ぶい赤褐色	口縁部～胴部上位 1/3残存		
4	甕	口径 20.4 底径 17.9 器高 (7.9)	口縁部外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部ヨコケズリ。内面ヨコナデ。	白色岩片、角閃石、石英、赤色岩片 内外-明赤褐色	口縁部～胴部上位 1/5残存		
5	甕	口径 20.2 底径 17.5 器高 (7.5)	口縁部やや外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位ヨコケズリ。内面ヨコナデ。	角閃石、白色岩片、石英、赤色岩片 内外-褐色	口縁部～胴部上位 ほぼ完形		
6	壺	口径 7.5 底径 23.3 器高 (23.3)	胴部最大径を中位にもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面一胴部タテケズリ、底部ケズリ。内面一中位タテナデ後、下位ヨコナデ。内面底部に黒斑。内面にヨコレ。	白色岩片、角閃石、内-ぶい黄褐色	胴部中位以下1/2残存		
7	坏	口径 16.8 底径 12.2 器高 4.3	口縁部はやや内彎する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部から底部ケズリ。内面ヨコナデ。外面底部に黒色付着物あり。	白色岩片、角閃石 内外-ぶい褐色	1/4残存		
8	坏	口径 13.9 底径 4.0 器高 4.0	口縁部・体部ともに調整による梗あり。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ後、タテケズリ。底部ケズリ。内面ヨコナデ後、放射状の増文。	白色岩片、角閃石、赤色岩片 内外-褐色	1/3残存		
9	坏	口径 12.8 底径 12.8 器高 (3.1)	口縁部内彎する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ、体部指ナデ後、底部ケズリ。内面ヨコナデ。	角閃石、赤色・白色岩片 内外-褐色	口縁部～胴部1/2残存		
10	坏	口径 13.6 底径 3.7 器高 3.7	丸底。口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ後、底部ケズリ。内面ヨコナデ。内外面口縁部に黒斑。	赤色・白色岩片、角閃石 内外-褐色	1/4残存		
11	坏	口径 15.0 底径 3.5 器高 (3.5)	丸底。口縁部内彎する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一体部ナデ後、口縁部ヨコナデ。底部ケズリ。内面ヨコナデ。	角閃石、白色岩片 内外-褐色	1/5残存		
12	坏	口径 12.4 底径 10.4 器高 3.3	体部やや丸みのある平底。口縁部は内彎する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ後、底部ケズリ。内面ヨコナデ。	白色岩片、角閃石 内外-褐色	1/4残存		
13	坏	口径 12.0 底径 12.0 器高 (3.7)	丸底。口縁部はやや外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一体部指ナデ後、口縁部ヨコナデ。底部ケズリ。内面ヨコナデ。	角閃石、白色岩片 内外-ぶい赤褐色	1/5残存		
14	須恵器 坏	口径 12.3 底径 7.7 器高 4.3	平底。体部は直線的に立ち上がる。ロクロ成形。	外面一ロクロナデ。底部回転糸切り。内面一ロクロナデ。	石英、白色岩片、片岩 内外-黄灰色	完形		
15	須恵器 坏	口径 12.8 底径 7.0 器高 3.9	平底。口縁部は外反する。ロクロ成形。	外面一ロクロナデ。底部回転糸切り。内面一ロクロナデ。	白色岩片、石英、片岩、角閃石 内外-灰黄色	4/5残存		
16	須恵器 坏	口径 13.6 底径 8.8 器高 4.0	平底。口縁部やや外反する。ロクロ成形。	外面一ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後丁寧ナデ。内面一ロクロナデ。	海綿状骨針、角閃石、石英 内外-黄灰色	1/2残存		
No.	器種	石材	残存	上径 (cm)	下径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
17	紡錘車	蛇紋岩	完形	4.3	3.0	1.6	50.60	全面良く研磨される。



0 1.60 2m

180～182号住居跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、5mm大のローム小ブロック、同大の焼土小ブロック、白色粒を微量含む。しまっている。1～3層は、180号住居跡覆土。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、10、30mm大のローム小ブロック、焼土粒、10mm大の焼土小ブロック、白色粒を微量含む。しまっている。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒、10mm大のローム小ブロックを少量、50mm大のロームブロック、焼土粒、5mm大の炭化物を微量、炭化物粒をごく微量含む。しまっている。
- 4層：黒褐色土層。ローム粒を多量に、30mm大のロームブロックを微量含む。180号住居跡P1覆土。
- 5層：暗褐色土層。ローム粒、5mm大のローム小ブロックを微量含む。180号住居跡P2覆土。
- 6層：暗褐色土層。ローム粒、焼土粒を微量、5mm大のローム小ブロックを少量含む。しまっている。6・7層は、180号住居跡P4覆土。

- 7層：暗褐色土層。ローム粒を少量、5mm大のローム小ブロックを微量含む。しまっている。
- 8層：黒褐色土層。ローム粒、10、30mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。8～12層は、182号住居跡覆土。
- 9層：暗褐色土層。ローム粒、5、30mm大のロームブロック、5mm大の焼土小ブロックを微量含む。しまっている。
- 10層：黒色土層。ローム粒、30mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。
- 11層：暗褐色土層。ローム粒、炭化物粒（全体に黒っぽい）を少量、5mm大のローム小ブロック、焼土粒を微量含む。
- 12層：暗褐色土層。黄色みの強い暗褐色土を主に、ローム粒を多量に、30mm大のロームブロックを少量含む。
- 13層：暗褐色土層。ローム粒を微量含む。しまっている。
- 14層：黒褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロック、5mm大の焼土小ブロックを少量含む。しまっている。13～16層は、181号住居跡覆土。
- 15層：暗褐色土層。ローム粒、褐色粘土粒、焼土粒を微量、10mm大の焼土ブロックを少量含む。
- 16層：黒褐色土層。ローム粒、焼土粒を微量含む。しまっている。

第26図 180～182号住居跡平面・断面図

180号住居跡P3土層注記

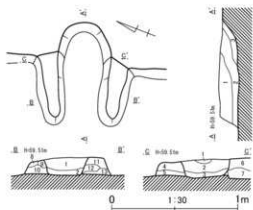
- 1層：黒褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロックを微量含む。粘性、しまりが強い。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒を少量、5、50mm大のロームブロックを微量含む。しまっている。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒を少量、50mm大のロームブロックを微量含む。

180号住居跡カマド土層注記

- 1層：暗褐色粘質土層。褐色粘土粒を多量に、焼土粒を少量、5mm大の炭化物を微量含む。しまっている。
- 2層：暗褐色粘質土層。ローム粒、10mm大のロームブロック、焼土粒、炭化物粒、5mm大の炭化物を微量、褐色粘土粒、径10mm大の焼土ブロックを少量含む。しまっている。
- 3層：黒褐色粘質土層。褐色粘土粒、10mm大の焼土ブロックを微量含む。しまっている。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒、にぶい黄褐色粘土粒、5mm大の焼土小ブロックを微量含む。しまっている。4～7・9～13層は、カマド袖構築材。
- 5層：黒褐色土層。ローム粒、にぶい黄褐色粘土粒、焼土粒、5mm大の焼土小ブロックを微量含む。しまっている。
- 6層：黒褐色土層。にぶい黄褐色粘土粒、焼土粒、5mm大の焼土小ブロック、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 7層：黒褐色土層。ローム粒を微量、炭化物粒を少量含む。しまっている。
- 8層：暗褐色土層。ローム粒を微量含む。しまっている。
- 9層：暗褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。しまっている。
- 10層：暗褐色土層。ローム粒、炭化物粒を微量、にぶい黄褐色粘土粒、10mm大のにぶい黄褐色粘土ブロック、

181号住居跡P1土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒を少量、30mm大のロームブロック、5mm大の焼土小ブロックを微量含む。しまっている。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒を多量に含む黄色みが強い、50mm大のロームブロックを微量含む。しまっている。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒、5mm大のローム小ブロックを微量含む。しまっている。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒、30mm大のローム小ブロックを多量に含む。



焼土粒を少量含む。しまっている。

- 11層：暗褐色土層。ローム粒を少量、5mm大のにぶい黄褐色粘土小ブロック、焼土粒を微量含む。しまっている。
- 12層：暗褐色土層。ローム粒、径5mm大の焼土小ブロックを微量、にぶい黄褐色粘土粒、焼土粒を少量含む。しまっている。
- 13層：暗褐色土層。径5mm大のローム小ブロック、同大の焼土小ブロック、にぶい黄褐色粘土粒、炭化物粒を微量、焼土粒を少量含む。しまっている。

第27図 180・181号住居跡平面・断面図

がりは急峻で、掘り込みも深い。床面はほぼ平坦で、明瞭に硬化している。

遺物は、覆土から散漫に出土する土師器小破片がほとんどである。第31図3の鉢は、北西隅寄りの床面で出土した。出土遺物から、古墳時代前期後葉～末葉の住居跡と考えられる。

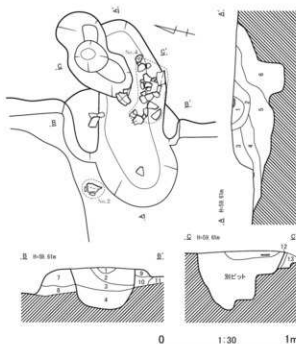
183号住居跡（第32・33図、第15・16表、図版7・13）

183号住居跡は、調査地点の中央に位置する遺構である。177～181号住居跡、427・428・440～442・460号土坑に切られ、175・188号住居跡を切って造られている。遺構の北半は、ほとんど残存しない。

平面形は、主軸方向の長い長方形であろう。主軸長は6.87m、副軸長は5.60m、主軸方位はS-60°-Eである。床面はほぼ平坦であるが、硬化は顕著ではない。西隅付近には、壁溝がみられる。床面には、P1～P6の小ピットがみられるが、柱穴ではないようである。カマドは、南東壁の中央、かなり北に寄った位置に設けられている。441号土坑に、焚口から袖にかけて壊されている。南東壁におおよそ直交する丸みをもった掘り込みを有し、低平で短い左袖のみ残存する。側壁、燃焼面の被熱赤化は顕著ではない。

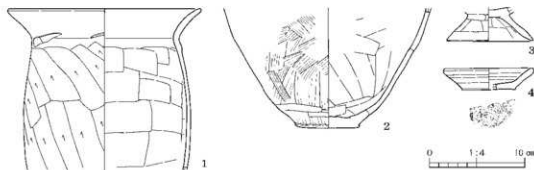
181号住居跡カマド土層注記

- 1層：暗褐色土層。白色粒を少量、焼土粒を微量含む。しまっている。
- 2層：にぶい赤褐色粘土層。焼土粒を少量含む。粘性、しまりが強い。天井部、壁の脱落土。
- 3層：暗褐色土層。粘土粒、焼土粒、5mm大の炭化物を微量含む。しまっている。
- 4層：暗褐色土層。10mm大のロームブロック、白色粒、焼土粒を微量含む。しまっている。
- 5層：暗褐色土層。ローム粒、30mm大のロームブロック、5mm大の焼土小ブロックを微量、10mm大のロームブロックを少量含む。しまっている。
- 6層：黒褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロック、5mm大の焼土小ブロックを少量、50mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。しまっている。
- 7層：暗褐色土層。ローム粒、5mm大のローム小ブロック、焼土粒、炭化物粒を微量含む。しまっている。7～13層は、カマド袖構築材。
- 8層：暗褐色土層。ローム粒、焼土粒、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 9層：暗褐色土層。ローム粒、焼土粒を微量、10mm大のにぶい黄褐色粘土ブロックを少量含む。しまっている。
- 10層：暗褐色土層。5mm大のローム小ブロック、同大の焼土小ブロックを微量含む。しまっている。
- 11層：暗褐色土層。ローム粒、5mm大のローム小ブロックを微量含む。しまっている。



- 12層：暗褐色土層。焼土粒を少量、10mm大の焼土ブロック、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 13層：暗褐色土層。ローム粒を少量、10mm大のロームブロック、焼土粒、5mm大の焼土小ブロックを微量含む。しまっている。

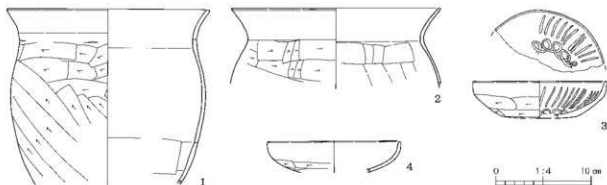
第28図 181号住居跡カマド平面・断面図



第29図 180号住居跡出土遺物

第12表 180号住居跡出土遺物観察表

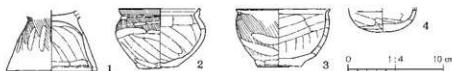
No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 20.3 底径 17.0 器高 (17.0)	口縁部大きく外反する。胴部の裏りは弱く、長胴。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部タテケズリ。内面ヨコナデ。内外面口縁部に黒線あり。	角閃石、白色岩片、石英 外ににぶい褐色 内ににぶい褐色	口縁部～胴部上半 2/3残存
2	甕	口径 6.8 底径 5.9 器高 (12.6)	底部不整形。全体的に粗雑。粘土紐積み上げによる成形。	外面一枚状工具によるナデ。底部ケズリ。内面ナデ。	石英、白色岩片、角閃石 外-黒褐色 内ににぶい褐色	胴部下半～底部1/2 残存
3	付台甕	口径 9.0 台端径 5.6 器高 (3.6)	八の字状に外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面ヨコナデ。内面ナデ。	角閃石、白色岩片、石英 内外ににぶい赤褐色	脚台部3/4 残存
4	カワラケ	口径 9.2 底径 5.9 器高 2.2	口縁部外反する。平底。ロクコ成形	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。内面ロクロナデ。	角閃石、白色岩片 内外ににぶい黄褐色	1/2残存



第30図 181号住居跡出土遺物

第13表 181号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 21.4 底径 一 器高 (18.5)	胴部は最大径をやや上位にもつ。口縁部は外反する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。頸部指押え後、ナデ。胴部ヨコナデ後、ナナメクスリ。内面-ヨコナデ。	角閃石、白色岩片 内外-にぶい赤褐色	口縁部～胴部上半 1/3残存
2	甕	口径 22.0 底径 一 器高 (8.4)	口縁部外反する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部上位ヨコナデ。内面-ヨコナデ。	角閃石、石英などの 大小砂粒・小礫 多量 内外-にぶい赤褐色	口縁部～胴部上位 破片
3	坏	口径 14.0 底径 一 器高 (3.3)	体部から口縁部はゆるやかに直立する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ヨコナデ。内面-ヨコナデ。外面口縁部に黒斑あり。	角閃石、石英 内外-にぶい橙褐色	口縁部～体部1/5残存
4	坏	口径 14.0 底径 8.0 器高 3.8	平底。体部から屈曲をもつて口縁部は直立する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ヨコナデ。内面-ヨコナデの後、体部は放射状、底部は螺旋状の暗文。	角閃石、白色岩片 内外-にぶい橙褐色	口縁部～体部1/4残存

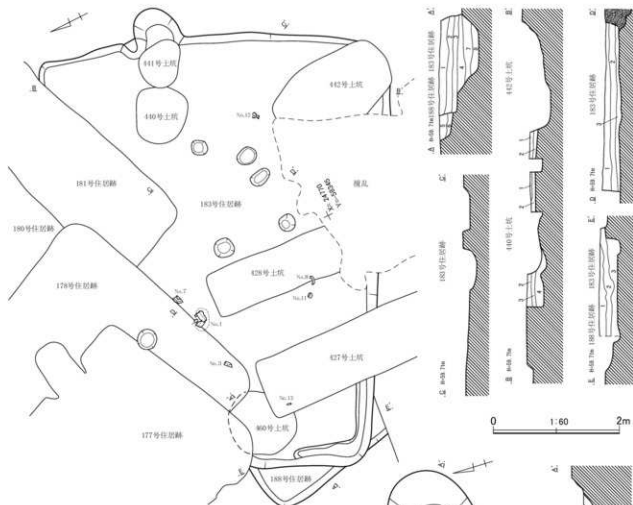


第31図 182号住居跡出土遺物

第14表 182号住居跡出土遺物観察表

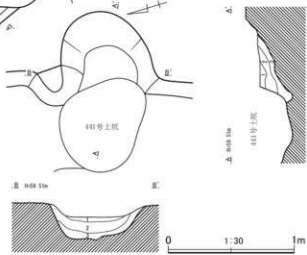
No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	台付甕	口径 一 台端径 9.5 器高 (6.3)	脚端部折り返し。粘土組織み上げによる成形。	外面-脚部上半タテハケ後、タテナデ。下半ナデ。内面-脚部タテナデ後、下位ヨコナデ。	石英、角閃石などの 大小砂粒・小礫 多量 内外-にぶい赤褐色	脚部3/4残存
2	鉢	口径 8.5 底径 4.2 器高 6.3	口縁部S字状を呈する。胴部最大径を上位にもち、平底。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部上位タテナデ後、頸部ヨコハケ。胴部下位タテナデ後、中位ヨコナデ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ後、上位ヨコナデ。	白色岩片、角閃石 内外-にぶい赤褐色	ほぼ完形
3	鉢	口径 9.9 底径 4.7 器高 6.0	丸底で体部は丸みをもつ。口縁部外反する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ後、中位・下位ヨコナデ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部タテナデ後、上位ヨコナデ。	白色岩片、角閃石 内外-にぶい橙褐色	1/2残存
4	鉢?	口径 一 底径 一 器高 (2.5)	丸底。粘土組織み上げによる成形。	外面-ナデ。胴部に黒斑。内面-ナデ。	角閃石、白色・赤色岩片 内外-にぶい橙褐色	胴部下位～底部 3/4残存

住居跡中央を中心に、土師器甕・坏、須恵器坏などが出土している。出土遺物からみて、奈良時代後葉の住居跡と考えられようか。



183・188号住居跡土層注記

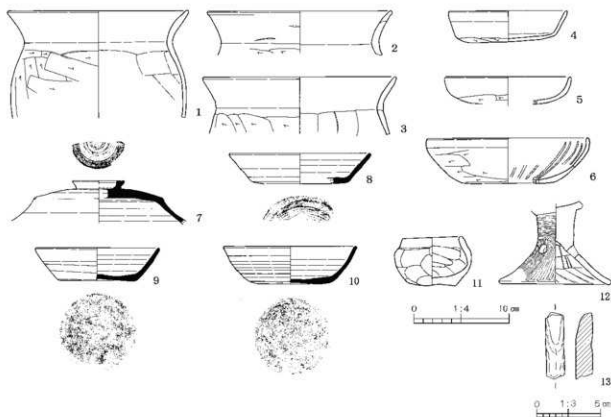
- 1層: 黒褐色土層。ローム粒、5mm大のローム小ブロック、5mm大の炭化物を微量、5mm大の焼土小ブロックを少量含む。1～3層は、183号住居跡覆土。4層は、同掘り方埋土。
- 2層: 黒褐色土層。5、10mm大のロームブロック、焼土粒、炭化物粒、5mm大の炭化物焼土粒を微量、5mm大の焼土小ブロックを少量含む。
- 3層: 黒褐色土層。ローム粒を多量に、10mm大のロームブロック、焼土粒、5mm大の炭化物を微量含む。しまっている。
- 4層: 黒褐色土層。ローム粒を少量、10mm大のロームブロックを多量に、50mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。
- 5層: 暗褐色土層。ローム粒、焼土粒を微量含む。しまっている。5・6層は、188号住居跡覆土。
- 6層: 暗褐色土層。ローム粒を少量、30mm大のロームブロックを微量含む。しまっている。
- 7層: 暗褐色土層。ローム粒、30mm大のロームブロック、5mm大の焼土小ブロック、炭化物粒を微量、10mm大のロームブロックを少量含む。しまっている。7・8層は460号土坑覆土。
- 8層: 暗褐色土層。ローム粒を多量に、50mm大のロームブロックを少量含む。埋め土か？



183号住居跡カマド土層注記

- 1層: 暗褐色粘土層。ローム粒、焼土粒、炭化物粒を微量、5mm大の焼土小ブロックを少量含む。しまっている。
- 2層: 暗褐色粘土層。10mm大のロームブロック、5mm大の炭化物を微量、焼土粒、5mm大の焼土小ブロックを少量含む。しまっている。
- 3層: 暗褐色粘土層。ローム粒を少量、5mm大のロームブロック、焼土粒、径5mm大の焼土小ブロック、炭化物粒を微量含む。しまっている。

第32図 183・188号住居跡平面・断面図



第33図 183号住居跡出土遺物

第15表 183号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・裝飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 19.1 底径 — 器高 (11.3)	口縁部ゆるやかに外反する。粘土組織み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部タテズリ後、ヨコケズリ。内面—ヨコナデ。	白色岩片、角閃石 内外—明赤褐色	口縁部～ 胴部上位 1/3残存
2	甕	口径 18.4 底径 — 器高 (4.6)	口縁部外反する。粘土組織み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部上位ヨコケズリ。内面—ヨコナデ。	白色・赤色岩片、 角閃石 内外—褐色	口縁部破 片
3	甕	口径 20.2 底径 — 器高 (6.1)	口縁部外反する。粘土組織み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部上位ヨコケズリ。内面—ヨコナデ。	角閃石、白色・赤 色岩片 内外—褐色	口縁部～ 胴部上位 1/3残存
4	杯	口径 12.4 底径 3.3 器高 —	口縁部外反する。粘土組織み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面—ヨコナデ。	角閃石、白色岩片 内外—褐色	2/3残存
5	杯	口径 12.2 底径 — 器高 2.9	口縁部内彎する。粘土組織み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ後、体部ケズリ。内面—ヨコナデ。	角閃石、白色岩片 内外—褐色	1/5残存
6	杯	口径 17.0 底径 (10.0) 器高 4.7	口縁部内彎する。粘土組織み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヨコケズリ。内面—ヨコナデ後、口縁部放射状暗文。	角閃石、石英、白 色岩片 内外—褐色	1/5残存
7	須恵器 蓋	端部径 (18.5) 掴み径 5.6 器高 (4.6)	掴み貼付。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。内面—ロクロナデ。	海綿状骨針、石英、 白色岩片 内外—灰色	体部1/3残 存
8	須恵器 杯	口径 14.9 底径 10.0 器高 3.1	口縁部外反する。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部回転糸切り後、縁辺部回転ケズリ。内面—ロクロナデ。	海綿状骨針、白色 岩片、石英 内外—灰色	1/5残存
9	須恵器 杯	口径 13.0 底径 8.0 器高 3.4	口縁部外反する。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部回転ケズリ。内面—ロクロナデ。器面磨耗する。	海綿状骨針、白色 岩片 内外—灰色	4/5残存
10	須恵器 杯	口径 13.9 底径 7.5 器高 4.0	口縁部やや内彎する。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部回転糸切り後、縁辺部回転ケズリ。内面—ロクロナデ。	石英、角閃石、片 岩、白色岩片 内外—灰色	3/4残存

第16表 183号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考	
11	ミニ チュア	口径 底径 器高	6.1 5.0 5.2	胴部最大径を上位にもち、 口縁部は内傾する。粘土紐 積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 底 部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部 強い指ナデ。	白色岩片、角閃石、 石英 内外-橙色	完形
12	高坏	口径 底径 器高	9.3 9.3 —	脚部上半は柱状を呈する。 粘土紐積み上げによる成 形。	外面-脚部上半ヨコミガキ後、下半タ テミガキ。内面-胴部ヨコナデ。3方 向に円形の透かし孔。	片岩、石英、白色 岩片 内外-明赤褐色	脚部1/2残 存
13	土製品	長さ 幅 厚さ	(5.4) 1.6 1.4	手捏成形。	外面-丁寧なナデ。	角閃石 外-にぶい橙色	3/4残存

184号住居跡 (第34~36図、第17表、図版7・13)

調査地点の西縁近くの中央、北寄りで検出した遺構である。21・185号住居跡を切り、11号溝が遺構中央を横切り、12号溝にカマドおよび東壁の一部を壊されている。

平面形は、西側がやや幅広となる台形に近い形態である。主軸長は5.87m、副軸長は3.76m、主軸方位はS-87°-Eである。残存状態が良好ではないため、掘り込みは浅く、壁の立ち上がりも緩やかである。床面には凹凸がみられ、東側に向かってやや傾斜するようである。P1~P3は、主柱穴の可能性のあるピットである。いずれも上端の形態は、楕円形に近く、深さは、P1が47cm、P2が12cm、P3が26cmである。カマドは東壁中央に付設されている。燃焼部は、東壁に直交して掘り込まれており、被熱赤化の痕跡は軽微である。袖は遺存しない。貯蔵穴は、カマドの南脇、南東隅近くで検出した。平面形は楕円形で、上端での長径は77cm、最深部での深さは33cmである。

遺物の多くは、土師器片や須恵器片である。軒丸瓦片(第36図3)^(註)は、住居跡の中央西寄りの覆土中で、床面よりかなり浮いた状態で出土した。覆土に混入した遺物と考えられる。出土遺物、住居形態などからみて、平安時代の住居跡であろう。

(註) 第36図3の軒丸瓦に関しては、鎌倉市役所小林康幸氏より、「永福寺系」の創建期の瓦であるとの御教示を頂いた(恋河内昭彦談)。

185号住居跡 (第34・35・38図、第18表、図版7・13)

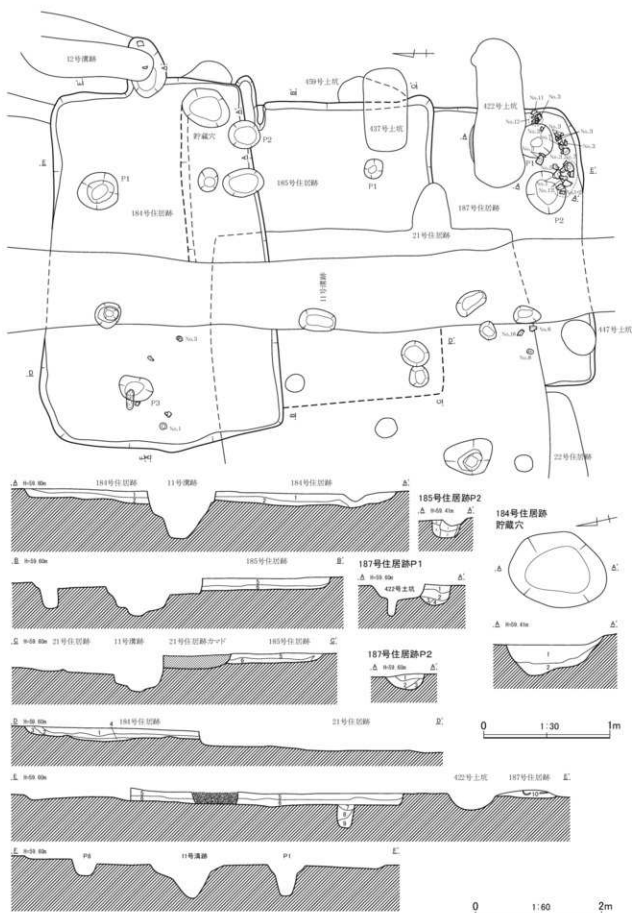
調査地点の西縁近くの中央で検出した遺構である。187号住居跡を切り、11号溝が遺構中央西寄りを通り、21・184号住居跡に遺構の東半、北半を、437・459号土坑に東壁の一部を壊されている。

平面形は、横幅がやや広い方形に近い形態になろうか。南北方向、副軸方向での現存長は、2.85mであるから、主軸長はこの倍ほどの長さになる。残存部分の床面は、ほぼ平坦である。P1は、主柱穴になろうか。平面形は微妙に角張った方形で、深さは33cmである。P2としたピットは、本住居跡に伴わないのかもしれない。カマドは、東壁に付設されており、北側半分を、184号住居跡により壊されている。東壁にほぼ直交する掘り込みを有し、細長い右袖のみ残存する。

出土遺物は、少数の土師器小破片のみで、いずれも覆土中出土である。出土遺物から、奈良時代末葉~平安時代の住居跡と考えられる。

186号住居跡 (第37図、図版7)

調査地点の南西隅近くで検出した遺構である。11号溝が西半を東西に横切り、39号溝に切られ、174号住居跡と北壁で接している。西壁のかんりの部分を攪乱により壊され、南西隅となるべき一帯は削平され、遺構の輪郭を追うことができない。覆土もわずかに残るのみであった。



第34图 184·185·187号住居跡平面·断面图(1)

184・185・187号住居跡土層注記

- 1層：黒褐色土層。ローム粒、30、50mm大のロームブロック、白色粒を微量、焼土粒を少量含む。しまっている。1～4層は、184号住居跡覆土。
- 2層：暗褐色土層。30、50mm大のロームブロック、焼土粒、5mm大の炭化物を微量含む。しまっている。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒を少量、30mm大のロームブロックを微量含む。しまっている。壁の崩落土。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒、50mm大のロームブロック、焼土粒を微量、10mm大のロームブロックを少量含む。粘性が強い。
- 5層：暗褐色土層。ローム粒、炭化物粒を微量、5mm大の焼土小ブロックを少量含む。5・6層は、185号住居跡覆土。
- 6層：黒褐色土層。ローム粒、5mm大の焼土小ブロックを微量、30mm大のロームブロックを少量含む。しまっている。
- 7層：暗褐色土層。ローム粒、30mm大のロームブロック、焼土粒、炭化物粒を微量、5mm大のローム小ブロックを少量含む。しまっている。7～9層は、185号住居跡P1覆土。
- 8層：暗褐色土層。ローム粒を少量、30mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。しまっている。
- 9層：黒褐色土層。ローム粒を少量、10mm大のロームブロック、5mm大の炭化物を微量含む。しまっている。
- 10層：暗褐色土層。ローム粒を少量、5、30mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。10層は、187号住居跡覆土。

184号住居跡貯蔵穴土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、30mm大のロームブロック、5mm大の焼土小ブロックを微量、焼土粒、炭化物粒を少量含む。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、5mm大のローム小ブロック、同大の焼土小ブロックを微量含む。しまっている。

185号住居跡P2土層注記

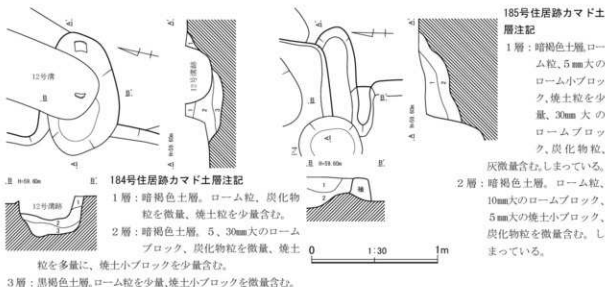
- 1層：黒褐色土層。ローム粒、5mm大のローム小ブロック、同大の炭化物粒を微量、焼土粒を少量含む。しまっている。
- 2層：黒褐色土層。ローム粒、30mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。しまっている。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒、焼土粒を微量、30mm大のロームブロックを少量含む。3～5層は、人為的堆積土か？
- 4層：暗褐色土層。ローム粒、焼土粒を微量含む。しまっている。
- 5層：暗褐色土層。ローム粒、焼土粒を微量、50mm大のロームブロックを少量含む。しまっている。

187号住居跡P1土層注記

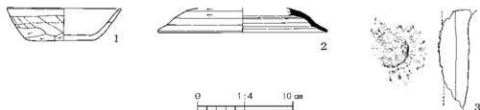
- 1層：暗褐色土層。ローム粒、5、10mm大のロームブロック、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 2層：黒褐色土層。ローム粒、30mm大のロームブロックを少量、焼土粒を微量含む。しまっている。
- 3層：黒褐色土層。ローム粒を少量、10mm大のロームブロック、焼土粒、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、30mm大のロームブロック、径5mm大の焼土小ブロックを微量含む。しまっている。

187号住居跡P2土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、焼土粒を微量、5mm大のローム小ブロックを少量含む。しまっている。
- 2層：暗褐色土層。5、30mm大のロームブロック、5mm大の焼土小ブロックを微量含む。しまっている。
- 3層：黒褐色土層。ローム粒を少量、30mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。しまっている。



第35図 184・185・187号住居跡平面・断面図(2)



第36図 184号住居跡出土遺物

第17表 184号住居跡出土遺物観察表

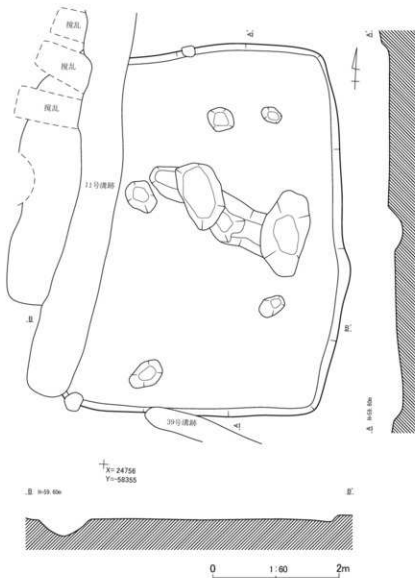
No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	杯	口径 12.0 底径 7.1 器高 3.5	口縁部は外反する。粘土細 積み上げによる成形。	外面一体部タテナデ後、口縁部ヨコナデ。 底部ケズリ。内面ヨコナデ。内面に 黒色付着物。	角閃石、白色岩片 内外-にぶい赤褐色	ほぼ完形
2	須恵器 杯蓋	端部径 17.8 器高 (2.6)	返りあり。ロクロ成形。	外面ロクロナデ後、上位回転ケズリ。 内面ロクロナデ。	白色岩片、石英、 角閃石 内外-黄灰色	破片
3	軒丸瓦	長さ — 幅 — 厚さ 3.2	型造り成形。	複弁蓮華文。全体的に摩滅している。	角閃石、石英 内外-黄灰色	破片 水福寺系

平面形は、やや胴の張る方形に近い形態になるうか。仮に南北方向を主軸の方向とするなら、主軸長は5.94m、副軸長は5.25m前後、東壁の示す方位はN-1°-Wである。残存部分の床面は、中央がやや高くなるが、おおむね平坦である。床面はあまり硬化していない。床面で図示したようなビット、土坑状の掘り込みを検出しており、一応本住居跡に伴うものとしておきたい。

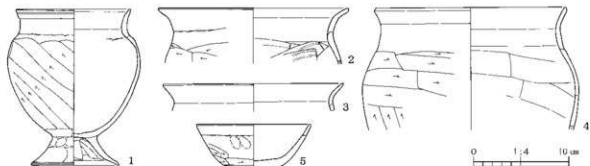
土師器小破片が少数出土している。住居形態、およびカマドがない可能性が高いことから、古墳時代中期、あるいはそれ以前の住居跡と考えられる。

187号住居跡(第34・35・39図、第19表、図版7・13)

調査地点の西縁近くの中央で検出した遺構である。11号溝が遺構中央やや西寄りを横切って



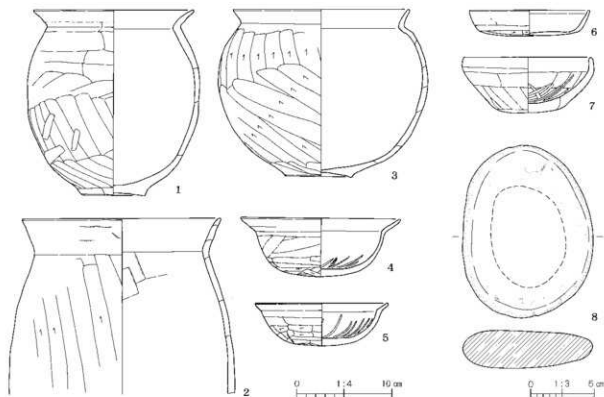
第37図 186号住居跡平面・断面図



第38図 185号住居跡出土遺物

第18表 185号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	台付甕	口径 12.1 台端径 9.2 器高 16.4	口縁部コの字状。胴部最大径を上位にもつ。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ後、下位ヨコナデ。脚部上位指押え後、下位ヨコナデ。内面-口縁部から胴部ヨコナデ。脚部下位ヨコナデ後、上位タテナデ。	白色岩片、角閃石、赤色岩片 外-灰褐色 内-にぶい赤褐色	1/2残存
2	甕	口径 20.0 底径 一 (5.8)	口縁部外反する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部上位ヨコケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部上位強いヨコナデ。	白色岩片、角閃石 内外-にぶい赤褐色	口縁部破片
3	甕	口径 19.0 底径 一 器高 一 (2.8)	口縁部外反する。粘土組織み上げによる成形。	外面-ヨコナデ。内面-ヨコナデ。	角閃石、白色岩片 内外-にぶい橙色	口縁部破片
4	甕	口径 20.0 底径 一 器高 (12.9)	口縁部ややコの字状を呈する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ後、上位ヨコケズリ。内面-ヨコナデ。外面胴部に粘土付着。	白色岩片、角閃石、赤色岩片 内外-褐色	口縁部へ胴部上半 1/5残存
5	坏	口径 12.0 底径 6.2 器高 4.5	口縁部は直立しながら立ち上がる。底部平底。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ。指押え後、下位ヨコケズリ。底部ケズリ。内面-ヨコナデ。	白色岩片、角閃石 内外-にぶい黄褐色	1/4残存



第39図 187号住居跡出土遺物

第19表 187号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・裝飾手法の特徴	胎土・色調	備考		
1	甕	口径 16.9 底径 6.6 器高 19.5	口縁部外反。胴部やや長胴だが丸みが強い。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部上半ヨコナデ後、下半タテナデ。底部ケズリ。内面-ヨコナデ。外面スス付着。内面胴部帯状にヨゴレ。	角閃石、白色岩片 内外-黒褐色	1/2残存		
2	甕	口径 20.8 底径 7.2 器高 (18.5)	口縁部緩やかに外反する。胴部長胴。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部タテのケズリ。焼成時の黒斑。内面-ヨコナデ。	角閃石、白色岩片 外-黒褐色 内-にぶい褐色	口縁部へ胴部上半破片		
3	甕	口径 18.5 底径 7.2 器高 17.6	口縁部外反。胴部中位に最大径をもつ。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリの後、下半ナメケズリ。底部ケズリ。内面-ヨコナデ。内外面にスス・ヨゴレ顯著。	白色岩片、角閃石 外-にぶい赤褐色 内-暗赤褐色	4/5残存		
4	鉢	口径 16.8 底径 6.1 器高 6.1	口縁部大きく外反する。丸底。粘土組織み上げ成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部下位ケズリ後、上位ヨコナデ。内面-ヨコナデ後、体部放射状ミガキ。内外面に焼成時の黒斑あり。	白色岩片、角閃石 内外-にぶい赤褐色	1/2残存		
5	鉢	口径 13.8 底径 4.5 器高 4.5	口縁部大きく外反する。丸底。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部下半ヨコケズリ後、上位ヨコナデ。体部に焼成時の黒斑。内面-ヨコナデ後、体部放射状ミガキ。	角閃石、白色岩片 外-赤褐色 内-にぶい赤褐色	3/4残存		
6	坏	口径 12.6 底径 10.4 器高 2.7	口縁部はやや内彎する。平底。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面-ヨコナデ。	角閃石、白色岩片、石英 内外-にぶい褐色	2/3残存		
7	坏	口径 13.4 底径 6.0 器高 5.8	口縁部直立する。丸底気味。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部タテナデ後、上位ヨコナデ。底部ケズリ、ナデ。内面-ヨコナデの後体部放射状ミガキ。内外面に焼成時の黒斑。	角閃石、白色岩片 外-黒色 内-にぶい褐色	4/5残存		
No.	器種	石材	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
8	磨石	安山岩	完形	13.7	10.5	3.0	675	磨り面あり。

おり、21・185号住居跡により遺構北西半、北半を壊され、422号土坑に東壁の一部を壊されている。

東西方向での現存長は4.48m、南北方向での現存長は2.42m、南壁の示す方位はS-89°-Eである。残存部分の床面は、ほぼ平坦である。P1は、貯蔵穴であろうか。平面形は円形に近く、径は50~53cm、深さは47cmである。P2も平面形が円形に近いビットで、最大径が69cm、深さは25cmである。P1、P2から壁際にかけての床面で、甕・鉢など土師器（第39図1~5・7）がややまとまって出土している。上記した遺物の他には、覆土中から土師器小破片が少数出土しているのみである。

出土遺物には、いささか幅があるかにも見えるが、同図1・3~5・7の土師器からみて、古墳時代後期初頭の住居跡であると思われる。

188号住居跡（第32図）

調査地点の中央、西寄りで検出した遺構である。175・177・183号住居跡、462号土坑に壊されており、北西隅及び北壁、東壁のごく一部のみ残存する。

平面形は不明であるが、残存状態からみて、小振りな住居跡になりそうである。床面はおおむね平坦で、壁周辺ということもあり、あまり硬化していない。

出土遺物は、数点の土師器小破片のみである。出土遺物から、古墳時代以降の住居跡である可能性が考えられる。

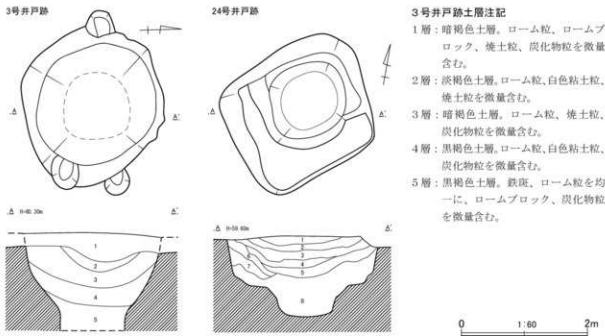
2 井戸跡

3号井戸跡（第40図、図版8）

今回調査したのは、遺構の南東半である。報告済みであり（松本・的野 2010）、図のみ掲載する。

24号井戸跡（第40図、図版8）

調査範囲の中央、北寄りで検出した遺構である。平面形は歪な方形、ないしは菱形で、北東-南西方向での長さは、230cm前後、深さは118cmである。中段に平坦面を有し、北壁に沿ってさらに1段深く掘りくぼめられている。覆土にA s-Aが含まれることから、近世の遺構とみられる。



24号井戸跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロック、5mm大の焼土小ブロック、炭化物粒を微量含む。A s-A?を少量含む。しまっている。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、5mm大の焼土小ブロック、A s-A?、30mm大の礫を微量、粘土粒、炭化物粒を少量含む。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒、粘土粒、炭化物粒を少量、10mm大のロームブロック、A s-A?を微量含む。しまっている。
- 4層：黒褐色土層。ローム粒を少量、30mm大のロームブロック、焼土粒、炭化物粒を微量含む。粘性、しまりが強い。
- 5層：暗褐色土層。ローム粒、50mm大のロームブロック、

3号井戸跡土層注記

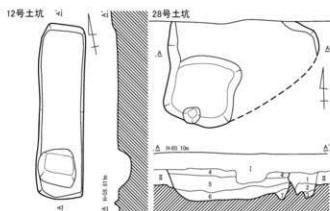
- 1層：暗褐色土層。ローム粒、ロームブロック、焼土粒、炭化物粒を微量含む。
- 2層：淡褐色土層。ローム粒、白色粘土粒、焼土粒を微量含む。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒、焼土粒、炭化物粒を微量含む。
- 4層：黒褐色土層。ローム粒、白色粘土粒、炭化物粒を微量含む。
- 5層：黒褐色土層。鉄斑、ローム粒を均一に、ロームブロック、炭化物粒を微量含む。

- 5mm大の焼土小ブロック、炭化物粒を微量含む。粘性、しまりが強い。
- 6層：黒褐色土層。ローム粒を多量に、100mm大のロームブロック、焼土粒、炭化物粒を微量含む。粘性、しまりが強い。
- 7層：黒褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロック、5mm大の炭化物を微量、焼土粒少量含む。粘性、しまりが強い。
- 8層：黒褐色土層。ローム粒、100mm大のロームブロック、同大の白色粘土ブロック、粘土粒、焼土粒、炭化物粒を微量、30mm大のロームブロックを多量に含む。粘性、しまりが強い。

第40図 3・24号井戸跡平面・断面図

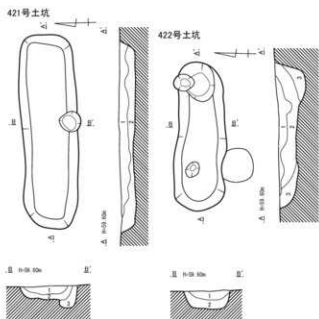
3 土坑

土坑は、主に調査地点の中央から西半部に分布している。円形、楕円形、長楕円形、縦長長方形と平面形は様々である（第41～47図、第20～22表、図版8～10）。



28号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。10mm大ほどのロームブロックをわずかに含みややしまっている。1～3層は、28号土坑より新しいピット、あるいは攪乱の埋積土。
- 2層：暗褐色土層。10mm大のロームブロックと不整形のロームブロックを少量含む。
- 3層：黒褐色土層。不整形のロームブロックを少量含む。
- 4層：暗褐色土層。5mm大のローム小ブロックを少量、焼土粒を微量含む。しまりあり。4～7層は、28号土坑覆土。
- 5層：暗褐色土層。明るい色調の暗褐色土を主に、10mm大の前後のロームブロックを多く含む。粘性、しまりやや強い。
- 6層：暗褐色土層。5層に比し色調暗く、ロームが多い。ロームブロックは不整形のものが多く、焼土粒、炭化物粒を微量含む。粘性、しまりともにやや強い。
- 7層：暗褐色土層。暗褐色土とロームブロックの混合土。粘性やや強く、しまっている。



421号土坑土層注記

- 1層：暗灰褐色土層。A s-A、ローム粒を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性、しまりが強い。
- 2層：暗灰褐色土層。A s-A、ロームブロックを均一に含む。粘性、しまりが強い。
- 3層：黒褐色土層。ローム粒を均一に含む。粘性、しまり強い。

422号土坑土層注記

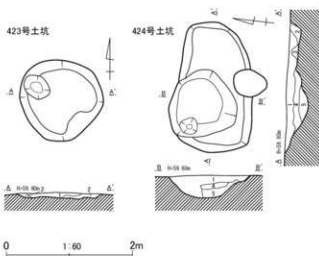
- 1層：黒灰色土層。ローム粒、ロームブロック、A s-Aを微量含む。1～3層ともに粘性、しまりが強い。
- 2層：黒褐色土層。ローム粒を均一に、A s-A、焼土粒を微量含む。
- 3層：黒色土層。ローム粒、ロームブロックを微量含む。

423号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、炭化物粒を微量、10mm大のロームブロックを少量含む。しまっている。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒を多量に含む。しまっている。

424号土坑土層注記

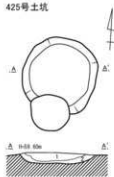
- 1層：暗褐色土層。ローム粒、焼土粒、炭化物粒を微量、10mm大のロームブロックを少量含む。しまっている。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒を少量、10mm大のロームブロックを少量含む。しまっている。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒を少量、30mm大のロームブロックを多量に含む。しまっている。
- 4層：黒褐色土層。ローム粒、30mm大のロームブロックを少量、50mm大のロームブロックを微量含む。
- 5層：黒褐色土層。10mm大のロームブロック、炭化物粒を微量含む。



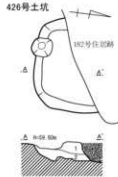
0 1:60 2m

第41図 12・28・421～424号土坑平面・断面図

425号土坑



426号土坑



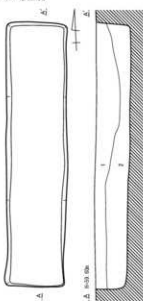
425号土坑土層注記

- 1層：黒褐色土層。ローム粒、炭化物粒、5mm大の焼土小ブロックを微量含む。しまっている。
- 2層：黒褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。しまっている。

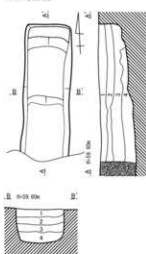
426号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、焼土粒を微量含む。しまっている。
- 2層：黒褐色土層。ローム粒、30mm大のロームブロックを少量、50mm大のロームブロック、焼土粒微量含む。しまっている。

427号土坑



428号土坑



427号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、5mm大の焼土小ブロック、炭化物粒を微量、10~50mm大のロームブロックを少量含む。
- 2層：黒褐色土層。ローム粒、30mm大のロームブロック、炭化物粒を少量、10mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。しまっている。

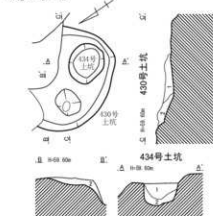
428号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、5mm大のローム小ブロック、炭化物粒を微量、焼土粒を少量含む。しまっている。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロックを少量、30mm大のロームブロック、焼土粒、5mm大の焼土小ブロックを微量含む。しまっている。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒を少量、10mm大のロームブロック、同大の焼土ブロック、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒、50mm大のロームブロックを多量に、焼土粒を微量含む。しまっている。

429号土坑



430,434号土坑



429号土坑土層注記

- 1層：黒褐色土層。ローム粒、5mm大のローム小ブロックを少量、30mm大のロームブロック、白色粒、焼土粒、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 2層：黒褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。粘性、しまりが強い。

430号土坑土層注記

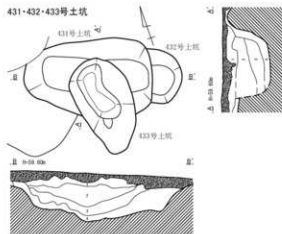
- 1層：暗褐色土層。ローム粒、30mm大のロームブロック、焼土粒微量含む。しまっている。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、10mm大の褐色粘土小ブロックを微量、30mm大のロームブロックを少量含む。粘性が強い。

434号土坑土層注記

- 1層：黒褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。しまっている。
- 2層：黒褐色土層。ローム粒を多量に、30mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。しまっている。

0 1:60 2m

第42図 425~430・434号土坑平面・断面図

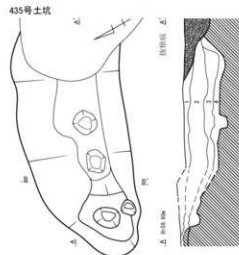


431・432号土坑土層注記

- 1層：黒褐色土層。ローム粒を少量、10mm大のロームブロック、白色粒、5mm大の焼土小ブロックを微量含む。しまっている。攪乱？
- 2層：黒褐色土層。ローム粒、5mm大のローム小ブロック、白色粒、焼土粒を微量含む。しまっている。
- 3層：黒褐色土層。ローム粒、5、30mm大のロームブロック、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 4層：にぶい黄褐色土層。ローム粒を多量に、30mm大のロームブロックを少量、焼土粒を微量含む。粘性が強い。432号土坑覆土？

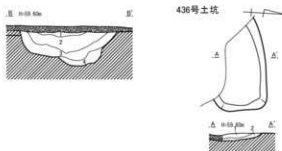
433号土坑土層注記

- 1層：黒褐色土層。しまっている。攪乱？
- 2層：黒褐色土層。暗褐色土粒を少量、10mm大のロームブロック、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 3層：黒褐色土層。暗褐色土粒、10mm大のロームブロック、白色粒を微量含む。しまっている。
- 4層：黒褐色土層。ローム粒、暗褐色土粒を微量、10mm大のロームブロックを少量含む。しまっている。



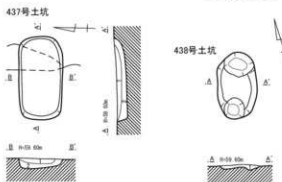
435号土坑土層注記

- 1層：黒褐色土層。暗褐色土粒、ローム粒を微量含む。
- 2層：黒褐色土層。暗褐色土粒、10mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。しまっている。
- 3層：黒褐色土層。暗褐色土粒を端に少量、10mm大のロームブロックを少量、30mm大のロームブロック、炭化物粒を微量含む。粘性が強い。
- 4層：黒褐色土層。黄色みの強い黒褐色土を主に、暗褐色土粒を多量に、ローム粒、30mm大のロームブロックを少量含む。しまっている。



436号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。しまっている。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒を少量、10mm大のロームブロック、5mm大の焼土小ブロックを微量含む。しまっている。



437号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、焼土粒を少量、10mm大のロームブロック、炭化物粒を微量含む。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、焼土粒を微量、10mm大のロームブロックを少量含む。

438号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、5mm大のローム小ブロック、焼土粒を微量含む。しまっている。



第43図 431～433・435～438号土坑平面・断面図

439号土坑土層注記

- 1層：黒褐色土層。ローム粒、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒を少量、30mm大のロームブロック、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 4層：黒褐色土層。ローム粒、5mm大のローム小ブロックを微量含む。粘性、しまりが強い。
- 5層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、炭化物粒を微量含む。粘性が強い。
- 6層：暗褐色土層。ローム粒を多量に含む。粘性、しまりが強い。

440号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、5mm大の焼土小ブロックを少量、30mm大のロームブロック、10mm大の暗褐色粘土ブロック、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 2層：黒褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロック、5mm大の焼土小ブロックを微量、5mm大の暗褐色粘土小ブロックを少量含む。しまっている。
- 3層：暗褐色粘土層。30mm大のロームブロック、焼土粒、炭化物粒を微量含む。しまっている。

441号土坑土層注記

- 1層：暗褐色粘土層。5mm大のローム小ブロック、焼土粒、10mm大の焼土ブロック、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 2層：暗褐色粘土層。5mm大のローム小ブロック、同大の焼土小ブロックを微量、焼土粒を少量含む。しまっている。
- 3層：暗褐色粘土層。30~100mm大のロームブロックを微量、5mm大の焼土小ブロックを少量含む。炭化物粒を帯状に微量含む。しまっている。

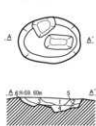
442号土坑土層注記

- 1層：黒褐色土層。ローム粒を少量、5、30mm大のロームブロック、焼土粒、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 2層：黒褐色土層。ローム粒、30mm大のロームブロック、焼土粒を少量、5mm大のローム小ブロックを多量に、5mm大の焼土小ブロック、炭化物粒を微量含む。しまっている。

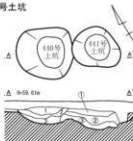
443号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、5mm大のローム小ブロック、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒を少量、5mm大のローム小ブロックを微量含む。しまっている。
- 3層：褐色土層。ローム粒を多量に、30mm大のロームブロックを微量含む。しまっている。

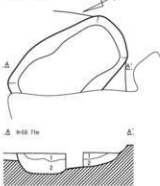
439号土坑



440, 441号土坑



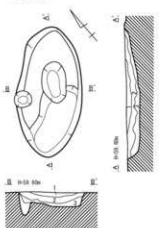
442号土坑



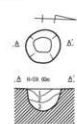
447号土坑



443号土坑



448号土坑



448号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、30mm大のロームブロック、5mm大の炭化物を微量含む。しまっている。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、30mm大のロームブロック、焼土粒を微量、5mm大のローム小ブロックを少量含む。しまっている。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。しまっている。



第44図 439~443・447~448号土坑平面・断面図

449～451号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、50mm大のロームブロック、5mm大の焼土小ブロックを微量、30mm大のロームブロックを少量含む。しまっている。1・2層は、451号土坑覆土。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、30mm大のロームブロック、焼土粒を少量、5mm大の炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒、50mm大のロームブロック、焼土粒、炭化物粒を微量含む。しまっている。3・4層は、450号土坑覆土。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒を少量、30mm大のロームブロックを微量含む。しまっている。
- 5層：暗褐色土層。ローム粒を微量、50mm大のロームブロックを少量含む。しまっている。5～7層は、449号土坑覆土。
- 6層：黒褐色土層。ローム粒、焼土粒を微量、10、50mm大のロームブロックを少量含む。しまっている。
- 7層：褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。しまっている。

452号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、5mm大のローム小ブロックを微量、白色粒を少量含む。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロックを微量、白色粒を少量含む。
- 3層：褐色土層。ローム粒を多量に含む。
- 4層：褐色土層。ローム粒を多量に、焼土粒、炭化物粒を微量含む。

453号土坑土層注記

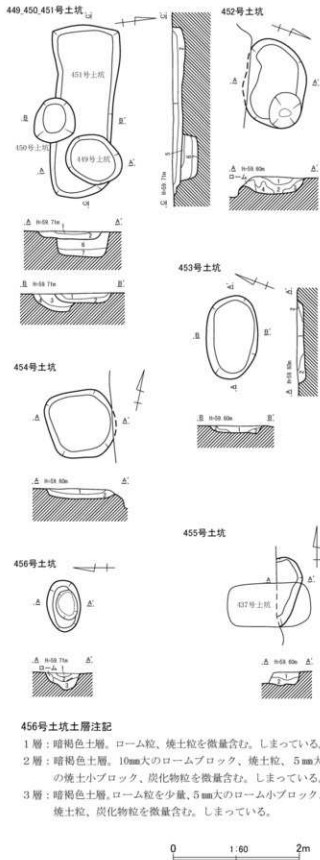
- 1層：暗褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロック、焼土粒、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 2層：褐色土層。ローム粒を多量に、30mm大のロームブロックを少量含む。しまっている。

454号土坑土層注記

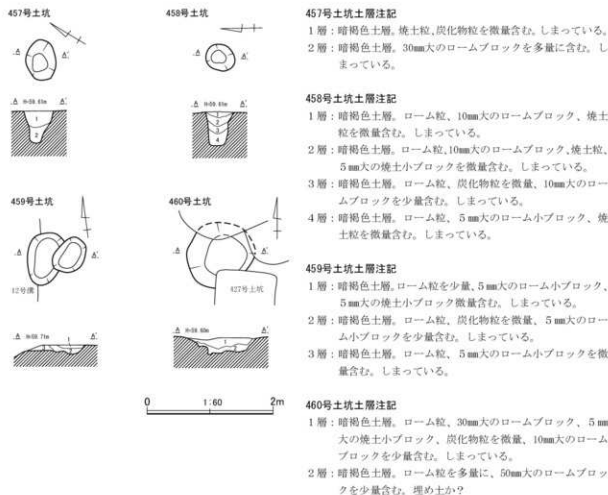
- 1層：暗褐色土層。5～10mm大のロームブロック、白色粒、5mm大の焼土小ブロックを微量含む。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、白色粒、焼土粒を微量、5～10mm大のロームブロックを少量含む。しまっている。

455号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、5mm大の焼土小ブロック、炭化物粒を微量、5～10mm大のロームブロック、焼土粒を少量含む。しまっている。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、5mm大のローム小ブロック、焼土粒を微量含む。しまっている。



第45図 449～456号土坑平面・断面図



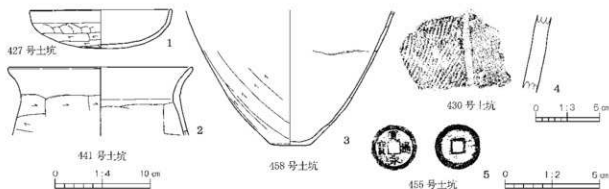
第46図 457~460号土坑平面・断面図

第20表 土坑計測および観察表(1)

番号	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
12	縦長長方形	278×70	40		近世以降。
28	不整形	237×158	24	山茶碗蓋系?土器片1点	27土坑に切られる。中世?
421	縦長長方形	307×88	36	土師器片多量, 須恵器片2点。	11溝を切る。近世以降。
422	長槽円形	234×77	49	土師器片多量, 須恵器片1点。	187住を切る。近世以降。
423	不整形	129	32	土師器片2点, 須恵器片1点。	
424	槽円形	207×126	34	土師器片微量。	
425	円形	117	17	土師器片微量, 須恵器高台付底部片1点, 須恵器細片1点。	
426	隅丸方形	(75)×144	25	土師器片4点, 須恵器片1点。	182住を切る。
427	縦長長方形	420×97	36	第47図1, 土師器片多量, 須恵器片6点, 近世?陶器片1点。	175・183住, 460土坑を切る。近世以降。
428	縦長長方形	218×75	25	土師器片少量。	183住を切る。近世以降。
429	槽円形	(79)×120	23		
430	円形	173	33	第47図4, 土師器片少量。	431土坑に切られる。
431	不整形円形	230×118	53		432・433土坑を切る。
432	槽円形	(47)×82	37		431土坑に切られる?
433	長槽円形	155×81	55	土師器片3点。	431土坑に切られる。
434	円形	61	33	土師器片少量, 須恵器片1点。	430土坑に切られる。
435	長槽円形	(285)×165	74	須恵器片1点。	
436	不整形長方形	(121)×(63)	9	土師器片少量。	

第21表 土坑計測および観察表(2)

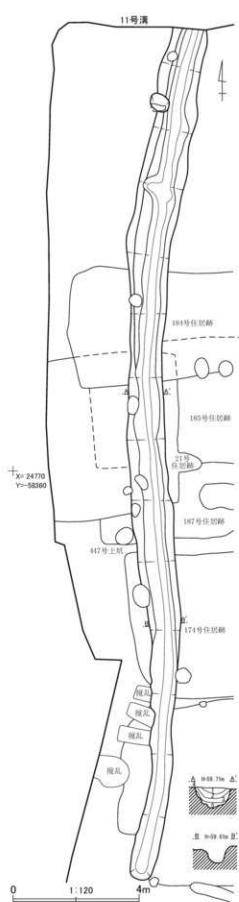
番号	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
437	隅丸長方形	132×70	9	土師器片少量、須恵器片1点。	185住・455土坑を切る。
438	槽円形	105×63	29	土師器片2点。	
439	槽円形	98×73	23		
440	不整槽円形	89×81	27	土師器片少量。	441土坑を切る。
441	不整槽円形	79×63	29	第47図2。土師器片少量。	440土坑に切られる。奈良時代？
442	隅丸長方形	196×110	25	土師器片少量。	
443	紡錘形	204×104	32	土師器片微量、縄文？剥片1点。	
447	槽円形	60×49	35		187住を切る。
448	円形	55	39		
449	不整槽円形	91×75	40	土師器少量、須恵器片2点。	451土坑に切られる。
450	不整槽円形	72×65	28	土師器片4点。	451土坑に切られる。
451	長方形	273×93	15	土師器片少量、須恵器片2点。	449・450土坑を切る。近世以降。
452	槽円形	142×102	26	土師器片5点。	177住を切る。
453	槽円形	130×82	11	土師器片6点、須恵器片1点。	177住と重複。
454	不整円形	107	14	土師器片少量。	179住と重複。
455	槽円形	(112)×(40)	21	第47図5。土師器片微量。	185住、437土坑と重複。
456	槽円形	81×53	27	土師器片少量、須恵器片1点。	449・450土坑を切る。近世以降。
457	槽円形	64×48	53	土師器片微量。	
458	円形	47	53	第47図3。土師器片微量。	
459	槽円形	85×51	14		11溝を切る。
460	不整円形	110	30	土師器片多量、須恵器片1点。	177・178・183住、427土坑に切られる。



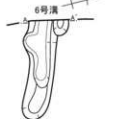
第47図 土坑出土遺物

第22表 土坑出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 14.8 底径 一 器高 4.0	口縁部と体部の屈曲が弱い、丸底。粘土組織み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部指押した後、底部ケズリ。内面ヨコナデ。	白色岩片、角閃石、石英 内外-明赤褐色	2/3残存 427号土坑
2	甕	口径 19.3 底径 一 器高 (7.2)	口縁部外反する。粘土組織み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヨコケズリ。内面ヨコナデ。	白色岩片、角閃石、赤色岩片 内外-橙褐色	口縁部～胴部破片 441号土坑
3	甕	口径 一 底径 4.2 器高 (14.1)	器壁非常に薄く、底部小さい。粘土組織み上げによる成形。	外面一胴部下半タテケズリ、底部ケズリ。内面ヨコナデ。内外面ヨゴレ。外面は二次被熱か。	白色岩片、角閃石、石英 外-橙褐色 内-黄灰色	胴部下 以下1/5 残存 458号土坑
4	深鉢	口径 一 底径 一 器高 一	やや傾きながら立ち上がる胴部片。	外面一縦帯状の無文帯とタテ回転の短帯縄文による帯縄文間を、太い沈線でご面する。沈線はわずかに彎曲する。内面一ナメ。タテのナデ。	白色・灰色・赤褐色などの大小砂粒 外-にぶい橙褐色 内-にぶい褐色	加曾利E式後半、430号土坑
No.	器種	残存	径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
5	古銭	完形	2.4	0.1	3.18	「寛永通宝」。455号土坑出土。



X=24766
Y=58360

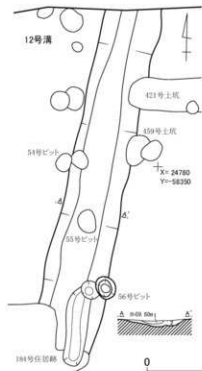


6号溝跡土層注記

- 1層：黒褐色粘質土層、5mm大のローム小ブロック、同大の焼土小ブロック、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 2層：黒褐色粘質砂層、ローム粒、30mm大のロームブロック、5mm大の炭化物を微量、焼土粒を少量含む。しまっている。
- 3層：黒褐色粘質砂層。ローム粒を多量に（壁際に多い）、10mm大のロームブロック、焼土粒、炭化物粒を微量含む。粘性が強い。
- 4層：黒褐色粘質砂層。ローム粒、10mm大のロームブロックを少量、焼土粒を微量含む。粘性が強い。

11号溝跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。10mm大の焼土ブロック、同大の礫、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、50mm大のローム小ブロック、5mm大の焼土小ブロック、同大の炭化物、30mm大の礫を微量、焼土粒を少量含む。しまっている。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒、焼土粒を少量、30mm大のロームブロック、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 4層：黒褐色土層。ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。しまっている。
- 5層：黒褐色土層。ローム粒を少量、10mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。しまっている。



12号溝跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。5mm大のローム小ブロック、同大の炭化物、焼土粒を微量含む。しまっている。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、白色粒、焼土粒を微量含む。しまっている。

第48図 6・12・11号溝跡平面・断面図

4 溝跡

以下報告する溝跡は、6・11・12号溝跡の3条である。6号溝と11号溝とは、削平を受け途切れ、直接繋がってはいないが、本来は一連の溝であり、11号溝は北に伸び、6号溝はさらに西へと伸長し、ともに広大な区画域を画する長大な溝跡であることが判明している。

6号溝跡（第48・49図、第23表、図版10）

調査地点の南西端で検出した遺構である。B1地点の南側調査区の北縁近くで検出した溝に連なる。溝幅は80cm前後、深さは48cm、調査地点内で一端途切れるようである。

11号溝跡（第48・49図、第23表、図版11）

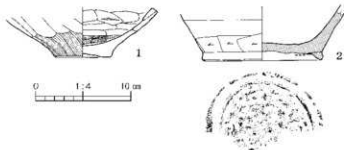
調査地点の西半を南北に走る遺構である。21・174・184～187号住居跡を切って造られている。ほぼ並行する2つの溝の重複例であり、西から東へとわずかに中心をずらして溝が掘り直されたと考えられる。新旧の溝跡の違いについては、本遺跡C1地点の報告書にて記した（松本・的野 2010）。

調査区界の北縁から8m、19mあたりでわずかに曲折するため、全体に緩やかなS字を描くように南北方向での現存長は27m、溝幅は70～142cmである。断面形はV字形、あるいは緩やかな箱葉研である。深さは、北端で60cm、中央で62cm、南縁付近で46cmである。深淺がみられるが、微妙ながらも北から南に向かって底面が低く、あるいは深くなるようである。

多量の土師器片、少数の須恵器片、陶器片などが、覆土の上・中層を中心に、全体からほぼ万遍なく出土している。出土遺物（第49図2）、覆土の性状からみて、中世の遺構と考えられる。

12号溝跡（第48図、図版11）

調査地点の北西半で検出した底面付近のみ残存する溝跡である。421・459号土坑に壊され、184号住居跡の北東隅からカマドにかけての部分と重複し、そのまま浅くなり途切れる。南北方向での現存長は9.55m、溝幅は152～170cmである。断面形は船底形で、深さは15～22cmである。ごく少数の土師器片などが覆土中から出土している。走向を同じくする127号溝跡と近接した時期、中世の遺構の可能性がある。



第49図 6・11号溝跡出土遺物

第23表 6・11号溝跡出土遺物観察表

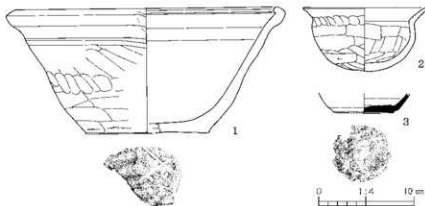
No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・裝飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	壺	口径 底径 器高 — 6.1 (5.2)	底部蛇の目状。粘土凝縮み上げによる成形。	外面—タテハケ後、タテナデ。底部ナデ。 内面—ヨコハケ後、ヨコナデ。	角閃石、石英、片岩、白色岩片 外—明赤褐色 内—明褐色	胴部下位 〜底部 1/4残存 6号溝
2	片口鉢	口径 底径 器高 — 12.6 (5.7)	ロクロ成形。貼付高台。	外面—ロクロナデ、下位回転ヘラケズリ。 内面—ロクロナデ。底部敲打痕。内面見込み部磨耗。	石英、白色岩片、片岩 外—黄灰色 内—灰白色	底部 2/3残存 山茶碗窯 系 11号溝

39号溝跡

久下前遺跡F2地点の報告書にて報告する。

5 遺構外出土遺物

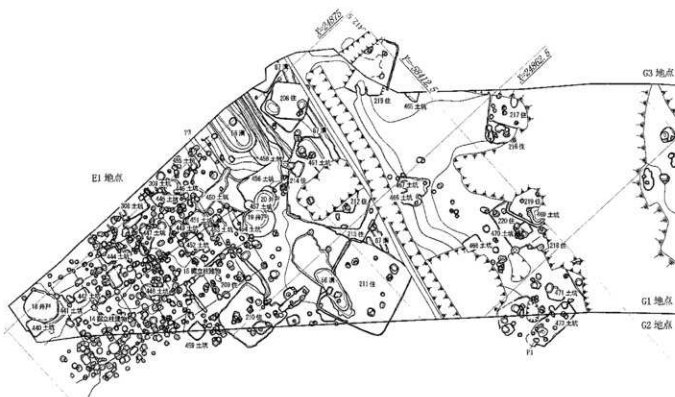
第50図1は、土坑や溝跡に関連する遺物であろう。2の鉢は、古墳時代中期に属し、187号住居跡の鉢（第39図4・5）より古い形態であろうか。



第50図 遺構外出土遺物

第24表 遺構外出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・裝飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	片口鉢	口径 27.6 底径 13.0 器高 13.1	口縁部内面に折り返す。ロクロ成形。	外面-ロクロナデ後、体部ヨコナデ、指押え。底部回転糸切り。線刻「×」、内面-ロクロナデ。内外面ヨゴレ。内面体部は磨耗。	角閃石、白色岩片 外-靑灰色 内-にぶい褐色	1/5残存
2	鉢	口径 13.0 底径 6.7 器高 6.7	口縁部外反する。底部丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、頸部指押え。体部~底部ヨコナデ後、一部ケズリ。内面-ヨコナデ。	白色岩片、角閃石、石英 内外-明赤褐色	2/3残存
3	須恵器 環	口径 6.1 底径 2.0 器高 (2.0)	ロクロ成形。貼付高台。	外面-ロクロナデ、下位ヨコケズリ。内面-ロクロナデ。底部敲打痕。内面見込み部磨耗。	石英、白色岩片、片岩 外-黄灰色 内-灰白色	底部2/3残存



第IV章 久下東遺跡G 1地点の調査

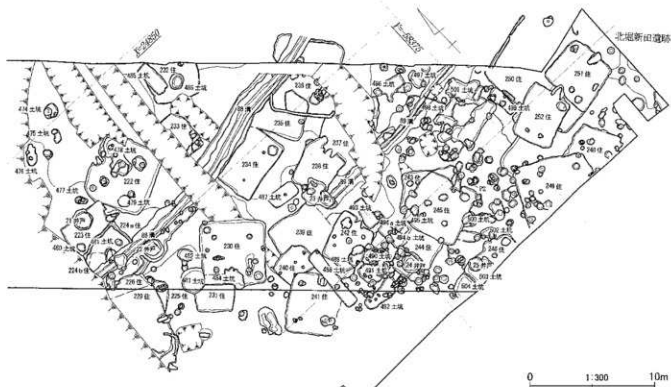
第1節 調査の概要

久下東遺跡は、男堀川と女堀川にはさまれた低位段丘上に位置する集落遺跡である。久下東遺跡と前章で報告した久下前遺跡とは、旧道を挟み（調査当時）、南北に分かれ、遺跡名を異にするが、ひとつながりの集落遺跡である。久下東遺跡、久下前遺跡、さらに東側の北堀新田遺跡、北堀新田前遺跡、西側の北堀久下塚北遺跡の5つの遺跡は、同じ低位段丘上に切れ目なく広がる、古墳時代前期から奈良・平安時代、あるいは中世にかけての大規模な集落跡であり、この集落跡の範囲は、住居跡の分布からみて、南北200m、東西500mに及ぶものである。久下東遺跡は、この大規模な集落跡の北半中央にあたる部分であり、今回報告するG 1地点は、久下東遺跡の東半を斜めに横切る帯状の範囲である。

久下東遺跡では、これまで本庄早稲田の地区画整理事業に関連して平成19年度から平成23年度にかけて20地点8箇所を発掘調査を実施し、それ以前に2箇所を発掘調査がなされている（増田 1985、太田・松本 2005、松本・大熊他 2009、恋河内・的野 2010、松本・的野 2010、恋河内 2012）。ここに報告するのは、昨年度に発掘調査を実施したG 1～G 3・H地点の内、都市計画道路建設予定地であるG 1地点についてである（第51図）。

G 1地点は、低位段丘の南半にあたり、北西から南東にかけわずかに傾斜する平坦地である。調査以前、ガスタンク、およびその付属施設があった場所であり、調査範囲の中央部をはじめとして、様々な形で遺構が損なわれている。G 1地点の調査面積は、約1,628㎡である。

G 1地点で検出した遺構の内、本報告書に記載する遺構は、竪穴住居跡44軒、掘立柱建物跡2棟、井戸跡8基、土坑68基、溝跡6条、多数のピットである。



第51図 久下東遺跡G 1地点全体図

第2節 検出された遺構と遺物

1 竪穴住居跡

147号住居跡

久下東遺跡E3地点の報告書にて報告する。

206号住居跡（第53図、図版17）

調査地点の北縁近くで検出した遺構である。19・20号井戸跡、450・454～457号土坑、56号溝跡に切られている。

平面形は、やや胴の張る方形、あるいは長方形であろうか。南北方向に主軸を考えれば、現存値で、主軸長は5.47m、副軸長は2.18m、主軸方位は、推定でN-18°-W前後である。

覆土中から土師器片が数点出土している。古墳時代の住居跡であろうか。

207号住居跡（第53図、図版17）

調査地点の北縁近くで検出した。208号住居跡に切られ、西半部分の床面のみ遺存する。

平面形は、方形、あるいは長方形であろう。南北方向に主軸を考えれば、主軸長は3.30m、副軸長は現存値で1.30mとなる。床面は適度に硬化しており、ほぼ平坦である。

土師器片がごく少数出土している。古墳時代の住居跡であろうか。

208号住居跡（第52・53図、第25表、図版17・36）

調査地点の北縁近くで検出した遺構で、87号土坑に切られ、207号住居跡を壊して造られている。平面形は方形で、主軸長は2.99m、副軸長は2.92m、主軸方位はN-38°-Wである。

覆土中から土師器片が少数出土している。出土遺物、住居形態からみて、古墳時代後期～終末期の住居跡である可能性がある。



第52図 208号住居跡出土遺物

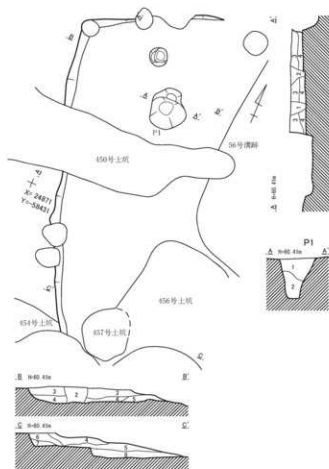
第25表 208号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	残存	外径(cm)	内径(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
1	耳環	完形	2.4~2.6	1.35~1.55	0.6	9.5	

209号住居跡（第54～56図、第26表、図版17・36）

調査地点の北縁近く、南西縁寄りで検出した遺構である。210号住居跡に切られている。

平面形は方形で、主軸長は5.10m、副軸長は5.23m、主軸方位はN-3°-Eである。覆土はほとんど残存せず、床面の硬化は顕著ではない。幅20～40cm、深さ7～10cmの壁溝が巡らされている。P1・P2は主柱穴であろう。いずれも上端が円形、あるいは楕円形で、深さは、P1が75cm、P2が45cmである。P1、P2間の中央の歪な楕円形の浅い掘り込みが炉跡である。炉床の被熱赤化は極めて軽微、かつ局所的である。



206号住居跡土層注記

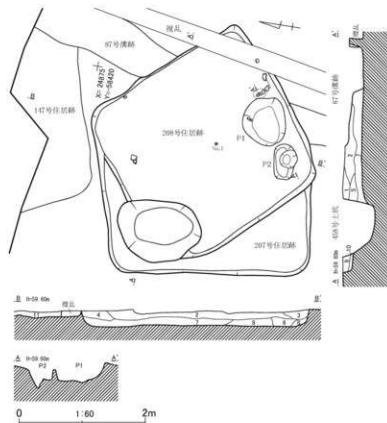
- 1層：暗褐色土層。ローム粒をやや多く、白色粒、焼土粒を微量含む。1・2層はビット覆土。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、5mm大のローム小ブロック多く含む。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒、5mm大のローム小ブロック少量含む。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒をやや多く、10mm以下のロームブロックを少量、焼土粒を微量含む。
- 5層：黒褐色土層。黒み強い。ローム粒、5mm大のローム小ブロックをやや多く含む。
- 6層：暗褐色土層。ローム粒、5mm大のローム小ブロック多く含む。
- 7層：暗褐色土層。やや黄色みの強い暗褐色土を主に、ローム粒をやや多く、不整形のロームブロックを少量含む。
- 8層：黒褐色土層。ローム粒をやや多く、10mm大のロームブロックを少量、局部的に30~40mm大のロームブロックを含む。

206号住居跡P1土層注記

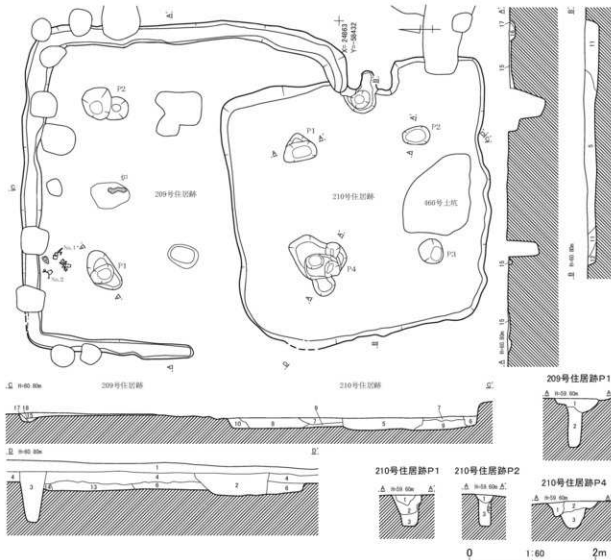
- 1層：暗黄褐色土層。細かいローム粒を全体に多く含み、10~20mm大のロームブロックを多く含む。5mm大の小礫を少量含む。ややしまっており、粘性あり。
- 2層：暗褐色土層。5~20mm大のロームブロックを少量含む。粘性、しまりが強い。

207・208号住居跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒を微量含む。1~8層は、208号住居跡覆土。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒をやや多く、5~20mm大のロームブロックを少量含む。
- 3層：黒褐色土層。5mm大のロームブロック少量含む。
- 4層：暗褐色土層。不整形のロームブロックをやや多く含む。
- 5層：暗褐色土層。ローム粒を少量含む。
- 6層：黒褐色土層。ローム粒を多量に、5~30mm大のロームブロック（大半は5mm大のローム小ブロック）をやや多く含む。覆土内の掘り込みあり。
- 7層：暗褐色土層。ローム粒、10~30mm大のロームブロックをやや多く含む。ややしまっている。
- 8層：暗褐色土層。やや黒みの強い暗褐色土を主に、ローム粒、5mm大のローム小ブロックをやや多く、焼土粒を微量含む。
- 9層：暗褐色土層。10~30mm大のロームブロックを少量含む。9層は、208号住居跡覆土。
- 10層：暗褐色土層。黄色みの強い暗褐色土を主に、ローム粒を少量、10mm大のロームブロックを微量含む。208号住居跡の掘り方埋土。
- 11層：暗褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロックをやや多く含む。147号住居跡（未報告）覆土。



第53図 206~208号住居跡平面・断面図



209・210号住居跡土層注記

- 1層：暗褐色～灰黄褐色土層。標準土層1層の現在の表土層。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロック、焼土粒、土器粒をかなり含む。上半にA s - A が点在する。460号土坑覆土。
- 3層：暗褐色土層。暗褐色土と、ローム粒、ロームブロックが斑状に混合する。ビット覆土。
- 4層：暗褐色土層。標準土層II b層の暗褐色土層。
- 5層：暗褐色土層。ローム粒を多量に。5～10mm大のロームブロックが点在する。中央局所的にロームブロックが集中する。土坑の覆土の可能性もある。5～14層は、210号住居跡覆土。
- 6層：暗褐色土層。ローム粒、5～10mm大のロームブロックがモヤモヤ斑状に混入する。2層より黒み多い。
- 7層：暗褐色土層。ローム粒を多量に。ロームブロックが点在する。
- 8層：暗褐色土層。7層に近いが、10～15mm大のロームブロックが点々と混じる。
- 9層：黄褐色土層。ローム粒、5～40mm大のロームブロックを主に、暗褐色土が斑状に混入する。
- 10層：暗褐色土層。8層に近いが、ローム粒が若干多く、ロー

ムブロックが少ない。ロームブロックは、下部の一部に局在。

- 11層：暗褐色土層。5層に近いが、20mm大前後のロームブロックを含む。
- 12層：暗褐色土層。5層に近いが、ローム粒が多い。
- 13層：暗褐色土層。6層に近いが、ローム小ブロックが少ない。
- 14層：暗褐色土層。13層に近いが、ローム小ブロックが多い。6層より全体にローム粒が多い。
- 15層：褐色土層。暗褐色土とロームの均質な混合土を主に、5mm大のローム小ブロックを含む。15～20層は、209号住居跡の掘り方埋土。
- 16層：暗褐色土層。ローム粒を含む。
- 17層：褐色土層。16層に近いが、ロームが多い。
- 18層：暗褐色土層。15層に近いが、暗褐色土が多い。
- 19層：褐色土層。15層土に近いが、ロームが多い。

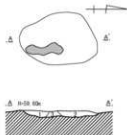
209号住居跡P1土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを多量に含む。
- 2層：暗褐色土層。1層に近いが、ロームはるかに多い。

第54図 209・210号住居跡平面・断面図(1)

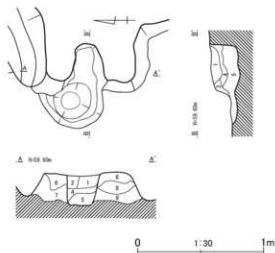
209号住居跡炉跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、5mm大のローム小ブロックを含み、焼土粒、5mm大の焼土小ブロックをごく微量含む。1・2層は、中世などの覆層か。
- 2層：暗褐色土層。1層に近いが、若干焼土小ブロックが多い。
- 3層：黄褐色土層。上部は、炉床の赤化の及んだ範囲。



210号住居跡カマド土層注記

- 1層：暗褐色土層。暗褐色土と灰黄褐色シルトの混合土。均一に混ざっている。ローム小ブロック、焼土粒を微量含む。しまっている。
- 2層：灰黄褐色シルト層。ローム粒、焼土粒をかなり含む。天井部の崩落土か。妙に角張っている。しまっている。
- 3層：暗褐色土層。1層に近いが、5~20mm大のロームブロックがやや多い。
- 4層：暗褐色土層。やや灰色がかかったシルト混じりの暗褐色土を主に、暗い色のローム粒、焼土粒、焼土小ブロックを少量含む。炭化物粒を微量含む。やや粘性があり、しまっている。
- 5層：暗褐色土層。暗褐色土とローム粒、ローム小ブロックの混合土。30mm大のハードロームのブロックを1点含む。
- 6層：暗褐色土層。暗褐色土と若干シルトがかかったロームの混合土を主に、2、3mm大の焼土粒が点在する。ややしまっている。6~9層は、カマド構築材。
- 7層：暗褐色土層。1層に近いが、ローム小ブロックを斑点状に含む。ややしまっている。
- 8層：暗褐色土層。6層に近いが、若干ロームが多い。ややしまっている。
- 9層：褐色土層。暗褐色土を主に、ローム粒、ローム小ブロックを多量に含む。ややしまっている。



210号住居跡P 2土層注記

- 1層：暗褐色土層。やや黒みの強い暗褐色土を主に、ローム粒、ローム小ブロックを含む。
- 2層：黒褐色土層。ローム粒、5~30mm大のロームブロックをモヤモヤ含む。
- 3層：暗褐色土層。1層に近いが、暗褐色土が多い。小礫を含む。

210号住居跡P 1土層注記

- 1層：黄褐色土層。ローム粒、5~50mm大のロームブロックを主に、暗褐色土を少量含む。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、5mm大のローム小ブロックを含む。
- 3層：暗褐色土層。2層に近いが、ロームが多い。

210号住居跡P 4土層注記

- 1層：黄褐色土層。ロームと暗褐色土の斑状の混合土。しまっている。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロック、焼土粒をかなり含む。しまっている。
- 3層：暗褐色土層。2層に近いが、ロームが少ない。

第55図 209・210号住居跡平面・断面図(2)

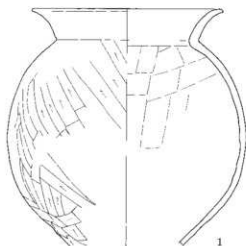
床面覆土中から第56図に示した土師器甕・高坏片が出土している。住居形態、炉を有することや出土遺物からみて、古墳時代中期中葉前後の住居跡と考えられる。

210号住居跡(第54・55・57図、第27表、図版18)

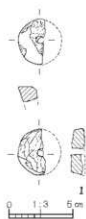
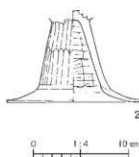
調査地点の北縁近く、南西縁に接して検出した遺構で、一部G 2地点に含まれる。460・463号土坑に切られ、209号住居跡を切って造られている。

平面形は、入口側が微妙に狭まる方形で、主軸長は4.18m、副軸長は4.13m、主軸方位はほぼ真東である。床面は明瞭に硬化しており、やや凹凸が目立つ。P 1~P 4は支柱穴であろう。上端は楕円

形で、深さは、P 1・P 2 が48cm、P 3 が49cm、P 4 が41cmである。カマドは、東壁の中央、若干南寄りに付設されている。覆土中から第55図の石製紡錘車片や少数の土師器片が出土している。住居形態などからみて、古墳時代中・後期の住居跡であろうか。



第56図 209号住居跡出土遺物



第57図 210号住居跡出土遺物

第26表 209号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 19.7 底径 (24.9) 器高 (24.9)	口縁部が大きく開き、胴部は丸く膨らむ。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ナナメのケズリ、ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ナナメ、ヨコのナデ。	白色・灰色・黒色 岩片などの大小砂粒 内外にぶい橙色	口縁部3/4、 胴部1/2残存
2	高坏	口径 — 脚端径 14.0 器高 (9.6)	下膨らみの柱状で、胴部が大きく開く。粘土組織み上げによる成形。	外面-脚部タテのナデ (局部的に滑沢)、胴部ヨコナデ。内面-ヨコのケズリ。	白色・灰色・黒色 岩片、雲母片などの細砂 内外-明赤褐色	胴部2/3、 脚部残存

第27表 210号住居跡出土遺物観察表

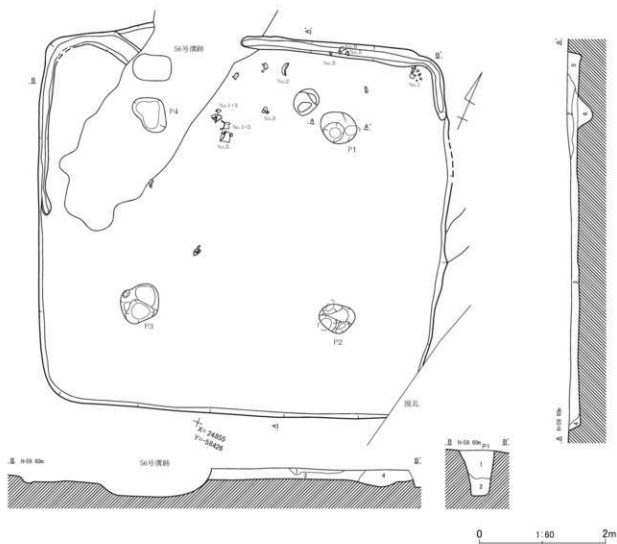
No.	器種	石材	残存	上径 (cm)	下径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
1	石製紡錘車	滑石	1/2弱	3.6	(3.3)	(1.2)	12.4	両面磨耗する

211号住居跡 (第58・59図、第28表、図版18・36)

調査地点の北西半ばは中央、南西縁に接して検出した遺構である。56号溝跡に切られ、213号住居跡と重複する。

平面形は、やや胴の張る方形である。56号溝跡と重複する部分にカマドがあったと考えれば、主軸長は6.02m、副軸長は6.48m、主軸方位はN-18°-Wである。床面はそこそこ硬化しており、やや凹凸が目立つ。P 1~P 4は主柱穴になる。上端は楕円形で、深さは、P 1が83cm、P 2が73cm、P 3が61cm、P 4が71cmである。

北壁近辺、P 1-P 4間などの覆土中から土師器甕・坏・高坏 (第59図1~6) などが出土している。出土土器は雑多であり、時期的にかなりの幅があるかにみえる。中で比較的残存率のよい同図3の甕や4・5の坏などからみて、古墳時代終末期頃の住居跡である可能性を考えた。



211号住居跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。やや黒みの強い暗褐色土を主に、ローム粒、ローム小ブロックを含む。しまっている。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、焼土粒をかなり含む。5～20mm大のロームブロックが点在する。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒を多量に（所々濃集する）、焼土粒を少量含む。5～30mm大のロームブロック不規則に点在する。
- 4層：暗褐色土層。3層に近いが、ローム粒が少なく、黒みが強い。

- 5層：暗褐色土層。ローム粒を多量に均一に含み、ローム小ブロックが点在する。粒子粗く、ザラザラした感じ。
- 6層：暗褐色土層。暗褐色土を主に、ロームを多く含む。

211号住居跡P1土層注記

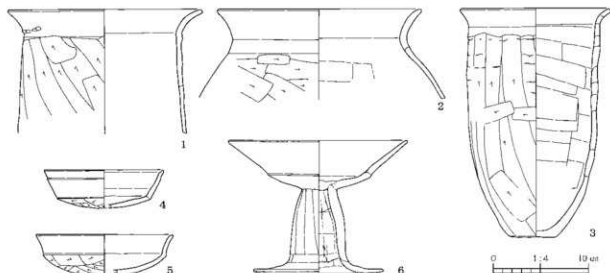
- 1層：暗褐色土層。ローム粒、5～20mm大のロームブロックを含む。しまっている。
- 2層：暗褐色土層。1層に近いが、ロームブロックが多い。しまっている。

第58図 211号住居跡平面・断面図

212号住居跡（第60図、図版18）

調査地点の北西半の中央で検出した遺構である。214号住居跡の床面で確認した住居跡であり、遺構の大半が、214号住居跡、および攪乱により壊されている。

南隅周辺のわずかな部分の掘り方のみ残存する。南西壁、南東壁が214号住居跡の壁と並行することからすれば、214号住居跡を建て替え後の住居跡とみてよく、比較的近い時期の住居跡と考えて無理はない。



第59図 211号住居跡出土遺物

第28表 211号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 20.3 底径 — 器高 (13.0)	口縁部外反する。長胴。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面-ヨコナデ。内面口縁部に黒斑。	角閃石、白色岩片、石英 外-にぶい赤褐色 内-赤褐色	口縁部へ胴部上半 3/4残存
2	甕	口径 21.4 底径 — 器高 (9.5)	口縁部外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヨコケズリ。内面-ヨコナデ。外面胴部に黒斑。	石英、角閃石、白色岩片 外-にぶい橙色 内-灰色	口縁部へ胴部上位 1/3残存
3	甕	口径 15.7 底径 4.9 器高 24.1	口縁部外反する。長胴。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ後、部分的にヨコケズリ。底部ケズリ。内面-ヨコナデ。	石英、片岩、角閃石 外-にぶい褐色 内-にぶい赤褐色	4/5残存
4	坏	口径 12.6 底径 — 器高 4.1	有段口縁。内面受け口状を呈する。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面-ヨコナデ。	片岩、石英、角閃石 内外-明赤褐色	1/2残存
5	坏	口径 14.4 底径 — 器高 4.3	口縁部外反する。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面-ヨコナデ。	白色岩片、石英、角閃石 内外-橙色	1/3残存
6	高坏	口径 18.9 脚端径 13.8 器高 14.0	口縁部外反する。脚は柱状を呈する。粘土紐積み上げ成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ナデ。脚部上半タテナデ後、下半ヨコナデ。内面-口縁部ヨコナデ。脚部絞り前後、ヨコナデ。外面脚部に黒斑。	石英、白色岩片、角閃石 内外-にぶい赤褐色	2/3残存

213号住居跡 (第60図、図版17)

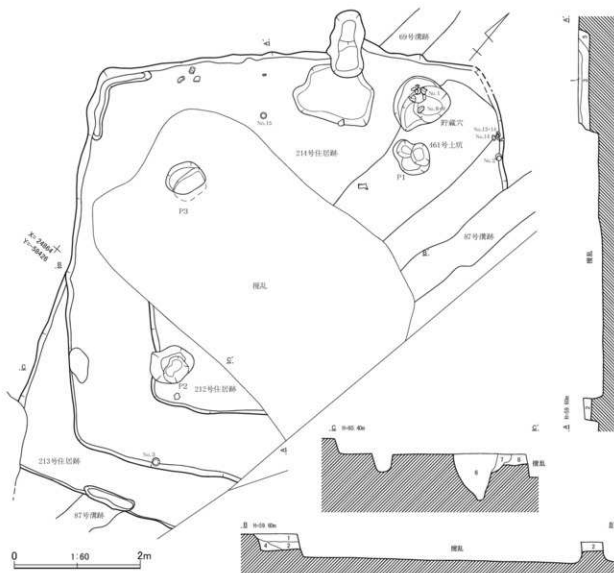
調査地点の北西半の中央で検出した遺構で、214号住居跡、87号溝跡および攪乱により大半を壊され、211号住居跡と重複する。

南西壁、南東壁しか残っていないが、2つの壁はかなり直線的で、南隅でほぼ直角に交わる。南北方向に主軸をとれば、主軸方向はN-18°-W前後になる。硬化は著しくないが、床面は平坦である。

覆土中から土師器片が少数出土している。古墳時代の住居跡であろうか。

214号住居跡 (第60~62図、第29・30表、図版17・36)

調査地点の北西半の中央で検出した遺構である。461号土坑、87号溝跡に切られ、212・213号住居跡を切って造られている。



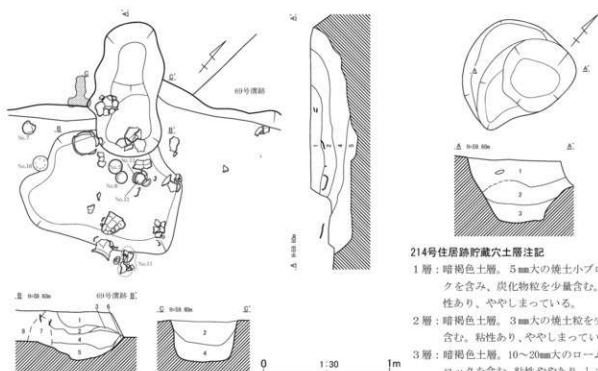
212・214号住居跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒をやや多く、使土粒を微量含む。
1～6層は、214号住居跡覆土。
- 2層：暗褐色土層。1層に近いが、ローム粒が多い。
- 3層：暗褐色土層。2層に近いが、5mm大の焼土小ブロックをまばらに含む。
- 4層：暗褐色土層。黒みの強い暗褐色土を主に、ローム粒、5mm大のローム小ブロックをやや多く、炭化物粒を微量含む。
- 5層：暗褐色土層。5mm大以上の不整形なロームブロックをやや多く含む。

- 6層：暗褐色土層。ローム粒、5～30mm大のロームブロックを水玉状に多量に含む。ややしまっており、下部ほどしまり強い。下部は若干粘性あり。214号住居跡P2覆土。
- 7層：暗褐色土層。6層にやや似るが、ロームブロックが塊というより横楎状に入る。ロームはやや白っぽく、シルト化している。7・8層は、212号住居跡覆土。
- 8層：暗褐色土層。ローム粒、5～15mm大のロームブロックをかなり不規則に含む。ロームの一部は、少し白みがかかる。小礫を含む。

第60図 212～214号住居跡平面・断面図

平面形は、やや胴の張る方形である。主軸方向での現存長は7.00m、副軸方向では7.83m、主軸方向はN-38°-Wである。床面は硬化しており、おおむね平坦である。P1～P3は主柱穴にならうか。いずれもやや不整な平面形で、深さは、P1が77cm、P2が58cm、P3が89cmである。カマドは北西壁の中央やや北東寄りに設けられている。貯蔵穴は、カマド右脇で検出した。上面での平面形は、不



214号住居跡貯蔵穴土層注記

- 1層：暗褐色土層。5mm大の焼土小ブロックを含み、炭化物粒を少量含む。粘性あり、ややしまっている。
- 2層：暗褐色土層。3mm大の焼土粒を少量含む。粘性あり、ややしまっている。
- 3層：暗褐色土層。10～20mm大のロームブロックを含む。粘性ややあり、しまっている。

214号住居跡カマド土層注記

- 1層：暗褐色土層。3mm大のローム粒を少量含む、ややしまっている。69号溝覆土の可能性もある。
- 2層：暗褐色土層。2mm大のローム粒を少量、3～5mm大の焼土粒、焼土小ブロックを含む。最も土器を含む層。粘性、しまりが強い。
- 3層：赤褐色焼土層。純層に近い焼土。
- 4層：暗褐色土層。5～20mm大のロームブロックを含み、5～13mm大の焼土小ブロック少量含む。粘性あり、ややしまっている。
- 5層：暗褐色土層。黒みの強い暗褐色土を主に、5mm大の

焼土小ブロックを少量含む。ローム粒をほとんど含まない。粘性、しまりが強い。

- 6層：暗褐色土層。5～15mm大のロームブロックを多く含む、3mm大の焼土粒を含む。3mm大の炭化物粒を少量含む。粘性あり。
- 7層：暗褐色土層。3mm大のローム粒を少量含む。焼土をほとんど含まない、しまっている。袖構築材の一部(範囲は推定)。
- 8層：暗褐色土層。5mm大のローム小ブロックを含み、2mm大の焼土粒を少量含む。しまっている。

第61図 214号住居跡カマド・貯蔵穴平面・断面図

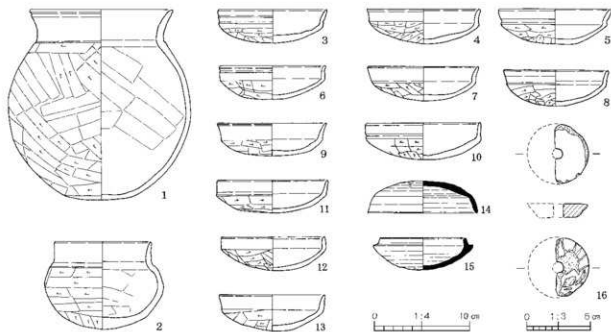
整な円形で、深さは50cm前後である。

カマド内、カマド前面を中心に第62図に示した土師器甕・坏など、かなりの数の完形、半完形の土器が出土している。出土遺物から、古墳時代後期後葉～終末期の住居跡と考えられる。

215号住居跡 (第63・64図、第29表、図版18・36)

調査地点の北東半のほぼ中央、北東縁に接して検出した遺構で、遺構の大半はG3地点に含まれる。北西壁、および南東壁の一部を攪乱により壊されている。

平面形は長方形とみてよからうが、南西壁はカマドを中心にかなり突出する。主軸長は4.63m、副軸長は現存値で3.06m、主軸方位はS-57°-Wである。床面は平坦で、硬化面はほぼ中央に限られる。北西壁の一部と南東壁には、壁溝が巡らされている。P1・P2は、主柱穴であろう。上端はかなり



第62図 214号住居跡出土遺物

第29表 214号住居跡出土遺物観察表(1)

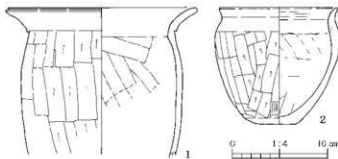
No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 14.9 底径 7.2 器高 20.2	口縁部が外反し、胴部が丸く膨らむ。粘土組織み上げによる成形。	外面-端部直下に凹線めぐる。口縁部ヨコナデ、胴部～底面ヨコ、ナナメハラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、以下ヨコ、ナナメのナデ。	白色・灰色岩片などの大小砂粒多量 内外-ぶい・褐色	ほぼ完形
2	小形壺	口径 10.0 底径 一 器高 9.3	口縁部はほぼ直立する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部～底面ハラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、以下ナナメ、ヨコのナデ。	白色・灰色・赤褐色岩片などの大小砂粒 内外-褐色	口縁部一部欠失
3	坏	口径 11.4 底径 一 器高 3.5	口縁部はやや外傾しつつ立ち上がり、段を有する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、細線が入る。体部～底面ハラケズリ。黒斑。内面-ヨコナデ。	白色・灰色岩片などの大小砂粒 内外-褐色	完形
4	坏	口径 11.8 底径 一 器高 3.7	口縁部はやや外傾しつつ立ち上がる。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、細線が入る。体部～底面ハラケズリ。黒斑。内面-ヨコナデ、細線が入る。	白色・灰色岩片などの大小砂粒 内外-ぶい・褐色	口縁部一部欠失
5	坏	口径 11.9 底径 一 器高 3.7	屈曲部から口縁部がゆるやかに外反する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部～底面ハラケズリ。内面-ヨコナデ。	白色・黒色・赤褐色岩片などの大小砂粒 内外-褐色	完形
6	坏	口径 11.1 底径 一 器高 3.5	口縁部はわずかに屈曲する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部～底面ハラケズリ。内面-ヨコナデ。	白色・灰色岩片などの大小砂粒 内外-褐色	完形
7	坏	口径 11.5 底径 一 器高 3.7	口縁部は外反しつつ開く。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部～底面ハラケズリ。磨耗顕著。内面-ヨコナデ。磨耗顕著。	白色・灰色岩片などの大小砂粒 内外-褐色	ほぼ完形
8	坏	口径 11.0 底径 一 器高 3.8	口縁部はゆるやかに外反する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部～底面ハラケズリ。内面-ヨコナデ。	白色・灰色岩片などの大小砂粒 内外-ぶい・褐色	ほぼ完形
9	坏	口径 11.4 底径 一 器高 3.4	口縁部はゆるやかに外反する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部～底面ハラケズリ。内面-ヨコナデ。磨耗顕著。	白色・灰色岩片などの大小砂粒 内外-褐色	3/4残存
10	坏	口径 11.9 底径 一 器高 3.8	口縁部は直立する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部～底面ハラケズリ。磨耗顕著。内面-ヨコナデ。	白色・灰色・黒色岩片などの大小砂粒 内外-褐色	完形
11	坏	口径 11.5 底径 一 器高 3.5	口縁部は直立に近く立ち上がる。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部～底面ハラケズリ。内面-ヨコナデ。	白色・灰色岩片などの大小砂粒 内外-褐色	ほぼ完形
12	坏	口径 10.8 底径 一 器高 3.8	口縁部は直立する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部～底面ハラケズリ。内面-ヨコナデ。	灰色・黒色岩片などの大小砂粒 内外-褐色	ほぼ完形

第30表 214号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考		
13	坏	口径 11.1 底径 — 器高 3.8	口縁部は直立に近く立ち上がる。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、底部へラケズリ。磨耗顕著。内面-ヨコナデ。	白色・灰色岩片などの大小砂粒 内外-褐色	4/5残存		
14	須恵器 蓋	端部径 11.5 器高 3.8	天井部は丸みをもち、端部はやや開く。ロク口成形。	外面-回転ナデ、天井部へ側面回転ヘラケズリ。内面-回転ナデ、天井部中央ヘラナデ。	白色・灰色・黒色岩片などの大小砂粒 外-黄灰色 内-明褐色	口縁部へ 体部2/3残存		
15	須恵器 坏	端部径 8.8 器高 3.3	端部は内傾する。ロク口成形。	外面-回転ナデ、口縁部へ底面回転ヘラケズリ。内面-回転ナデ、底部中央ヘラナデ。	白色・灰色岩片などの大小砂粒 内外-灰白色	完形		
16	石製 紡錘車	石製品の表にあり		上面-研磨。側面-研磨後、タテの線刻。下面-研磨。全体に剥落顕著。	緑泥片岩 外-褐色	1/2残存		
No.	器種	石材	残存	上径 (cm)	下径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
16	石製紡錘車	緑泥片岩	1/2	4.8	3.1	1.1	19.6	全面研磨、側面に線刻

角張る不整な楕円形で、深さは、P1が10cm、P2が60cmである。カマドは南西壁の中央に設けられたようで、壁に対してかなり斜交する。内壁全体が被熱赤化し、覆土に焼土が多量に含まれる。

主にカマド内から土師器甕・坏などが出土している。出土遺物から、古墳時代後期の住居跡と考えられる。



第63図 215号住居跡出土遺物

第31表 215号住居跡出土遺物観察表

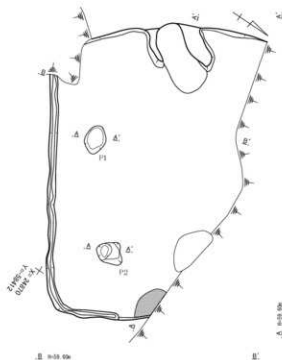
No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 19.5 底径 — 器高 (15.8)	口縁部は外反し、短く開く。胴部がゆるやかに膨らむ長胴状。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、以下タテのヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、以下ナメのナデ。	白色・灰色岩片などの大小砂粒・小砂粒多量 内外-褐色	口縁部 3/4、くび れ部へ胴 部中位1/3 残存
2	小形甕	口径 12.2 底径 5.9 器高 12.4	口縁部は外反し、短く開く。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部へ胴部上位はヨコナデ、以下タテ、ナメのヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、以下ナメ、ヨコナデ。	白色・灰色岩片などの大小砂粒多量 内外-明赤褐色	完形

216号住居跡 (第65図、図版17)

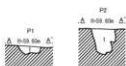
調査地点の北東半の東寄り、北東縁近くで検出した遺構である。217号住居跡に切られ、また攪乱により遺構の大半が損なわれている。

やや丸みのある西隅の周辺のみ残存する。床面の硬化は顕著ではないが、ほぼ平坦であり、掘り込みも明瞭であることから、住居跡と判断した。

主に覆土中から土師器片が少数出土している。217号住居跡との関係から、古墳時代の住居跡である可能性を考えたい。



1:60 60m



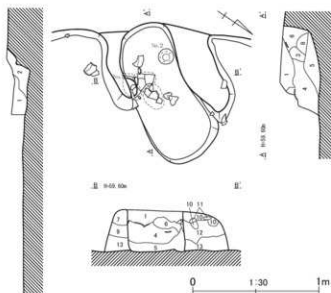
0 1:60 2m

215号住居跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、5～20mm大のロームブロック（大半は、5～10mm大）を多量に斑状に含む。焼土粒を少量含む。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒を多量に含む、5～20mm大のロームブロック、焼土粒が点在する。モヤモヤとシルト化したロームを含む。しまっている。
- 3層：暗褐色土層。1層に近いが、所々モヤモヤと黒褐色土を含み、5～50mm大のロームブロックを含む。

215号住居跡カマド土層注記

- 1層：暗褐色土層。暗褐色土とにぶい黄褐色～灰白色シルトの斑状の混合土。焼土粒をかなり含む。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、シルト粒、シルト小ブロックをかなり含む。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを多量に含む、焼土粒、焼土小ブロックが点在する。
- 4層：暗褐色土層。2層に近いが、ローム粒、シルトが多い。



- 5層：暗褐色土層。ローム粒、5～30mm大のロームブロックを斑状に多量に含む、焼土粒、焼土ブロックを含む。
- 6層：にぶい黄褐色土層。にぶい黄褐色シルトの大ブロック、暗褐色土、焼土の薄層、ブロックが重なり合う層。崩落土。
- 7層：暗褐色土層。ローム粒、細かな焼土粒を多量に、ローム小ブロックを微量含む。7～13層は、カマドの構築材で、硬くしまっている。
- 8層：にぶい黄褐色土層。にぶい黄褐色シルトを主に、暗褐色土を斑状に含む。
- 9層：褐色土層。7層に近いが、ロームが多い。
- 10層：暗褐色土層。シルトがかかった暗褐色土、ローム粒を主に、焼土粒、焼土ブロックを多量に含む。
- 11層：明赤褐色焼土層。焼土の大ブロック。
- 12層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロック、焼土粒、焼土小ブロックを多量に含む。
- 13層：黄褐色土層。ハードロームの大小ブロックを主に、ブロック間にやや黒みの強い暗褐色土、焼土粒を微量含む。

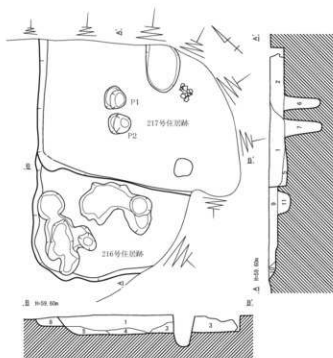
215号住居跡P 1土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを含み、焼土粒、炭化物粒を微量含む。

215号住居跡P 2土層注記

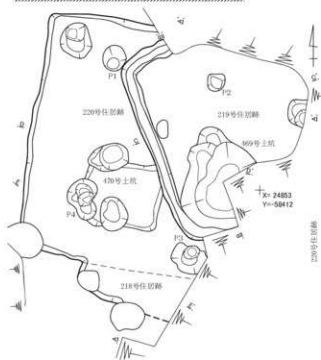
- 1層：暗褐色土層。ローム粒、10～50mm大のロームブロックを全体にまばらに含む、焼土粒微量含む。

第64図 215号住居跡平面・断面図



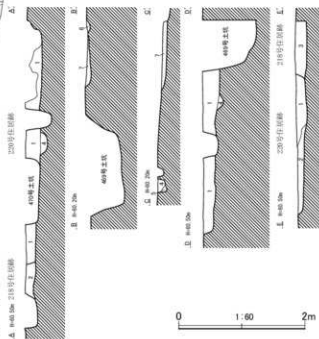
216・217号住居跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒を多量に含み、5～10mm大のロームブロックが点在する。しまっている。1～7層は、217号住居跡覆土。
- 2層：暗褐色土層。1層に近いが、10～50mm大のロームブロックが点在する。しまっている。
- 3層：暗褐色土層。1層に近いが、ローム粒、ロームブロックが多い。焼土粒、土器粒をかなり含む。しまっている。
- 4層：暗褐色土層。1層に近いが、若干ローム小ブロックが少なく、黒みが強い。しまっている。
- 5層：暗褐色土層。1層に近いが、ロームが多く、乱れている。しまっている。
- 6層：暗褐色土層。ローム粒、ロームブロックを多量に含む。P1覆土。
- 7層：暗褐色土層。ローム粒を含む。P2覆土。
- 8層：褐色土層。暗褐色土とローム粒の混合土。10mm大のロームブロックが点在し、焼土粒、炭化物粒を少量含む。しまっている。8～11層は、216号住居跡覆土。
- 9層：暗褐色土層。1層に近いが、若干ロームが多い。
- 10層：暗褐色土層。9層に近いが、さらにロームが多い。
- 11層：暗褐色土層。ローム粒、5～50mm大のロームブロックを含む。掘り方の一部の可能性もある。



218・219・220号住居跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒を万遍なく多量に含み、5～30mm大のロームブロックを多量に含む。硬くしまっている。1・2層は、220号住居跡覆土。
- 2層：暗褐色土層。1層に近いが、50～150mm大のローム大ブロックが乱れ入る。
- 3層：暗褐色土層。1層に近いが、ロームブロックが少なく局在する。硬くしまっている。218号住居跡覆土。
- 4層：褐色土層。暗褐色土とローム粒。5～10mm大のロームブロックの同量の混合土。4～6層は、219号住居跡壁溝覆土。



- 5層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを多量に含む。
- 6層：暗褐色土層。ローム粒、5～30mm大のロームブロックを含む。
- 7層：褐色土。暗褐色土とロームの混合土。

第65図 216～220号住居跡平面・断面図

217号住居跡 (第65図、図版17)

調査地点の北東半の東寄り、北東縁に接して検出した遺構で、北東壁、南西壁の一部を残し遺構の大半は失われている。216号住居跡を切っている。

北東壁、南西壁が直線的であることからすれば、方形、あるいは長方形の住居跡と考えてよいであろう。床面の硬化は明瞭ではないが、比較的平坦である。

主に覆土中から土師器片が少数出土している。出土遺物から、古墳時代の住居跡と考えられる。

218号住居跡 (第65図、図版17)

調査地点の北東半の南東寄り中央で検出した。219・220号住居跡に切られ、床面のごく一部のみ残存する遺構である。覆土中から数点土師器片が出土している。古墳時代の住居跡であろうか。

219号住居跡 (第65図、図版17)

調査地点の北東半の南東寄り中央で検出した。220号住居跡の床面で確認することのできた遺構であり、469号土坑により切られ、東半は攪乱により失われている。

平面形は、方形に近い形態になろうか。北西-南東方向での軸長は3.18m、この方向を主軸とすれば、主軸方位はN-22°-W前後である。残存部分には、幅20~29cmの壁溝が巡らされている。

壁溝から土師器片が数点出土しただけである。古墳時代の住居跡であろうか。

220号住居跡 (第65・66図、第32表、図版17・36)

調査地点の北東半の南東寄り中央で検出した遺構で、218・219号住居跡を切り、469・470号土坑により切られている。

平面形は、方形、あるいは長方形であろう。攪乱により失われた東壁側にカマドがあったとすれば、主軸方向での現存長は1.90m、副軸長は3.88m、主軸方位はS-81°-Eあたりになる。床面はほぼ平坦で、中央部は硬化している。P1~P4は支柱穴であろうか。深さは、P1が44cm、P2が21cm、P3が47cm、P4が59cmである。

主に覆土中から、土師器片がかなりの量出土している。出土遺物からみて、古墳時代の住居跡と考えられる。



0 1 3 5 m

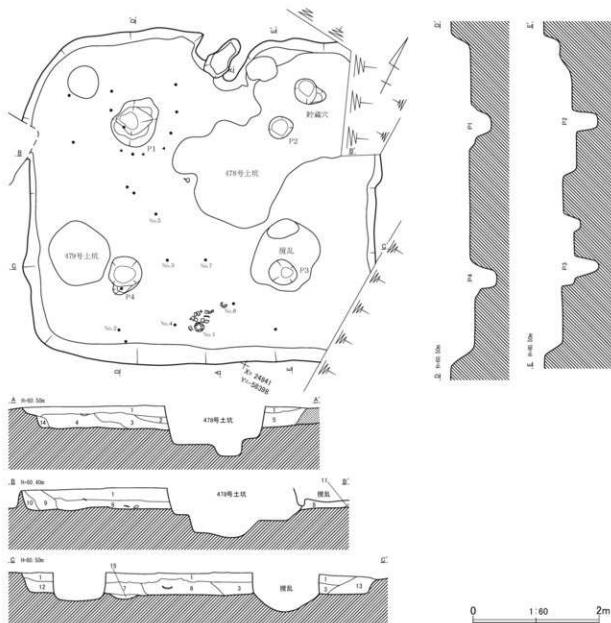
第66図 220号住居跡出土遺物

221号住居跡

久下東遺跡G2地点の報告書で報告する。

第32表 220号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・裝飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土錘	最大径 1.2 長さ 3.3 重さ 2.3g	紡錘形。貫通孔。	外面-ナデ。	白色・灰色岩片などの大小細砂 内外-褐色	3/4前後残存



222号住居跡土層注記

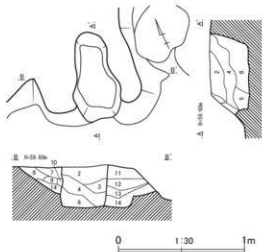
- 1層：暗褐色土層。ローム粒、5～10mm大のロームブロックを含み、埃土粒を微量含む。
- 2層：暗褐色土層。1層に近いが、黒みがやや強い。
- 3層：暗褐色土層。1層に近いが、ロームブロックが多く、水玉状に点在する。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒をかなり含み、5～30mm大のロームブロックが点在する。
- 5層：暗褐色土層。ローム粒を万遍なくかなり含み、5～40mm大のロームブロックを含む。
- 6層：暗褐色土層。ローム粒、5～40mm大のロームブロックを含む。20～40mm大のロームブロックは、少量点在する。
- 7層：暗褐色土層。6層に近いが、ローム粒、5～20mm大のロームブロックが多く、水玉状に点在する。

- 8層：褐色土層。暗褐色土と黒ずんだソフトローム混合土。5～10mm大のハードロームのブロックが混入する。
- 9層：暗褐色土層。1層に近いが、5～20mm大のロームブロックが多く、水玉状をなす。
- 10層：褐色土層。9層に近いが、ロームが多い。
- 11層：褐色土層。8層に近いが、ロームブロックがほとんど見られない。
- 12層：暗褐色土層。7層に近いが、ローム粒が多い。
- 13層：暗褐色土層。1層に近いが、10～15mm大のロームブロックを含む。
- 14層：暗褐色土層。4層に近いが、ロームブロックはるかに少ない。
- 15層：暗褐色土層。ローム粒、ロームブロックを含む。P4覆土。

第67図 222号住居跡平面・断面図

222号住居跡カマド土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを含み、焼土粒、焼土小ブロックが点在する。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、5～8mm大のロームブロックを微量、焼土粒をかなり含む。2～4層は、暗い色調のシルト質ロームを全体にモヤモヤ含む。
- 3層：暗褐色土層。2層に近いが、ロームが多い。焼土粒も多く、5～8mm大の焼土ブロックが点在する。
- 4層：暗褐色土層。3層に近いが、崩落土と思われる5～20mm大の焼土ブロックを含む。
- 5層：暗褐色土層。ローム粒を含み、ローム小ブロックを微量、15mm大のハードロームのブロックをごく微量含む。他層より焼土粒が少ない。
- 6層：暗褐色土層。ローム粒、5～10mm大のロームブロック、焼土粒を含む。
- 7層：褐色土層。暗褐色土とロームの斑状の混合土。ローム大ブロックが点在する。焼土粒、焼土小ブロックをかなり含む。7～14層は、カマド構築材で、しまっている。とくに7・11・12層は、硬くしまる。
- 8層：褐色土層。暗褐色土とロームの均一な混合土。焼土粒を少量含む。
- 9層：黄褐色土層。黄褐色のロームを主に、焼土粒を含む。
- 10層：明赤褐色焼土層。焼土粒を主に、ロームを若干含む。



- 11層：褐色土層。7層に近いが、焼土ブロック、小礫を含む。
- 12層：褐色土層。7層に近いが、焼土小ブロックが少ない。
- 13層：明赤褐色土層。焼土粒、5～60mm大の焼土ブロックを主に、ロームを斑状に含む。
- 14層：黄褐色土層。ロームを主に、暗褐色土を含み、焼土粒を微量含む。

第68図 222号住居跡カマド平面・断面図

222号住居跡（第67～69図、第33表、図版18・36）

調査地点の北東半の南東寄り中央で検出した。223号住居跡、478・479号土坑に切られている。

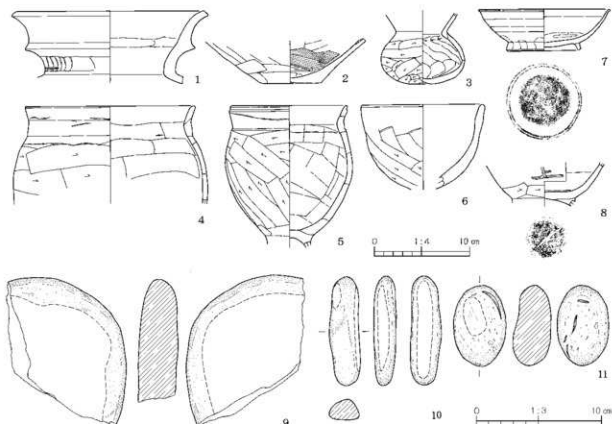
平面形は方形で、主軸長は5.26m、副軸長は5.50m、主軸方位はN-25°-Wである。床面にはやや凹凸があるが、中央部を中心に明瞭に硬化している。P1～P4が主柱穴である。P2・P3は、上部を土坑および攪乱により大きく壊されている。深さは、P1が44cm、P2が48cm、P3が55cm、P4が38cmである。カマドは、北壁中央やや東寄りに設けられている。燃焼部や袖は、北壁に対して斜交している。燃焼面はよく焼けており、覆土中には多量の焼土、粘土などが含まれる。

床面に密着して出土した土器は少なく、また破片がほとんどであるが、覆土中から相当量の土師器片が出土している。図化した土器（第69図1～8）以外に、古墳時代中期の高坏脚部片や甕や壺などの破片がかなりの量出土している。同図4～8は、南壁寄りの覆土層でゆるやかなまとまりをなした出土した一群の土器であり、あるいはこの段階の土坑などがあつた可能性も捨てきれない。なお1の壺はP1内出土、2の甕、3の小形壺は、4～8の土器などととも覆土層から出土している。

住居形態、4本柱の構造、出土遺物からみて、古墳時代中期の住居跡と考えたい。

223号住居跡（第70・72・73図、第34表、図版18・36）

調査地点の北東半の南寄り中央で検出した遺構である。224a号住居跡、21号井戸跡、480号土坑に切れ、222号住居跡を切って造られている。



第69図 222号住居跡出土遺物

第33表 222号住居跡出土遺物観察表

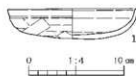
No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考		
1	壺	口径 19.9 底径 — 器高 (7.8)	口縁部に明瞭な段をもち大きく外反する。粘土組織み上げによる成形。	外面-ヨコナデ。内面-ヨコナデ。	石英、白色岩片、角閃石 外-にぶい赤褐色 内-褐色	口縁部破片		
2	甕	口径 — 底径 6.4 器高 (4.6)	平底。粘土組織み上げによる成形。	外面-タテナデ後、位ヨコナデ。底部ナデ。内面-ヨコハケ後、デ。	石英、角閃石、白色岩片 外-にぶい黄褐色 内-灰黄褐色	底部のみ残存		
3	小形壺	口径 2.8 底径 18.0 器高 (10.2)	口縁部外反。胴部最大径を中位に持つ。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヨコナデ後、ヨコケズリ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部タテナデ。	角閃石、白色岩片 外-にぶい赤褐色 内-にぶい褐色	1/2残存		
4	甕	口径 18.0 底径 — 器高 (10.2)	口縁部コの字状を呈する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヨコケズリ。内面-ヨコナデ。	白色岩片、角閃石、石英、片岩 内外-にぶい赤褐色	口縁部～胴部上位1/5残存		
5	台付甕	口径 12.2 台端径 — 器高 (14.9)	口唇部に有段。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部タテケズリ。内面-ヨコナデ。	角閃石、石英、白色岩片 外-にぶい黄褐色 内-明赤褐色	口縁部～胴部ほぼ完形		
6	鉢	口径 13.0 底径 8.9 器高 (8.9)	口縁部直線的に立ち上がる。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部タテケズリ。内面-ヨコナデ。	石英、片岩、角閃石、白色岩片 内外-にぶい赤褐色	1/2残存		
7	灰釉高台碗	口径 13.9 台端径 7.4 器高 4.4	口縁部外反する。貼付高台。釉薬は漬け掛け。ロクロ成形。	外面-ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付。内面-ロクロナデ。内外面体部に灰釉。	白色岩片 内外-灰白色	2/3残存		
8	高台杯	口径 — 台端径 — 器高 (4.6)	貼付高台。ロクロ成形。	外面-ロクロナデ後、体部下位ヨコケズリ。線刻「上」。底部調整不明。線刻「一」。内面-ロクロナデ。	角閃石、石英、白色岩片 内外-にぶい赤褐色	体部～底部4/5残存		
No.	器種	石材	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
9	磨石	安山岩	1/4	(11.9)	(9.6)	3.2	466.91	両面磨耗する
10	磨石	流紋岩	完形	8.7	2.5	1.6	53.65	全体的に良く磨耗する
11	磨石	安山岩	完形	6.4	4.2	3.0	40.67	

平面形は方形に近い形態になろうか。主軸長は4.55m、副軸の現存長は2.53m、主軸方位はほぼ真東である。床面はほぼ平坦で、明瞭に硬化している。カマドは、東壁の中央付近に若干斜交して設けられている。燃焼面の被熱赤化はあまり顕著ではない。

主に覆土中から、土師器片が少数出土している。出土遺物からみて、奈良時代末葉～平安時代の住居跡であろうか。

224号住居跡（第71～73図、第35表、図版18・19・37）

調査地点の北東半の南寄り、南西縁に接する位置で検出した床面が同じ高さの住居跡である。残存状態が悪く不明な点もあるため、一応224a・224b号住居跡とした。両住居跡ともに遺構西半を攪乱により壊されている。



第70図 223号
住居跡出土遺物

224a号住居跡は、224b・226号住居跡、481号土坑、88号溝跡に切れられ、223号住居跡を切って造られている。

平面形は方形であろうか。カマドが88号溝跡により壊されたと考えれば、主軸方向での現存長は4.02m、副軸長は4.68m、主軸方位はほぼ真東である。床面はおおむね平坦である。西壁側は攪乱により壊されているが、残存する壁には幅20～49cmの壁溝が巡らされている。P1・P2は、主柱穴であろうか。上端は円形、楕円形で、深さは、P1が24cm、P2が23cmである。

主に覆土中から、土師器片が出土している。出土遺物からみて、古墳時代終末期の住居跡である。



第71図 224a号
住居跡出土遺物

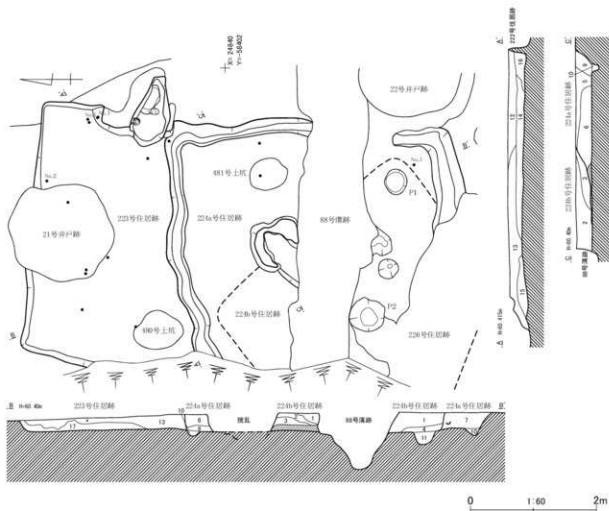
224b号住居跡は、226号住居跡、88号溝跡に切れられ、224a号住居跡を切っている。この一帯深淺様々な攪乱が及んでおり、カマドもそうした攪乱を除いてようやく確認することができた。平面形は方形に近い形態と推測する。主軸長方向での現存長は3.15m、副軸長は3.89m、主軸方位はN-47°-Eあたりになる。北半の床面は

第34表 223号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	環	口径 13.4 底径 — 器高 3.1	口縁部はゆるやかな丸みをもって立ち上がる。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部～底面ヘラケズリ。内面-ヨコナデ。	灰色・黒色岩片などの大小砂粒 内外-明赤褐色	ほぼ完形
2	土製 紡錘車	上径 5.3 下径 3.8 厚さ 2.6 重さ 76.0g	断面逆台形状。中央の軸孔は傾斜している。	上面ヘラケズリ。部分的に滑沢。側面ヘラケズリ。下面ヘラケズリ。	白色・灰色・黒色岩片など大小砂粒 外-赤褐色	完形

第35表 224a号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	環	口径 10.7 底径 — 器高 3.8	口縁部は内彎気味に短く立ち上がる。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部～底面ヘラケズリ。内面-ヨコナデ。	白色・灰色・赤褐色岩片などの大小砂粒 内外-明赤褐色	完形



223・224 a・224 b号住居跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、焼土粒（あるいは土器粒）をかなり含み、ローム小ブロックを少量含む。1～4層は、224 b号住居跡覆土。ただし、本層は、88号溝跡の覆土の一部の可能性もある。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒を含み、焼土粒を少量含む。
- 3層：暗褐色土層。2層に近いが、白みが増し、ローム粒、焼土粒が多い。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒、ロームブロック（ローム粒の雲状のまとまり）を多く含み、土器粒を微量含む。
- 5層：暗褐色土層。ローム粒を含み、焼土粒を微量含む。5～11層は、224 a号住居跡覆土。
- 6層：暗褐色土層。5層に近いが、10～20mm大のロームブロックを水玉状に含む。
- 7層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックをかなり含む。
- 8層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、5～40mm大のロームブロックを含み、焼土粒を少量含む。
- 9層：暗褐色土層。6層に近いが、ロームブロックが少ない。

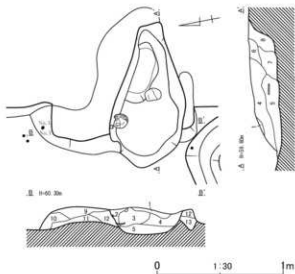
ローム粒は、5層より多い。

- 10層：褐色土層。暗褐色土とロームの斑状の混合土。224 a号住居跡壁溝覆土。
- 11層：暗褐色土層。ローム粒、ロームブロックを含む。224 a号住居跡P1覆土。
- 12層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、5～10mm大のロームブロックを含み、焼土粒を微量含む。12～17層は、223号住居跡覆土。
- 13層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、ローム小ブロックを含む。焼土粒を少量含む。
- 14層：暗褐色土層。12層に近いが、ローム粒、ロームブロックが少ない。
- 15層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、10～20mm大のロームブロックを水玉状に含む。
- 16層：暗褐色土層。14層に近いが、ローム粒、5～30mm大のロームブロックをモヤモヤ斑状に含む。
- 17層：暗褐色土層。13層に近いが、5～50mm大のロームブロックを水玉状に含む。

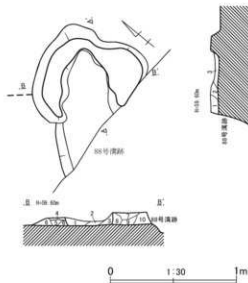
第72図 223・224 a・224b号住居跡平面・断面図

223号住居跡カマド土層注記

- 1層：暗褐色土層。暗褐色土とにぶい黄褐色あるいは灰白色の粘土の混合土。焼土粒を少量含む。1～8層は、かなりしまっており、粘性もある。
- 2層：暗褐色土層。1層に近いが、粘土が少ない。ロームと焼土の小ブロックを少量、焼土ブロックを微量含む。
- 3層：灰白色粘土層。左半は、純粋な粘土に近い。右半は、暗褐色土と粘土の混合土で、1層に近いが、1層より明瞭に粘土が多い。焼土粒、5～20mm大のロームブロックをかなり含む。崩落土。
- 4層：暗褐色土層。暗褐色土と粘土の混合土。1層より粘土多く、ロームと焼土の小ブロックをかなり含む。
- 5層：暗褐色土層。全体に粘土粒が均一に混合する。焼土粒をかなり含む。
- 6層：暗褐色土層。暗褐色土と灰白色粘土の混合土。焼土粒、5～15mm大の焼土ブロックが多量に点在する。
- 7層：暗褐色土層。3層に近いが、5～15mm大のロームブロックを多く含む。焼土粒を微量含む。
- 8層：暗褐色土層。5～8mm大の黒褐色土ブロック、焼土粒をかなり含む。
- 9層：暗褐色土層。暗褐色土と灰白色粘土の斑状の混合土。焼土粒、焼土ブロックがモヤモヤ混入する。9～13層は、カマド構築材。全体に硬くしまっている。
- 10層：暗褐色土層。9層に近いが、暗褐色土と粘土さらによく混ざっている。焼土粒を少量含む。



- 11層：暗褐色土層。10層に近いが、粘土が多く、白みが強い。下半にローム粒、ロームブロックが混入する。
- 12層：灰白色粘土層。一辺70、80mm前後に切り取られた立方体の粘土のかたまり。
- 13層：暗褐色土層。30～40mm大の黄褐色ロームの大ブロックが数点混入する。



224b号住居跡カマド土層注記

- 1層：暗褐色土層。シルト混じりのやや白みがかった暗褐

色土を主に、ローム粒、細かな焼土粒を少量、焼土小ブロックを微量含む。

- 2層：暗褐色土層。1層に近いが、やや白みが増し（シルトが多く）、焼土粒、焼土小ブロックが多い。
- 3層：暗褐色土層。2層に近いが、ローム粒が多い。ローム小ブロックを少量、焼土ブロックを微量含む。
- 4層：灰褐色（灰白色）粘土層。焼土粒を微量含む。4～11層は、カマド構築材で、全体に硬くしまっている。
- 5層：黄褐色土層。ロームを主に、暗褐色土を微量含む。
- 6層：暗褐色土層。暗褐色土と灰白色粘土の混合土。焼土粒、焼土小ブロックをかなり含む。
- 7層：暗褐色土層。暗褐色土と灰白色粘土の混合土。暗褐色土の方が多量。大小ロームブロック、焼土粒を少量含む。
- 8層：暗褐色土層。7層に近いが、焼土粒、5～30mm大の焼土ブロックを局部的に含む。
- 9層：灰白色（灰褐色）粘土層。暗褐色土が斑状に混合する。
- 10層：暗褐色土層。8層に近いが、ローム小ブロックが多い。

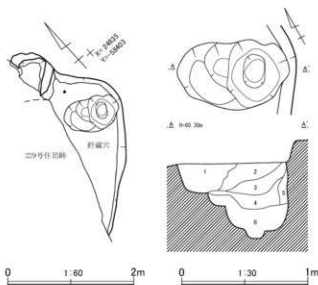
第73図 223・224b号住居跡カマド平面・断面図

比較的しっかりしているが、南半は床面自体軟弱である。

覆土中から、土師器片が少数出土している。出土遺物からみて、古墳時代の住居跡である可能性が考えられる。

225号住居跡（第74図、図版19）

調査地点の北東半の南寄り、南西縁に接する位置で検出した。226号住居跡、229号住居跡（G2地

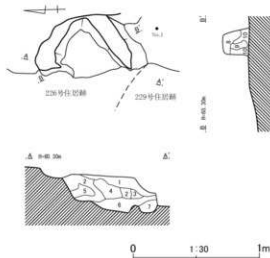


225号住居跡貯蔵穴土層注記

- 1層：黄褐色土層。ローム粒、5～40mm大のロームブロックを主に、斑状に暗褐色土が混入する。右半は、暗褐色土が多い。1～5層までは、粘性若干ある。別個のピットの覆土になる可能性もある。
- 2層：暗褐色土層。黒みの強い暗褐色土を主に、ローム粒を含み、焼土粒を少量含む。しまっている。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒、5～10mm大のロームブロックを含む。
- 4層：暗褐色土層。1層に近いが、5～8mm大のロームブロックしか含まない。しかも少量。
- 5層：暗褐色土層。3層に近いが、若干ロームブロックが多い。
- 6層：暗褐色土層、暗褐色土とローム粒、5～20mm大のロームブロックの斑状の混合土。粘性が強い。

225号住居跡カマド土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒（灰白色粘土粒を含む）を多量に、焼土粒、5～8mm大の焼土ブロックをかなり含む、炭化物粒を微量含む。
- 2層：暗褐色土層。1層に近いが、モヤモヤした雲状の灰白色粘土粒濃集部が局在する。1層に比し、全体的に混入物が斑状をなす。
- 3層：灰白色粘土層。灰白色粘土の大ブロック。暗褐色土、焼土小ブロックが点在する。崩落土。
- 4層：褐色土層。暗褐色土と灰白色というより褐色に近い粘土の同量斑状に混じる混合土。焼土粒、5～8mm大の焼土ブロックをかなり含む。
- 5層：灰白色粘土層。暗褐色土と灰白色粘土がモヤモヤ斑状に混合。焼土粒、5～20mm大の焼土ブロックを多量に含む。崩落土。
- 6層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、5～30mm大のロームブロックを下部に多量に含む、焼土粒を少量含む。灰白色粘土粒が右端に濃集する。
- 7層：暗褐色土層。黒みの強い暗褐色土、ローム粒、ローム小ブロックの混合土。焼土粒はほとんど含まない。
- 8層：灰白色粘土層。灰白色粘土（部分的にシルトもしくは粘土、部分的にローム）を主に、モヤモヤ暗褐色土を含む。焼土粒、焼土小ブロックを少量含む。8～10層は、



- カマドの構築材で、いずれも硬くしまっている。
- 9層：灰白色粘土層。灰白色粘土を主に、40mm大のハードロームのブロックを1点含む。
 - 10層：黄褐色土層。黄褐色ローム、灰白色粘土を主に、暗褐色土を斑状に含む。

第74図 225号住居跡平面・断面図

点)により遺構の大半を壊され、カマド、および東隅周辺の壁の一部のみ残存する。

平面形はかなり胴の貼る形態になりそうである。北東-南西方向での現存長は2.5m、主軸方位はN-48°-Eである。東隅に接する掘り込みは、貯蔵穴であろう。段をもって掘り込まれている。カマドは残存部分がわずかであるが、燃焼面は比較的良好に焼けている。

覆土中から、土師器片が少数出土している。出土遺物から、古墳時代の住居跡の可能性がある。

226号住居跡 (第75・76図、第36表、図版19・37)

調査地点の北東半の南寄り、南西縁に接する位置で検出した遺構である。224b・225号住居跡を切り、229号住居跡(G2地点)により遺構の南半部分を大きく壊されている。

副軸方向での現存長は、3.35m、主軸方位はN-23°-Eである。床面は平坦であるが、硬化は顕著ではない。カマドは北壁に若干斜交して設けられており、両袖ともに袖甕が埋設されている。燃焼面は被熱赤化している。

主にカマド内、カマド付近から土師器片がかなりの量出土している。主にカマドに関連して出土した土器からみて、古墳時代終末期の住居跡であろうか。

227～229号住居跡

久下東遺跡G2地点の報告書にて報告する。

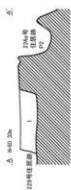
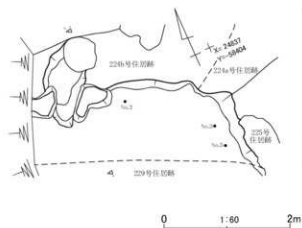
230号住居跡 (第77～81図、第37～40表、図版19・20・37・38)

調査地点の南東半、南西縁近くで検出した遺構である。231号住居跡、483・484号土坑に切られ、東半部の上部は攪乱により壊されている。

平面形は方形である。主軸長は5.25m、副軸長は5.15m、主軸方向はN-49°-Wである。床面は明瞭に硬化している。主柱穴は、P1～P4の4つである。いずれも上端では円形、あるいは楕円形で、深さは、P1が48cm、P2が57cm、P3が57cm、P4が51cmである。変則的な位置にあるP5、P6も、覆土からみて伴う可能性がある。深さは、P5が38cm、P6が35cmである。炉跡は、P1-P2間のP1寄りの位置にある。長楕円の浅い掘り込みを有し、炉床から側壁にかけて小範囲の赤化した焼け面が間隔をあけて巡る、独特な使用痕跡がみとめられる。上端がやや不整な円形の貯蔵穴が南西隅近くに設けられている。深さは55cm、北側には高さ10cmほどの土堤が付設されている。

土堤から南西壁や炉の周辺を中心に、床面直上層や覆土中・下層を中心に、完形、半完形の土師器が多数出土している。遺物が集中する範囲は、大きく分けて3箇所に分けることができる。

1つは、奥壁(北西壁)寄りの中央であり、3個体の甕(第79図1～3)が床面上で寄り添うようにして出土している。住居跡中央、炉の入り口側脇からも比較的良好な状態で土器が出土している。この範囲は、完形土器が少なく、分布が散漫である。図化した資料(第79～81図)としては、11の壺底部や7の小形の直口壺、14の高坏がある。これらはいずれも床面直上出土である。20・24の甕破片、36の高坏坏部片もこの範囲に含まれるが、いずれも覆土中・中層出土であり、覆土がある程度堆積した後に混入した古墳時代前期の土器である。

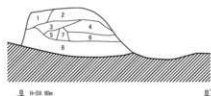
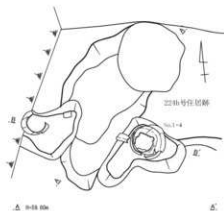


226号住居跡土層注記

1層：暗褐色土層。暗褐色土と灰褐色シルトの混合土。ロームブロックを少量、焼土粒、焼土小ブロック、炭化物粒を多量に含む。

226号住居跡カマド土層注記

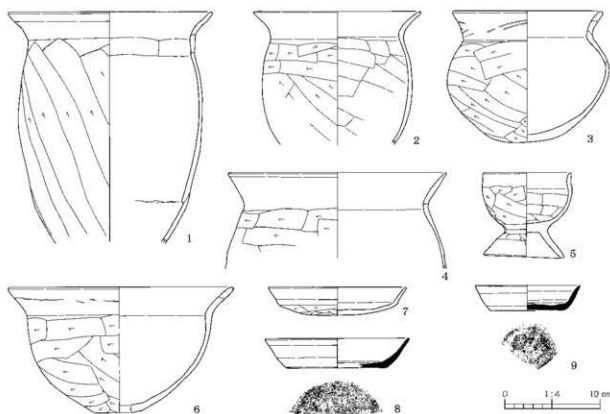
- 1層：暗褐色土層。暗褐色土と灰白粘土（シルト）の混合土を主に、ローム粒、ローム小ブロックを含み、焼土粒（あるいは土器粒）、焼土小ブロックをかなり含む。炭化物粒を少量含む。しまり弱い。
- 2層：暗褐色土層。1層に近いが、ロームと焼土が多く、よりしまっている。2～8層は、全体的にしまっており、下部ほど粘性が増す。
- 3層：暗褐色土層。2層に近いが、焼土粒が多い。
- 4層：暗褐色土層。2層に近いが、粘土が多く、炭化物も多く、点在する。
- 5層：黄褐色土層。ハードロームのブロック。そのまわりに暗褐色土、ローム粒、ローム小ブロック。
- 6層：暗褐色土層。4層に近いが、さらに粘土が多い。5～10mm大のロームブロックを含む。
- 7層：暗褐色土層。暗褐色土と灰白粘土の混合土を主に、5～8mm大のロームブロックが点在する。
- 8層：暗褐色土層。暗褐色土と灰白粘土の混合土を主に、ローム粒、5～8mmのロームブロックを少量含む。
- 9層：暗褐色土層。暗褐色土と灰褐色粘土（シルト）の混合土。焼土粒を含む。9～22層は、カマド構築材で、いずれの層も硬くしまっており、粘性がややある。
- 10層：暗褐色土層。2層に近いが、さらに灰白色粘土が多い。2層よりしまっている。
- 11層：暗褐色土層。暗褐色土と暗い色調のロームの混合土を主に、焼土粒、焼土小ブロックを多量に含む。
- 12層：暗褐色土層。11層に近いが、焼土粒が少ない。
- 13層：暗褐色土層。11層に近いが、焼土粒が少なく、ロームが多い。炭化物粒を含む。
- 14層：暗褐色土層。暗褐色土と暗い色調のロームの混合土。焼土粒をかなり含む、炭化物粒を含む。
- 15層：暗褐色土層。暗褐色土と濁った（暗い）色調のシルト質ロームの混合土。焼土粒をかなり含む。
- 16層：暗褐色土層。15層に近いが、暗褐色土、焼土粒が少ない。
- 17層：暗褐色土層。16層に近いが、ロームが多い。



0 1:30 1m

- 18層：暗褐色土層。15層に近いが、焼土粒が多く、焼土小ブロックを含む。
- 19層：暗褐色土層。18層に近いが、焼土がさらに多い。
- 20層：暗褐色土層。暗褐色土と暗い色調のシルト質ロームの混合土。15層以上にロームはシルト化しており、灰褐色シルトと呼んでもよい。
- 21層：暗褐色土層。18層に近いが、灰褐色シルトが多い。
- 22層：暗褐色土層。20層土を主に、不規則に黄褐色ローム、5～30mm大の同ロームブロックを含む。

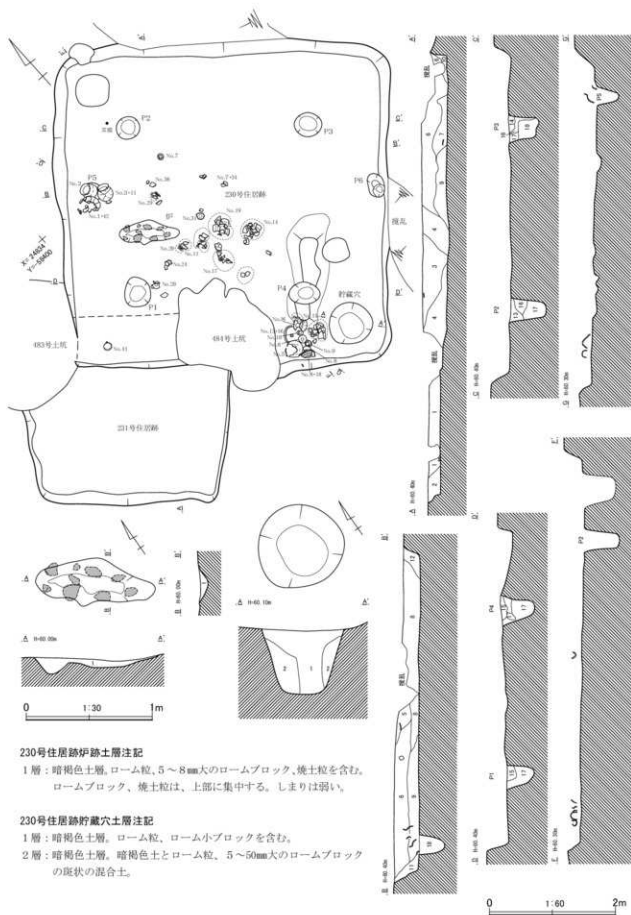
第75図 226号住居跡平面・断面図



第76図 226号住居跡出土遺物

第36表 226号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径底径器高 21.5 — (24.3)	口縁部外反する。長胴。粘土細積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部タテケズリ。内面-ヨコナデ。	白色岩片・角閃石 内外-明赤褐色	口縁部へ胴部下位ほぼ成形
2	小形甕	口径底径器高 17.6 — (14.0)	口縁部外反する。粘土細積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ナナメケズリ後、上位ヨコケズリ。内面-ヨコナデ。	白色岩片・黒色岩片・角閃石 内外-赤褐色	口縁部へ胴部上半1/4残存
3	小形甕	口径底径器高 15.6 — 13.9	口縁部外反する。胴部最大径を上位にもつ。丸底。粘土細積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部タテケズリ後、上位ヨコケズリ、底部ケズリ。内面-ヨコナデ。外面胴部に黒斑。	白色岩片・角閃石 外-褐色 内-明赤褐色	ほぼ成形
4	甕	口径底径器高 23.0 — (10.1)	口縁部外反する。粘土細積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヨコケズリ。内面-ヨコナデ。内外面口縁部に黒斑。	白色岩片・黒色岩片・角閃石 外-灰褐色 内-にぶい赤褐色	口縁部へ胴部上位3/4残存
5	小形台付甕	口径 9.2 — 9.1	口縁部ゆるやかに外反する。胴部人の字状に広がる。粘土細積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヨコケズリ後、タテケズリ。胴部指押え後、下位強いヨコナデ。内面-ヨコナデ。内面口縁部に椎状にヨゴレ。	角閃石・白色岩片 内外-にぶい赤褐色	成形
6	甕	口径底径器高 23.7 4.9 13.2	口縁部外反する。底部堆成前穿孔。粘土細積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部タテケズリ後、ヨコケズリ。胴部に黒斑。底部ケズリ。内面-ヨコナデ。	白色岩片・角閃石 内外-明赤褐色	ほぼ成形
7	坏	口径底径器高 14.5 12.4 2.9	口縁部外反する。丸底。粘土細積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。内面-ヨコナデ。	角閃石・白色岩片 内外-にぶい赤褐色	1/2残存
8	須恵器坏	口径底径器高 15.2 10.8 3.1	口縁部外反する。平底。ロクロ成形。	外面-ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。内面-ロクロナデ。	石素・白色岩片・海綿状骨料 内外-灰黄色	1/4残存
9	須恵器坏	口径底径器高 11.1 7.8 2.6	口縁部外反する。平底。ロクロ成形。	外面-ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。内面-ロクロナデ。	白色・黒色岩片 内外-灰色	1/5残存



230号住居跡伊跡土層注記

1層：暗褐色土層。ローム粒、5～8mm大のロームブロック、焼土粒を含む。
ロームブロック、焼土粒は、上部に集中する。しまりは弱い。

230号住居跡貯蔵穴土層注記

1層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを含む。
2層：暗褐色土層。暗褐色土とローム粒、5～50mm大のロームブロックの底状の混合土。

第77図 230・231号住居跡平面・断面図(1)

230・231号住居跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、5～15mm大のロームブロックを多く含む、焼土粒を少量含む。1・2層は、231号住居跡覆土。
- 2層：暗褐色土層。1層に近いが、ロームが多い。20mm大のロームブロックを微量含む。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒を多く含む、ローム小ブロックも多く含む。10～20mm大のロームブロックを少量含む。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、5～40mm大（大半は5～10mm大）のロームブロックを斑状、水玉状に含む。焼土粒を少量含む。
- 5層：暗褐色土層。ローム粒をかなり含む、5mm大のローム小ブロックを斑点状に含む。5mm大ぐらいの小さな土器粒を少量含む。
- 6層：暗褐色土層。5層に近いが、5～40mm大のロームブロックを斑点状に含む。
- 7層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを多量に含む。下半には、ローム多く、20、30mm大のロームブロックが混入する。
- 8層：暗褐色土層。3層に近いが、ロームが多い。ロームブロックは、5～50mm大で水玉状をなし、所々ブロックがまとまる。

- 9層：暗褐色土層。3層に近いが、ロームが多く、粘性がややある。全体にモヤモヤと灰色がかった暗褐色土が混入する。
- 10層：褐色土層。暗褐色土とロームの混合土。50mm大のハードロームのブロックを微量含む。
- 11層：暗褐色土層。暗褐色土とくすんだ（暗い）色調のロームの混合土。
- 12層：暗褐色土層。暗褐色土とローム粒、5～30mm大のロームブロックの斑状の混合土。下部、壁寄りには、ロームが多い。
- 13層：暗褐色土層。ローム粒を多量に含む。左上端にロームが雲状に濃集部分がある。13～18層は、P1～P4覆土。
- 14層：黒褐色土層。黒褐色土と暗褐色土の混合土を主に、ローム粒が混入する。30、50mm大のロームブロックを微量含む。
- 15層：暗褐色土層。ローム粒、5～30mm大のロームブロックをごく不規則に含む。
- 16層：褐色土層。暗褐色土、ロームの混合土。
- 17層：黄褐色土層。ロームを主に、暗褐色土を斑状に含む。
- 18層：黄褐色土層。ハードロームのブロック間に、暗褐色土が少量混入する。

第78図 230・231号住居跡平面・断面図(2)

3つ目の集中範囲は、南西壁寄りの一角、貯蔵穴の北西脇である。この範囲からは、6の小形甕、5の甕、13の瓶、8～10の小形の直口壺、15・16・18の高坏などが出土している。いずれも床面直上、あるいは覆土中・下層であり、密集度が高いことが特徴になる。

第81図のS字甕や各種の鉢、高坏、器台などの古墳時代前期の土器は、どれも覆土の中層以上で、覆土中に混入した遺物とみて間違いない。41の坏や42の坏は最上層出土であり、混入した遺物であろう。41の杯は、231号住居跡に伴う可能性が高い。44の青銅製環もほぼ確認面に等しい最上層出土であり、本住居跡に伴わない後代の遺物である可能性もある。

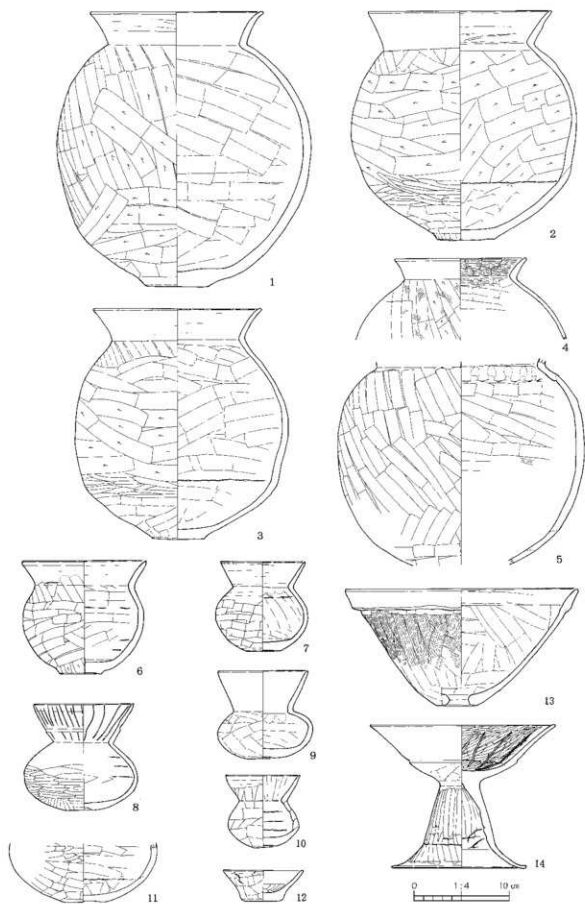
出土土器からみて、古墳時代中期中葉の住居跡である。

231号住居跡（第77・82図、第41表、図版19・38）

調査地点の南東半、南西縁で検出した遺構で、遺構の大半がG2地点に含まれる。483・484号土坑に切られ、230号住居跡を切って造られている。230号住居跡の覆土中に床面が伸びていたが、捉えきれず掘り下げてしまった。

平面形は方形に近い形態になろうか。北東-南西を主軸方向とすると、主軸長は、推定で3m前後、副軸長は3.26m、主軸方位はN-42°-Eである。床面はほぼ平坦であるが、硬化は顕著ではない。

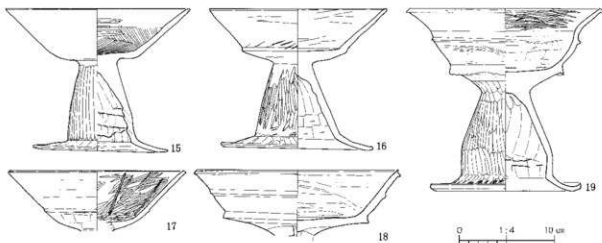
覆土中から土師器片がかなりの量出土している。複数時期の土器が混在するが、残存率の高い第82図1の杯などからみて、古墳時代後期後葉の住居跡と考えられる。



第79图 230号住居跡出土遺物(1)

第37表 230号住居跡出土遺物観察表(1)

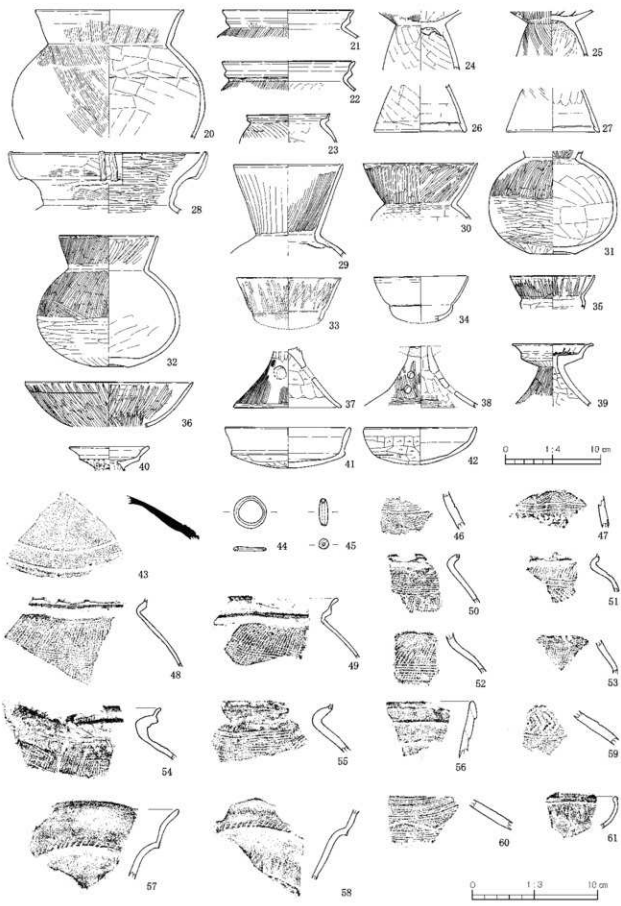
No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (18.2) 底径 6.6 器高 29.1	口縁部が外反気味に開き、胴部は丸く膨らむ。胴部下位に微ぼがある。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、屈曲部直下ナナメのナデ、以下ナナメ、ヨコのケズリ、ナデ(局所的にハケミ様の条線残る)。全面に黒泥、磨料顕著。内面-口縁部ヨコナデ、以下ナナメ、ヨコのナデ。	白色・灰色岩片などの大小砂粒多量 内外-明赤褐色	口縁部1/4、胴部1/4〜3/4残存
2	甕	口径 19.4 底径 6.0 器高 24.4	口縁部が外反気味に開き、胴部は丸く膨らむ。胴部かなりいびつ。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、屈曲部〜胴部上位ナナメのナデ、以下胴部中位付近までヨコ、ナナメのケズリ(部分的にナデ)。胴部下位ヨコのミガキ、底部ナデ。黒泥。内面-口縁部ヨコナデ、以下胴部下位までナナメのケズリ。底部付近ナナメのナデ、ミガキ(所々滑沢)。	灰色・灰色・赤褐色岩片、雲母粉末などの大小砂粒 内外-にぶい褐色	ほぼ完成形
3	甕	口径 17.6 底径 5.6 器高 24.6	口縁部が外反気味に開き、胴部は丸く膨らむ。胴部下位に微ぼがある。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、屈曲部直下ナナメのナデ、胴部上半〜中位ヨコ、ナナメのナデ、ケズリ(所々滑沢)。胴部下位ヨコ、ナナメのミガキ、ナデ。胴部黒泥。底部タテのナデ、内面-ヨコ、ナナメのナデ、屈曲部直下指ナデ。	白色・灰色・赤褐色岩片などの大小砂粒 内外-にぶい褐色	胴部の一部欠失
4	甕	口径 (13.8) 底径 (8.6) 器高 (8.4)	口縁部が外反気味に立ち上がり、胴部は丸く膨らむ。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ナナメのナデ(部分的にケズリ)。下調整のハケミ残る。内面-口縁部ヨコのナデ、ハケミ、胴部ヨコ、ナナメのハケ、ナデ。	白色・灰色・赤褐色岩片、雲母片などの大小砂粒多量 内外-にぶい褐色	口縁部〜胴部上半1/4〜1/3残存
5	甕	口径 — 底径 — 器高 (21.3)	胴部は球状に膨らむ。粘土組織み上げによる成形。	外面-くびれ部一部ヨコナデ。内面-くびれ部付近指頭による押圧、以下ヨコ、ナナメのナデ。	灰色・灰色岩片、雲母片などの大小砂粒多量 内外-にぶい褐色	胴部1/2〜1/3残存
6	甕	口径 13.0 底径 4.4 器高 12.0	口縁部外反、胴部は丸く膨らむ。底部中央が浅く凹む。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、屈曲部以下ナナメ、ヨコのナデ。部分的にケズリに近い。底部ケズリ。黒泥。内面-ヨコ、ナナメのナデ。	灰色岩片、雲母片など細砂 内外-明赤褐色	完成形
7	小形壺	口径 8.8 底径 3.6 器高 10.5	口縁部は直線的に開き、胴部は球形に近い。底部は小さく凹む。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部〜胴部上位ヨコナデ、以下ヘラミガキ。底部付近はヨコナデ、一部ケズリに近い。体部〜底部〜ケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、以下指押しえ、ナナメのナデ。	白色・黒色岩片などの細砂 内外-明赤褐色	ほぼ完成形
8	小形壺	口径 10.5 底径 2.9 器高 11.4	口縁部に段をもち、大きく開く。胴部尊盤玉状。中央が凹む。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ(細線残る)後、タテの鋭い視線。胴部上半ヨコナデ、中位以下ヨコのミガキ。内面-口縁部ヨコナデ(細線残る)後、踵文様のタテのミガキ。胴部ヨコ、ナナメのナデ。	白色・灰色岩片、雲母片などの細砂 内外-明赤褐色	口縁部1/5欠失
9	小形壺	口径 9.4 底径 2.7 器高 9.4	口縁部は若干外反し、胴部が尊盤玉状に膨らむ。底部中央が丸く凹む。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、以下ヨコ、ナナメのミガキ、ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、以下指押しえ、ヨコ、ナナメのナデ。	白色岩片などの細砂 内外-明赤褐色	口縁部1/2強欠失
10	小形壺	口径 7.8 底径 2.5 器高 7.7	口縁部は若干内彎し、胴部が尊盤玉状に膨らむ。底部中央が丸く凹む。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヨコ、ナナメのナデ。胴部下半のナデはケズリに近く、磨痕が顕著。内面-ヨコ、ナナメのナデ。輪轡痕露出。	白色・灰色岩片、雲母片など細砂 内外-明赤褐色	完成形
11	壺	口径 — 底径 — 器高 (6.2)	胴部中位が大きく膨らむ。底部は中央が凹む。粘土組織み上げによる成形。	外面-胴部中位付近ヨコのミガキ、以下ヨコ、ナナメのミガキに近いナデ。底部付近ヨコ、ナナメのナデ、ケズリ。内面-ヨコ、ナナメのナデ。	白色・黒色・赤褐色岩片などの細砂 内外-明赤褐色	底部ほぼ完成形。胴部中、下位1/8〜1/2残存
12	小形鉢	口径 (8.2) 底径 3.9 器高 3.3	口縁部はやや丸みをもって大きく開く。粘土組織み上げによる成形。	外面-ヨコナデ。内面-口縁部ヨコナデ、以下ナナメ、ヨコのナデ。	白色・灰色岩片、雲母片などの大小砂粒 内外-褐色	口縁部一部、体部2/3残存
13	瓶	口径 24.6 底径 4.2 器高 12.4	口縁部は折返し口縁。体部は大きく開く。底部の円孔は中央が狭く内外に開く。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部〜体部上端ヨコナデ。体部上半ナナメの極浅いハケ、以下タテ、ナナメのナデ。黒泥あり。内面-口縁部ヨコナデ、以下ナナメ、ヨコのナデ、黒泥あり。	白色・灰色・赤褐色岩片、雲母片などの大小砂粒 内外-明赤褐色	3/4残存
14	高坏	口径 19.4 脚端径 14.2 器高 15.2	坏部が大きく開き、脚部は中位が下膨れの筒状。粘土組織み上げによる成形。	外面-坏部ヨコ、ナナメのナデ、脚部タテ、ナナメのミガキ。内面-坏部ナナメのミガキ後、タテの暗文様の間線。脚部上半タテの指ナデ、裾部ヨコナデ。	白色・灰色岩片などの大小砂粒 内外-明赤褐色	胴部一部欠失
15	高坏	口径 19.5 脚端径 14.2 器高 15.2	坏部が大きく開き、脚部は中位が下膨れの筒状。粘土組織み上げによる成形。	外面-ヨコナデ、接合部付近ケズリに近いナデ。脚部タテのミガキ。裾部ナナメナデ、部分的にミガキに近い。内面-坏部ミガキ、脚部タテの指ナデ、裾部ヨコナデ。	白色・灰色・黒色岩片、雲母片などの大小砂粒 内外-明赤褐色	坏部一部欠失、脚部1/3欠失



第80図 230号住居跡出土遺物(2)

第38表 230号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
16	高坏	口径 18.6 脚端径 16.1 器高 15.0	坏部は大きく開く。脚部は中位が下膨れの筒状で、裾部が水平に近く開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面-坏部ヨコナデ。脚部タテのミガキ、所々ミガキ痕が見えない。裾部ヘラナデ。内面-坏部ヨコナデ。脚部上半タテのヘラナデ。下半ケズリ。	白色・灰色・赤褐色岩片、雲母片などの大小砂粒多量 内外-明赤褐色	完形
17	高坏	口径 18.8 脚端径 — 器高 (6.4)	坏部下位に段をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面ヨコナデ。内面-ナナメの不規則な反復するミガキ後、暗文様のミガキ。底面ミガキ。	白色・灰色岩片、雲母細片などの大小砂粒 内外-橙褐色	坏部1/2弱 残存
18	高坏	口径 21.4 脚端径 — 器高 (7.0)	坏部に段をもち、大きく開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面-坏部ヨコナデ。接合部付近の一部ナナメのナデ。炭化物付着。内面ヨコ、ナナメのナデ。炭化物微量付着。	白色・灰色岩片、雲母細片などの細砂 内外-明赤褐色	坏部のみ 完存
19	高坏	口径 20.1 脚端径 15.9 器高 19.5	坏部に段をもち、口縁部が大きく開く。脚部は下膨れで、裾部が反り返る。粘土紐積み上げによる成形。	外面-坏部ヨコナデ。坏部底面タテ、ナナメのナデ。脚部タテのミガキ、裾部ミガキ後、暗文様の細かいミガキ。脚部タテ、ナナメのミガキ。内面-口縁部ミガキ、以下ナデ。脚部タテのナデ、裾部ヨコナデ。	白色・灰色岩片、雲母細片などの大小砂粒 内外-明赤褐色	ほぼ完形
20	甕	口径 (15.6) 底径 — 器高 (13.6)	口縁部が外反気味に開き、胴部が丸く膨らむ。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ後、粗く浅いタテのハケ。胴部ナナメの粗く浅いハケ(部分的にミガキのようにも見える)。黒底。磨耗顕著。内面-口縁部ヨコナデ後、粗く浅いハケ。胴部ナデ。磨耗顕著。	白色・灰色・赤褐色岩片、雲母細片などの細砂 内外-にぶい黄褐色	口縁部〜胴部1/3〜1/4残存
21	甕	口径 (13.7) 底径 — 器高 (3.0)	口縁部が屈曲するS字甕。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。炭化物付着。胴部ナナメのハケ。内面-口縁部〜頸部ヨコナデ後、タテのミガキ。胴部ヨコナデ。	灰色・黒色岩片、雲母片などの細砂多量 内外-にぶい橙褐色〜灰白色	口縁部1/2 残存
22	甕	口径 (13.8) 底径 — 器高 (3.2)	口縁部が屈曲するS字甕。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。くびれ部付近に竹管状工具による沈線。胴部ナナメのハケ。内面-ヨコ、ナナメのナデ。	灰色・黒色岩片などの細砂多量 内外-にぶい黄褐色	口縁部1/2 残存
23	小形甕	口径 8.8 底径 7.8 器高 (3.0)	口縁部が屈曲するS字甕。あるいは鉢。胴部中位は強く膨らむ。	外面-口縁部ヨコナデ。以下粗いナナメのハケ。内面-口縁部ヨコナデ。以下指押さえ。ナナメのナデ。	細砂。微量の雲母細片 内外-橙褐色	1/4残存
24	甕	口径 — 脚端径 — 器高 (6.4)	台部は微妙に丸みをもち開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面-胴部乱雑なハケ。台部ナナメのナデ。内面-胴部ナナメのヘラナデ。ヘラ残れる。台部ナナメのヘラナデ。	灰色・黒色岩片、雲母片などの細砂多量 内外-にぶい橙褐色	台部のみ 残存、台部 端欠失
25	台付甕	口径 — 台端径 — 器高 (4.8)	直線的に開くS字甕台部。粘土紐積み上げによる成形。	外面-タテ、ナナメのハケ。胴部の一帯にケズリ。内面-胴部ヨコナデ、台部ナナメのナデ。	灰色・黒色岩片などの細砂多量 外-橙褐色 内-にぶい黄褐色	胴部下位 〜台部のみ 残存
26	台付甕	口径 — 台端径 (9.4) 器高 (5.0)	端部を内側に折り返したS字甕台部。粘土紐積み上げによる成形。	外面-胴部乱雑なハケ。台部ナナメのナデ。内面-ヨコナデ。	白色・黒色岩片などの細砂 内外-にぶい橙褐色	台部1/3残 存



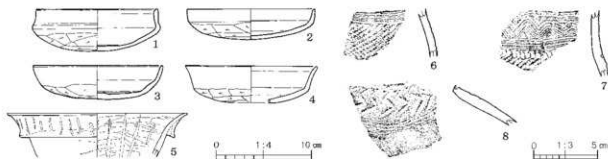
第81图 230号住居跡出土遺物(3)

第39表 230号住居跡出土遺物観察表(3)

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
27	土付甕 口径 — 台高径 (9.8) 器高 (4.6)	—	直線的に開くS字腹台部。粘土組織み上げによる成形。	外面-ヨコ、ナナメのナデ。上端にナナメのハケ。内面-ナナメ、ヨコのナデ。	白色・灰色岩片などの細砂 内外-ぶい橙色	台部下 1/3残存
28	甕 口径 (24.0) 底径 — 器高 (6.5)	—	口縁部は外反し開く複合口縁。頸部は短く太い。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ハケ調整後、ヨコ、ナナメのミガキ。棒状浮文2個貼付。頸部ナナメのハケ調整後、ヨコナデ。頸部下端-肩部ヨコのミガキ。内面-ヨコのミガキ。局所的に下調整のハケみ残存。	白色・灰色・黒色岩片、雲母片などの大小砂粒多量 内外-明赤褐色	口縁部～ 頸部1/8～ 1/5 残存
29	甕 口径 (11.5) 底径 — 器高 (9.7)	—	口縁部は直線的に開く。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部～頸部タテのヘラナデ。細線が入る。胴部タテのナデ。内面-口縁部タテのミガキ。頸部ヨコのヘラナデ。細線入る。胴部ヨコのナデ。	灰色・黒色岩片、雲母片などの細砂 内外-ぶい橙色	口縁部～ 頸部2/3、 胴部一部 のみ残存
30	甕 口径 (12.0) 底径 — 器高 (6.0)	—	口縁部は丸みをもって大きく開く。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部～頸部ヨコナデ後、タテの粗いミガキ。胴部ヨコのミガキ、ナメナデ。内面-口縁部ヨコナデ、タテ、ナメのナデ。	白色・灰色岩片、雲母片などの細砂 内外-明赤褐色	口縁部～ 胴部1/3～ 1/2以下残 存
31	小形甕 口径 — 底径 4.4 器高 10.9	—	胴部は球状状に大きく膨らむ。底面中央がわずかに凹むように上げ底。粘土組織み上げによる成形。	外面-ナナメのナデ。胴部上半細かなタテ、ナナメのミガキ。胴部中央へ下半ヨコのミガキ(上半のミガキとは工具が異なる)。底部ケズリ。内面-細かなミガキ、胴部ナメ、ヨコのナデ。	白色・灰色・赤褐色岩片、雲母片などの大小砂粒多量 内外-ぶい橙色	頸部以下 1/4残存、 底部完成
32	小形甕 口径 (10.4) 底径 — 器高 14.0	—	口縁部は直線的に開き、胴部は丸く膨らむ。底面全体が丸く凹むように上げ底。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ナナメの細かいミガキ、タテヨコナデ。胴部上半ナメ、タテの細かいミガキ、底部ナメ、ヨコのナデ、ケズリ。内面-口縁部ヨコナデ後、ナメの粗いミガキ、胴部ナデ。	白色・灰色・赤褐色岩片などの大小砂粒多量 内外-ぶい橙色	口縁部～ 胴部1/3～ 1/3、底部 完成
33	鉢 口径 (11.0) 底径 — 器高 (4.1)	—	口縁部が大きく開き、体部は丸みをもって。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ後、ナナメ、タテの断続するミガキ。屈曲部彫り込むような手法で境を画す。体部ナメのミガキ。内面-口縁部ヨコを主とするナデ後、不規則なナメ、タテのミガキ。以下ヨコナデ。	黒色岩片、雲母細片などの細砂 内外-褐色	口縁部～ 体部上位 1/4～1/3 残存
34	鉢 口径 — 底径 10.0 器高 (4.8)	—	口縁部が大きく開き、体部は丸みをもって。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、屈曲部彫り込むような手法で境を画す。以下タテ、ナメのナデ。内面-口縁部ヨコナデ、以下ヨコナデらしい。内外面磨耗。	赤褐色岩片などの大小砂粒 内外-褐色	1/3～1/2 残存
35	鉢 口径 (8.8) 底径 — 器高 (3.5)	—	屈曲部をもち、口縁部が大きく開く。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ後、タテのミガキ。体部ヨコナデ。内面-口縁部ヨコナデ後、タテの間隔をあけたミガキ。体部ヨコナデ。	灰色・黒色岩片、雲母片などの大小砂粒 内外-褐色	口縁部～ 体部1/2残 存
36	高坏 口径 — 脚端径 17.7 器高 (4.8)	—	坏部はやや丸みをもって大きく開く。粘土組織み上げによる成形。	外面-ヨコナデ後、所々間隔をあけたナメのミガキ。内面-ヨコナデ後、所々間隔をあけたナメ、タテのミガキ。	白色・灰色・赤褐色岩片、雲母細片などの細砂 内外-ぶい橙色	坏部のみ 1/4残存
37	高坏 口径 — 脚端径 10.4 器高 (6.4)	—	脚部は大きく開く。粘土組織み上げによる成形。	外面-接合部付近タテのケズリ、以下タテのナデ。細線入る。脚部間隙状に凹む。内面-ヨコのケズリ、ナデ。	白色・灰色岩片などの大小砂粒 内外-ぶい橙色	脚部のみ 1/2強残存
38	高坏 口径 — 脚端径 — 器高 (6.5)	—	脚部は大きく開く。2個一対、3箇所6個の円孔か。粘土組織み上げによる成形。	外面-接合部には剥離面残る。タテ、ナメ、ヨコのミガキ。器面磨耗。ミガキ底部部分的。内面-接合部に充填粘土に剥離面残る。タテのナデ。器部ヨコナデ、浅いケメ残る。	白色・黒色・赤褐色岩片などの細砂 内外-褐色	脚部1/2～ 2/3残存
39	器台 口径 (8.5) 脚端径 — 器高 (6.6)	—	器受部は屈曲し、脚部は大きく開く。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部強いヨコナデ。細線が入る。屈曲部以下ヨコ、タテのナデ。脚部細いタテのミガキ。内面-口縁部ヨコナデ。器受部底面タテの細かいミガキ。脚部ヨコのケズリ。	白色・灰色・赤褐色岩片、雲母片などの細砂 内外-ぶい橙色	口縁部、 脚部下半 部残存
40	器台 口径 (8.4) 脚端径 — 器高 (2.6)	—	器受部は屈曲する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部～底部指押えのちヨコナデ。	白色・灰色岩片、雲母片などの細砂 内外-ぶい橙色	器受部 2/3 残存
41	坏 口径 (13.6) 底径 — 器高 4.4	—	口縁部は外反気味に開く。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部～体部ヨコナデ、底部～底面ヘラケズリ。内面-ヨコナデ。底面に黒斑。	灰色・黒色・赤褐色岩片などの大小砂粒(とくに赤褐色岩片多量) 内外-ぶい橙色	完形
42	坏 口径 (12.0) 底径 — 器高 3.9	—	口縁部は外反気味に立ち上がる。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部～底面ヘラケズリ。内面-ヨコ、ナメのナデ。	灰色・黒色岩片、雲母片などの細砂 内外-褐色	1/4～1/3 残存
43	須恵器 蓋 口径 — 器高 (3.5)	—	低平な形態の蓋。ロク口成形。	外面-回転ナデ。端部近くに2本の沈線。沈線間に轡歯状工具によりナメの刺突文を巡らす。内面-回転ナデ。	白色・灰色・黒色岩片などの細砂 内外-灰色	1/5残存

第40表 230号住居跡出土遺物観察表(4)

No.	器種	残存	外径 (cm)	内径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
44	青銅製環	完形	2.6~2.7	2.2~2.3	0.3	2.6	断面菱形、全体に歪む。
No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴		胎土・色調	備考
45	土鉢	最大径 0.7 長さ 2.1	中彫らむの管状。	外面-指頭による成形、整形痕。		灰色岩片などの細砂 内外-ぶい褐色	一部欠失
46	壺	口径 ー 底径 ー 器高 ー	胴部中位が膨らむ器形。	外面-柳播直線文、沈線。細かな振幅の柳播波状文(5、6本一単位)。内面-ヨコナデ、ミガキ。		白色・灰色岩片、雲母片などの大小砂粒 内外-褐色	赤生時代後期柳播文土器
47	壺	口径 ー 底径 ー 器高 ー	直立に近い口縁部、胴部中位が膨らむ器形。	外面-ジグザグに近い柳播波状文、大きくウェーブする柳播直線文(2箇所)に休止点。時針まわり、細粒ある6本一単位。下端に原体不明の押捺痕。内面-ナデか? 磨粒顕著。		大小砂粒、微量の雲母細片 外-暗褐色 内-ぶい褐色	二軒屋式?
48	甕	口径 ー 底径 ー 器高 ー	屈曲する口縁部、胴部中位が強く膨らむ器形。	外面-口縁部ヨコナデ、以下ナメのハケ後、ヨコハケ。炭化物付着。内面-口縁部ヨコナデ。以下ヨコ、ナメのナデ、あるいはケズリに近いナデ。		大小砂粒、微量の雲母細片 外-褐色 内-ぶい褐色	S字状口縁台付甕
49	甕	口径 ー 底径 ー 器高 ー	屈曲する口縁部、胴部中位が強く膨らむ器形。	外面-口縁部ヨコナデ、以下ナメのハケ後、ゆるやかにウェーブするヨコハケ。内面-口縁部はヨコナデ、以下ヨコ、ナメのナデ。		細砂 内外-ぶい黄褐色	S字状口縁台付甕
50	甕	口径 ー 底径 ー 器高 ー	屈曲する口縁部、胴部中位が強く膨らむ器形。	外面-ナメのハケ後、横位のハケ。内面-指押さえ、ヨコ、ナメのナデ。		黒色・赤褐色岩片などの細砂 内外-ぶい褐色	S字状口縁台付甕
51	甕	口径 ー 底径 ー 器高 ー	屈曲する口縁部、胴部中位が強く膨らむ器形。	外面-口縁部ヨコナデ、以下粗いナメのハケ後、ヨコの粗く深いヨコハケ。内面-口縁部ヨコナデ、以下指押さえ、ナメのナデ。		白色岩片などの細砂 内外-褐色	S字状口縁台付甕
52	甕	口径 ー 底径 ー 器高 ー	胴部中位が膨らむ器形。	外面-ナメのハケ後、下半ヨコハケ。内面-口縁部はヨコナデ、以下ヨコ、ナメのナデ。		雲母細片などの細砂 内外-明赤褐色	S字状口縁台付甕
53	甕	口径 ー 底径 ー 器高 ー	胴部中位が強く膨らむ器形。	外面-縦ハケ後、横位のハケ。内面-ヨコナデ。		細砂 内外-褐色	S字状口縁台付甕
54	甕	口径 ー 底径 ー 器高 ー	屈曲する分厚い口縁部、胴部中位が強く膨らむ器形。	外面-口縁部ヨコナデ、屈曲部タテ、ナメのハケ後、横位の深いヘラ痕。以下ナメのハケ後、粗く空際多いヨコハケ。内面-口縁部ヨコナデ、屈曲部粗い柳波状文ナデ。以下指押さえ。		白色・灰色岩片、雲母細片などの大小砂粒 外-明赤褐色 内-暗褐色	S字状口縁台付甕
55	甕	口径 ー 底径 ー 器高 ー	屈曲する口縁部、胴部中位が強く膨らむ器形。	外面-タテ、ナメのハケ後、横位のハケ。内面-指押さえ、ヨコナデ。下端にみずかなハケ痕。		雲母細片などの岩片 内外-褐色	S字状口縁台付甕
56	甕	口径 ー 底径 ー 器高 ー	直立に近く立ち上がる形態。	外面-粘土粗の段を裝飾的に2段残す。ヨコナデ。内面-ヨコナデ。		灰色岩片、雲母片などの細砂 内外-ぶい黄褐色	古墳時代前期輪積
57	壺	口径 ー 底径 ー 器高 ー	口縁部が大きく外反し開き、頸部が強く屈曲する器形。	外面-口縁部ヨコナデ、屈曲部以下タテ、ナメのミガキ。端部外面、屈曲部にハケ具による刻目、あるいは刺突。内面-ヨコナデ。黒斑あり。		灰色岩片、雲母片などの細砂 内外-ぶい褐色	二重口縁壺
58	壺	口径 ー 底径 ー 器高 ー	口縁部が大きく外反し開き、頸部が強く屈曲する器形。	外面-口縁部ヨコナデ。細粒が走る。以下ヨコ、ナメのナデ。屈曲部にハケ具による押し引き様の刻目、底部下端にも浅く短い切り傷のような刻目。内面-ヨコナデ。炭化物繊維状に付着。		雲母細片などの細砂 内外-ぶい黄褐色	二重口縁壺
59	壺	口径 ー 底径 ー 器高 ー	胴部中位が膨らむ球状の器形。	外面-ハケ具による羽状の押し引き様の押捺。ハケ具による5本の平行線。内面-ヨコナデ。		白色・灰色岩片、雲母片などの大小砂粒 内外-褐色	パレス壺
60	壺	口径 ー 底径 ー 器高 ー	胴部中位が膨らむ球状の器形。	外面-7本一単位の柳播直線文(ハケかも?)。直線文間に幅2.4cmほどのハケ具によるジグザグの刺突。内面-口縁部はヨコナデ、以下ヨコ、ナメのナデ。		白色・灰色・黒色岩片などの砂粒多量 外-褐色 内-ぶい褐色	パレス壺
61	小形鉢?	口径 ー 底径 ー 器高 ー	口縁部は細い折返し。体部は丸みをもつ器形。	外面-口縁部付近ナメの交又するハケ。以下ミガキに近いヨコナデ。内面-ヨコナデ。		細砂 内外-褐色	



第82図 231号住居跡出土遺物

第41表 231号住居跡出土遺物観察表

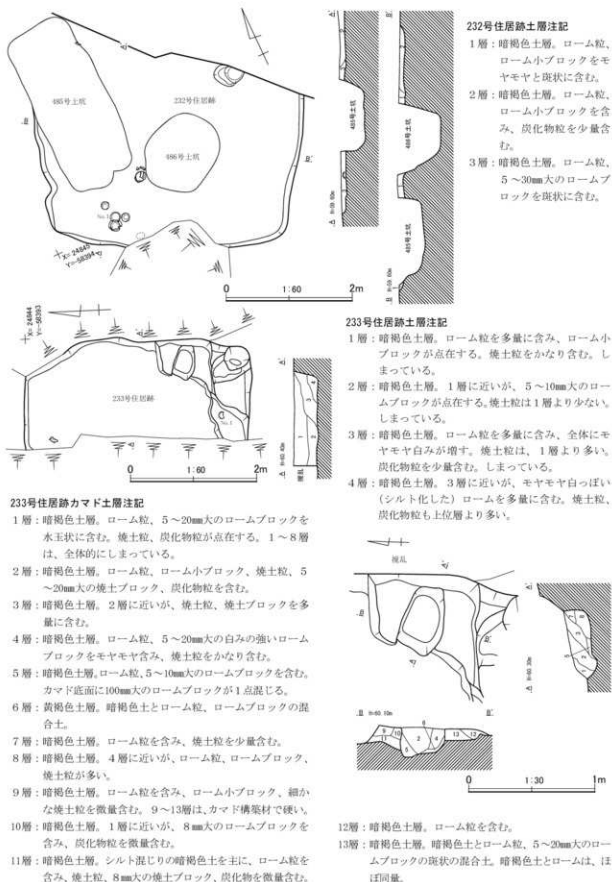
No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・裝飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 12.3 底径 4.5 器高 —	口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部へ体部中位ヨコナデ、体部下半へ底面へラケズリ。内面-ヨコ、ナメのナデ。	白色・黒色岩片などの大小砂粒 外-にぶい褐色 内-明赤褐色	口縁部へ体部一部欠失
2	坏	口径 13.4 底径 3.2 器高 —	口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部へ底面へラケズリ。内面-ヨコナデ。	白色・黒色岩片、雲母片などの細砂 内外-明赤褐色	2/3残存
3	坏	口径 13.6 底径 3.6 器高 —	口縁部はやや開く全体に丸みのある器形。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部へ底面へラケズリ。内面-ヨコナデ。	白色・黒色岩片、雲母片などの細砂 内外-にぶい褐色	3/4残存
4	坏	口径 (14.0) 底径 (3.9) 器高 —	口縁部はやや外反し立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部へ底面へラケズリ。底面に炭化物。内面-ヨコナデ。	白色・赤褐色岩片、雲母片などの大小砂粒 内外-にぶい褐色	1/5残存
5	甃	口径 19.0 底径 — 器高 (4.6)	折返し口縁。口縁部は大きく外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部へ頭部ヨコナデ。ナデ後、口縁部タテの暗文様の凹線（光沢はない）。内面-ヨコ、ナメのナデ、所々ミガキに近い。ナデ後、タテの暗文様の凹線（光沢はない）。	白色・灰色・黒色の岩片などの大小砂粒 外-にぶい褐色 内-にぶい褐色	1/6残存
6	甃	口径 — 底径 — 器高 —	胴部中位が丸みをもつ器形。	外面-柳描簾状文(5、6本一単位、逆時計回り)、以下LRの単節縄文。内面-ヨコ、ナメのナデ。成形痕を残す。	白色・灰色・黒色の岩片などの大小砂粒 外-にぶい褐色 内-にぶい褐色	二軒屋式?
7	甃	口径 — 底径 — 器高 —	頭部が直立気味に立ち上がり、胴部中位が丸みをもつ器形。	外面-柳描簾状文、コンパス文風の柳描波状文、柳描簾状文(5本一単位、逆時計回り)、原体不明の刺突列。以下LRの単節縄文。内面-ヨコ、ナメのナデ。	白色・灰色の岩片、雲母片などの大小砂粒 外-にぶい褐色 内-にぶい褐色	二軒屋式?
8	甃	口径 — 底径 — 器高 —	胴部中位が膨らむ球状の器形。	外面-ハケ具による押し引き様の羽状の刺突(押除)列、下端区面の柳描文を模した担いハケ。以下、下調整のハケ後、ナメ・ヨコのナデ、ミガキ。内面-屈曲部付近部分的にヨコハケ、以下指押え。ナメのナデ。	白色・灰色の岩片、雲母片などの大小砂粒 内外-褐色	パレス甃

232号住居跡 (第83・84図、第42表、図版21・38)

調査地点の南東半、北東縁で検出した遺構で、485・486号土坑に切られている。G3地点側では覆土が失われており、遺構の輪郭を捉えることができなかった。

平面形は長方形に近い形態になるうか。北東-南西方向に主軸を考えれば、主軸方向での現存長は3.20mほど、副軸長は4.20m、主軸方位はN-32°-Eあたりとなる。床面は明瞭に硬化しておらず、かなり凹凸が見られる。

覆土中から少数の土師器片が出土している。出土遺物からみて、古墳時代後期葉の住居跡と考えられる。



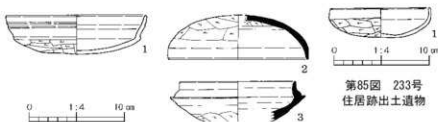
第83図 232・233号住居跡平面・断面図

233号住居跡（第83・85図、第43表、図版21・38）

調査地点の南東半、北東寄りで検出した遺構である。擾乱に挟まれ、遺構の東半部のみ辛うじて残る状態であった。

西壁側は擾乱内に収まるらしく、方形に近い小型住居跡とみてよいであろう。主軸方向での現存長は1.50m、副軸長は3.60m、主軸方位はN-84°-Eあたりと推定される。床面は硬化しており、平坦である。カマドは、東壁の中央よりかなり南に偏した位置に設けられている。燃焼面の被熱赤化は顕著ではない。南東隅には掘り残された段がみとめられる。

覆土中から少数の土師器片が出土している。出土遺物からみて、奈良時代の住居跡の可能性が高いと考えられる。



第85図 233号住居跡出土遺物

第84図 232号住居跡出土遺物

第42表 232号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 14.8 底径 — 器高 4.1	口縁部は段をもち外形する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底面ヘラケズリ。黒斑。内面-ヨコナデ。黒斑。	白色・灰色岩片などの大小砂粒多量 内外-ぶいい橙色	4/5残存
2	須恵器蓋	端部径(14.6) 器高 (4.7)	全体に丸みをもち、端部は垂直に近い。ロクロ成形。	外面-端部~天井部下位回転ナデ、中位~頂部回転ヘラケズリ。内面-回転ナデ。	白色・灰色岩片などの細砂 内外-黄灰色	1/4残存
3	須恵器坏	口径 (14.0) 底径 — 器高 (4.2)	ロクロ成形。	外面-体部上・中位回転ナデ。下位ヘラケズリ。内面-回転ナデ。	白色・灰色岩片などの細砂 内外-黄灰色	1/4残存

第43表 233号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 10.5 底径 — 器高 3.1	口縁部は内彎気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底面ヘラケズリ。体部下半~底面に黒斑。内面-ヨコナデ。	白色・灰色岩片などの細砂 内外-ぶいい赤褐色	完形

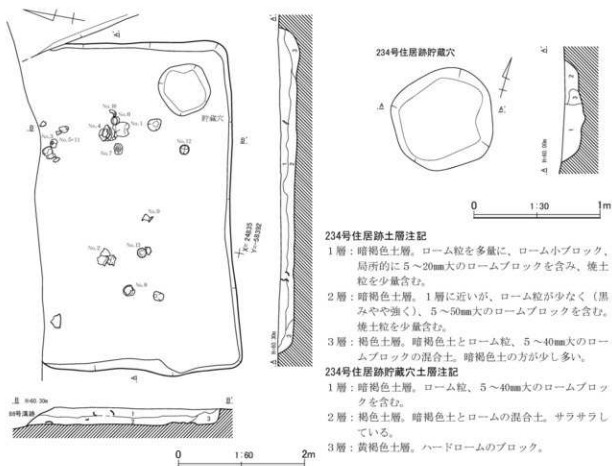
234号住居跡（第86~88図、第44・45表、図版22・38）

調査地点の南東半のほぼ中央で検出した遺構で、235住居跡に切られ、88号溝跡に北半部を大きく壊されている。

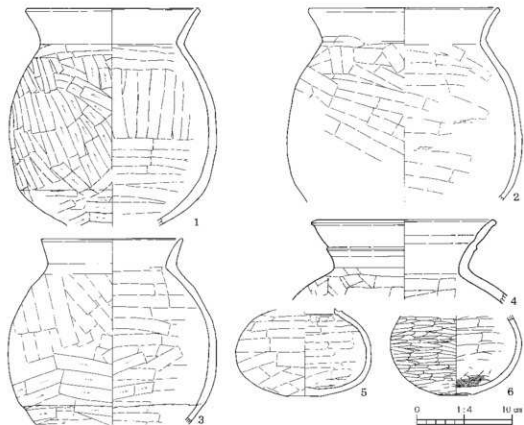
88号溝跡に壊された北壁側にカマドを想定するなら、平面形は方形に近い形態とみてよいであろう。

主軸方向での現存長は3.11m、副軸長は5.16m、主軸方位はN-13°-W前後である。床面はほぼ平坦で、中央部を中心に硬化している。P1、P2は主柱穴であろうか。上端は不整な円形、あるいは楕円形で、深さは、P1が15cm、P2が45cmである。

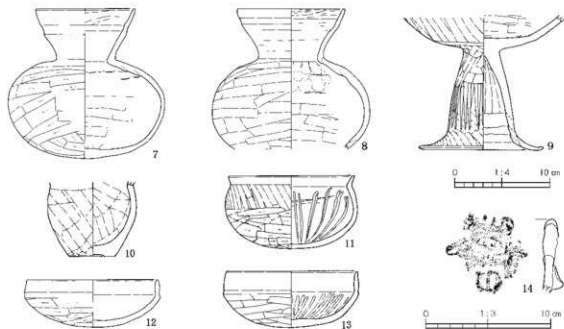
主に覆土中から土師器片がかなりの量出土している。住居形態、出土遺物から、古墳時代後期初頭の住居跡と考えられる。



第86図 234号住居跡平面・断面図



第87図 234号住居跡出土遺物(1)



第88図 234号住居跡出土遺物(2)

第44表 234号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 18.6 底径 — 器高 (23.1)	口縁部が直線的に開き、胴部はやや長胴気味で、下位に稜をもつ。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部～屈曲部周辺ヨコナデ、以下ナナメのケズリ(部分的にナデ)。胴部下ナメ。内面-口縁部～屈曲部周辺ヨコナデ。上半タテのナデ、以下ヨコナデ。	白色・灰色・黒色 赤褐色岩片などの大小砂粒多量 内外-ぶい・褐色	口縁部3/4、 底部欠失
2	甕	口径 19.9 底径 — 器高 (20.5)	口縁部が直線的に開き、胴部が丸く膨らむ。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナナメのナデ、同じ工具の当たり具合で局所的にケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ナナメのナデ。	白色・灰色・黒色 赤褐色岩片などの大小砂粒多量 内外-ぶい・褐色	胴部中位 以上2/3 残存
3	甕	口径 (15.0) 底径 — 器高 (19.5)	口縁部が短く開き、胴部は球状に膨らむ。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部～屈曲部ヨコナデ。胴部上半ナメのナデ(一部ケズリ)、胴部下半ヨコ、ナナメのケズリ。内面-ヨコ、ナナメのナデ、局所的にケズリ。	白色・灰色岩片などの大小砂粒多量 赤褐色 内外-赤褐色	口縁部下 位以上2/3 弱残存
4	壺	口径 18.1 底径 — 器高 (8.4)	口縁部が屈曲しながら立ち上がり、肩部～胴部が大きく膨らむ。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、以下ヨコ、ナナメのナデ。内面-ヨコナデ。	白色・灰色岩片、雲母細片などの大小砂粒多量 内外-褐色	肩部以上 残存
5	壺	口径 — 底径 3.4 器高 (9.3)	胴部が半球状に大きく膨らむ。粘土組織み上げによる成形。	外面-ヨコ、ナナメのナデ(細線入る)。黒底あり。内面-頸部付近～胴部上半指押え、指ナデ。胴部下半指ナデ、ヘラナデ。	白色・灰色・赤褐色岩片、雲母細片などの大小砂粒・小礫 内外-褐色	頸部～胴部 上半残存、胴部 下半2/3 残存
6	壺	口径 — 底径 — 器高 (8.3)	胴部が半球状に膨らむ。底面中央が凹む上げ底。粘土組織み上げによる成形。	外面-ヨコのミガキ。部分的に下調整のナナメのハケ残る。内面-胴部ヨコ、ナナメのナデ。底部放射状、矢羽状のハケ。	白色・灰色・赤褐色岩片、雲母細片などの大小砂粒・小礫 内外-褐色	胴部上位 の一部、胴部 中位以下 残存
7	壺	口径 10.4 底径 — 器高 (15.8)	口縁部が微妙に屈曲して開き、胴部は半球状。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部～肩部ヨコナデ、以下ヨコ、ナナメのヘラケズリ。磨耗顕著。内面-口縁部ヨコナデ、以下ヨコ、ナナメのナデ。	白色・灰色・赤褐色岩片などの大小砂粒・小礫 内外-褐色	ほぼ完形
8	壺	口径 11.2 底径 — 器高 (14.8)	口縁部が微妙に屈曲して内彎気味に開き、胴部は半球状。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、肩部～胴部下半ヨコ、ナナメのナデ(局所的にミガキ、ケズリとなる部分がある)。内面-口縁部ヨコナデ、以下指押え、ヨコ、ナナメのナデ。	白色・灰色・赤褐色岩片などの大小砂粒 内外-褐色	口縁部1/2 弱、屈曲部～胴部 下位残存
9	高環	口径 — 脚深径 (13.6) 器高 (14.2)	環部が大きく開き、柱状部が下膨らみで、裾部はそり気味に開く。粘土組織み上げによる成形。	外面-環部～脚部上半ナナメのナデ。脚部中位ナナメのナデ後、タテのミガキ。胴部ナナメ、ヨコのナデ。内面-環部ナデ、脚部指ナデ、指押え。	白色・灰色岩片、雲母細片などの大小砂粒 内外-褐色	環部、裾部 大半欠失

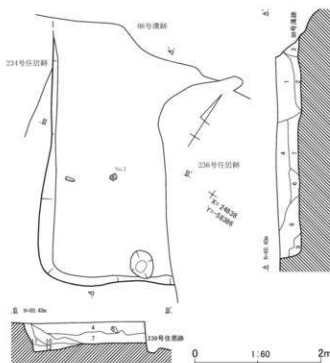
第45表 234号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
10	鉢?	口径 底径 器高 — 2.9 (7.8)	口縁部がゆるく開き、胴部は膨らみが弱い。底面中央が凹む上げ底。甕にも似る小形土器。粘土組織み上げによる成形。	外面一指頭による整形後、ナナメのナデ。器面凸凹している。内面-ナナメのナデ。器面凸凹している。	白色・灰色・赤褐色岩片、雲母細片などの大小砂粒内外-明赤褐色	屈曲部～胴部下位1/3～1/2残存、底部残存
11	坏	口径 底径 器高 13.2 — 7.7	口縁部が短く開き、体部は丸く膨らむ。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部上半ナナメ、ヨコのナデ。体部中位以下ハケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ後、タテの暗文様のミガキ。	白色・灰色の岩片、雲母細片などの大小砂粒外-橙色内-明赤褐色	完形
12	坏	口径 底径 器高 13.7 — 5.0	口縁部は内傾気味に立ち上がる。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底面ハケズリ。内面-ヨコナデ。	白色・灰色・赤褐色岩片、雲母細片などの大小砂粒内外-橙色	ほぼ完形
13	坏	口径 底径 器高 13.7 — 5.9	口縁部は内傾気味に立ち上がる。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底面ヨコ、ナナメのナデ。所々ケズリに近い。内面-口縁部ヨコナデ。以下ヨコナデ後、暗文様のミガキ。	白色・灰色岩片などの大小砂粒内外-明赤褐色	4/5残存
14	深鉢	口径 底径 器高 — — —	波状口縁の深鉢。	外面-板状の波頂部に刻目。タテの大振りな刻目に入った横溝1つ残存。直上の嘴は剥落している。口端から口縁部にかけてRLの単節縄文。内面-ナデ。	白色・灰色・赤褐色岩片などの大小砂粒内外-にぶい黄褐色	安行3a～3b式

235号住居跡 (第89・90図、第46表、図版21)

調査地点の南東半のほぼ中央で検出した遺構である。236号住居跡、88号溝跡に大半を壊され、234号住居跡と重複する。

北西壁にカマドを想定するなら、主軸方向での現存長は4.10m、主軸方位はN-27°-W前後となる。



235号住居跡土層注記

1層: 暗褐色土層。ローム粒を多量に、5～8mm大のロームブロック

クを含む。焼土粒(土器粒?)を少量含む。上部にのみAs-Aを含む。

2層: 暗褐色土層。1層に近いが、ローム粒が多く、しかも局在する。ローム小ブロックを含む。

3層: 暗褐色土層。ローム粒、5～8mm大のロームブロックを含む。しまっている。

4層: 暗褐色土層。1層に近いが、ロームブロックが局在する。焼土粒を微量含む。

5層: 暗褐色土層。暗褐色土に多量のローム粒含む大ブロック。

6層: 暗褐色土層。4層に近いが、ローム粒がやや多く、しまっている。ブロックは、ローム小ブロックのみ。

7層: 暗褐色土層。4層に近いが、ロームブロックが多く、大きい(5～15mm大)。

8層: 暗褐色土層。4層に近いが、ロームブロックが多く、大きい(5～30mm大)。ローム粒も多い。

9層: 褐色土層。暗褐色土とローム粒、5～15mm大のロームブロックが斑状に混合する。

10層: 暗褐色土層。ローム粒、5～15mm大のロームブロックを斑状に混合し、所々局在する。

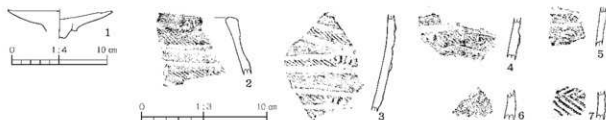
11層: 暗褐色土層。10層に近いが、ローム粒が多く、15mm大のロームブロックは、中央に点在する。

12層: 黄褐色土層。暗褐色土とロームの斑状の混合土。

第89図 235号住居跡平面・断面図

床面はほぼ平坦であるが、硬化は顕著ではない。

覆土中から土師器片がかなりの量出土しているが、多くは時期などが判然としないも細片である。また、やはりいずれも破片であるが、覆土中より縄文時代晩期の土器片が出土している（第90図2～6）。同図1の高坏から、古墳時代中期の住居跡と考えたい。



第90図 235号住居跡出土遺物

第46表 235号住居跡出土遺物観察表

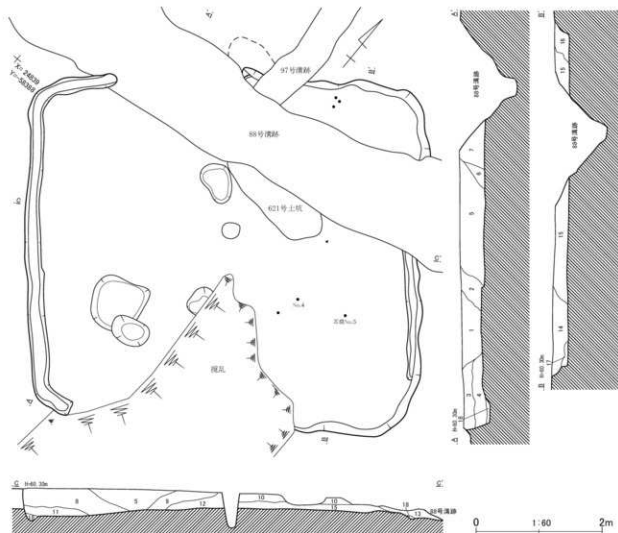
No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・裝飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	高坏	口径 底径 器高 (3.0)	粘土紐積み上げによる成形。	外面-ヨコナデ。内面-器面剥落。	白色岩片・角閃石 内外-ぶい赤褐色	接合部の み残存
2	深鉢	口径 底径 器高	口縁部に内彎する深鉢。	外面-口縁部に2帯の幅広の低平な隆帯。隆帯上にRLの単節縄文。炭化物付着。 内面-ヨコ、ナナメのナデ。	白色・灰色の岩片 などの細砂 内外-暗褐色	安行3a～ 3b式
3	深鉢	口径 底径 器高	胴部の膨らむ深鉢。	外面-上隆、中位に幅広の低平な隆帯。隆帯の両側に太い沈線。隆帯上にタテの刻目が入った横瘤、RLの単節縄文。下半に上半と同種の隆帯。内面-ヨコ、ナナメのナデ。	大小砂粒少量 外-ぶい黄褐色 内-暗褐色	安行3a～ 3b式
4	深鉢	口径 底径 器高	胴部の膨らむ深鉢。	外面-太い沈線。帯状のRL単節縄文。タテの刻目が入った横瘤。内面-ヨコナデ。	大小砂粒 外-ぶい黄褐色 内-ぶい褐色	安行3a～ 3b式、第 93図6と 同一個体
5	深鉢	口径 底径 器高	胴部の膨らむ深鉢。	外面-上半に隆帯。隆帯上にRL単節縄文。内面-ヨコナデ。	大小砂粒 外-ぶい黄褐色 内-暗褐色	安行3a～ 3b式
6	深鉢	口径 底径 器高	わずかに丸みのある胴部。	外面-縄文?。磨耗。内面-磨耗。	大小砂粒 内外-ぶい黄褐色	時期不詳 縄文土器
7	壺?	口径 底径 器高	わずかに丸みのある胴部。	外面-LR、RLの羽状の単節縄文。内面-ヨコナデ。	大小砂粒、とくに 石英、長石 外-ぶい黄褐色 内-ぶい褐色	二軒屋式 ?

236号住居跡（第91～93図，第47表、図版22・38）

調査地点の南東半の中央、北東縁に接して検出した遺構である。遺構の北東半は、G3地点に含まれる。621号土坑（G3地点）、88号溝跡、97号溝跡（G3地点）に切られ、235号住居跡を切って造られている。

平面形は、やや隅の丸い横長の長方形で、主軸長は5.5m、副軸長は6.2m、主軸方位はN-37°-Wである。床面にはかなり凹凸があり、硬化もさほど顕著ではない。北西壁、北東壁の一部、南西壁に沿って幅22～28cmの壁溝が掘られている。カマドは、北西壁の中央に設けられている。88・97号溝跡により袖、燃焼部ともに大半が壊されている。

覆土中から土師器片や須恵器片がかなりの量出土している。耳環（第93図5）は、住居跡の中央、東隅寄りの覆土中から出土した。出土遺物からみて、古墳時代終末期の住居跡と考えられる。



236号住居跡土層注記

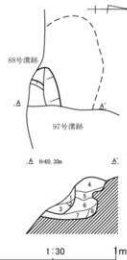
- 1層：暗褐色土層。ローム粒、5～10mm大のロームブロックをかなり含む。土器粒が点在する。
- 2層：暗褐色土層。1層に近いが、ローム粒、50～70mm大のロームブロックが塊をなし、点在する。
- 3層：暗褐色土層。1層に近いが、ロームブロックが少ない。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒を含み、焼土粒を微量含む。
- 5層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを含む。1層より土器粒少ない。暗褐色土とロームの大ブロック1点混入する。
- 6層：暗褐色土層。5層に近いが、ローム粒、ロームブロックが多く、床面近くに密集する。
- 7層：褐色土層。暗褐色土とロームの混合土。
- 8層：暗褐色土層。ローム粒、5～20mm大のロームブロックを水玉状に含む。焼土粒を微量含む。
- 9層：暗褐色土層。5層に近いが、ローム小ブロック、焼土粒が多い。炭化物粒を少量含む。
- 10層：暗褐色土層。ローム粒、5～15mm大のロームブロック含む。
- 11層：暗褐色土層。8層に近いが、ローム粒、ロームブロックが多い。
- 12層：暗褐色土層。9層に近いが、ローム粒、ローム小ブロックが多い。焼土粒はほとんど含まない。
- 13層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを、斑状に含む。ロームは所々雲状にまとまる。この層は、88号溝の覆土の可能性もある。
- 14層：暗褐色土層。にぶい色調の暗褐色土を主に、ローム粒を多量に、5～15mm大のロームブロックをかなり含む。焼土粒を含み、炭化物粒を少量含む。粘性がややある。
- 15層：暗褐色土層。14層に近いが、ロームブロックが多い。粘性がややある。
- 16層：暗褐色土層。15層に近いが、ロームが多い。下部に5～20mm大のロームブロックが集中する。
- 17層：褐色土層。にぶい色調の暗褐色土とロームの混合土。
- 18層：暗褐色土層。暗褐色土とロームの斑状の混合土。

第91図 236号住居跡平面・断面図

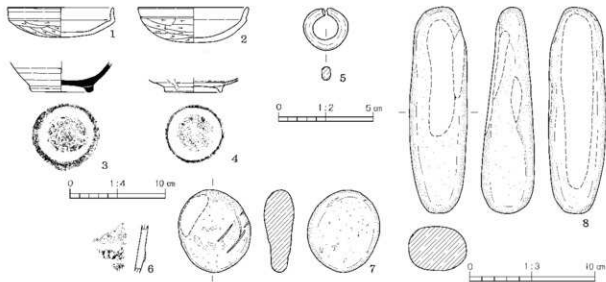
236号住居跡カマド土層注記

- 1層：暗褐色土層。暗褐色土とややシルト化したロームの混合土を主に、ローム小ブロック、焼土粒、焼土小ブロックを斑状に含む。
- 2層：暗褐色土層。1層に近いが、黒みの強い暗褐色土をモヤモヤ含む。
- 3層：明赤褐色土層。暗褐色土、ややシルト化したローム、多量の焼土粒。5～7mm大の焼土ブロックの混合土。
- 4層：暗褐色土層。1層に近いが、ローム粒、5～10mm大のロームブロック、焼土粒が多く、斑状を呈する。4～8層は、

- カマド構築材で、壊くしまっている。
- 5層：暗褐色土層。1層に近いが、暗褐色土、ローム、焼土粒は均一に混合する。
- 6層：暗褐色土層。2層に近いが、ロームが少なく、しまっている。
- 7層：暗褐色土層。暗褐色土とロームの斑状の混合土。5～10mm大のロームブロックが点在し、焼土小ブロックを少量含む。
- 8層：黄褐色土層。暗褐色土とロームの混合土。焼土粒はほとんど見られない。



第92図 236号住居跡カマド平面・断面図



第93図 236号住居跡出土遺物

第47表 236号住居跡出土遺物観察表(1)

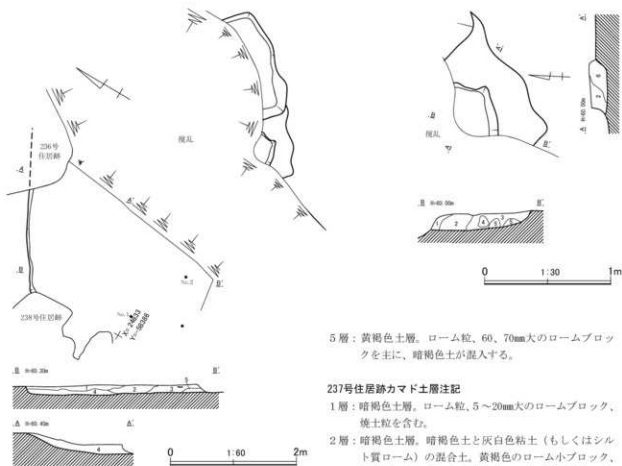
No.	器種	法量 (cm)		形態・成形手法の特徴	調整・裝飾手法の特徴	胎土・色調	備考
		口径	底径				
1	杯	11.2	—	口縁部直立して立ち上がる。丸底。粘土細積み上げ成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面-ヨコナデ。外面体部に黒疵。	角閃石 内外-にぶい赤褐色	2/3残存
		3.1	—				
2	杯	11.6	—	口縁部やや外反する。丸底。粘土細積み上げ成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面-ヨコナデ。	角閃石、白色岩片 外-にぶい褐色 内-灰黄褐色	4/5残存
		3.7	—				
3	須臾器 高台環	—	6.0	貼付高台。ロクロナデ。	外面-体部ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付。内面-ロクロナデ。	角閃石、石英、片岩 内外-にぶい黄色	底部のみ 完形
		—	(3.1)				
4	灰軸 高台境	—	5.8	貼付高台。軸葉は潰け掛け。ロクロナデ。	外面-ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付。内面-ロクロナデ。	黒色岩片 内外-灰白色	底部のみ 完形
		—	(1.5)				
No.	器種	残存	外径 (cm)	内径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
5	耳環	完形	2.3	1.4	0.7	10.57	金銅製。

第48表 236号住居跡出土文物観察表(2)

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴			胎土・色調	備考
				外面-隆帯、上下に浅い沈線、隆帯上にタテの刻目のある横線、縄文?。磨耗著しい。内面-磨耗著しい。	幅 (cm)	厚さ (cm)		
6	深鉢	口径 底径 器高	わずかに丸みのある胴部。				大小砂粒 外-にぶい黄褐色 内-暗褐色	安行3a~ 3b式、第 90図4と 同一個体
No.	器種	石材	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
7	磨石	流紋岩	完形	16.4	4.7	3.5	497.78	全体的に良く磨耗する。
8	磨石	安山岩	完形	6.5	5.7	2.4	44.77	刃痕らしき溝あり。

237号住居跡 (第94・95図、第49表、図版22)

調査地点の南東半のほぼ中央で検出した遺構で、236・238号住居跡および擾乱により大半を壊されている。



237号住居跡土層注記

- 1層: 暗褐色土層。ローム粒、5~8mm大のロームブロックを含み、焼土粒を少量含む。
- 2層: 暗褐色土層。ローム粒、5~40mm大のロームブロックを多量に含む。焼土粒を微量含む。
- 3層: 暗褐色土層。ローム粒、5~20mm大のロームブロックをかなり含み、土器粒を微量含む。
- 4層: 暗褐色土層。2層に近いが、ローム粒が少なく、焼土粒をほとんど含まない。

- 5層: 黄褐色土層。ローム粒、60、70mm大のロームブロックを主に、暗褐色土が混入する。

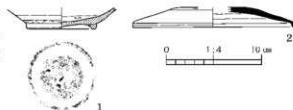
237号住居跡カマド土層注記

- 1層: 暗褐色土層。ローム粒、5~20mm大のロームブロック、焼土粒を含む。
- 2層: 暗褐色土層。暗褐色土と灰白色粘土（もしくはシルト質ローム）の混合土。黄褐色のローム小ブロック、焼土粒、5~15mm大の焼土ブロックを多く含む。しまっている。
- 3層: 暗褐色土層。ローム粒、焼土粒を含む。柔らかで、しまり弱い。
- 4層: 暗褐色土層。暗褐色土と灰白色粘土（もしくはシルト質ローム）の混合土。焼土粒、5~10mm大の焼土ブロックを多量に含む。
- 5層: 暗褐色土層。4層に近いが、粘土が少ない。
- 6層: 暗褐色土層。2層に近いが、粘土が多く、よりしまっている。焼土粒も多い。

第94図 237号住居跡平面・断面図

平面形は、かなり歪な方形に近い形態になるうか。主軸長は4.51m、主軸方位はS-52°-Eである。床面はおおむね平坦であるが、明瞭な硬化面をなさない。南東壁のくぼみは、カマドの残骸である。

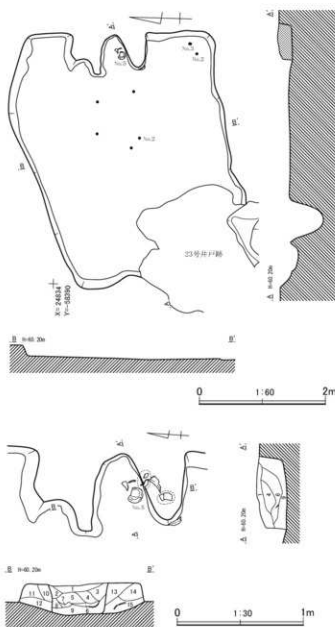
平安時代の住居跡であろうか。



第95図 237号住居跡出土遺物

第49表 237号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・裝飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	灰軸 高台埴	口径 — 台端径 7.0 器高 (2.3)	貼付高台。軸葉は漬け掛け。 ロクロ成形。	外面-ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面-ロクロナデ。内面磨耗。	黒色岩片 内外-灰黄色	底部のみ 完形
2	須恵器 坏蓋	口径 — 端部径(17.0) 器高 (2.1)	ロクロ成形。	外面-ロクロナデ後、天井部回転ケズリ。 内面-ロクロナデ。	白色岩片・石英 内外-灰色	1/5残存



第96図 238号住居跡平面・断面図

238号住居跡カマド土層注記

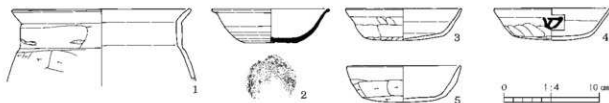
- 1層: 暗褐色土層。やや灰色がかった(灰白色シルトを含む)暗褐色土を主に、ローム粒、焼土粒をかなり含み、ローム小ブロックを微量含む。
- 2層: 暗褐色土層。1層に近いが、ロームが多い。8mm大くらいのロームブロック、土器粒微量含む。
- 3層: 暗褐色土層。1層に近いが、若干シルト多く白みがる。
- 4層: 暗褐色土層。3層に近いが、さらにシルトが多く、全体的に灰褐色みを帯びる。
- 5層: 暗褐色土層。灰白色シルトを多く含み、焼土粒、5~8mm大の焼土ブロック多量を含む。天井崩落土か。
- 6層: 明赤褐色土。焼土ブロック間に、白みがかった暗褐色土が混入する。
- 7層: 暗褐色土層。灰色がかった暗褐色土を主に、ローム粒をモヤモヤ含み、焼土粒を含む。
- 8層: 暗褐色土層。7層に近いが、黒みが弱く、ローム粒、焼土粒が多い。
- 9層: 暗褐色土層。暗褐色土とロームの混合土。焼土粒をほとんど含まない。
- 10層: 暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを含み、灰白色シルトを少量、焼土粒をかなり含む。10~15層は、カマド構築材で、しまっている。
- 11層: 暗褐色土層。1層に近いが、ローム粒が多い。
- 12層: 暗褐色土層。1層に近いが、ローム粒、5~8mm大のロームブロックを含む。焼土粒は、10・11層より少ない。
- 13層: 暗褐色土層。ローム粒を含み、灰白色シルトを全体に少量含む。焼土粒を微量含む。
- 14層: 暗褐色土層。13層に近いが、ローム、シルトともに多い。
- 15層: 褐色土層。暗褐色土、ローム粒、5~30mm大のロームブロックの斑状の混合土。焼土粒、5~8mm大の焼土ブロックを局部的に含む。

238号住居跡（第96・97図、第50表、図版22・38）

調査地点の南東半のほぼ中央で検出した遺構である。23号井戸跡に切られ、237号住居跡を切って造られている。

かなり歪ではあるが、平面形は長方形であろう。主軸長は4.20m、副軸長は3.16m、主軸方位はN-77°-Eである。床面には微妙な凹凸が見られ、硬化も顕著ではない。カマドは東壁のほぼ中央に設けられている。東壁にほぼ直交する掘り込みを有し、低平な袖が付設されている。燃焼面の被熱赤化は軽微である。

主にカマド内、カマド前面などから土師器片がかなりの量出土している。住居形態、出土遺物からみて、平安時代の住居跡と考えられる。



第97図 238号住居跡出土遺物

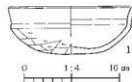
第50表 238号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 18.6 底径 一 器高 (7.6)	口縁部コの字状を呈する。粘土総積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部上位ヨコケズリ。内面-ヨコナデ。	白色岩片、角閃石 外-灰褐色 内-にぶい赤褐色	口縁部破片
2	須恵器 杯	口径 (12.4) 底径 5.4 器高 3.6	口縁部外反する。平底。ロクコ成形。	外面-ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面-ロクロナデ。	石英、白色岩片 内外-灰色	1/3残存
3	杯	口径 12.2 底径 8.1 器高 3.3	口縁部段をもって内彎する。平底。粘土総積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部指押え後、ヨコナデ。底部ケズリ。内面-ヨコナデ。	角閃石、白色岩片 内外-にぶい褐色	2/3残存
4	杯	口径 12.2 底径 8.0 器高 3.4	口縁部段をもって内彎する。平底。粘土総積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部指押え。墨書「田」か。底部ケズリ。内面-ヨコナデ。	角閃石、白色岩片 外-明赤褐色 内-赤褐色	完形
5	杯	口径 12.0 底径 9.0 器高 3.8	口縁部ゆるやかに外反する。平底。粘土総積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ。底部ケズリ。内面-ヨコナデ。	片岩、角閃石、白色岩片 外-にぶい褐色 内-灰褐色	ほぼ完形

239号住居跡（第98・99図、第51表）

調査地点の南東半のほぼ中央で検出した遺構で、240・242号住居跡、23号井戸跡、488号土坑に切られている。

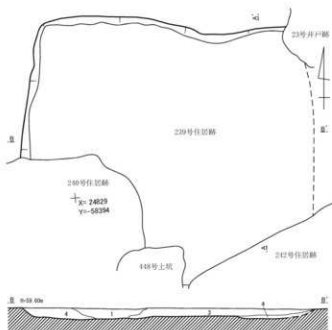
平面形は、方形に近い形態になりそうである。東壁側、南壁側は覆土も浅く、立ち上がりもはっきりしないが、北壁、西壁は立ち上がりも明瞭で、明確に輪郭を捉えることができた。東西方向に主軸を想定するなら、



第98図 239号住居跡出土遺物

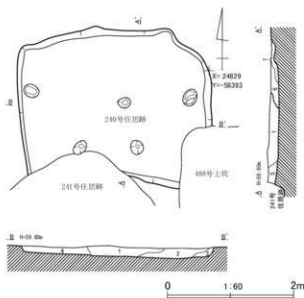
第51表 239号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	杯	口径 (13.0) 底径 3.8 器高 5.0	口縁部はわずかに外反しながら立ち上がる。粘土総積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリか。磨耗顕著。内面-ヨコナデ。	白色、灰色・赤褐色岩片などの細砂 内外-黄灰色	1/3残存 付近確認



239号住居跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒をかなり含み、5～10mm大のロームブロックが点在する。土器粒を微量含む。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、5～10mm大のロームブロックをモヤモヤ斑状に含む。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒、5～20mm大のロームブロックを斑状に含む。ロームはモヤモヤ局在する。
- 4層：暗褐色土層。1層に近いが、ローム粒、ロームブロックが多い。
- 5層：褐色土層。暗褐色土とロームの斑状の混合土。
- 6層：褐色土層。5層に近いが、若干ロームが多い。
- 7層：黄褐色土層。ロームを主に、暗褐色土をモヤモヤ斑状に含む。



240号住居跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを不規則に多量に含む。10～30mm、100mm大のロームブロックも少量含む。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、5～20mm大のロームブロックを雲状に含む。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒を含む。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒を含み、10mm大のロームブロックが点在する。
- 5層：暗褐色土層。1層に近いが、10mm大のロームブロックが水玉状に混入する。
- 6層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、5～10mm大のロームブロックを含む。
- 7層：暗褐色土層。暗褐色土とローム粒、5～60mm大のロームブロックの混合土。

第99図 239・240号住居跡平面・断面図

主軸長は、推定で6.70m、副軸方向での現存長は4.62m、主軸方位は $N-82^{\circ}-E$ である。床面はほぼ平坦であるが、硬化も顕著ではない。覆土から土師器片が少数出土している。古墳時代後期前葉の住居跡であろうか。

240号住居跡（第99図、図版22）

調査地点の南東半の中央、南東寄りで検出した遺構である。241号住居跡、488号土坑に切られ、239号住居跡を切って造られている。平面形は、やや歪な長方形である。東西方向に主軸を考えれば、主軸長は3.04m、副軸長は2.30m、主軸方位はほぼ真東である。床面はほぼ平坦であるが、あまり硬化していない。土師器片が少数出土している。出土遺物からみて、古墳時代の住居跡の可能性はある。

241号住居跡 (第100・102図、第52表、図版23)

調査地点の南東半のほぼ中央、南東縁に接する位置で検出した遺構である。南東半は、G3地点に含まれる。南東壁は失われており、床面も不明瞭になる。

平面形は長方形である。主軸長は4.85m、副軸長は4.26m、主軸方位はN-50°-Eである。床面はほぼ平坦であるが、あまり硬化していない。P1~P4、あるいはP5は、支柱穴であろう。上端は、不整形な円形、楕円形で、深さはP1が24cm、P2が42cm、P3が65cm、P4が10cm、P5が26cmである。カマドは北東壁中央に設けられている。壁とほぼ直交する袖と掘り込みからなり、燃焼面や側壁の被熱赤化は顕著ではない。

覆土から土師器片が少数出土している。古墳時代の住居跡であろう。



242号住居跡 (第101・103図、第53表、図版22・38)

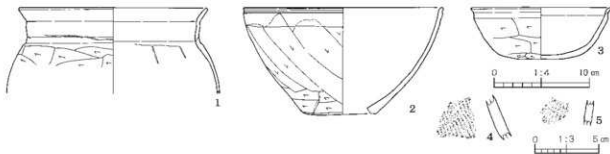
調査地点の南東半、中央やや南東寄りで検出した遺構である。489号土坑に切られ、239号住居跡を切って造られている。

平面形は、かなり歪な長方形である。主軸長は4.02m、副軸長は3.32m、主軸

第100図 241号住居跡出土遺物

第52表 241号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考	
1	壺?	口径 底径 器高	— — —	頸部がゆるやかに立ち上がる器形。	外面-柳箆直線文。下端の線は太く、断面V字形(沈線?)。以下LRの単節縄文。破片上端にナナメの柳歯痕あり。内面-ヨコナデ。	灰色の細かい岩片などの細砂 外-にぶい黄褐色 内-にぶい橙色	弥生時代後期東関東系? S1247-5と同一個体



第101図 242号住居跡出土遺物

第53表 242号住居跡出土遺物観察表

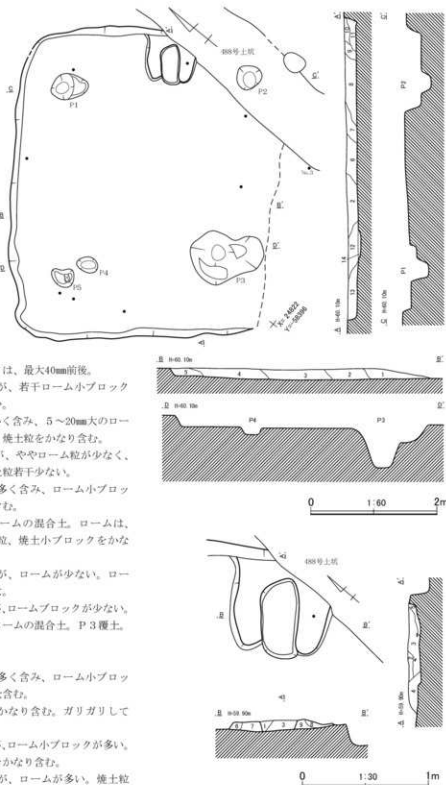
No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考	
1	甕	口径 底径 器高	19.9 — (9.0)	口縁部コの字状を呈する。粘土紐積み上げ成形。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部上位ヨコケズリ。内面-ヨコナデ。	白色岩片、角閃石、石英、橙色岩片 内外-明赤褐色	口縁部へ胴部上位1/5残存
2	甕	口径 底径 器高	20.9 7.7 11.3	口縁部に沈線あり、底部焼成後穿孔。粘土紐積み上げ成形。	外面-体部タテケズリ後、口縁部ヨコナデ。底部ケズリ。内面-ヨコナデ、内外面ヨゴレ。	白色岩片、角閃石 外-にぶい赤褐色 内-橙色	完形
3	鉢	口径 底径 器高	14.6 8.4 5.4	体部と口縁部に稜あり。底部平底。粘土紐積み上げ成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ヨコケズリ。底部ケズリ。内面-ヨコナデ。	白色岩片、角閃石 内外-橙色	1/5残存
4	壺?	口径 底径 器高	— — —	直線的に立ち上がる器形。	外面-付加条縄文。内面-磨耗顕著。	白色・灰色岩片などの砂粒 内外-にぶい橙色	弥生時代後期
5	壺?	口径 底径 器高	— — —	ゆるやかに立ち上がる器形。	外面-RLの単節縄文2段。内面-磨耗顕著。	白色・灰色の岩片などの砂粒 内外-にぶい橙色	弥生時代後期?

241号住居跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、5～30mm大のロームブロックを斑状に多量に含む。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、5～8mm大のロームブロックを多く含む。
- 3層：暗褐色土層。1層に近いが、ローム小ブロック多く、ロームブロックが小さい(5～20mm大)。
- 4層：暗褐色土層。3層に近いが、ローム粒少ない。ブロックは、ローム小ブロックのみ。
- 5層：褐色土層。暗褐色土とローム粒、ローム小ブロックの混合土。
- 6層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを多量に含む。ロームブロックは、最大40mm前後。
- 7層：暗褐色土層。2層に近いが、若干ローム小ブロックが多い。焼土粒を微量含む。
- 8層：暗褐色土層。ローム粒を多く含む、5～20mm大のロームブロックを斑状に含む。焼土粒をかなり含む。
- 9層：暗褐色土層。8層に近いが、ややローム粒が少なく、黒みが強い。8層より焼土粒若干少ない。
- 10層：暗褐色土層。ローム粒を多く含む、ローム小ブロックを少量、焼土粒を微量含む。
- 11層：褐色土層。暗褐色土とロームの混合土。ロームは、やや白みを帯びる。焼土粒、焼土小ブロックをかなり含む。
- 12層：暗褐色土層。6層に近いが、ロームが少ない。ロームブロックは、5～20mm大。
- 13層：暗褐色土層。6層に近いが、ロームブロックが少ない。
- 14層：暗褐色土層。暗褐色土とロームの混合土。P3覆土。

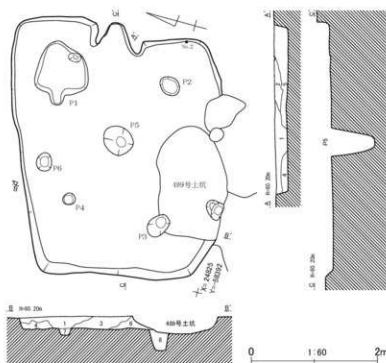
241号住居跡カマド土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒を多く含む、ローム小ブロックを含む。炭化物粒を少量含む。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒をかなり含む。ガリガリしている。
- 3層：暗褐色土層。1層に近いが、ローム小ブロックが多い。焼土粒、焼土小ブロックをかなり含む。
- 4層：暗褐色土層。1層に近いが、ロームが多い。焼土粒微量含む。
- 5層：暗褐色土層。やや黒みの強い暗褐色土を主に、ローム粒、ローム小ブロック、焼土粒を含む。
- 6層：褐色シルト質土。褐色シルト質土(シルトがかったローム)を主に、焼土粒、焼土小ブロックを含む。6～9層は、カマド構築材で、硬くしまっており、粘性もややある。



- 7層：暗褐色土層。暗褐色土と褐色シルト質土を主に、黄褐色のローム粒、ローム小ブロックと焼土粒をかなり含む。
- 8層：褐色シルト質土。6層に近いが、40mm大焼土ブロック含む。
- 9層：暗褐色土層。7層に近いが、ロームブロック、焼土粒少ない。

第102図 241号住居跡平面・断面図

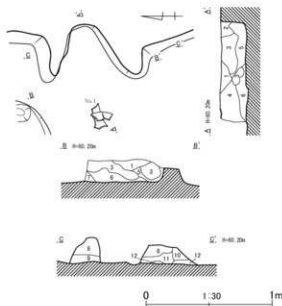


242号住居跡カマド土層注記

- 1層：灰黄褐色土層。暗褐色土と褐灰色シルトの混合土。ロームブロックを微量含む。
- 2層：暗褐色土層。灰色がかった暗褐色土を主に、ローム粒、ローム小ブロックを含む。
- 3層：褐灰色シルト層。褐灰色シルトを主に、暗褐色土をモヤモヤ含み、焼土粒を微量含む。粘性、しまりが強い。天井部崩落土。
- 4層：灰黄褐色土層。1層に近いが、焼土粒、焼土小ブロックが多い。
- 5層：暗褐色土層。灰色がかった暗褐色土を主に、ローム粒、ローム小ブロック、シルト小ブロックを含む。
- 6層：暗褐色土層。5層に近いが、(シルトがかった)ローム小ブロックが少ない。
- 7層：暗褐色土層。6層に近いが、黄褐色のローム粒、ローム小ブロックをかなり含む。
- 8層：灰白色シルト層。くすんだ色調のローム粒、ロームブロックを少量含み、シルト粒、焼土粒、炭化物粒を微量含む。8～13層はカマド構築材であり、粘性、しまりが強い。乾燥するとカチカチになる。
- 9層：褐色土層。暗褐色土とくすんだ色調のロームの混合土。焼土粒を少量含む。
- 10層：褐色土層。9層に近いが、ロームが少ない。
- 11層：暗褐色土層。暗褐色土と灰白シルトの混合土。ローム粒、焼土粒を少量含む。
- 12層：黄褐色土層。11層土とロームがラミナをなす層。

242号住居跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム小ブロックを含む。土器粒(もしくは焼土粒)を微量含む。
- 2層：暗褐色土層。1層に近いが、ローム小ブロックをほとんど含まない。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、5～15mm大のロームブロックを多く含む。ロームは全体的に不規則に混入する。
- 4層：暗褐色土層。1層に近いが、全体的にロームが多く、局部的にローム小ブロック、50、60mm大のロームブロックが密集する。
- 5層：暗褐色土層。2層に近いが、ローム粒が若干多く、焼土粒が多い。右半には、灰白シルト粒を点々と含む。
- 6層：暗褐色土層。ローム粒を含む。
- 7層：暗褐色土層。やや黒みの強い暗褐色土を主に、ローム粒、ローム小ブロックを斑状に含む。
- 8層：暗褐色土層。ローム粒、5～10mm大のロームブロックを斑状に含む。



第103図 242号住居跡平面・断面図

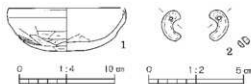
方位はN-73°-Eである。床面には微妙な凹凸が見られ、あまり硬化していない。図示したように、床面でピットを確認しているが、いずれも柱穴とするには問題が残る。カマドは東壁のほぼ中央にある。東壁にほぼ直交する浅い掘り込みを有し、低平で短い袖が残っている。焼面面の被熱赤化は軽微である。

覆土中から土師器片がかなりの量出土している。住居形態、出土遺物からみて、平安時代の住居跡であろう。

243号住居跡（第104・105図、第54表、図版38）

調査地点の南東半、南寄りの中央で検出した遺構で、245号住居跡、495号土坑により切られている。

平面形は長方形になるろうか。カマドを南東壁に想定すると、現存長は、主軸方向で4.79m、副軸方向で2.90m、主軸方位はS-46°-Eになる。床面にはやや凹凸があり、硬化も明瞭ではない。P1・P2は柱穴の可能性のあるピットである。上端は不整な楕円形で、深さは、P1が19cm、P2が19cmである。覆土中から少数土師器片が少数出土している。出土遺物からみて、古墳時代終末期の住居跡の可能性はある。



第104図 243号住居跡出土遺物

第54表 243号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	素材・胎土・色調	備考		
1	坏	口径 12.2 底径 1.2 器高 (4.5)	口縁部～体部は丸みをもって立ち上がる。粘土組織の上げによる成形。	外面～口縁部～体部上半ヨコナデ、体部下半～底面へラケズリ。体部下半～底面に数条の断面V字形の深い切り込み。刃物の研磨具として再利用されている。内面～ヨコナデ。	白色・灰色・赤褐色 色岩片、雲母片などの大小砂粒 内外～橙色	口縁部～体部下半の一部、体部下半以下残存		
No.	器種	石材	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
2	石製勾玉	蛇紋岩	完形	1.6		0.6	1.0	研磨仕上げ

244号住居跡（第105・107図、第55表、図版23・38）

調査地点の南東半、南西縁寄りで検出した。245号住居跡を東壁側で切り、24号井戸跡、494号土坑により切れ、南北壁のみ残存する。南北方向での現存長は、3.05mである。床面はほぼ平坦であるが、あまり硬化していない。覆土中から少数土師器片が少数出土している。出土遺物からみて、奈良時代の住居跡の可能性はある。

245号住居跡（第105・106・108図、第56・57表、図版24・39）

調査地点の南東半、南寄りの中央で検出した遺構である。244号住居跡、495・500・501号土坑に切られ、243号住居跡を切って造られている。

平面形は、やや歪な方形である。主軸長は、現存値で5.05m、副軸長は5.10m、主軸方位はN-74°-Eである。床面はほぼ平坦であり、中央を中心に硬化している。P1・P2は、主柱穴の可能性のあるピットである。上端はやや不整な円形で、深さは、P1が26cm、P2が23cmである。カマドは、東壁の中央、南に若干ずれた位置に設けられている。焼部部の奥壁を、時期の新しいピットにより壊

243～245号住居跡土層記

1層：暗褐色土層。5mm以下のローム小ブロックを不均質に少量含み、焼土粒を微量含む。1～7層は、244号住居跡覆土。

2層：暗褐色土層。若干赤みを帯びた暗褐色土を主に、5～20mm大のロームブロック（5mm大が主）をやや多量に含む。焼土粒を微量含むが、1層よりは多い。粘性がややある。

3層：黒褐色土層。やや明るい色調の黒褐色土を主に、5mm大前後のローム小ブロックをやや多量に、20、30mm大のロームブロックをまばらに含む。焼土粒、焼土小ブロックを微量含む。粘性やや強い。

4層：暗黄褐色土層。不整形の黒褐色粘質土ブロックを少量含み、ローム粒、ローム小ブロックを多量に含む。焼土粒が下部に少量局在する。

5層：暗褐色土層。ローム小ブロックが少量上部に集中する。粘性がややある。

6層：暗褐色土層。ローム小ブロックを微量含む。しまっている。

7層：暗褐色土層。不整形のロームブロックをやや多量に含む。

8層：暗褐色土層。ローム粒、5～10mm大のロームブロックを含み、焼土粒を微量含む。8～11層は、245号住居跡覆土。

9層：暗褐色土層。やや黒みのある暗褐色土を主に、5～70、80mm大のロームブロック（5mm大が主、大きいブロックは不整形）を多量に含む。

10層：暗黄褐色土層。ローム粒を多量に含む。

11層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、10mm大のロームブロックを局部的に含む。焼土粒、炭化物粒を微量含む。

12層：暗褐色土層。ローム粒をやや多量に、炭化物粒を微量含む。12・13層は、243号住居跡覆土。

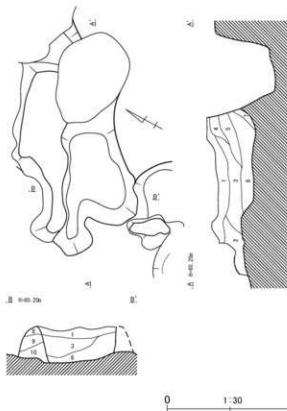
13層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、崩落ロームブロックを含む。



245号住居跡貯蔵穴土層記

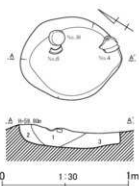
- 1層：暗黄褐色土。ローム粒を多量に含む。
- 2層：暗褐色土層。20mm大の黒色土ブロックを微量、不整形のロームブロックをやや多量に含む。
- 3層：暗黄褐色土。1層に近いが、やや黄色みを帯びる。局部的に黒色土がブロック状にまとまる。

第105図 243～245号住居跡平面・断面図



245号住居跡カマド土層注記

- 1層：暗褐色土層。暗褐色土と崩落粘土の混合土。粘性がややある。
- 2層：暗褐色土層。濁った灰白色粘土の大きなブロックを含む。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒、焼土粒を少量含む。粘性がややある。
- 4層：暗褐色土層。暗い色調の暗褐色土を主に、ローム粒少量含む。
- 5層：暗褐色土層。不整形なロームブロックを含む。
- 6層：暗黄褐色土層。ロームを極めて多く含む。焼土粒はほとんど見られない。6・7層はカマド掘り方土の可能性もある。
- 7層：暗褐色土層。ローム粒を少量含む。
- 8層：灰白色粘土層。焼土粒微量含む。8～10層はカマド構築材。
- 9層：暗褐色土層。灰白色粘土粒を微量、30mm大の焼土ブロックを多量に含む。
- 10層：暗褐色土層。10mm大の灰白色粘土ブロック、焼土粒を含む。



第106図 245号住居跡カマド・貯蔵穴平面・断面図

されている。袖は残り具合が悪く、左袖のみ残存する。燃焼面の掘り込みはしっかりしており、被熱赤化も顕著である。貯蔵穴は、カマドの右脇で検出した。上端はほぼ円形で、深さは20cmである。

カマド左袖の脇、燃焼部全面から貯蔵穴にかけての床面～覆土中・下層から、土師器坏・甕、須恵器片が散乱するような状態で出土している。また覆土中からも多量の土師器片などが出土している。

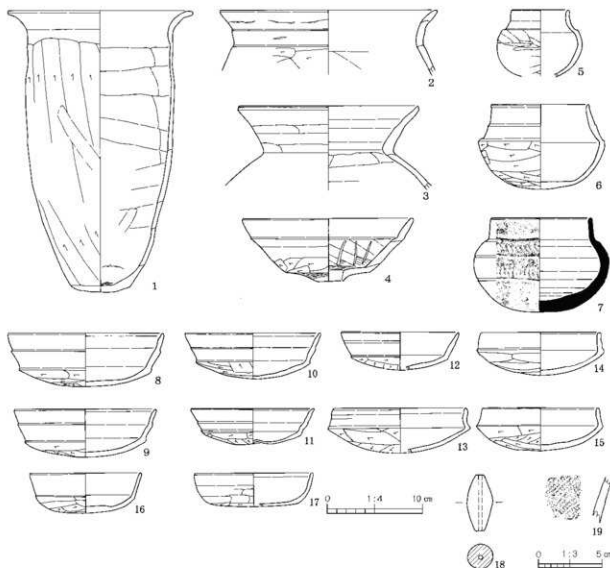
他時期の住居跡と重複関係にあることから出土遺物にはかなり時期幅があるが、住居跡形態、主な出土遺物からみて、古墳時代後期後葉の住居跡と考えられる。



第107図 244号住居跡出土遺物

第55表 244号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・裝飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 16.8 底径 — 器高 (4.6)	口縁部と体部の境に微稜がある。粘土組織み上げ成形。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。 内面—ヨコナデ。	角閃石、白色岩片、石英 内外面—褐色	1/5残存
2	坏	口径 11.7 底径 — 器高 3.1	底部丸底。粘土組織み上げ成形。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。 内面—ヨコナデ。	角閃石、白色・褐色岩片 外面—にぶい赤褐色 内面—明赤褐色	完形
3	坏	口径 12.0 底径 — 器高 3.4	口縁部と体部の境に微稜がある。底部丸底。粘土組織み上げ成形。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヨコナデ リ後、上位ヨコナデ。内面—ヨコナデ。	角閃石、白色岩片、石英 内外面—褐色	ほぼ完形



第108図 245号住居跡出土遺物

第56表 245号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 19.3 底径 6.2 器高 (29.8)	口縁部外反する。長胴。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナゲ、胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面-ヨコナゲ。外面胴部に黒斑。	石英、白色岩片などの大小砂粒・小礫多量 内外-灰黄褐色	園上復元 1/3残存
2	甕	口径 23.0 底径 — 器高 (6.8)	口縁部コの字状を呈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナゲ、胴部ヨコケズリ。内面-ヨコナゲ。	石英、角閃石などの大小砂粒・小礫多量 外-にぶい褐色 内-にぶい赤褐色	口縁部破片
3	壺	口径 19.0 底径 — 器高 (8.8)	口縁部外反する。粘土紐積み上げ後ロクロ成形。	外面-口縁部ロクロナゲ後、ヨコナゲ。内面-口縁部ロクロナゲ、胴部上位ヨコナゲ。	角閃石、白色岩片 内外-明赤褐色	口縁部へ胴部上位 1/2残存
4	高坏	口径 17.9 底径 — 器高 (6.6)	口縁部に段をもつ。脚部欠損。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナゲ、体部ケズリ後、部分的にヨコミガキ。黒斑。内面-口縁部ヨコナゲ、体部ナメハケ後、放射状にミガキ。	角閃石、白色岩片 内外-にぶい褐色	坏部のみ 1/3残存
5	小形鉢	口径 6.0 底径 — 器高 (7.0)	有段口縁部。球胴。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナゲ。胴部ナゲ後、中位ヨコミガキ。内面-ヨコナゲ。内外面胴部に黒斑。	角閃石、白色岩片 内外-にぶい黄褐色	1/4残存
6	鉢	口径 10.3 底径 9.0 器高 —	有段口縁。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナゲ。体部ケズリ。黒斑。内面-ヨコナゲ。	白色岩片、角閃石 外-灰黄褐色 内-明赤褐色	完形

第57表 245号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
7	須恵器短頸壺	口径 底径 器高 (10.5) — 9.9	口縁部直立する。球胴。口口成形。	外面-口縁部ロクロナデ。胴部上半横位二条沈線。沈線間縮歯状工具による細かい刺突文。下半ロクロナデ後、ナデ。薄い自然軸。内面-ロクロナデ。	黒色岩片 内外-灰白色	1/2残存
8	坏	口径 底径 器高 14.0 — 5.6	有段口縁。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。内面-ヨコナデ。内外面口縁部に黒斑。	角閃石、白色岩片、石英 内外-灰褐色	完形
9	坏	口径 底径 器高 14.9 — 5.0	有段口縁。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。内面-ヨコナデ。	白色岩片、角閃石、石英 内外-黒褐色	完形
10	坏	口径 底径 器高 14.3 — 4.8	有段口縁。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。内面-ヨコナデ。	石英、白色岩片、角閃石 内外-黒褐色	完形
11	坏	口径 底径 器高 13.0 — 3.8	有段口縁。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。内面-ヨコナデ。	白色岩片、角閃石、片岩 内外-灰黄褐色	ほぼ完形
12	坏	口径 底径 器高 12.4 — 4.0	有段口縁。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。内面-ヨコナデ。内外口縁部に剝離あり。	白色岩片、角閃石、石英 内外-ぶい赤褐色	3/4残存
13	坏	口径 底径 器高 13.9 — 4.7	内彎する有段口縁。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。内面-ヨコナデ。	角閃石、白色岩片 外-黒色 内-黒褐色	3/4残存
14	坏	口径 底径 器高 12.5 — 4.5	口縁部内彎する。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。体部に黒斑。内面-ヨコナデ。内外器面の剝離顕著。	白色岩片、角閃石 外-明赤褐色 内-橙色	完形
15	坏	口径 底径 器高 12.2 — 4.6	口縁部内彎する。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。内面-ヨコナデ。	角閃石、白色岩片 外-灰黄褐色 内-ぶい赤褐色	4/5残存
16	坏	口径 底径 器高 11.7 — 4.2	口縁部外反する。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。内面-ヨコナデ。	白色岩片、赤色岩片、石英 内外-黄褐色	完形
17	坏	口径 底径 器高 12.4 10.0 3.5	口縁部やや内彎する。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。内面-ヨコナデ。	白色岩片・角閃石 内外-ぶい橙褐色	1/5残存
18	土鉢	長さ 軸 厚さ 4.5 2.1 0.7	手捏ね成形。	指ナデ。黒斑あり。	白色岩片、角閃石 内外-ぶい橙褐色	完形
19	深鉢	口径 底径 器高 — — —	ゆるやかに立ち上がる器形。	外面-IRの単節縄文(あるいは付加条2段。内面-ヨコナデ。	細砂多量、微量の雲母細片 外-ぶい橙褐色 内-灰褐色	縄文前期?

246号住居跡(第109図、図版24)

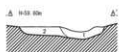
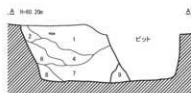
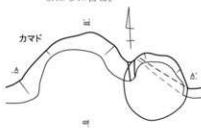
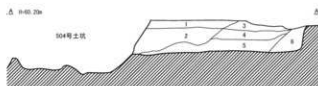
調査地点の南縁に接して検出した遺構で、カマドおよびその周辺のみ残存する。25号井戸跡、502～504号土坑に切られている。

平面形は方形に近い形態になろうか。現存値になるが、主軸方向での長さは1.75m、副軸方向での長さは3.35m、主軸方位はN-3°-Eあたりになる。床面は平坦であるが、硬化は顕著ではない。カマドは、北壁のほぼ中央にあったようである。北壁を丸く掘り込んで燃焼部が設けられ、袖は痕跡的である。燃焼面、側壁の被熱赤化も軽微である。貯蔵穴は、カマドの右脇で検出した。上端はやや不整な方形に近い形態で、深さは10cm前後である。

主に覆土中から、土師器細片などがかなりの量出土している。出土遺物から見て、古墳時代の住居跡の可能性はある。

246号住居跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。10mm大のロームブロックを多量に、焼土粒を少量含む。
- 2層：褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロックを極めて多量に、黒色土ブロックを多量に含む。焼土粒をまばらに少量含む。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒、5mm大以下のローム小ブロックを多量に、焼土粒を少量含む。
- 5層：暗褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロックを多量に、焼土小ブロックを少量含む。
- 6層：暗褐色土層。不整形のロームブロックをまばらに含む。



0 1:60 2m

246号住居跡貯蔵穴土層注記

- 1層：暗黄褐色土層。ロームブロックを多量に含み、10mm大の焼土ブロックを少量含む。
- 2層：暗褐色土層。1層に近いが、ロームブロックがやや少なく、焼土ブロックはより多い。

246号住居跡カマド土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、焼土粒を均質にやや多量に含み、炭化物粒を微量含む。粘性がややある。
- 2層：暗褐色土層。ローム小ブロックを含み、焼土粒を微量含む。1層より粘性が強い。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒を少量、焼土粒、焼土小ブロックを多量に含む。粘性がややある。
- 4層：黄灰白色土層。黄灰白色粘質土を主に、ローム粒、焼土粒を多量に含む。粘性がある。
- 5層：黄褐色土層：ロームを主に、黒褐色土をモヤモヤ少

量含む。

- 6層：暗黄褐色土層。ロームと黄灰白色粘質土との混合土。焼土小ブロックを含む。粘性がある。
- 7層：暗褐色土層。5～10mm大のロームブロックを斑点状に多量に含む。粘性がある。
- 8層：暗褐色土層。崩落したロームブロックを含み、焼土小ブロックを少量含む。粘性がある。
- 9層：暗褐色土層。8層に近いが、ロームが多い。カマド袖の残存部分。しまっている。

第109図 246号住居跡平面・断面図

247号住居跡 (第110・111図、第58表、図版24・39)

調査地点の南東端近く、北東縁寄りで検出した遺構で、掘り方のみ残存する住居跡である。499号土坑に切られている。

平面形は方形に近い形態になろうか。東壁の中央の出っ張りは、カマドの掘り方になる可能性があり、主軸の方向をこの方向に想定しておく。主軸方向での現存長は4.86m、副軸方向での長さは4.51m、主軸方位はN-73°Eである。中央部を掘り残す、よくある造作で、下面には凹凸が著しい。

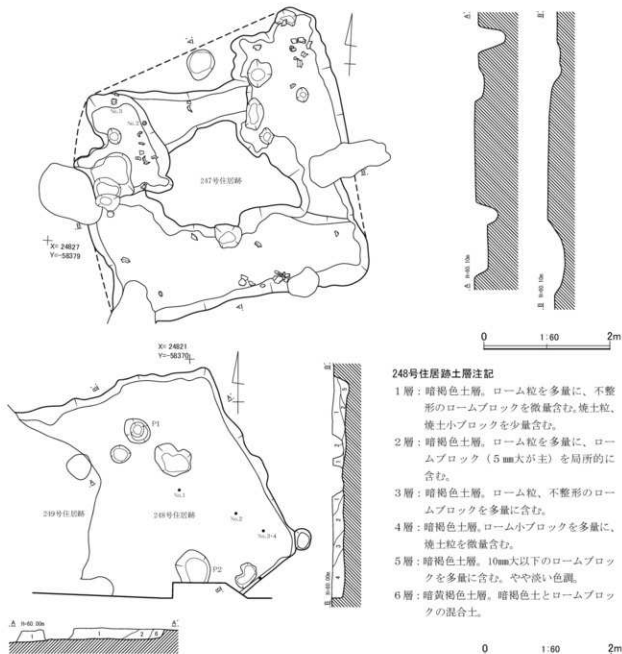
掘り方埋土から土師器片がかなりの量出土遺物から出土している。出土遺物からみて、平安時代の住居跡であろうか。

248号住居跡（第110・112図、第59表、図版25・39）

調査地点の南縁に接する位置で検出した遺構で、249号住居跡に切られている。

平面形は方形、ないしは長方形になるうか。現存長は、南北方向で3.78m、東西方向で3.07mである。床面はあまり硬化しておらず、凹凸がみられる。P1・P2は、支柱穴の可能性があり、深さは、P1が38cm、P2が36cmである。

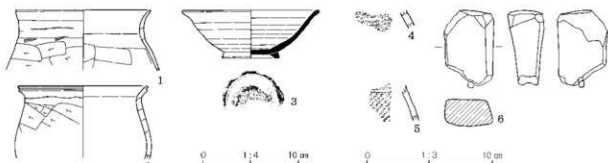
覆土中から土師器片が少数出土している。出土遺物から、平安時代の住居跡と考えられる。



248号住居跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、不整形のロームブロックを微量含む。焼土粒、焼土小ブロックを少量含む。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、ロームブロック（5mm大が主）を局部的に含む。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒、不整形のロームブロックを微量に含む。
- 4層：暗褐色土層。ローム小ブロックを多量に、焼土粒を微量含む。
- 5層：暗褐色土層。10mm以下のロームブロックを多量に含む。やや淡い色調。
- 6層：暗黄褐色土層。暗褐色土とロームブロックの混合土。

第110図 247・248号住居跡平面・断面図



第111図 247号住居跡出土遺物

第58表 247号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴			胎土・色調	備考
				幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
1	甕	口径 14.3 底径 6.4 器高 (—)	口縁部はややコの字状を呈する。粘土組織み上げ成形。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ工具のあたり顕著。胴部上位ヨコナデ。内面—ヨコナデ。			角閃石、白色岩片、石英 外—にぶい黄褐色 内—赤褐色	口縁部～胴部上位 4/5残存
2	甕	口径 13.6 底径 7.6 器高 (—)	口縁部に沈線あり。粘土組織み上げ成形。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位ヨコナデ、煤付着。内面—ヨコナデ。			白色岩片、角閃石、石英 外—にぶい褐色 内面—明赤褐色	口縁部～胴部上位 1/5残存
3	頸直器 高台環	口径 14.3 台端径 6.0 器高 5.1	口縁部外反する。ロクロ成形。	外面—回転ナデ。底部回転糸切り後高台貼付。内面—回転ナデ。内外面に黒斑。還元不良。			石英、片岩、白色岩片、角閃石 外—にぶい黄褐色 内面—黒褐色	1/5残存
4	甕	口径 底径 器高 (—)	ゆるやかな丸みをもった器形。	外面—6本一単位くらいの振幅の短い櫛歯状文2段以上。内面—ヨコナデ。			細砂 外—黒褐色 内—にぶい黄褐色	櫛式
5	甗?	口径 底径 器高 (—)	頸部がゆるやかに立ち上がる器形。	外面—4本以上一単位の櫛歯直線文。下縁の線は太く、断面V字形。以下LRの単節調文。内面—ヨコナデ。			灰色の細かい岩片 外—にぶい黄褐色 内—にぶい褐色	弥生時代 後期東関東系? 第100図1と同一
No.	器種	石材	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
6	砥石	流紋岩	1/3	(6.0)	(3.9)	(2.1)	71.56	中央に孔あり。全面良く磨耗する。



第112図 248号住居跡出土遺物

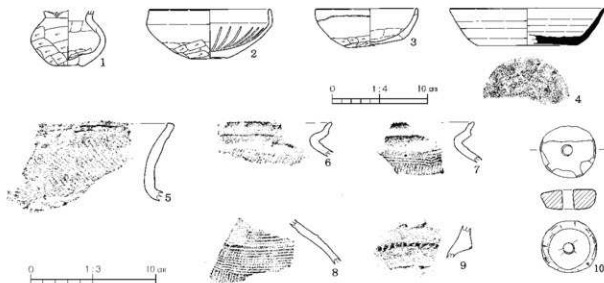
第59表 248号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴			胎土・色調	備考
				幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
1	小形鉢	口径 8.2 底径 5.7 器高 (—)	口縁部屈曲顕著に直立。粘土組織み上げ成形。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ。内面—ヨコナデ。			角閃石、胎土のキメ細かい 内外—にぶい褐色	口縁部～胴部上半 1/4残存
2	環	口径 13.2 底径 4.5 器高 (—)	口縁部屈曲をもって内湾する。底部丸底。粘土組織み上げ成形。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヨコナデ。内面—ヨコナデ。			白色岩片、角閃石、石英 内外面—にぶい赤褐色	1/2残存
3	環	口径 12.6 底径 10.1 器高 3.4	口縁部屈曲はゆるく立ち上がる。底部平底。粘土組織み上げ成形。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヨコナデ後、底部ケズリ。内面—ヨコナデ。内外面に黒斑。			白色岩片、角閃石、石英 外—にぶい黄褐色 内面—灰黄褐色	4/5残存
4	環	口径 12.0 底径 10.2 器高 3.0	口縁部やや内湾する。底部平底。粘土組織み上げ成形。	外面—口縁部ヨコナデ後、底部ケズリ。内面—ヨコナデ。			角閃石、白色岩片、石英 内外面—にぶい褐色	完形

249号住居跡 (第113・114図、第60表、図版25・39)

調査地点の南縁に接する位置で検出した遺構で、248号住居跡を切って造られている。

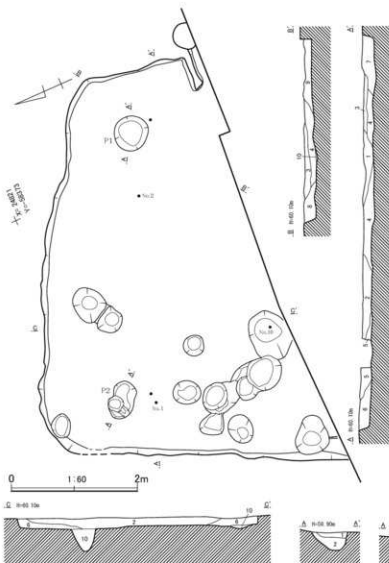
平面形は方形であろう。主軸長は6.21m、副軸長は、現存値で4.00m、主軸方位はS-66°-Eである。床面はおおむね平坦で、中央を中心に硬化している。P1・P2は支柱穴であろうか。上端は、P1



第113図 249号住居跡出土遺物

第60表 249号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法的特徴	調整・裝飾手法的特徴	胎土・色調	備考		
1	埴	口径 底径 器高 — 3.2 (5.8)	胴部最大径を中位にもつ。 粘土組織み上げ成形。	外面-胴部ナデ後、ヨコケズリ。底部ケズリ、ナデ。内面-ナデ。頸部焼成後、穿孔1箇所。	白色岩片、角閃石 内外面-明赤褐色	胴部のみ 完形		
2	坏	口径 底径 器高 12.7 3.7 5.2	口縁部屈曲して内嚙。底部 小さい。粘土組織み上げ成 形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ後、 下位ヨコケズリ。底部ケズリ。内面- ヨコナデ後、放射状のミガキ。	白色岩片、角閃石 内外面-明赤褐色	ほぼ完形		
3	坏	口径 底径 器高 10.8 5.9 4.1	口縁部やや内湾する。底部 不整形。粘土組織み上げ成 形。口ロ口成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部下方から 底部ケズリ。底部に黒斑。内面-ヨコ ナデ。	角閃石、白色岩片 内外面-にぶい橙 色	1/3残存		
4	須恵器 坏	口径 底径 器高 16.5 10.4 3.9	口縁部直線的に開く。底部 平底。口ロ口成形。	外面-回転ナデ。底部回転ヘラケズリ。 内面-回転ナデ。還元焼成。	海綿状骨針、石英、 白色岩片 内外面-灰白色	1/4残存		
5	甕	口径 底径 器高 — — —	外反し立ち上がる短い口縁 部。	外面-肩部付近ヨコナデ。以下ナメ の粗いハケ。内面-口縁部ヨコハケ、 頸部ナメ、ヨコのナデ。	白色・灰色・黒色 岩片、雲母片など の大小砂粒多量 内外-褐色	直口蓋の 一種		
6	甕	口径 底径 器高 — — —	屈曲する口縁部。	外面-口縁部ヨコナデ。以下ナメの ハケ後、ヨコハケ。内面-指押さえ、 ヨコナデ。	白色・灰色・黒色 岩片、雲母片など の大小砂粒 内外-褐色	S字甕		
7	甕	口径 底径 器高 — — —	屈曲する口縁部。	外面-口縁部ヨコナデ。以下ナメの ハケ。内面-指押さえ、ヨコナデ。	白色・灰色・黒色 岩片、雲母片など の大小砂粒、小礫 内外-にぶい赤褐 色	S字甕		
8	甕	口径 底径 器高 — — —	わずかに丸みをもち、内傾 する肩部。	外面-タテ、ナメのハケ後、ヨコハケ。 内面-指押さえ、ナメのナデ。	白色・灰色の岩片、 雲母片などの大小 砂粒 内外-褐色	S字甕 P-3		
9	壺	口径 底径 器高 — — —	屈曲し、直立する形態の口 縁部。	外面-ヨコ、ナメのナデ。屈曲部に 刻目。内面-ヨコ、ナメのナデ。	白色岩片、雲母片 などの砂粒 内外-褐色	二重口縁 壺		
No.	器種	石材	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
10	紡錘車	滑石	ほぼ完形	4.4	1.4	1.6	43.64	加工痕あり。



249号住居跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを少量含む。重複する土坑覆土の可能性もある。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを均質に少量含む、所々不整形のロームブロックを含む。
- 3層：暗褐色土層。混入物が少ない。粘性がややある。
- 4層：暗褐色土層。不整形で輪郭のはっきりしたロームブロック（40mm大の以下）を多量に、焼土粒を微量含む。
- 5層：暗褐色土層。ローム粒を少量、焼土小ブロック、炭化物をまばらに含む。
- 6層：暗褐色土層。4層に近いが、輪郭の不明確なロームブロックが多い。
- 7層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、焼土小ブロック、炭化物粒を少量含む。全層中、最も粘性がある。
- 8層：暗褐色土層。ローム粒を少量、焼土粒をごく微量含む。
- 9層：暗褐色土層。ローム粒を多量に含む。
- 10層：暗褐色土層。ローム粒、ロームブロックを含む。

249号住居跡カマド土層注記

- 1層：暗褐色土層。ロームブロック（40mm大以下）を均質に多量に含む。粘性がややある。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、黄白色粘土ブロック（5mm以下）、焼土粒を少量含む。粘性がややある。
- 3層：暗褐色土層。暗褐色土と黄白色粘土の混合土。ロームブロック、焼土小ブロックを含む。カマド覆土の全層中、最も粘土を多く含み、粘性に富む。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、焼土粒を少量含む。粘性がある。

- 5層：暗褐色土層。ロームブロック、焼土小ブロックを多量に、黄白色粘土を少量含む。粘性がある。
- 6層：褐色土層。ロームブロックを主に、黒褐色土を含む。
- 7層：暗褐色土層。黄白色粘土を含む。7～9層は、カマド構築材。
- 8層：暗褐色土層。暗褐色土と黄白色粘土の混合土。
- 9層：暗褐色土層。8層に近いが、焼土粒をまばらに含む。

249号住居跡P1土層注記

- 1層：暗褐色土層。10mm以下のロームブロックを少量含む。
- 2層：暗褐色土層。10～20mm大のロームブロックを多量に含む。とくにロームブロックは、上部に集中する。

249号住居跡P2土層注記

- 1層：暗褐色土層。不整形のロームブロックを含む。
- 2層：暗褐色土層。暗褐色土と崩落ロームの混合土。
- 3層：黄褐色土層。ロームを主に、暗褐色土を少量含む。

第114図 249号住居跡平面・断面図

がやや不整な楕円形、P2は円形で、深さは、P1が32cm、P2が30cmである。カマドは、南東壁の調査範囲の端で検出した。ほぼ南東壁に直交し、細長い袖が付き、燃焼部も奥行きがある。燃焼面の側壁は赤化している。

主に覆土中から、土師器片などがかなりの量出土している。住居形態、床面～覆土下層から出土している遺物からみて、古墳時代後期前葉の住居跡と考えられる。

250号住居跡（第115・116・119図、第61・62表、図版25・26・39）

調査地点の南東端、北東縁に接して検出した遺構である。本遺跡G1・G3地点、北堀新田遺跡A2地点の3地点にまたがっている。251・252号住居跡により遺構の南半を壊され、89号溝に北東隅を切られ、西壁で499号土坑と接している。全体的に残存状態は良好ではなく、覆土も浅い。

平面形は方形である。炉跡が遺存していないため、一応251号住居跡に炉跡が壊されたと考え、したがって、東壁が奥壁になるとみて記載する。ただし、形態的には南北軸とした方がすわりがよく、また、使用の痕跡がごく微弱な炉跡がままだと見られ、炉跡のない住居跡がないではない時期でもあり、北壁が奥壁となる可能性も残しておく。主軸長は8.75m、副軸長は8.48m、主軸方位はN-74°-Wである。床面には微妙な凹凸が見られ、硬化も顕著ではない。P1・P2は、主柱穴であろう。ともに上端はやや不整な楕円形で、深さは、P1が62cm、P2が59cmである。残りの主柱穴は、丁度251号住居跡のカマド、252号住居跡の貯蔵穴の位置に当たり、2つとも壊された可能性がある。また、251号住居跡のP1としたビットは、南壁の中央近くにあり、本住居跡に伴うものかもしれない。

北半部を中心に、かなりの量の半完形の土師器や土師器片などが出土している。P2内からは、壺口縁部（第119図8）が出土している。床面に密着する遺物はほとんど見られず、大半は床面よりかなり浮いた状態であった。出土遺物からみて、古墳時代前期末葉の住居跡と考えられる。なお、出土遺物の一部については、G3地点の報告書にて報告する。

251号住居跡（第115～117・120図、第63・64表、図版27・39）

調査地点の南東端近くで検出した遺構である。252号住居跡に切られ、250号住居跡を切って造られている。

平面形は西壁側が広い台形に近い形態である。主軸長は4.38m、副軸長は4.27m、主軸方位はN-83°-Eである。床面にはやや凹凸があり、硬化の度合いは弱い。床面で4つのビットを検出しているが、いずれも柱穴とは考えにくい。カマドは、東壁中央に設けられている。東壁にほぼ直交する掘り込みを有し、両袖が付設されている。被熱赤化は、燃焼面や側壁の一部にしか見られない。

土師器片、須恵器片が床面の中央を中心に、いずれも床面よりかなり浮いた状態で出土している。出土遺物からみて、古墳時代後期後葉～終末期の住居跡と考えられる。

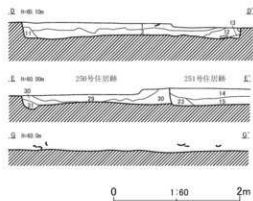
252号住居跡（第115～118・121図、第65表、図版27・40）

調査地点の南東端近くで検出した遺構で、250・251号住居跡を切っている。

平面形は長方形である。主軸長は5.74m、副軸長は3.51m、主軸方位はN-73°-Eである。床面にはやや凹凸があり、中央のみ硬化している。カマドは、東壁中央、やや南に寄った位置に設けられ



第115图 250~252号住居跡平面·断面图(1)



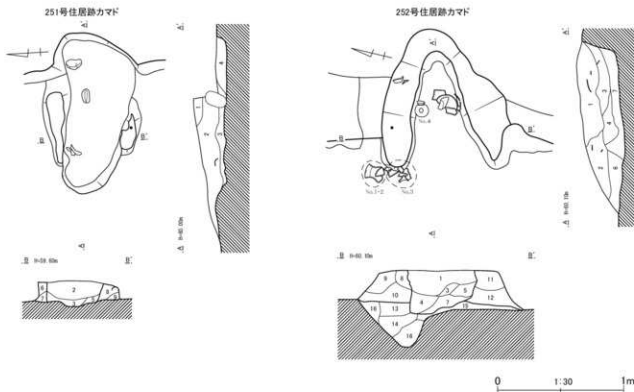
250～252号住居跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。やや赤みを帯びた暗褐色土を主に、ローム粒、5～10mm大のロームブロックを均質に少量、焼土粒を微量含む。1～13層は、252号住居跡覆土。
- 2層：暗褐色土層。不整形のロームブロックを多量に含む。しまっており、上面は著しく硬化している。
- 3層：暗褐色土層。ベースの暗褐色土は、1層同様やや赤みを帯びる。ローム粒、30mm大以下のロームを含む。ロームは、均質ではなく焼土粒を少量偏在する。焼土粒を少量、炭化物粒をかなり多く含む。部分的に20mm大の炭化物を含む。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、10mm大のロームブロック、炭化物粒を微量、焼土粒を少量含む。粘性ややあり、しまっている。4～7層には、カマドの崩落土が混入しているためか、粘性が強い。
- 5層：暗褐色土層。ローム小ブロックを多量に、10mm大以下の焼土ブロック、炭化物粒をまばらに少量含む。部分的に10～20mm大の炭化物を含む。粘性あり、しまっている。
- 6層：暗褐色土層。ローム小ブロックを多量に、10mm大以下の焼土ブロックを少量含む。5層に似るが、ロームと焼土が多い。粘性あり、しまっている。
- 7層：暗褐色土層。5mm大を主とするロームブロックを多量に含む。粘性がある。
- 8層：暗褐色土層。ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。堅固にローム小ブロックが混入する。
- 9層：暗褐色土層。5～30mm大(10mm大が主)のロームブロックをやや多く含む。
- 10層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを多量に含む。
- 11層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、ローム小ブロックを少量、炭化物粒を微量含む。
- 12層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、10mm大のロームブ

クを局部的に含む。焼土粒を微量含む。垂木かと思われる炭化材を含む。

- 13層：暗褐色土層。8層に近いが、不整形なロームブロックが目立つ。
- 14層：暗褐色土層。ローム粒を少量、局部的に不整形なロームブロックを含む。焼土粒を微量含む。14～24層は、251号住居跡覆土。
- 15層：暗褐色土層。14層に比し、全体に色調が暗い、ローム粒、10mm大以下のロームブロックを多量に含む。焼土粒は微量ながら、2層より多い。
- 16層：暗褐色土層。ローム粒をごく微量含む。
- 17層：暗褐色土層。不整形のロームブロックを多量に含む。
- 18層：暗褐色土層。ローム小ブロックを少量、焼土粒を微量含む。局部的に不整形のロームブロックが混入する。
- 19層：暗褐色土層。ローム粒を多量に含む。
- 20層：暗褐色土層。19層に近いが、黒みが強く、ローム小ブロックを含む。
- 21層：暗褐色土層。ローム粒、5mm以下のローム小ブロックを不均質に含む。
- 22層：暗褐色土層。40mm大のロームブロックを局部的に含む。
- 23層：暗褐色土層。5～10mm大のロームブロックを少量含む。
- 24層：暗褐色土層。ローム粒、ロームブロックを含む。
- 25層：暗褐色土層。ローム粒、5～30mm大のロームブロックを含ロームの量は、局部的に異なり、多寡がある。やや淡い色調の黒褐色土ブロックを不規則に含む。25～37層は、250号住居跡覆土。
- 26層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを含む。
- 27層：暗褐色土層。ローム粒を多量に含み、5～8mm大のロームブロックが点在する。焼土粒、焼土ブロックを微量含む。
- 28層：暗褐色土層。ローム粒、5～40mm大のロームブロックを斑状に多量に含む。
- 29層：暗褐色土層。5～10mm大のロームブロックを少量、焼土粒を微量含む。
- 30層：暗褐色土層。ローム粒を含み、5～10、30mm大のロームブロックを少量含む。
- 31層：暗褐色土層。5～20mm大のロームブロックを少量含む。
- 32層：暗褐色土層。ローム粒を多く含み、5～8mm大のロームブロックを少量含む。32～34層は、P1覆土。
- 33層：暗褐色土層。暗褐色土とロームの斑状の混合土。
- 34層：暗褐色土層。33層に近いが、ロームが少ない。
- 35層：暗褐色土層。暗褐色土とローム粒、5～30mm大のロームブロックが斑状に混合する。35～36層は、P2覆土。
- 36層：黄褐色土層。35層に近いが、ロームの方が多い。

第116図 250～252号住居跡平面・断面図(2)



251号住居跡カマド土層注記

- 1層：暗褐色土層、ローム粒、焼土粒を少量、炭化物粒を微量含む。
- 2層：灰黄褐色土層。ローム小ブロックを多量に、灰黄褐色粘土ブロック、10～30mm大の焼土ブロックを含む。天井崩落土か。
- 3層：暗黄褐色土層。10～30mm大のロームブロックを多量に、焼土粒を少量含む。
- 4層：暗褐色土層、ローム粒、焼土粒を少量、灰黄褐色粘土を含む。
- 5層：暗褐色土層。20mm大以下のロームブロックを含み、焼土粒を微量含む。

252号住居跡カマド土層注記

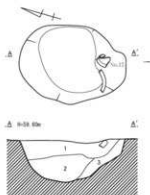
- 1層：暗灰褐色土層、暗褐色土と灰白色粘土の混合土、焼土粒、焼土ブロックを部分的に極めて多量に含む。
- 2層：暗灰褐色土層。暗褐色土と灰白色粘土の混合土。ローム粒、焼土粒を少量含む。灰を微量含む。
- 3層：黒褐色土層。ローム粒、焼土粒を少量含む、粘性がある。
- 4層：黒褐色土層。3層に近いが、焼土、ローム、灰が多い。
- 5層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、炭化物粒を微量含む。
- 6層：暗灰褐色土層。2層に近いが、ローム粒が若干少ない。
- 7層：黒褐色土層、不整形のロームブロックが多く混合する。焼土粒を微量含む。粘性がややある。
- 8層：暗灰褐色土層。1層に近いが、カマド内壁側が強く焼け、赤化している。8～12層は、カマドの袖構築材。
- 9層：灰白色粘土層。暗褐色土と灰白色粘土の混合土（灰白色粘土が主）。10mm大の焼土ブロックを少量含む。

- 6層：暗褐色土層。ローム粒、灰黄褐色粘土粒、焼土粒をかなり含む。焼土小ブロックも少量含む。6～9層は、カマド構築材で、粘性が強く、しまっている。
- 7層：暗褐色土層。6層に近いが、ローム粒、焼土粒が少ない。
- 8層：暗褐色土層、暗褐色土と灰黄褐色粘土の斑状の混合土。焼土粒、焼土小ブロックを少量含む。
- 9層：暗褐色土層。8層に近いが、暗褐色土が多い。10～20mm大の焼土ブロックを微量含む。

- 10層：褐色土層、ローム粒を微量、10～40mm大の灰白色粘土ブロック、10mm大の焼土ブロックを含む。炭化物粒を微量含む。
- 11層：褐色土層。10mm大のロームブロック、10～20mm大の灰白色粘土ブロック、10mm大の焼土ブロックを含み、白色粒を微量含む。
- 12層：暗褐色土層。10mm大のロームブロックを多量に、灰白色粘土粒、焼土粒を含む。
- 13層：暗褐色土層。10～30mm大のロームブロック、灰白色粘土粒、焼土粒を含む。13～16層は、カマド掘り方埋土。
- 14層：暗褐色土層。10mm大のロームブロック、灰白色粘土粒、焼土粒を少量含む。
- 15層：暗褐色土層。暗褐色土と10mm大以上のロームブロックの混合土。粘床のようにしまっている。
- 16層：褐色土層。暗褐色土とローム粒、5～40mm大のロームブロックが斑状にモヤモヤ混合する。

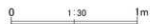
第117図 251・252号住居跡カマド平面・断面図

252号住居跡貯蔵穴



252号住居跡貯蔵穴土層注記

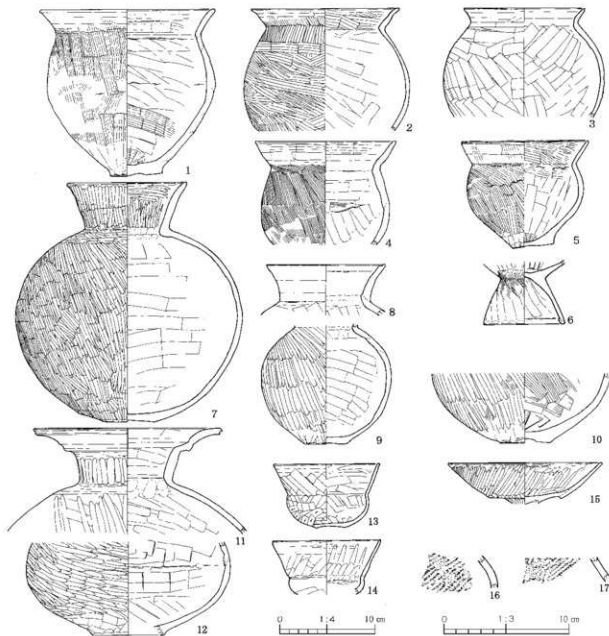
- 1層：暗褐色土層。ローム粒、焼土粒、炭化物粒、灰を少量含む。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、焼土粒、炭化物粒を微量含む。
- 3層：暗褐色土層。不整形のロームブロックと30mm大の黒色土ブロックを含む。



ている。東壁にほぼ直交する掘り込みを燃焼部とし、細長い袖が付設されている。燃焼部、側壁とも比較的よく焼けている。貯蔵穴は、カマドの右脇で検出した。上端はやや不整な楕円形で、深さは32cmである。

カマド内、カマド周辺、住居跡の南東半を中心、土師器甕・坏など、あるいは須恵器坏などが分散して出土している。多くは床面より浮いた状態である。住居形態、出土遺物からみて、平安時代の住居跡と考えられる。

第118図 252号住居跡貯蔵穴平面・断面図



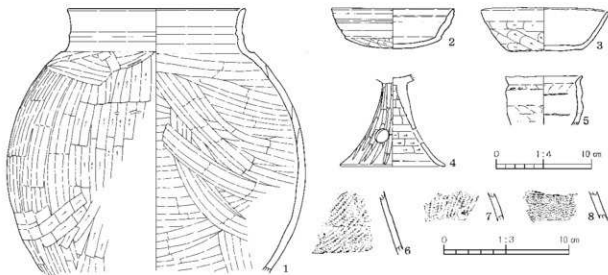
第119図 250号住居跡出土遺物

第61表 250号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 18.7 底径 5.5 器高 17.6	くびれ部が屈曲し、胴部は膨らむ。底面中央が凹むように底。粘土組織み上げによる成形。内外面に輪轆み痕が残る。	外面-口縁部ヨコナデ、一部下調整のハケ残る。胴部ナナメの浅いハケ。胴部下位~底部タテ、ナナメのナデ。器面磨耗。内面-口縁部ヨコナデ、細線入る。くびれ部以下ナナメのナデ、部分的にハケ。	白色・赤褐色岩片などの大小砂粒多量 内外-ぶい赤褐色 内-褐色	口縁部~くびれ部1/4、胴部~底部ほぼ残存
		口径 15.6 底径 — 器高 (12.8)	くびれ部が屈曲し、胴部は丸く膨らむ。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ナナメのハケ後、ヨコナデ、くびれ部以下ナナメ、ヨコの乱雑なハケ。内面-ヨコ、ナナメのハケ後、端部ヨコナデ。以下ナナメのナデ。	白色・灰色・赤褐色岩片などの大小砂粒多量 器外-褐色 内-ぶい褐色	口縁部一部欠失。胴部1/4~1/3残存
3	甕	口径 12.8 底径 — 器高 (11.5)	口縁部が短く開き、胴部が球状を呈する甕。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部~くびれ部ヨコナデ、以下ナナメのナデ、部分的にケズリに近い。内面-口縁部ヨコナデ、以下ナナメのナデ。	灰色・黒色・赤褐色の岩片などなどの砂粒。 外-にぶい褐色 内-褐色	口縁部一部欠失。くびれ部-胴部1/2残存。
		口径 (14.9) 底径 (10.9) 器高 —	口縁部が内彎気味に開き、胴部が丸みをもつ甕。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、細かい条線が入る。くびれ部以下ナナメのハケ。磨耗しており、ハケメの見えない部分あり。内面-口縁部~胴部中位ヨコナデ、細かい条線が入る。以下浅い条線の入ったナメのナデ。	白色・灰色、雲母片などの砂粒。 内外-褐色	口縁部~胴部下位1/2残存。
4	甕	口径 13.6 底径 4.5 器高 11.3	口縁部が大きく開き、胴部は丸く膨らむ。	外面-口縁部ヨコナデ、くびれ部以下ナナメのハケ。胴部下半から底部にかけて、ケズリ。2箇所打ち欠き、黒底。底面ナゲ。覆底。内面-口縁部浅いヨコ、ナナメのハケ。以下ナナメのナデ、部分的にケズリに近い。底部蜘蛛の巣状のハケ。	白色・灰色・赤褐色岩片などの大小砂粒多量。 内外-ぶい黄褐色	口縁部1/2、胴部3/4、底部残存
		口径 15.6 台座径 8.6 器高 (6.6)	端部を折り返したS字状台座部。粘土組織み上げによる成形。	外面-胴部ナナメのケズリ、ハケ。台座部ナナメのハケ、ナゲ、指押さえ。内面-胴部粘土充填、ヘラナゲ。脚部ナナメのナデ。	灰色・黒色の岩片、雲母片などの砂粒 内外-ぶい褐色	脚部のみ残存
7	壺	口径 12.6 底径 6.0~7.0 器高 (25.1)	口縁部が外反し、胴部は球状を呈する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部タテのミガキ、以下ヨコ、ナナメ、タテのミガキ。内面-口縁部ヨコ、タテのミガキ、頸部指押さえ、胴部ヨコ、ナナメのヘラナゲ。	白色・灰色・黒色岩片などの大小砂粒多量。 内外-ぶい褐色	口縁部~胴部上半1/2欠失
		口径 12.6 底径 — 器高 (5.4)	口縁部はゆるやかに外反する。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部~屈曲部ヨコナデ、以下ナナメのナデ。内面-端部に浅い凹線状の凹み。口縁部~屈曲部ヨコナデ、以下ナナメのナデ。	白色・灰色・黒色岩片、雲母片などの大小砂粒 内外-褐色	胴部上半以下欠失P2
9	壺	口径 4.5 底径 — 器高 (12.6)	頸部が屈曲して立ち上がり、胴部が球状を呈する壺。底面が少し凹むように底。粘土組織み上げによる成形。	外面-頸部ヨコナデ。胴部はやや細い丸みのある工具によるナナメのナデ。黒底あり。内面-頸部指押さえ、指ナゲ。以下板状の工具による口縁部ヨコナデ。	灰色・黒色の岩片、雲母片などの細砂 内外-褐色	胴部1/3~1/2、底部残存
		口径 — 底径 5.5 器高 (7.3)	口縁部が丸く膨らむ壺。	幅の狭い丸みのある工具によるナナメのナデ。部分的に下調整のハケメ残る。内面-ハケ具によるナナメのナデ。部分的にハケメ残る。	白色岩片、雲母片などの大小砂粒 内外-褐色	底部~胴部下位のみ残存。
11	壺	口径 19.9 底径 8.6 器高 (11.2)	筒状の短い胴部に、大きく開く口縁部の付く二重口縁壺。胴部は大きく膨らむ。	外面-口縁部ヨコナデ、頸部タテのナデ(整形痕?)後、ヨコナデ。胴部した調整のヨコ、ナナメのナゲ後、ナナメのナゲ、ミガキ(単位はよく見えないが、所々光沢がある)。内面-口縁部~頸部ヨコナデ。以下指押さえ、ナナメのナゲ。	白色岩片、雲母片などの大小砂粒 内外-明赤褐色	口縁部一部欠失。胴部完存。胴部上半1/8残存。
		口径 — 底径 (7.5) 器高 (9.8)	胴部は大きく膨らむ。粘土組織み上げによる成形。	外面-胴部ナナメのミガキ、底部付近ナナメのナゲ。内面-ヨコ、ナナメのヘラナゲ、ヘラ痕顕著。	白色・灰色の岩片などの砂粒 内外-暗褐色	胴部中位以下1/2弱、底部一部残存
13	鉢	口径 11.3 底径 2.9 器高 6.8	口縁部は屈曲部から大きく開く。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部~屈曲部ヨコナゲ後、ナナメのヘラナゲ。屈曲部彫り込むような手法で線を面す。体部ナナメのナゲ、ケズリ。内面-口縁部ヨコナゲ後、ナナメのナゲ。屈曲部細線の入るナナメのナゲ。体部ナナゲ?	大小砂粒、微量の雲母片 内外-ぶい褐色	口縁部~体部中位1/3~1/2残存

第62表 250号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
14	鉢	口径 底径 器高 (5.7)	口縁部は屈曲部から大きく開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部上半ヨコナデ、下半ナナメのナデ。体部上半ナナメのナデ、体部下半～底部ナナメのケズリ。内面-ヘラナデ。体部ヘラ肌顕著。	大小砂粒、微量の雲母片 内外-明赤褐色	口縁部～ 底部1/2～ 5/6残存
15	高坏	口径 底径 器高 (4.3)	坏部下端に稜をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面-坏部ヨコナデ後、ナナメのミガキ、稜以下タテのミガキ。内面-口縁部付近ヨコナデ。坏部上半ナメの粗いミガキ(光沢ない)、ナデ。下半ナナメ、ヨコのミガキ。	白色・灰色の岩片、雲母片などの細砂 内外-ぶい橙色	坏部1/3、 接合部は 全体残存
16	壺	口径 底径 器高	胴部がゆるやかな丸みをもつ器形。	外面-LRの単節縄文2段。黒斑あり。 内面-ヨコナデ。	白色・灰色岩片などの大小砂粒。 内外-ぶい橙色	弥生後期 東関東系、 17と同一 個体
17	壺	口径 底径 器高	頸部がゆるやかに立ち上がる器形。	外面-糸の乱れたLRの単節縄文。内面-ヨコナデ。	灰色の細かい岩片などの細砂 外-ぶい黄褐色 内-ぶい橙色	弥生後期 東関東系、 16と同一 個体



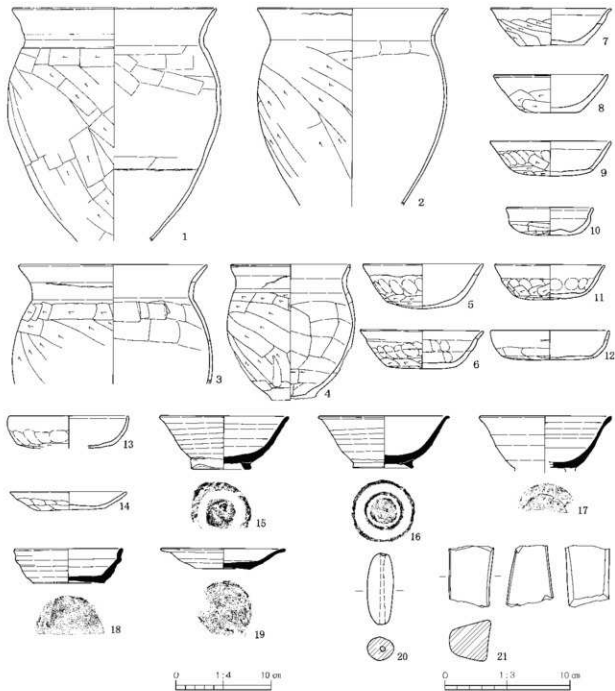
第120図 251号住居跡出土遺物

第63表 251号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 底径 器高 (27.8)	口縁部が短くは立ち上がり、胴部は球胴状に大きく膨らむ。	外面-口縁部～屈曲部ヨコナデ、以下タテ、ナナメのケズリ。内面-口縁部～屈曲部ヨコナデ、以下ナナメ、ヨコのナデ。	白色・灰色・赤褐色岩片などの大小砂粒・小織多量 内外-ぶい橙色	口縁部～ 胴部下位 1/2～3/4 残存
2	坏	口径 底径 器高 4.2	口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。黒変。内面-ヨコナデ。黒変。	白色・灰色岩片などの大小砂粒多量 外-明赤褐色 内-ぶい赤褐色	3/4残存
3	坏	口径 底径 器高 4.5	口縁部は直線的に開く。体部には指頭による整形。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面-ヨコナデ。	白色・灰色岩片などの大小砂粒 外-ぶい橙色 内-橙色	3/4残存
4	高坏	口径 脚端径 器高 (9.4)	胴部は大きく開く。大きな円孔3つ。粘土紐積み上げによる成形。	外面-タテのミガキ。裾部近くはヨコのミガキ、ナデ。内面-ヨコのケズリ、ナデ。	白色・灰色・赤褐色岩片などの細砂 外-明赤褐色 内-ぶい赤褐色	脚部2/3 残存
5	ミニチュア甕?	口径 底径 器高	口縁部は短く屈折する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-指押しえ、ナデ。部分的にケズリに近い。内面-ヨコ、ナナメのナデ。	白色・灰色・赤褐色岩片などの大小砂粒 外-ぶい褐色 内-ぶい黄褐色	胴部下位 以下欠失

第64表 251号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・裝飾手法の特徴	胎土・色調	備考	
6	甬?	口径 底径 器高	— — —	頸部がゆるやかに立ち上がる器形。	外面-LRの単節縄文2段。内面-ヨコ、ナナメのナデ。ヘラ痕あり。	白色・灰色・黒色片岩などの岩片。雲母細片微量。内外-明茶褐色	赤生時代後期東関東系
7	甬?	口径 底径 器高	— — —	胴部がゆるやかな丸みをもつ器形。	外面-LRの単節縄文(糸に細粗あり。摺りが異なる可能性もある)。内面-ヨコ、ナナメのナデ。ヘラ痕あり。	大小砂粒。雲母細片微量。内外-にぶい橙色	赤生時代後期東関東系?
8	甕	口径 底径 器高	— — —	くびれ部がゆるやかに立ち上がる器形。	外面-柳縄直線文(休止点1箇所。時計回り)。柳縄波状文(6本一単位か)。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部指押さえ後ナデ。	細砂。雲母細片微量。外-褐色。内-にぶい黄褐色	樽式



第121図 252号住居跡出土遺物

第65表 252号住居跡出土遺物観察表

№	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴			胎土・色調	備考
				幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
1	甕	口径 底径 器高	口縁部がゆるやかに外反し、胴部が丸く膨らむ長胴甕。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、以下ヨコ、ナメのヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、以下ヨコ、ナメのヘラナデ。	胎土・色調	白色・灰色・赤褐色岩片などの大小砂粒	口縁部～胴部下半1/2～1/3残存	
		20.0 — (24.8)						外面-口縁部ヨコナデ、胴部ナメケズリ。内面-ヨコナデ。
2	甕	口径 底径 器高	口縁部外反する。粘土組織み上げ成形。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ナメケズリ。内面-ヨコナデ。	胎土・色調	石英、白色岩片、角閃石	口縁部～胴部1/3残存	
		19.8 — (12.5)						外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。
3	甕	口径 底径 器高	口縁部ゆるやかに外反する。丸みのある平底。粘土組織み上げ成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。	胎土・色調	白色岩片、角閃石	口縁部～胴部上位1/5残存	
		12.5 — (14.3)						外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。
4	付台甕	口径 台端径 器高	口縁部ゆるやかに外反する。丸みのある平底。粘土組織み上げ成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。	胎土・色調	白色岩片、角閃石	口縁部以外ほぼ完全形	
		12.7 — 4.7						外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。
5	坏	口径 底径 器高	口縁部段をもつて外反する。平底。粘土組織み上げ成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。	胎土・色調	白色岩片、角閃石	1/4残存	
		13.0 7.3 4.1						外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。
6	坏	口径 底径 器高	口縁部外反する。平底。粘土組織み上げ成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。	胎土・色調	白色岩片、角閃石	完全形	
		12.8 6.8 4.0						外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。
7	坏	口径 底径 器高	口縁部外反する。平底。粘土組織み上げ成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。	胎土・色調	白色岩片、角閃石	1/2残存	
		12.0 5.8 4.0						外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。
8	坏	口径 底径 器高	口縁部外反する。平底。粘土組織み上げ成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。	胎土・色調	白色岩片、角閃石	1/2残存	
		12.7 8.4 3.7						外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。
9	坏	口径 底径 器高	口縁部外反する。平底。粘土組織み上げ成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。	胎土・色調	白色岩片、角閃石	1/2残存	
		9.1 6.1 2.9						外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。
10	坏	口径 底径 器高	口縁部外反する。丸みのある平底。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。	胎土・色調	白色岩片、角閃石	完全形	
		11.6 7.5 3.7						外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。
11	坏	口径 底径 器高	口縁部外反する。丸みのある平底。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。	胎土・色調	白色岩片、角閃石	完全形	
		12.4 10.0 3.1						外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。
12	坏	口径 底径 器高	口縁部内彎する。平底。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。	胎土・色調	白色岩片、角閃石	1/2残存	
		12.6 10.0 3.4						外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。
13	坏	口径 底径 器高	口縁部外反する。平底。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。	胎土・色調	白色岩片、角閃石	1/3残存	
		12.4 6.9 2.0						外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。
14	皿	口径 底径 器高	口縁部外反する。貼付高台。ロクロ成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。	胎土・色調	白色岩片、角閃石	完全形	
		13.6 6.0 5.6						外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。
15	須恵器高台環	口径 台端径 器高	口縁部外反する。貼付高台。ロクロ成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。	胎土・色調	白色岩片、角閃石	4/5残存	
		13.7 6.0 5.5						外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。
16	須恵器高台環	口径 台端径 器高	口縁部外反する。貼付高台。ロクロ成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。	胎土・色調	白色岩片、角閃石	高台欠損	
		14.0 6.0 (5.5)						外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。
17	須恵器高台環	口径 台端径 器高	口縁部外反する。貼付高台。ロクロ成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。	胎土・色調	白色岩片、角閃石	1/2残存	
		11.4 7.4 3.6						外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。
18	須恵器高台環	口径 台端径 器高	口縁部外反する。貼付高台。ロクロ成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。	胎土・色調	白色岩片、角閃石	2/3残存	
		13.0 5.7 2.1						外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。
19	須恵器高台環	口径 台端径 器高	口縁部外反する。貼付高台。ロクロ成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。	胎土・色調	白色岩片、角閃石	完全形	
		11.4 7.4 3.6						外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ後、上位はヨコケズリ、下位はヨコナデ。胴部下位剥落顕著。内面-ヨコナデ。
20	土罐	口径 底径 器高	手捏ね成形。	指ナデ。黒斑あり。	胎土・色調	白色岩片、角閃石	完全形	
		5.7 2.1 0.9						指ナデ。黒斑あり。
21	砥石	石材	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
		砂岩	1/4	4.9	3.6	3.2	85.46	3面良く磨滅する。

2 掘立柱建物跡

G1地点の北西半では、夥しい数のピットが検出されている（第51図）。すべてが建物の柱跡とは言い切れないが、複数の建物が繰り返して建てられた痕跡を含むものと思われる。図面の整理作業を進める中で、ピットの通り、配列、深さなどを検討した結果、以下に記す2棟の掘立柱建物跡を抽出することができた。拾うことのできなかったピットの中にも、柱受けの板石を埋め込んだものがあり、さらに検討を要する。

14号掘立柱建物跡（第122図、図版28）

調査地点の北西半、南西縁に接して検出した遺構である。複数の土坑と重なるが、直接切り合うのは、18号井戸跡、441・447号土坑のみである。本遺構のP6が、18号井戸跡、441号土坑を切っている。447号土坑は浅く、多少問題が残るが、P5-P14間のピットが壊されていると考える。また、東辺の柱穴が、15号掘立柱建物跡の柱穴と重複するが、新旧関係を確定し得なかった。

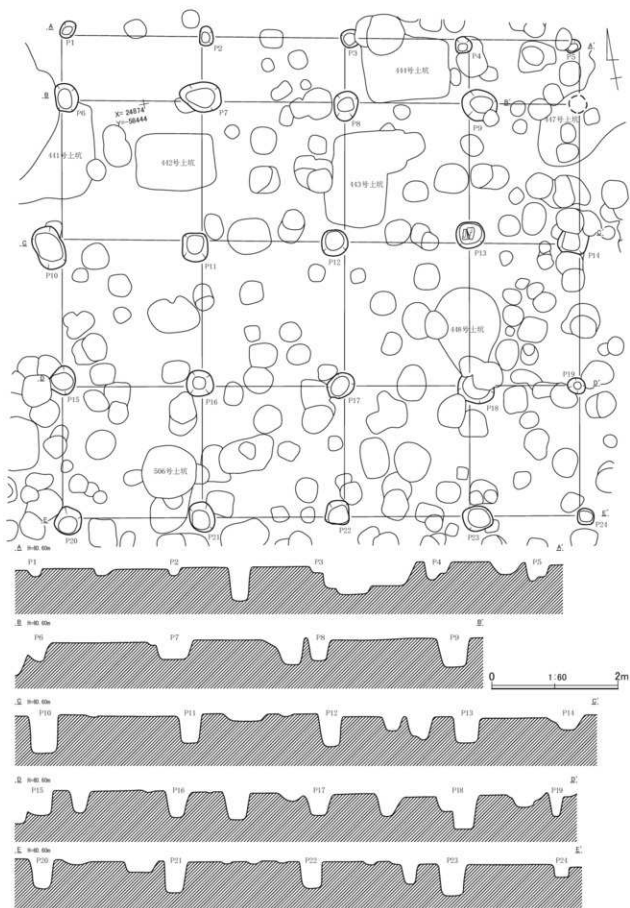
南北方向が若干長い方形を呈する3間×3間の総柱の建物跡で、北側、東側にはそれぞれ1間の庇が付されている。柱心間での規模は、身舎が南北方向で6.7m、東西方向で6.5m、北側の庇が横幅1.1m、東側の庇が横幅1.7m、南北方向での軸方向は、 $N-10^{\circ}-E$ である。柱間は2.1~2.3mを測るが、わずかに長短があり、そのため南北方向が全体に長くなっている。柱穴の上端の形は、大半が不整な円形、楕円形であるが、P11・P14・P22・P24のように強く角張るものも含まれる。深さは、P1~P5が12~27cm、P6~P9が19~61cm、P10~P13が36~60cm、P15~P18が35~55cm、P20~P23が42~50cm、P5・P14・P19・P24が17~33cmである。P13の底面には、柱受けの板石が埋め込まれている。

出土遺物は、土師器や須恵器の小破片がわずかに出土したのみである。ほぼ同じ向きで、構造も類似する部分があることから、次に記す15号目掘立柱建物跡と建て替えなどの関係にある、時期的にも近い遺構とみてよいであろう。中世、あるいはそれ以降の遺構と思われる。

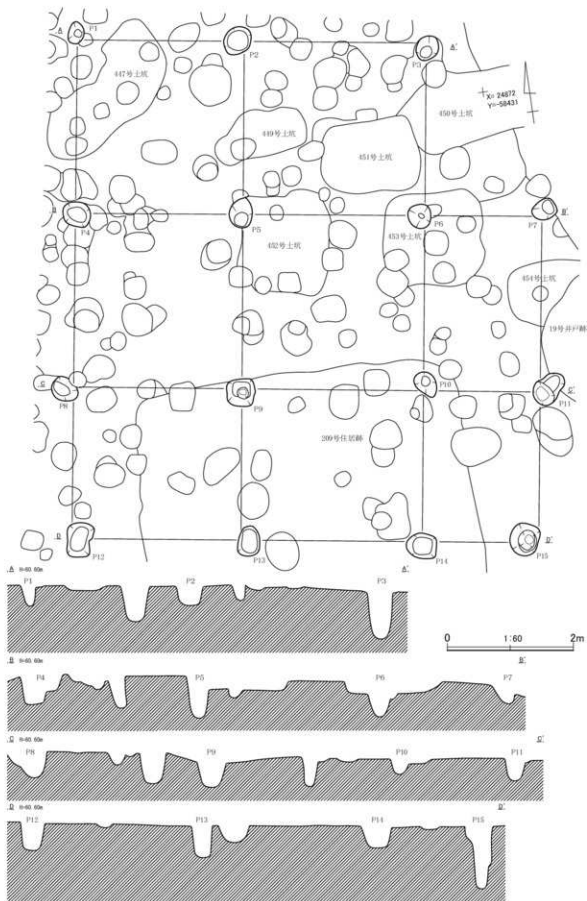
15号掘立柱建物跡（第123図、図版28）

調査地点の北西半で検出した遺構である。直接重複関係にあるのは、206・209号住居跡、14号掘立柱建物跡、19号井戸跡、452・453号土坑で、14号掘立柱建物跡以外の遺構を切っているようである。西辺の柱穴が、15号掘立柱建物跡の柱穴と重複するが、新旧関係は不明である。

2間×3間の総柱の建物で、東側に1間の庇が付されている。柱心間での規模は、南北方向で8.0m、東西方向で7.2~7.5m、東側の庇の横幅が1.7~1.8mである。南北方向、長軸の方向は、 $N-9^{\circ}-E$ である。柱間は、南北方向で2.5~2.9m、東西方向で2.4~2.9mとかなり長短がある。というより、強いて一間一間を正確にそろえず、縦横をそろえることで全体としてはほぼ歪みのない長方形を保とうとしたかにも見える。北東隅の柱穴は、206号住居跡と重なっているため、検出できなかった。柱穴の平面形は、やや不整な円形、楕円形が多いが、P9のように角張るもの、P12~P14のように微妙に角張り辺をなす部分の見られるものも含まれる。深さは、P1~P3が29~72cm、P4~P7が19~61cm、P8~P11が20~39cm、P12~P14が22~97cmである。



第122图 14号据立柱建物迹平面·断面图



第123图 15号掘立柱建物跡平面・断面图

いくつかのピットで、土師器小破片が少量出土している。またP1からは、20cm大の角閃石安山岩が出土している。中世の56号溝跡の開口部を閉ざすような位置にあり、また土坑や井戸跡など中世の遺構を切っていることから、より新しい時期の遺構と考えたい。

3 井戸跡

井戸跡は、8基検出した。中央を除く、北西半、南東半に見られ、とくに偏った分布を示さないが、北西半の3基の井戸跡は、規模が大きく、掘り込みが深いようである。なお、井戸跡の調査に関しては、調査に危険が伴うことから、水が湧出するまで手掘りで精査し、以下小型重機で井戸底まで覆土を浅い遺物を回収する方法を取った。井戸底の深さは、その際測定した数値である。

18号井戸跡（第124図）

調査地点の北西端近くで検出した遺構である。14号掘立柱建物跡のP6に切られ、440・441号土坑を切って造られている。

平面形は不整な円形で、最大径は2.77mである。確認面から井戸底までの深さは、2.44mである。井戸底近くはややすぼまるようであるが、全体に井筒は円筒状に掘り込まれている。

土師器片や陶磁器片が少数出土している。出土遺物からみて、中世の井戸跡と考えられる。

19号井戸跡（第124・125図、第66表）

調査地点の北西のほぼ中央で検出した遺構で、14号掘立柱建物跡のP11に切られ、206号住居跡、20号井戸跡、454号土坑を切って造られている。

平面形は不整な楕円形で、最大径は2.61mである。開口部は漏斗状に大きく開き、井筒はおおむね円筒状を呈する。井戸底近くはややすぼまるようである。確認面から井戸底までの深さは、4.27mである。

土師器片や陶磁器片や石臼片が出土している。また、覆土中から、底板や部材と思われる板材が2点出土している。第125図1の陶器壺、2の内耳鍋は、覆土中から破片が出土したものである。出土遺物からみて、中世の井戸跡と考えられる。

20号井戸跡（第124・126図、第67表）

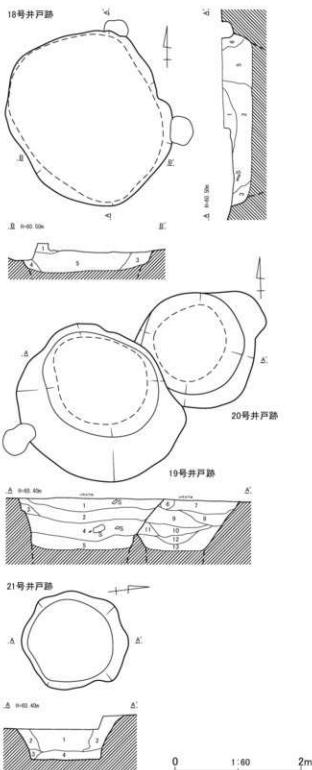
調査地点の北西のほぼ中央で検出した遺構で、19号井戸跡に切られ、206号住居跡、456号土坑を切って造られている。

平面形は不整な円形で、最大径は1.93m、井筒の平面形はほぼ円形である。開口部は開き、井筒は下部がややすぼまる円筒状で、確認面から井戸底までの深さは、1.71mである。

土師器片や陶磁器片が出土している。出土遺物からみて、中世の井戸跡と考えられる。

21号井戸跡（第124図、図版28）

調査地点のほぼ中央で検出した。223号住居跡を切って造られている。平面形は不整な円形で、最大径は1.69mである。おおむね円筒状に掘り込まれており、確認面から井戸底までの深さは72cmであ



21号井戸跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、5～50mm大のロームブロックを多量に含む。とくに20～50mm大のロームブロックを水玉状に顕著に含む。覆土は全体に粘性があり、下部の層ほど粘性が強い。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒を多量に含む。壁際に5～40

18号井戸跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒を少量、10～20mm大の小礫を多量に含む。長さ100mm大の長円礫も数点も含む。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。10～20mm大の小礫を多量に含む。長さ100mm大の長円礫も数点も含む。1層よりロームが多い。
- 3層：褐色土層。暗褐色土とロームの混合土。10mm大の小礫を微量含む。粘性があり、ややしまっている。
- 4層：黄褐色土層。壁面の崩れたロームブロック。
- 5層：黄褐色土層。壁面の崩れたロームと暗褐色土の混合土。
- 6層：暗褐色土層。10mm大のロームブロックをやや多く含む。

19・20号井戸跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、焼土粒、白色粒（A s - A か？）、炭化物粒を微量含む。1～5層は、19号井戸跡覆土で、3層以外は、小礫を含む。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、ローム小ブロックを少量、焼土粒、炭化物粒を微量含む。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、10mm大のロームブロック少量含む。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを多量に、焼土粒、炭化物粒を微量含む。1・2層よりしまり弱い。
- 5層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを多量に、10mm大のロームブロックを少量、炭化物粒を微量含む。4・5層の礫は、上位層の礫より大きい。
- 6層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、ローム小ブロックを少量、炭化物粒を微量含む。6～13層は、20号井戸跡覆土。
- 7層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、ローム小ブロック、焼土粒を少量含む。
- 8層：暗褐色土層。ローム粒を少量、10mm大以下のロームブロック、および焼土粒、炭化物粒を微量含む。
- 9層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、ローム小ブロックを多く含む。焼土粒を微量含む。
- 10層：黒褐色土層。ローム粒、5mm大以下のローム小ブロックを多量に、焼土粒を微量含む。
- 11層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、10mm大のロームブロック、焼土粒を微量含む。
- 12層：黒褐色土層。ローム小ブロックを多量に含む。砂のような感触（粒子が粗い）。
- 13層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、10～20mm大のロームブロック、焼土小ブロックを少量含む。

mm大のロームブロックが多量に混入する。

- 3層：黄褐色土層。暗褐色土とロームの混合土。ロームの方がやや多い。ロームは、5～50mm大のブロックが主になる。
- 4層：黄褐色土層。ロームを主に、斑状に暗褐色土を含む。

第124図 18～21号井戸跡平面・断面図

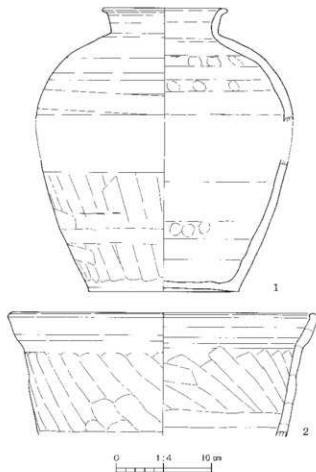
る。溜井の一種であろうか。覆土中から土師器片が少数出土している。覆土からみて、中世、あるいはそれ以降の遺構であろう。

22号井戸跡 (第127図、図版28)

調査地点の中央、南寄りで検出した遺構である。88号溝と重複し、同溝を切っている。

平面形は不整な円形で、最大径は2.22mである。開口部は段を有し漏斗状に開き、井筒は下部がややすぼまる円筒状で、確認面から井戸底までの深さは2.86mである。黒み、粘性の強い砂質の土で下部は埋まっており、上部の覆土は、近世、あるいはそれ以降の遺構覆土に似た土であった。

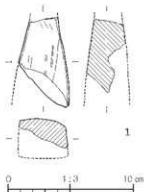
土師器片がかなりの量、陶磁器片が少数出土している。位置的には、88号溝跡と関連する遺構と考えられないでもないが、覆土からみて、近世、あるいはそれ以降の遺構と思われる。



第125図 19号井戸跡出土遺物

23号井戸跡 (第127図、図版28)

調査地点の南東半のほぼ中央で検出した遺構で、238・239号住居跡を切って造られている。当初不整形な土坑、ないしは重複する土坑と考え精査したが、最終的に平場を伴う土坑状の掘り込みと楕円形のやや深い掘り込みとが一体となった遺構と判断した。また、楕円形の掘り込



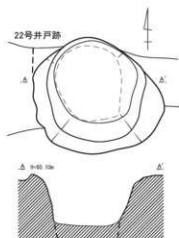
第126図 20号井戸跡出土遺物

第66表 19号井戸跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手の特徴	調整・裝飾手の特徴	胎土・色調	備考
1	壺	口径 (13.2) 底径 15.8 器高 (29.9)	口縁部は短く外反し、胴部上半が丸く膨らむ。ロクロ成形。	外面-口縁部～胴部上半回転ナデ。胴部下半～底部ナメのヘラナデ。内面-ナメハケ。回転ナデ、指押え。	白色・灰色・黒色 岩片などの砂礫 内外にぶい赤褐色 内外-黄灰色	口縁部～胴部1/8～1/3残存
2	内耳鉢	口径 (33.0) 底径 — 器高 (13.0)	口縁部は内彎しつづ開く。粘土組積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ナメの指ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、体部ナメのナデ。	白色・黒色・赤褐色 岩片などの砂礫 内外-灰色	1/8残存 16C中頃?

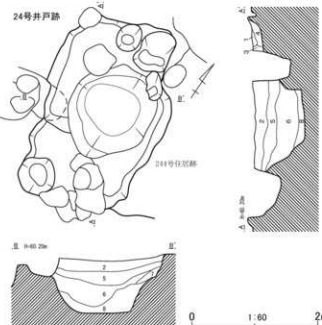
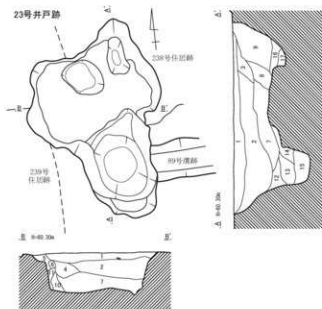
第67表 20号井戸跡出土遺物観察表

No.	器種	石材	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
1	砥石	凝灰岩	側面、片端欠失	11.7		(2.4)	73	4面研磨。



23号井戸跡土層注記

1層：暗褐色土層。局所的にローム粒、5～20mm大のロームブロックを含む。とくに中央40cmくらいの範囲にロームブロックが集中する。



- 2層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを不規則に（局所的に）多量に含む。焼土粒を微量含む。
- 3層：暗褐色土層。2層に近いが、黒みややや強く、ローム小ブロックが少ない。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒を多く含む、ローム小ブロックが点在する。
- 5層：褐色土層。暗褐色土とロームの不規則な混合土。50mm大の崩落したハードロームのブロックを含む。
- 6層：黄褐色土層。剥離、崩落したハードロームの大ブロック。
- 7層：暗褐色土層。4層に近いが、黒みがより強く、粘性も強い。この層以下、下部にゆくほど粘性が増す。
- 8層：暗褐色土層。7層に近いが、10mm大のロームブロックを含む。
- 9層：暗褐色土層。2層に近いが、5～30mm大のロームブロック（5～10mm大が主）のロームブロックを水玉状、斑点状に多量に含む。壁際中にローム粒、ロームブロックの濃集部がある。
- 10層：暗褐色土層。7層に近いが、くすんだ色調のロームが多い。輪郭のはっきりしない50mm大のロームブロックを含む。
- 11層：褐色土層。5層に近いが、黒みややや強い。下部にローム集中する。
- 12層：暗褐色土層。7層に近いが、5～80mm大のロームブロック（80mm大は、1点のみ）が集中する。
- 13層：暗褐色土層。ローム粒、くすんだ色の輪郭のはっきりしないロームブロックを含む。
- 14層：暗褐色土層。13層に近いが、ローム粒、ロームブロックがモヤモヤとして多い。
- 15層：暗褐色土層。13層に近いが、黒み強く、粘性が増す。
- 16層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを含む。ロームは全体がくすんだ色調で、輪郭のはっきりしない。粘性強い。
- 17層：暗褐色土層。16層に近いが、さらに黒み、粘性が増す。

24号井戸跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒を少量含む。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒を均質に多量に含む、10～40mm大のロームブロックを部分的に少量含む。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒を微量含む。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、不整形のロームブロックを少量含む。
- 5層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、ローム小ブロックを少量含む。
- 6層：黒褐色土層。ローム粒、5～40mm大（5～10mm大が主）のロームブロックを多量に含む。
- 7層：暗褐色土層。不整形のロームブロックを多量に含む。
- 8層：暗褐色土層。暗褐色土とロームブロックの混合土。ロームブロックが主、埋め戻された土が、

第127図 22～24号井戸跡平面・断面図

み部分は、89号溝（本書：144・145頁）と直結していたらしく、3つが結合して機能した施設と思われる。

土坑状の掘り込みの平面形は、かなり不整な長方形で、長軸長が2.25m、副軸長が1.32m、深さは60cm前後である。底面には、所々灰白色の粘土が薄く貼られているが、住居跡の床面のように硬化する部分は見られない。底面にはかなり凹凸があり、ピットが2つ掘り込まれている。深さは、中央寄りのピットが30cm、東側のピットが22cmである。楕円形の掘り込みは、長径が1.53m、確認面からの深さは121cmである。遺構全体の長軸方向は、N-19°-Wである。

2つの掘り込みは、土層断面からも一連の埋積過程を示している。89号溝は、本井戸跡に向かってわずかではあるが、溝底が浅くなるようであり、楕円形の深い掘り込みが溜め井のような役割りをもち、そこに集まり、溢れた雨水が89号溝へと流れたのであろう。

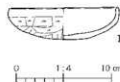
かなりの量の土師器片が出土している。覆土からみて、中世あるいはそれ以降の遺構と考えられる。

24号井戸跡（第127・128図、第68表、図版28・40）

調査地点の南東半の南寄りで検出した。244号住居跡を切って造られている。当初土坑として精査したが、土層断面でも、土坑と井戸跡という形で明瞭に分離することができなかったため、一応上部に掘り込みを有する井戸跡として記載する。また、周辺にはピットが集中しており、本井戸跡に伴うものもあるのかもしれない。

上部の平面形は、やや不整な長方形で、長軸方向での長さは3.00m前後である。中央に微段がある。井戸本体にあたる中央の掘り込みは、上端が歪な楕円形で、最大径は1.58mである。緩やかな丸みをもって掘り込まれており、確認面から井戸底までの深さは93cmである。

かなりの量の土師器片が出土している。覆土や出土遺物からみて、奈良・平安時代あるいはそれ以降の遺構と考えられる。



第128図 24号井戸跡出土遺物

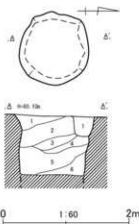
第68表 24号井戸跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 11.7 底径 — 器高 3.3	口縁部は内彎気味に立ち上がる。粘土粘り上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底面ヘラケズリ。内面-ヨコナデ。	白色・灰色・赤褐色 色岩片などの細砂 多量 内外-橙色	ほぼ完形

25号井戸跡（第129・130図、第69表、図版29・40）

調査地点の南端に位置する遺構である。503号土坑と重複し、246号住居跡を切って造られている。

上部の掘り込みの平面形は、方形、ないしは長方形で、東西方向での長さは1.95mである。井戸本体の平面形は、ほ



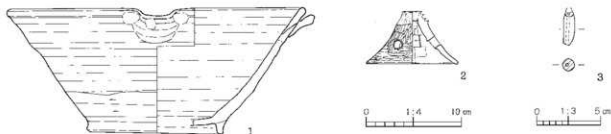
25号井戸跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム小ブロックを少量含む。
- 2層：暗褐色土層。不整形の淡い橙色粘質土ブロックを多く含み、50mm大前後の炭化物をまばらに含み、焼土粒を少量含む。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロック、焼土粒を少量含む。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、焼土粒を微量含む。
- 5層：暗褐色土層。10~20mm大のロームブロックをまばらに含み、3mm大ほどの淡い橙色粘質土ブロックを含む。
- 6層：暗褐色土層。5層に近いが、ロームブロックが少ない。

第129図 25号井戸跡平面・断面図

ぼ円形で、径は1.13mである。井筒はおおむね円筒状に掘り込まれており、確認面から井戸底までの深さは2.15mである。

出土遺物のほとんどは、土師器片である。覆土からみて、中世あるいはそれ以降の遺構と考えられる。



第130図 25号井戸跡出土遺物

第69表 25号井戸跡出土遺物観察表

Ns	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	片口鉢	口径 31.6 高台径 14.4 器高 13.3	粘土紐積み上げ後、ロクロ成形。高台部貼り付け	外面-口縁部～体部上半、高台部回転ナデ。体部下半回転ヘラケズリ。片口周辺指押さえ。内面-回転ナデ。	白色・黒色岩片などの砂礫多量 内外-黄灰色	ほぼ完形 山茶碗窯系
2	高杯	口径 — 脚端径 9.9 器高 (5.6)	脚部は大きく開く。3箇所 に円孔が穿たれている。粘土紐積み上げによる成形。	外面-タテ、ヨコのミガキ。内面-上半ヨコのケズリ、下半ヨコナデ。	白色・灰色岩片、雲母細片などの細砂 内外-橙色	脚部のみ 残存
3	土錘	最大径 0.9 長さ (2.7) 重さ 2.2g	やや歪んだ管状。手捏ねによる成形。	外面-ナデ。	白色・灰色・赤褐色岩片、雲母細片などの細砂 内外-にぶい橙色	片側先端 欠失

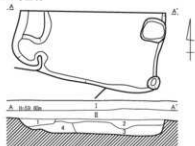
4 土坑

調査地点全面に展開しており、円形に近いもの、楕円形、長楕円形、長方形、縦長長方形などと平面形はかなり多様である（第131～140図、第70～72表、図版29～34・40）。ただし、仔細にみると、大きな分布傾向がないではなく（第51図）、長辺と短辺の差があまりない長方形の土坑は、調査範囲北西半、56号溝跡（後掲）の西側、ビットの分布が著しい範囲に多く、縦長長方形の土坑は、調査範囲南東半に、円形の土坑は、中央にやや多いように見受けられる。

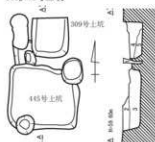
長辺、短辺の差の少ない長方形の土坑に関しては、久下東遺跡、久下前遺跡の他地点で、人骨や北宋銭を伴い墓坑であることが判明した土坑の多くが、この種の形態であることに注意したい。G1地点のこの種の形態の土坑は、長軸方向をそらえるかにみえ、また、館跡の場である可能性のある56号溝跡の内部に、この種土坑が集中することも示唆的である。

縦長長方形の土坑は、通常農業関連の施設と目される遺構であり、集中域のあり方、この種の形態の土坑と溝跡や井戸跡との位置関係、配置などをさらに見極める必要があるかと思う。

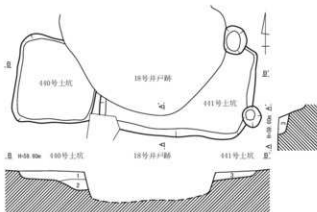
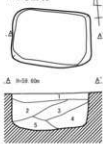
308号土坑



309・445号土坑



442号土坑



442号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒をやや多く、局部的に不整形のロームブロックを多く含む。
- 2層：黒褐色土層。ローム粒、10～40mm大（10mm大が主、40mm大は微量）のロームブロックをやや多く含む。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒を極めて多く含む、10mm大のロームブロックを多く含む。ややしまっている。
- 4層：黒褐色土層。ローム粒を多量に含む、10mm大のロームブロックをまばらに少量含む。粘性やや強く、ややしまっている。
- 5層：黒褐色土層。不整形のロームブロックを極めて多く含む。粘性強く、ややしまっている。

444号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム小ブロックをやや多く含む。
- 2層：暗褐色土層。1層に近いが、ロームブロックが少ない。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒、10～50mm大（10mm大が主、30～50mm大も多量）の多量を含む。

308号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、焼土粒を微量含む、粘性に富む。
- 2層：暗茶褐色土層。ローム粒、ロームブロックを微量含む、粘性に富む。
- 3層：暗茶褐色土層。ロームブロックを均一に含む、粘性に富み、しまっている。
- 4層：暗黄褐色土層。ロームブロックを多量に含む、粘性に富み、しまっている。

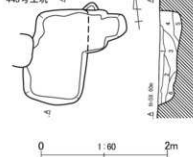
309・445号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。根穴か。
- 2層：暗褐色土層。5～50mm大（5mm大が主）ロームブロックを多量に含む。2・3層は、445号土坑覆土。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒、不整形のロームブロックを多量に含む。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、10～20mm大のロームブロックをまばらに含む。炭化物粒を微量含む。4・5層は、309号土坑覆土。
- 5層：暗褐色土層。10、40mm大のロームブロックを少量含む。

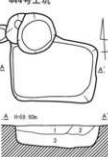
440・441号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、5～30mm大（5mm大が主、30mm大は微量）のロームブロックを多量に含む。1・2層は、440号土坑覆土。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、5～10mm大のロームブロックを多量に含む。
- 3層：暗褐色土層。10～20mm大のロームブロック、礫（河原石）を少量含む。441号土坑覆土。

443号土坑



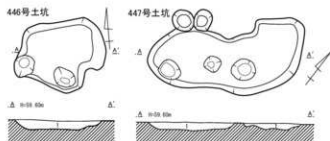
444号土坑



443号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。5～10mm大のロームブロックを微量含む。
- 2層：暗褐色土層。暗褐色土と不整形のロームブロックの混合土。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを多量に、20mm大の前後のロームブロックを微量含む。
- 4層：暗褐色土層。不整形のロームブロックを多量に含む。
- 5層：黄褐色土層。ロームブロックを主に、暗褐色土を少量含む。
- 6層：暗褐色土層。10mm大前後のロームブロックを多量に含む。

第131図 308・309・440～445号土坑平面・断面図

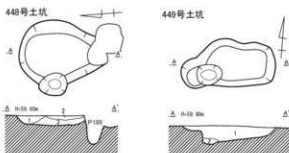


446号土坑土層注記

1層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、20mm以下のロームブロックをまばらにやや多く含む。

447号土坑土層注記

1層：暗褐色土層。5～20mm大のロームブロックをやや多く含み、A s - Aを微量含む。

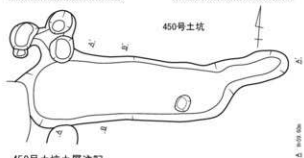


448号土坑土層注記

1層：暗褐色土層。10mm大のロームブロックを含む。粘性がある。
2層：暗褐色土層。10～20mm大のロームブロックを含む。粘性がある。
3層：暗黄褐色土層。20～40mm大のロームブロックを主とする。1層土を含む。ボソボソしている。

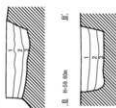
449号土坑土層注記

1層：暗褐色土層。ローム粒、20mm大以下のロームブロックを均質にやや多く含む。
2層：暗黄褐色土層。暗褐色土とロームの混合土。



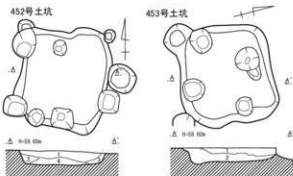
450号土坑土層注記

1層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、5～10mm大のロームブロックを少量、焼土粒、炭化物粒を微量含む。
2層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを多量に、焼土粒を微量含む。
3層：暗褐色土層。ローム粒をやや多く含む。



451号土坑土層注記

1層：暗灰褐色土層。ローム粒、白色軽石(A s - Aか?)、焼土粒を少量含む。
2層：暗褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロックをやや多く含み、焼土粒を微量含む。
3層：暗褐色土層。ローム粒を少量含む。
4層：黒褐色土層。5～40mm大のロームブロックをごく多量に含む。粘性、しまりともにやや強い。
5層：暗褐色土層。ローム粒を少量含む。
6層：黒褐色土層。ローム粒、10mm大前後のロームブロックをやや多く含む。
7層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、10mm以下のロームブロックを少量含む。焼土粒をごく微量含む。



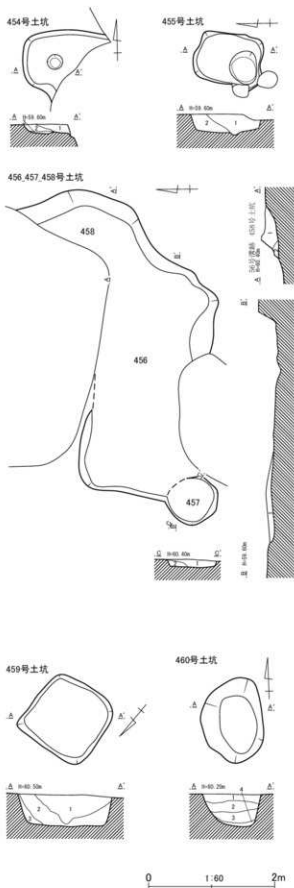
452号土坑土層注記

1層：暗褐色土層。ローム粒、5～10mm大のロームブロックをやや多く含み、焼土粒を微量含む。
2層：黒褐色土層。5～40mm大(10mm大のが主)のロームブロックを多く含む。
3層：暗褐色土層。ローム粒、ロームブロックを少量含む。
4層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、5～20mm大のロームブロックを少量含む。ややしまっている。

453号土坑土層注記

1層：暗褐色土層。ローム粒、5～10mm大のロームブロックをやや多く含む。
2層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、10～20mm大のロームブロックを少量含む。

第132図 446～453号土坑平面・断面図



454号土坑土層注記

- 1層: 黒褐色土層。10mm大の黒褐色土ブロック、ローム粒、10mm大のロームブロックを多量に含む。
- 2層: 黒褐色土層。暗黄褐色土が混入する。ローム粒をやや多く含む。
- 3層: 暗褐色土層。ローム粒を少量含む。

455号土坑土層注記

- 1層: 暗黄褐色土層。10mm大以下のロームブロックを多量に含む、10mm大の黒褐色土ブロックを含む。
- 2層: 暗黄褐色土層。1層に近いが、5~10mm大のロームブロックがやや少なく、色調がやや暗い。

456号土坑土層注記

- 1層: 黄褐色土層。ロームブロックを主とする。

457号土坑土層注記

- 1層: 暗褐色土層。ローム粒、10mm大以下のロームブロックを多量に含む。
- 2層: 黒褐色土層。ローム粒、5~30mm大のロームブロック(10mm大以下が主)を多量に含む。

458号土坑土層注記

- 1層: 黒褐色土層。ローム粒、ローム小ブロック(不整形なものを含む)をやや多く含む。
- 2層: 暗褐色土層。ローム粒を少量含む。

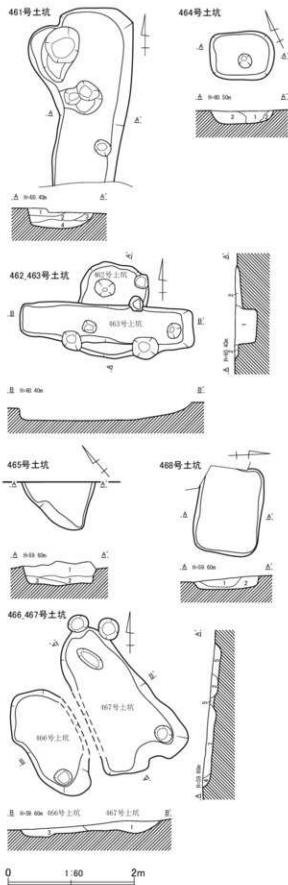
459号土坑土層注記

- 1層: 暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを多量に、10~40mm大のロームブロックをかなり含む。30、40mm大のロームブロックは、水玉状で、角張っている。
- 2層: 暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを含み、焼土粒が点在する。
- 3層: 暗褐色土層。2層に近いが、ロームが少なく、黒みがやや強い。

460号土坑土層注記

- 1層: 暗褐色土層。ローム粒を多量に含む。
- 2層: 暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを多量に、局所的に、40mm大のロームブロックを含む。
- 3層: 暗褐色土層。2層に近いが、ローム粒が少ない。
- 4層: 黒褐色土層。ローム粒を多量に、10~30mm大のロームブロックを少量含む。

第133図 454~460号土坑平面・断面図



461号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、ロームブロック（5mm大のローム小ブロックが主）を多量に、焼土粒を微量含む。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒を少量、焼土小ブロックをごく微量含む。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロック、不整形のロームブロックを多量に含む。
- 4層：黒褐色土層。ローム小ブロックを多量に、焼土粒を微量含む。

462・463号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、5～20mm大のロームブロックを多量に含む。暗褐色土とロームほぼ同量。上部にのみA s-Aを含む。463号土坑覆土。
- 2層：暗褐色土層。1層に近いが、若干ローム小ブロックが少なく、白っぽい。上部にのみA s-Aを含む。462号土坑覆土。

464号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、5～8mm大のロームブロックをかなり含む。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、5～40mm大のロームブロックを水玉状、斑点状に多量に含む。

465号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを微量含む。全体的に均質。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、不整形で角の丸い10～30mm大のロームブロックを少量含む。
- 3層：暗褐色土層。暗褐色土とローム粒、10～20mm大のロームブロックの混合土。ロームは、ブロックが大。

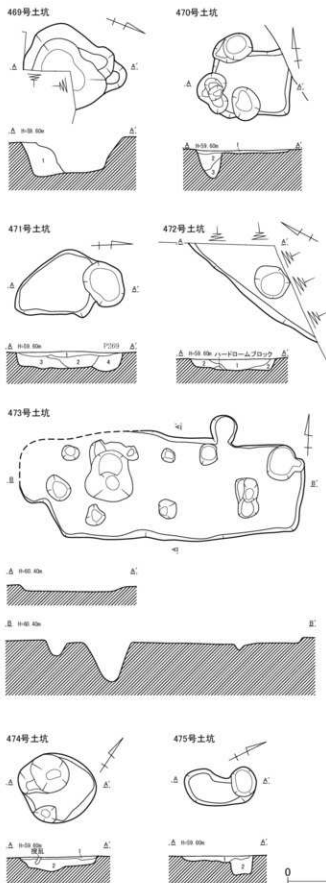
466・467号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム小ブロックを多く含む、焼土粒を含む。粘性あり、ややしまっている。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒を含む。ややしまっている。
- 3層：暗褐色土層。5～20mm大のロームブロックを多く含む。粘性あり、ややしまっている。
- 4層：黄褐色土層。ロームブロックを主に、暗褐色土を含む。粘性、しまりがややある。
- 5層：黄褐色土層。ボソボソしたロームブロックを主とする。

468号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。10～30mm大のロームブロックを多く含む。しまっている。
- 2層：暗褐色土層。5～10mm大のロームブロックを含み、土器片を少量含む。

第134図 461～468号土坑平面・断面図



第135図 469～475号土坑平面・断面図

469号土坑土層注記

1層: 暗褐色土層。ローム粒、5～10mm大のロームブロックを多量に、20、30mm大のロームブロックを微量含む。

470号土坑土層注記

1層: 暗褐色土層。やや黒みの強い暗褐色土を主に、ローム粒、ローム小ブロックを含み、焼土粒を少量含む。しまっている。

2層: 暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックをかなり含む。下半ほどロームが多い。1層より黒みが強い。しまっている。

3層: 褐色土層。暗褐色土とローム粒、5～20mm大のロームブロックの混合土。しまっている。

471号土坑土層注記

1層: 灰黄褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを含む。40mm大のロームブロックを1点含む。硬くしまっている。くい込んだ表土か。

2層: 暗褐色土層。ローム粒、5～10mm大のロームブロックを含む。しまっている。

3層: 暗褐色土層。ローム粒、5～10mm大のロームブロックを水玉状に多量に、20mm大のロームブロックを微量含む。しまっている。

4層: 暗褐色土層。2層に近いが、ローム粒、ローム小ブロックが少なく、黒みが強い。ビット覆土。

472号土坑土層注記

1層: 暗褐色土層。ローム粒を多量に、5～20mm大のロームブロックを水玉状にかなり含む。上半にA s-Aを含む。

2層: 暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを含む。上半にA s-Aを含む。

474号土坑土層注記

1層: 暗褐色土層。やや灰色がかった暗褐色土を主に、ローム粒を含む。A s-Aを含む。しまっている。

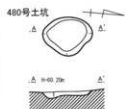
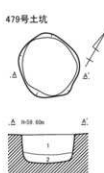
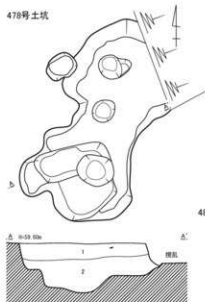
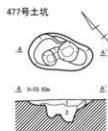
2層: 暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを斑状に含む。A s-Aを含む。しまっている。

475号土坑土層注記

1層: 暗褐色土層。やや灰色がかった暗褐色土を主に、ローム粒、5～50mm大のロームブロックを斑状に含む。しまっている。

2層: 暗褐色土層。1層に近いが、ロームが少ない。ローム小ブロックを斑点状に含む。しまっている。

0 1.60 2m



481号土坑土層注記

- 1層：褐色土層。ややシルト化した褐色ローム粒、褐色ロームブロックを主に、暗褐色土を含む。
- 2層：褐色土層。1層に近いが、黄褐色ローム粒、5～40mm大の黄褐色ロームブロックを含む。

482号土坑土層注記

- 1層：黒褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを含み、焼土粒を微量含む。1～3層は、いずれも粒子細かく、粘性が若干ある。
- 2層：暗褐色土層。1層土とロームがモヤモヤ座状に混合する。
- 3層：暗褐色土層。2層に近いが、ロームが少ない。

483号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。暗褐色土とローム粒、5～10mm大のロームブロックの混合土。下半にローム集中、攪乱の可能性もある。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを含む。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒、5～10mm大のロームブロックを水玉状に含む。
- 4層：暗褐色土層。3層に近いが、ローム粒が多く、20mm大のロームブロックを含む。

476号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。やや灰色がかかった暗褐色土を主に、ローム粒、5～40mm大のロームブロックを座状に含む。

477号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。やや灰色がかかった暗褐色土を主に、ローム粒、5～10mm大のロームブロックを座状に含む、焼土粒を少量含む。
- 2層：暗褐色土層。1層に近いが、15mm大のロームブロックを水玉状に含む。下半ロームが多くなる。
- 3層：黄褐色土層。ロームを主に、暗褐色土を均一に含む。

478号土坑土層注記

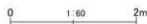
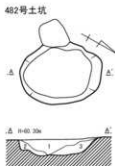
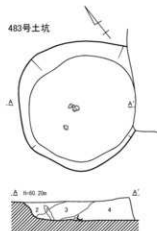
- 1層：暗褐色土層。ローム粒、5～10mm大のロームブロックを多量に含む。
- 2層：暗褐色土層。1層に近いが、ローム粒、ロームブロックが多く、大きい(5～30mm大)。

479号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒を含み、ローム小ブロックを局所的に含む。焼土粒を微量含む。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、5～20mm大(5～10mm大が主)のロームブロックをかなり含む。

480号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、5～8mm大のロームブロックを含む。

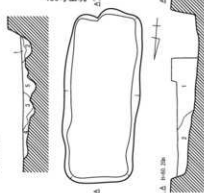


第136図 476～483号土坑平面・断面図

484号土坑



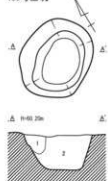
485号土坑



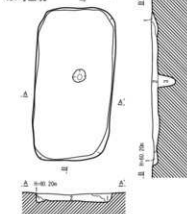
484号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒をモヤモヤ斑状に多量に含む。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒を含む。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、ロームブロックを斑状に含む。焼土粒、焼土ブロックが点在する。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒、5～20mm大のロームブロックを斑状に、所々雲状に含む。
- 5層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、5～30mm大のロームブロックを、局部的に（とくに右半）含む。

486号土坑



487号土坑



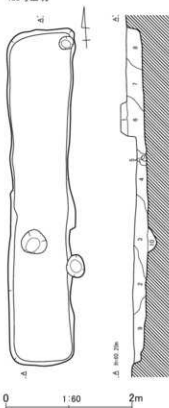
485号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、5～10mm大のロームブロックを水玉状に多量に含み、焼土粒、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 2層：暗褐色土層。1層に近いが、ローム粒、ローム小ブロックが少ない。

486号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。やや黒みの強い暗褐色土を主に、ローム粒、5～20mm大のロームブロックを含む。下半ロームが多い。
- 2層：黄褐色土層。ローム粒、5～150mm大のロームブロックを主に、ローム間に暗褐色土、黒褐色土が斑状に混入する。

488号土坑



487号土坑土層注記

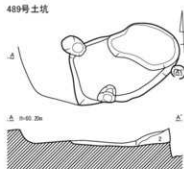
- 1層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、5～20mm大のロームブロックをかなり含む。5～40mm大の黒褐色土ブロックを部分的に含む。
- 2層：黄褐色土層。暗褐色土とロームの混合土。ロームの方が多。
- 3層：暗褐色土層。暗褐色土とロームの混合土。暗褐色土の方が多。ビット覆土か。

488号土坑土層注記

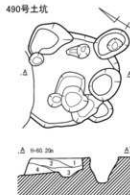
- 1層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを含み、焼土粒を微量含む。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、5～8mm大のロームブロックを多量に、土器粒を少量含む。
- 3層：暗褐色土層。2層に近いが、ロームブロックが大きい（5～30mm大）。ブロックは、水玉状に混入する。炭化物粒を微量含む。
- 4層：暗褐色土層。2層に近いが、ロームブロックが大きい（5～15mm大）。
- 5層：黄褐色土層。ハードロームのブロック。
- 6層：暗褐色土層。2層に近いが、ロームブロックが大きい。10mm大のブロックが目立つ。
- 7層：暗褐色土層。ローム粒、5～10mm大のロームブロックを霜降り状に多量に含む。
- 8層：暗褐色土層。7層に近いが、ローム粒が少なく、黒みが強い。10～15mm大のロームブロックを水玉状に含む。
- 9層：暗褐色土層。ローム粒、5～40mm大のロームブロックをモヤモヤ斑状に多量に含む。
- 10層：暗褐色土層。暗褐色土とロームの混合土。

第137図 484～488号土坑平面・断面図

489号土坑



490号土坑



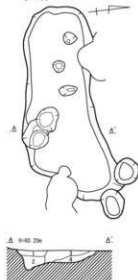
489号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、5～15mm大のロームブロックを含み、焼土粒を微量含む。
- 2層：暗褐色土層。1層に近いが、ロームが多い。

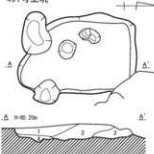
490号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを多量に含む。
- 2層：暗褐色土層。1層に近いが、ロームブロックが少ない。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、焼土粒、炭化物粒を微量含む。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒を含み、10mm大以下のロームブロックを微量含む。

492号土坑



491号土坑



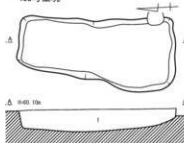
491号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、不整形のロームブロックをまばらに含む。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、10mm大前後のロームブロックを斑点状に含み、焼土粒を微量含む。
- 3層：暗褐色土層。ロームブロックを含む、ブロックは、下半に多い。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒を含み、40、50mm大のロームブロックが点在する。

492号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒を含む。1・2層は、ピット覆土？
- 2層：暗褐色土層。5～10mm大のロームブロックを多量に含む、局部的に30mm大のロームブロックを含む。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒を含み、5～10mm大のロームブロックを微量含む。3・4層は、492号土坑覆土。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒、10mm大のロームブロックを多量に含む。

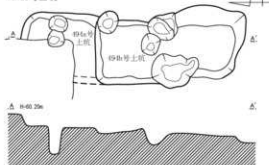
493号土坑



493号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒、5～30mm大のロームブロックを多量に含む。しまっている。

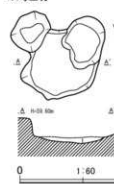
494a号土坑



496号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒を微量含む。
- 2層：暗褐色土層。ローム小ブロックを多量に含む。
- 3層：暗褐色土層。ローム粒、10mm大以下のロームブロックを含む。2層よりロームが多い。
- 4層：黒褐色土層。不整形のロームブロックを含む。
- 5層：暗褐色土層。崩落土と思われるロームを多く含む。

495号土坑



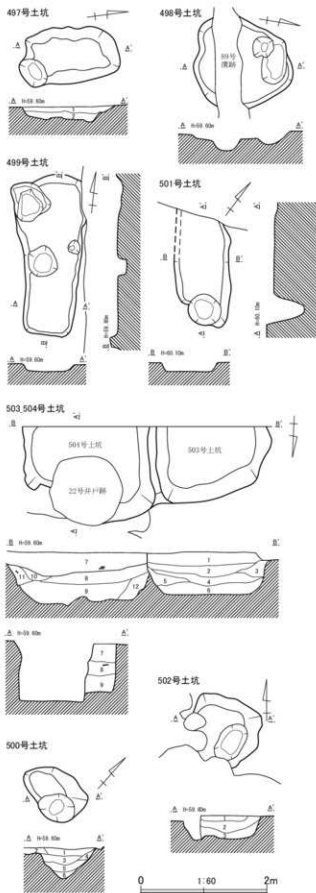
496号土坑



495号土坑土層注記

- 1層：黒褐色土層。ローム粒、10mm大以下のロームブロックを多量に含む。

第138図 489～496号土坑平面・断面図



第139図 497~504号土坑平面・断面図

497号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒を含み、焼土ブロックを微量含む。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、ロームブロックをやや多く含む。ロームブロックは、5mm大が主で、不整形のブロックも含む。

500号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒を少量、10mm大以下のロームブロックを微量含む。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、10mm大のロームブロックを微量含む。
- 3層：暗褐色土層。ローム小ブロックを少量、40mm大のロームブロックを局部的に含む。
- 4層：にぶい暗褐色土層。ローム小ブロックを多量に含む。粘性がややある。
- 5層：暗褐色土層。10mm大以下のロームブロックを多量に含む。粘性がややある。
- 6層：暗褐色土層。不整形のロームブロックを含む。粘性がややある。

502号土坑土層注記

- 1層：暗褐色土層。ローム粒を少量含む。
- 2層：暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを多量に、焼土粒を微量含む。
- 3層：暗褐色土層。不整形の大きいロームブロックを多量に含む。層の中央部には、ブロックが少ない。

503・504号土坑土層注記

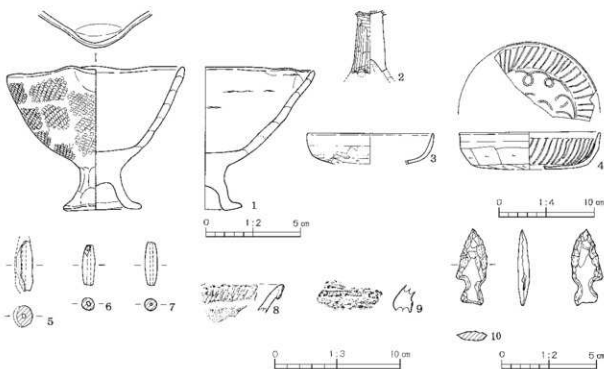
- 1層：暗褐色土層。ローム小ブロック、焼土小ブロックを少量含む、白色粒を含む。1~6層は、503号土坑覆土。
- 2層：暗褐色土層。ローム小ブロックを少量含む、焼土粒、炭化物粒を微量含む。
- 3層：暗黄褐色土層。ローム粒、崩落したロームブロックを多量に、焼土小ブロックを少量含む。局部的に炭化物を含む。
- 4層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、炭化物をまばらに含む。4~6層は、やや粘性がある。
- 5層：暗褐色土層。ローム粒、不整形のロームブロックを多量に、10mm大以下の焼土ブロック、炭化物を少量含む。
- 6層：暗褐色土層。不整形のロームブロックを多量に、焼土粒、炭化物粒を少量含む。
- 7層：暗褐色土層。焼土粒を多量に、白色粒を含み、炭化物粒を少量含む。7~12層は、504号土坑覆土。
- 8層：暗褐色土層。ローム粒、焼土粒、炭化物粒を少量含む。
- 9層：暗褐色土層。ローム粒を多量に、10mm大以下の炭化物を少量含む。濁沢白色の粘土小ブロックを局部的に含む。
- 10層：暗褐色土層。20mm大前後のロームブロックを少量含む。
- 11層：褐色土層。ローム粒を多量に、10mm大以下の焼土ブロック、炭化物を少量含む。
- 12層：暗褐色土層。ローム小ブロックを少量、炭化物を微量含む。

第70表 土坑計測および観察表(1)

番号	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
308	方形	×	26	土師器片少量。	
309	縦長長方形	×	30	土師器片多量、須惠器片1点。	近世以降。
440	不整形	134×	30	土師器片微量。	18井戸に切られる。
441	長方形	250×142	29		18井戸に切られる。中世。
442	長方形	123×92	50	土師器片微量。	中世、あるいは中世以降。
443	長方形	153×98	34	土師器片少量、陶器片1点。	中世、あるいは中世以降。
444	長方形	135×103	36	土師器片少量。	中世、あるいは中世以降。
445	長方形	112×	29	土師器片微量。	309土坑を切る。中世？
446	不整形長方形	137×	15	土師器片微量。	中世？
447	不整形円形	242×97	43	土師器片微量。	450土坑を切る。
448	槽円形	142×98	16	土師器片少量。	
449	槽円形	148×76	30	土師器片微量。	
450	長槽円形	413×98	37	土師器片少量。	206住、56溝を切る。中世以降。
451	不整形円形	160×111	37	土師器片微量、須惠器片1点。	450土坑と重複。中世？
452	不整形	153×	20	土師器片少量。	
453	不整形	155×	60		
454	槽円形	(100)×98	15	土師器片1点。	19井戸に切られる。中世？
455	長方形	105×8	33		206住を切る。
456	不整形長方形	(176)×98	39	土師器片少量。	56溝を切る。中世以降。
457	円形	77	12	土師器片微量。	456土坑を切る。
458	不整形円形	(210)×	27	土師器片微量、須惠器片1点。	56溝を切る？。中世以降。
459	方形	122×	50	土師器片少量、須惠器片1点。	
460	不整形円形	137×98	48	土師器片微量。	210住を切る。
461	長槽円形	(277)×167	26	土師器片少量、陶器片1点。	214住を切る。近世以降。
462	隅丸長方形	(65)×109	11		463土坑に切られる。
463	縦長長方形	274×85	28	土師器片少量。	463土坑を切る。近世以降。
464	隅丸長方形	102×76	20	土師器片少量。	
465	不整形円形	114×74	40	土師器片微量。	
466	不整形円形	186×93	19	土師器片微量。	467土坑と重複。
467	不整形円形	241×113	14	土師器片微量。	466土坑と重複。
468	長方形	140×103	17		中世？
469	不整形円形	121×	52	土師器片少量、須惠器片1点。	219住を切る。
470	長方形	147×130	45	土師器片少量。	220住を切る。
471	不整形円形	175×109	30	土師器片少量。	
472	長方形？	(222)×127	18	土師器片少量、須惠器片1点。	
473	縦長長方形	450×164	63	土師器片多量、須惠器片3点、陶器片1点。	221住を切る。近世以降。
474	不整形	123	23	土師器片微量。	
475	不整形円形	115×46	30	土師器片微量。	近世、あるいは近世以降。
476	不整形円形	176×82	14	土師器片微量。	
477	槽円形	102×56	36		奈良・平安時代？
478	不整形	150	78		222住を切る。
479	円形	102	45		222住を切る。
480	不整形円形	78×	10	土師器片少量。	223住を切る。
481	円形	59	35		224a住を切る。
482	槽円形	128×96	27	土師器片少量。	
483	円形	205	36		230・231住を切る。
484	不整形	206×138	20		230・231住を切る。

第71表 土坑計測および観察表(2)

番号	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
485	縦長長方形	267×121	41	土師器片少量、須恵器片3点。	232住を切る。近世以降。
486	楕円形	126×	55		232住を切る。
487	隅丸長方形	242×124	37	土師器片少量、須恵器片2点。	古墳時代。
488	縦長長方形	534×102	36	土師器片多量、須恵器片少量。	240・241住を切る。近世以降。
489	不整形長方形	175×106	26	土師器片少量。	242住を切る。
490	不整形円形	162×	30	土師器片多量、須恵器片6点、陶器片1点。	489土坑に切られ、491土坑と重複。
491	隅丸長方形	187×123	25	土師器片多量。	490土坑と重複。
492	不整形円形	306×104	31	土師器片多量。	
493	縦長長方形	249×94	35	土師器片少量、須恵器片1点、中世在地土器片1点。	494a土坑を切る。近世以降。
494a	隅丸方形?	118×(109)	41		493土坑に切られる。
494b	縦長長方形	238×96	26	土師器片1点。	244住を切る。近世以降。
495	不整形円形	150×	10	土師器片微量、緑泥片岩片1点。	245住を切る。
496	不整形長方形	254×120	13	土師器片少量、高台など須恵器片7点。	奈良・平安時代?。
497	不整形円形	159×90	24	土師器片少量。	
498	不整形円形	157	22		89溝に切られる。中世以前。
499	縦長長方形	256×93	15	土師器片少量。	247・250住と重複。近世以降。
500	不整形円形	122×	47	土師器片多量、須恵器片5点。	245住を切る。奈良・平安時代?
501	不整形円形	(172)×87	60		245住を切る。
502	不整形円形	122×	38	土師器片少量、高台、底部を含む須恵器片2点。	246住と重複。
503	隅丸方形?	(119)×182	68		中世以前。
504	隅丸方形?	(150)×196	83	土師器片多量、須恵器片2点。	246住を切り、25井戸に切られる。中世以前。



第140図 土坑出土遺物

第72表 土坑出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考		
1	台付 片口鉢	口径 9.4 台端径 4.1 器高 7.6	端部波打つように凸凹し、 体部も凹凸顯著。粘土組織 み上げによる成形。	外面-0段多量の短い原体をヨコ回転 (タテ、ナナメ回転の部分もある)で旋す。 台部指押さえ。黒斑。内面-ヨコナデ、 指押さえ。器面磨耗。	白色・灰色・赤褐色 岩片、雲母細片 などの大小砂粒 内外-にぶい橙色	ほぼ完形 483号土坑		
2	高杯	口径 — 脚端径 — 器高 (6.4)	中実円柱状で裾部が開く、 円形の透し孔が3個穿たれ ている。粘土組織み上げに よる成形。	外面-タテのミガキ。精良な粘土で化 粧掛けしている。内面-坏部ミガキ、 裾部ナナメのナデ。	白色・灰色岩片、 雲母細片などの大 小砂粒 内外-明赤褐色	脚部柱状 部のみ残存 484号土坑		
3	坏	口径 13.5 底径 — 器高 (3.2)	口縁部は彎曲しながら開く、 粘土組織み上げによる成 形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ、 ヘラケズリ。内面-ヨコナデ。	白色・灰色岩片、 赤褐色岩片、雲母片 などの細砂 内外-にぶい橙色	口縁部へ 体部下 1/10~1/3 残存 500号土坑		
4	坏	口径 (15.0) 底径 (12.2) 器高 3.4	口縁部はわずかに外反しつ つ立ち上がり、底面はほぼ 平坦。粘土組織み上げに よる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部へ ラケズリ。内面-口縁部へ体部放射状 暗文。底部螺旋状暗文。	白色・灰色岩片、 5mm大の赤褐色岩 片などの大小砂礫 多量 内外-橙色	1/3残存 500号土坑		
5	土鍾	最大径 1.7 長さ (4.0) 重さ 8.3g	中央が膨らむ管状。手捏ね による成形。	外面-ナデ。	白色・灰色岩片な どの大小砂粒 内外-明赤褐色	側面大き く欠失 448・451 号土坑		
6	土鍾	最大径 1.0 長さ 3.1 重さ 3.1g	中央が膨らむ管状。手捏ね による成形。	外面-ナデ、磨耗、剥落顯著。	白色・灰色・赤褐色 岩片などの細砂 多量 内外-にぶい黄橙 色	ほぼ完形 484号土坑		
7	土鍾	最大径 0.9 長さ 3.5 重さ 3.0g	中央が膨らむ管状。手捏ね による成形。	外面-ナデ。	白色・灰色岩片、 雲母細片などの細 砂 内外-にぶい橙色	完形 486号土坑		
8	壺	口径 — 底径 — 器高 —	ゆるやかに開く折返し口 縁。	外面-口縁部外面上・下端にハケ具に よる押捺。段以下はタテのミガキ、ナデ。 内面-ヨコのミガキ、ナデ。	白色・灰色・黒色 ・赤褐色岩片な どの大小砂粒 内外-にぶい橙色	483号土坑		
9	壺	口径 — 底径 — 器高 —	屈曲し、突帯を付された頸 部。	外面-突帯上に刻目。ナナメのハケ。 磨耗顯著。内面-ヨコナデ。	白色・灰色・黒色 ・赤褐色岩片な どの大小砂粒内外 -にぶい橙色	488号土坑		
No.	器種	石材	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
10	打製石鏃	チャート?	完形	4.0	1.6	0.6	3.4	左右非対称の有家鏃、482号土坑

5 溝跡

56号溝跡 (第141・142図、第73表、図版34・40)

調査地点の北西半で検出した。北側に隣接するE1・E3地点でL字形に折れる「中世の屋敷を区画する溝」(恋河内・的野 2010)が検出されており、その南北に走る溝跡の続きが本遺構である。450号土坑に切られ、456・458号土坑と重複し、206号住居跡を切っている。

本地点の北縁から現れ、一端途切れ、8m前後の陸橋部かと思われる部分を経て、再び浅く短い溝跡となり、また途切れる。以下、北側の溝跡を北溝跡、南側の溝跡を南溝跡と仮称し、記載する。

北溝跡の上端での溝幅は4.37mである。ただし、西側の側壁は、上部では、極めて傾斜が緩やかになり、溝覆土と思われる層は、上端とした範囲以上に広がっていたようである。断面形は緩やかな弧を描く形態で、最深部での深さは、84cmである。溝底の中央に上端が円形のピットが掘られている。ピットの深さは、47cmである。南溝跡は、かなり不整な平面形で、とくに南北端は傾斜が緩く、急に傾斜が増し、長楕円のやや深い掘り込みに至る。南溝跡は、南北方向での長さが7.62m、中央での溝幅は



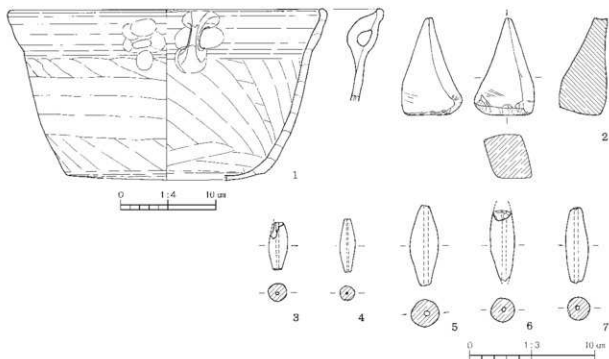
第141図 56号溝跡平面・断面図

1.38m、最深部での深さは47cmである。中央に3つピットが掘られているが、伴うものかどうか判断としない。

土師器片や陶磁器片などが、主に北溝跡から出土している。覆土や出土遺物からみて、中世の遺構、15世紀代の溝跡である可能性が考えられる。

56号溝跡土層注記

- 1層：暗褐色土層。5～10mm大のロームブロックを少量、焼土小ブロックを微量含む。
- 2層：暗黄褐色土層。ローム粒を多量に、10mm大のロームブロックを少量、焼土粒、白色粒を微量含む。
- 3層：暗褐色土層。10mm大のロームブロックを少量、焼土粒を微量含む。
- 4層：黒褐色土層。ローム粒、焼土粒を少量、ロームブロックを微量含む。粘性、しまりがやや強い。
- 5層：黒褐色粘質土層。灰白色みのある黒褐色粘質土を主に、ローム粒、ローム小ブロックを多量に、焼土粒を少量、炭化物粒を微量含む。しまっている。
- 6層：暗褐色土層。ローム粒、焼土粒を少量含む。6・7層は、211号住居跡の覆土、8層は、同道構の圍り方埋土、9層は、同ピット覆土。
- 7層：黒褐色土層。10mm大以下、5mm大を主とするロームブロックを多量に、焼土小ブロックをごく微量含む。
- 8層：暗黄褐色土層。不整形のロームブロックを含み、焼土粒をごく微量含む。
- 9層：暗褐色土層。ローム小ブロックを多量に、不整形のロームブロックをまばらに含む。



第142図 56号溝跡出土遺物

第73表 56号溝跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・裝飾手法の特徴他	胎土・色調他	備考		
1	内耳鉢	口径 (33.8) 底径 20.8 器高 18.0	口縁部は内彎する。内耳貼り付け。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ後、ヨコナメのナデ。底面ナデ。内耳部分指押さえ。内面-口縁部ヨコナデ、以下ナメ、ヨコのナデ。	長石・片岩などの岩片・砂礫、白色針状物 内外-灰色	1/4残存		
No.	器種	石材	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
2	砥石	凝灰岩	完形	7.7	3.8	3.5	128.0	4面研磨。
No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・裝飾手法の特徴他	胎土・色調他	備考		
3	土錘	最大径 1.5 長さ (3.8) 重さ 6.7g	中央が大きく膨らむ管状。手捏ねによる成形。	外面-ナデ。	白色・灰色岩片、雲母細片などの細砂 内外-にぶい赤褐色	片側先端欠失		
4	土錘	最大径 1.2 長さ 4.2 重さ 5.4g	中央が膨らむ管状。手捏ねによる成形。	外面-ナデ。	白色・灰色岩片などの細砂 内外-にぶい褐色	ほぼ完形		
5	土錘	最大径 2.3 長さ 6.4 重さ 16.4g	中央が大きく膨らむ紡錘形。管状。手捏ねによる成形。	外面-ナデ。	白色・灰色岩片、雲母細片などの細砂多量 内外-にぶい褐色	完形		
6	土錘	最大径 1.9 長さ (5.6) 重さ 20.8g	中央が膨らむ管状。手捏ねによる成形。	外面-ナデ、部分的にケズリに近い。	白色・灰色・赤褐色岩片、雲母細片などの細砂多量 内外-にぶい褐色	両端欠失		
7	土錘	最大径 1.8 長さ (5.9) 重さ 17.0g	中央が膨らむ管状。手捏ねによる成形。	外面-ナデ。欠損、剥落顯著。	白色・灰色・赤褐色岩片などの細砂多量 内外-にぶい褐色	片側先端欠失		

69号溝跡 (第144図)

調査地点の北西半、北縁から南北に伸びる溝跡である。南端は、214号住居跡の覆土中となり確認できなかったが、214号住居跡より新しい遺構であることは間違いない。走向は、おおよそ南北であり、ほんのわずかであるが彎曲している。現存長は6.08m、溝幅は34~56cmである。断面形は側壁がやや開くU字形で、深さは9~15cmで、溝底にはほとんど高低差がない。

覆土中から土師器片が少数出土しているのみである。覆土からみて、近世、あるいはそれ以降の溝跡であろう。

87号溝跡 (第144図、図版35)

調査地点の北西半の中央を走る溝である。E3地点の溝に連なる可能性があるが、未整理であり、暫定的に87号溝跡の呼称を与えた。147・207・208・211～214号住居跡を切って造られている。浅いこともあり、住居跡覆土中では、検出できない部分もあった。

走向は、南北方向、14°前後東に振れている。現存長は17.06m、溝幅は46～70cmである。断面形は側壁がやや開く箱葉研で、深さは17～22cmである。溝底は北から南へわずかに傾斜し、深くなるようである。

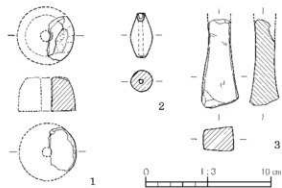
土師器片が少数出土している。覆土からみて、近世、あるいはそれ以降の溝跡と考えられる。

88号溝跡 (第143・145図、第74表、図版35)

調査地点の南東半の北寄りを東西に走る溝跡である。本地点を越え東西に伸び、東側では、隣地の北堀新田遺跡A2地点内で鋭角に折れ、南北に走向を変え、段丘縁へと連なる、広大な空間を劃する溝跡である。調査地点内では、住居跡をすべて切っており、22号井戸跡に切られている。

走向はほぼ東西であり、緩やかに蛇行している。調査地点内での現存長は30.00m、溝幅は1.86～2.20mである。断面形は側壁上部に段を有し、下部がかなりすばまるV字形に近い形態で、深さは77～96cmである。調査地点の西端と東端では、溝底の高低差が24cmほどあり、西から東へとわずかに傾斜し、深くなる。

多量の土師器片と少数の陶磁器片などが覆土中から出土している。重複関係、覆土、出土遺物からみて、中世の溝跡であろう。



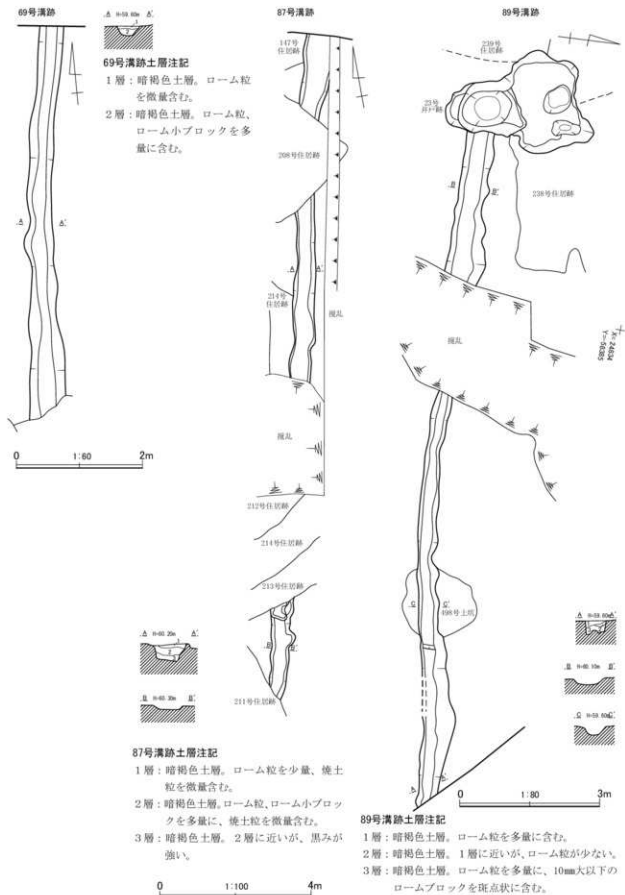
第143図 88号溝跡出土遺物

89号溝跡 (第144図、図版35)

調査地点の南東半の南寄りを東西に走る溝跡である。498号土坑を切っている。23号井戸跡から発し、東側へと伸び、隣地の北堀新田遺跡A2地点で蛇行しながら上述した88号溝跡に合流するようである。

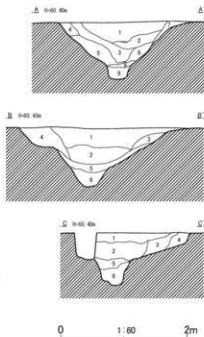
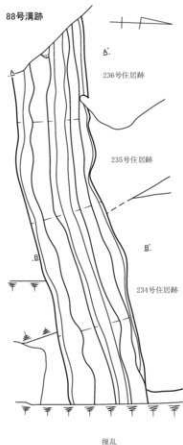
第74表 88号溝跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・裝飾手法の特徴	素材・胎土・色調	備考		
1	土製紡輪	上径 (4.6) 下径 (3.2) 厚さ 2.7	断面やや丸みのある逆台形状。手捏ねによる成形。	上面-ナデ。側面-指押さえ、ナナメのナデ。下面-ナデ。全体に欠失、剥落が多い。	白色・灰色・黒色岩片、雲母片などの細砂 外-にぶい・橙色	1/3残存		
2	土錘	最大径 1.7 長さ 3.5 重さ 8.5g	中膨らみの紡錘形。手捏ねによる成形。	外面-ナデ。	白色・灰色岩片、雲母細片などの細砂 内外-黄灰色	片側先端一部欠失		
Na	器種	石材	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
3	砥石	凝灰岩	片端欠失	(7.0)	3.0	2.3	49.0	4面研磨。



第144図 69・87・89号溝跡平面・断面図

88号溝跡



88号溝跡土層注記

(A-A' 断面)

- 1層: 暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを含み、焼土粒、A s-Aを少量含む。

(B-B' 断面)

- 1層: 暗褐色土層。ローム粒、ローム小ブロックを含み、10~20mm大のロームブロックを多量に含む。焼土粒(土器粒)、A s-Aを少量含む。
 2層: 暗褐色土層。1層に近いが、ローム粒、ローム小ブロックが多い。ロームは、所々雲状にまとまる。しまりが少し増す。
 3層: 暗褐色土層。1層に近いが、ローム粒、ローム小ブロックが少ない。

(C-C' 断面)

- 1層: 暗褐色土層。やや黒みの強い暗褐色土を主に、ローム粒、ローム小ブロックを含み、焼土粒を少量含む。A s-Aは、上部にのみ微量混入する。1~6層いずれも詰っており、下部ほど粘性が増す。
 2層: 暗褐色土層。1層に近いが、ローム粒、ローム小ブロックが若干多く、やや粘性が増す。
 3層: 暗褐色土層。2層に近いが、ローム粒が多い。局所的に5~10mm大のロームブロックを斑状点を含む。

2層: 暗褐色土層。1層に近いが、ローム小ブロックが少なく、焼土粒を含まない。A s-Aは、この層の上部まで微量混入する。

3層: 暗褐色土層。1層に近いが、ローム粒、ローム小ブロックが多い。1層よりかなりしまる。

4層: 暗褐色土層。1層に近いが、ローム粒若干多い。

5層: 暗褐色土層。3層に近いが、ローム粒、ローム小ブロックがはるかに多い。8mm大前後のロームブロックが混入する。ロームは、斑状雲状にモヤモヤ混じる。この層以下(7層を除く)、粘性が増す。

6層: 暗褐色土層。3層に近いが、ローム粒、ローム小ブロックが所々50、60mm大のまとまりをなす。

7層: 暗褐色土層。1層に近いが、ローム小ブロック、焼土粒(土器粒)が多い。

8層: 暗褐色土層。6層に近いが、ロームが多い。5・6層に比し、さらに粘性が増す。

9層: 褐色土層。ネチャネチャした灰色がかかった暗褐色土とくすんだ色調のローム粒、ロームブロックの混合土。粘性、しまりが強い。

4層: 暗褐色土層。2層に近いが、ロームがモヤモヤ斑状を呈し、量も増す。2・4層は一連の堆積土。

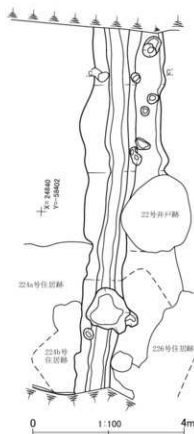
5層: 暗褐色土層。2層に近いが、ロームが少なくなり(黒みが増し)、粘性も増す。因左壁際には、ロームが多い。

6層: 黄褐色土層。やや灰色がかかった暗褐色土とロームの斑状の混合土。5層よりさらに粘性が強い。

4層: 褐色土層。ほぼ同量の暗褐色土とローム粒。5~40mm大のロームブロックが斑状に混合する。

5層: 暗褐色土層。2層に近いが、ローム粒、ローム小ブロックが多い。全体に粘性が増し、白みが若干増す。粘性はかなり強い。

6層: 暗褐色土層。5層に近いが、やや白みを帯びたロームが多くなる。全体に白みがかなり増す。とくに粘性が強い。



第145図 88号溝跡平面・断面図

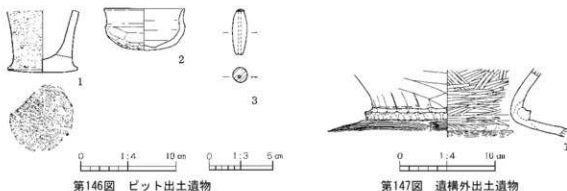
若干北に振れるが、走向はほぼ東西で、全体に微妙に屈曲する。調査地点内での現存長は14.32m、溝幅は29~81cmである。断面形は船底形に近く、深さは16~34cmである。溝底にはかなり凹凸がある。調査地点の西端と東端では、溝底の高低差が10cmほどあり、西から東へとわずかに傾斜し、深くなる。土師器片が少数出土している。覆土や23号井戸跡との関係から、中世の遺構と考えられる。

6 ビット

ビットは、調査地点の北西端、南東端の周辺一帯に集中するようである(第51図)。北西端周辺に分布するビットの中には、掘立柱建物跡の柱穴であるものが含まれることが判明したが、南東端周辺のビットに関しては、建物跡の柱穴を選び出すことができなかった。縄文時代前期の土器(第146図1)が出土したP1(旧名「P323」)は、473号土坑(第135図)と重複するビットである。

7 遺構外出土遺物

調査範囲全体から、土師器を主とする遺物が、遺構外、とくに表土層から多数出土している。多くは破片資料であり、大形壺1点のみ図化した(第147図1)。1の大形壺は、西方地域の系統の古墳時代前期の土器であろうか。



第146図 ビット出土遺物

第147図 遺構外出土遺物

第75表 ビット出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	深鉢	口径 底径 器高 — 7.4 (6.6)	胴部下位~底部がゆるやかにくびれ、底部下縁が突出する形態。粘土組織み上げによる成形。	外面-ナナメ、ヨコ回転のLR単節縄文。底面木葉痕。内面-ヨコ、ナナメのナデ。諸縄C式?	白色・灰色・黒色岩片、雲母片などの砂礫多量 内外-にぶい赤褐色	胴部下位1/4~1/3、底部残存P1
2	小形杯	口径 底径 器高 8.6 — 4.4	口縁部は外反しつわずかに開く。粘土組織み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底面ヘラケズリ。内面-ヨコナデ、底部に指による整形痕。	白色・灰色岩片、雲母片などの細砂 内外-にぶい褐色	口縁部~体部上位1/3割欠失P2
3	土錘	最大径 長さ 重さ 1.2 3.6 5.0g	中央が膨らむ管状。手捏ねによる成形。	外面-ナデ。	白色・灰色・赤褐色岩片、雲母細片などの細砂 内外-暗褐色	完形P3

第76表 遺構外出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	大形壺	口径 底径 器高 — — (7.1)	口縁部が強く屈曲し、胴部は大きく開く。粘土組織み上げによる成形。	外面-頸部タテ、ナナメのナデ、屈曲部に指頭により押圧され縷のある突帯。胴部ヨコの浅いハケ。胴部にはにぶい赤褐色の化粧粘土がかけられているか。内面-頸部ヨコ、ナナメのナデ、胴部指押しえ、ヨコ、ナナメの浅いハケ。	白色・灰色・黒色岩片、雲母片などの大小砂礫 外-にぶい褐色 内-黒褐色	頸部周辺1/3残存

第V章 まとめ

平成18年度に始まった本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う発掘調査も、早や7年の歳月を重ね、区画整理事業地内の発掘調査は、昨年度までで調査予定範囲の大半を終了した。事業地内の呼称を、「本庄早稲田の杜」と改め、事業自体新たな階梯に入っており、一方この間に行なわれた発掘調査で出土した遺物、諸資料は膨大な量にのぼる。

今回報告した久下前遺跡、久下東遺跡に関しても、都市計画道路建設予定地に限られており、広大な集落跡のごくわずかな範囲の報告に過ぎない。以下発掘調査により得られた知見の一端を記し、まとめとしたい。

久下前遺跡F1地点に関しては、古墳時代終末期～奈良・平安時代を中心とする住居群が集中する地点の調査であった。この一帯は、低位段丘南縁の微傾斜地にあたり、後世の開発や土砂の流出により、遺構の多くは覆土の多くを失っており、残存状態は良好ではなかったが、重複を重ねた該期の竪穴住居跡を多数検出した。先立つ時期の住居跡は極わずかであり、時期ごとに住居跡が分布や集積域を異にする本遺跡の集落跡の特色をうかがうことができる。

中世段階の遺構としては、溝跡や井戸跡、土坑を検出しており、溝跡(12号溝跡)は、今回久下東G1地点で報告した同種の溝跡(88号溝跡)に連なり、広大な領域を圍繞していたことが判明している。また、特筆すべき遺物としては、時期の異なる住居跡(184号住居跡)の覆土中から出土したものはあるが、鎌倉永福寺の創建期と関連するとされる軒丸瓦をあげておきたい(本書第三章第2節)。

久下東遺跡G1地点に関しては、古墳時代前期以降、平安時代に到る多様な時期の住居跡を検出している。攪乱が随所にみられ、ローム層より上位の土層が全体に大きく乱されていたため、住居跡覆土中、とくに上層中には様々な時期の遺物が混じる傾向が顕著であった。

道路建設予定地のため、調査地点が自然地形とは無関係な細長い帯状の範囲であったこともあり、多様な時期の遺構が見られながらも、住居の営まれた期間は断続しており、継続的に集落の推移を追うことはできないようである。例えば、古墳時代前期の住居跡は、大型の250号住居跡の1軒、中期の住居跡は、209・222・230号住居跡の3軒であるが、古墳時代前期・中期の住居跡は、連続的に推移するわけではなく、また、中期の住居跡の中でも断続がみられるようである。この点に関しては、さらに遺跡全体の土器様相の推移を見定め、遺構の変遷をとらえて後、再検討する必要があるとしか言いようがないが、時期ごとにかなり特徴的な遺構の分布傾向があるらしく、遺構の分散と集中、群在が織りなす時期ごとの傾向の中にも、遺跡そのものの特質を解き明かす鍵がありそうに思われる。

中世、あるいはそれ以降の遺構に関しては、館を囲む堀と考えられる56号溝跡の走向を確かめ得たことが成果のひとつであろうか。56号溝は、本地点内で途切れ、入り口部をなすようである。堀の内部と思われる範囲で、掘立柱建物跡を2棟検出したが、それらが堀跡に伴うものかどうかは確定しきれしていない。この問題も、中世遺構の全体的な分布と推移を見極めて後、あらためて論定すべきであろう。残された課題は多い。

末筆ながら、限られた時間の中での発掘調査、報告書の作成作業に様々な形で御協力、御助言を賜った多くの方々から心から御礼申し上げる次第である。

引用・参考文献

- 赤熊浩一 1988 『将監塚・古井戸・古墳・歴史時代Ⅱ-』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第71集、埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 井上高明 1986 『将監塚・古井戸・古墳・歴史時代Ⅰ-』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第64集、埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 磯崎 一 1995 『今井川越田遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第177集、埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 岩瀬 謙 1998 『地神／塔頭』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第193集、埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 岩田明広 1998 『今井条里遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第192集、埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 梅沢太久夫・石岡憲雄・浅野晴樹他 1981 『六反田』大里郡岡部町六反田遺跡調査会
- 太田博之 2002 『東五十子・川原町』東五十子遺跡調査会
- ・佐藤好司 1991 『本庄遺跡群発掘調査報告書V-公卿塚古墳』本庄市埋蔵文化財調査報告第19集、本庄市教育委員会
- ・松本完他 2003 『宍勝寺裏墳輪窓跡・宍勝寺北裏遺跡』本庄市埋蔵文化財調査報告第26集、本庄市教育委員会
- ・——— 2005 『四方田(Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ次調査)・久下東(Ⅱ次調査)』本庄市埋蔵文化財調査報告第31集、本庄市教育委員会
- 大谷 徹 2007 『夏目／夏目西／弥藤次』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第346集、埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 小澤正人 1996 『大久保山Ⅳ』早稲田大学本庄校地文化財調査報告4、早稲田大学本庄校地文化財調査室
- 神川町教育委員会編 1992 『神川町誌』神川町
- 上里町史編集専門委員会編 1992 『上里町史 資料編』上里町
- 恋河内昭彦 1990 a 『根田遺跡』児玉町文化財調査報告書第12集、児玉町教育委員会
- 1990 b 『雷電下遺跡-B・C地点-』児玉町文化財調査報告書第13集、児玉町教育委員会
- 1993 『川越田遺跡Ⅱ』児玉町遺跡調査会報告書第5集、児玉町遺跡調査会
- 1996 『辻堂遺跡Ⅰ』児玉町文化財調査報告書第19集、児玉町教育委員会
- 1999 『日延Ⅱ・児玉条里遺跡』児玉町文化財調査報告書第31集、児玉町教育委員会
- 2005 『後張遺跡Ⅲ(C地点の調査)』児玉町遺跡調査会報告書第20集、児玉町遺跡調査会
- 2012 『久下前遺跡Ⅳ(D1・E1地点)・久下東遺跡Ⅴ(F1地点)』本庄市埋蔵文化財調査報告書第28集、本庄市教育委員会
- ・松本 完 2008 『七色塚遺跡-B1地点-北堀新田前遺跡-A1地点-』本庄市埋蔵文化財調査報告書第7集、本庄市教育委員会
- ・的野善行 2010 『北堀久下塚北遺跡Ⅱ-B地点-久下東遺跡Ⅳ-C1・D1・E1地点-久下前遺跡Ⅱ-A1・B1地点-』本庄市埋蔵文化財調査報告書第19集、本庄市教育委員会
- 小久保徹・柿沼幹夫他 1978 『東谷・前山・古川端』埼玉県遺跡発掘調査報告書第16集、埼玉県教育委員会
- 児玉町史教育委員会・児玉町史編さん委員会 1993 『児玉町史 自然編』児玉町
- 昆 彭生・佐々木幹夫・荒川正夫・小川貴司他 1980 『大久保山Ⅰ』早稲田大学本庄校地文化財調査報告1、早稲田大学本庄校地文化財調査室

- 埼玉県史編さん室編 1982 『新編埼玉県史 資料編2 (原始・古代)』埼玉県
- 佐々木藤雄 2010 『北堀新田遺跡』本市市埋蔵文化財調査報告書第22集、本市市教育委員会
- 佐々木幹夫・橋本博文・高橋龍三郎他 1980 『宍勝寺北裏遺跡』宍勝寺北裏遺跡調査会
- 籾崎 潔 1992 『包樹原・楡下遺跡Ⅳ (奈良・平安時代編3)』包樹原・楡下遺跡調査会報告書第4集、包樹原・楡下遺跡調査会
- 瀧瀬芳之・磯崎 一他 1997 『今井川越田遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第191集、埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 利根川章彦 1998 『西富田・四方田条里遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第224集、埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 富田和夫・赤熊浩一 1985 『立野南・八幡太神南・熊野太神南・今井遺跡群・一丁田・川越田・梅沢』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第46集、埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 伴瀬宗一 1996 『今井川越田遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第178集、埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 本市市史編集室編 1976 『本市市史 資料編』本市市
- 1986 『本市市史 通史編Ⅰ』本市市
- 1989 『本市市史 通史編Ⅱ』本市市
- 増田逸郎・柿沼幹夫・小久保 徹他 1979 『下田・諏訪』埼玉県埋蔵文化財発掘調査報告書第21集、埼玉県教育委員会
- ・駒宮史朗他 1979 『雷電下・飯玉東』埼玉県遺跡発掘調査報告書第22集、埼玉県教育委員会
- ・立石盛詞他 1982・1983 『後張 本文編・図版編Ⅰ・Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第15・26集、埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 増田一裕 1985 『本市遺跡群発掘調査報告書一久下東遺跡・遺構編一』本市市埋蔵文化財調査報告第7集、本市市教育委員会
- 1987 『東富田遺跡群発掘調査報告書』本市市埋蔵文化財調査報告第10集、本市市教育委員会
- 1989 『四方田・後張遺跡群発掘調査報告書』本市市埋蔵文化財調査報告第14集、本市市教育委員会
- 1990 『山根遺跡発掘調査報告書』本市市埋蔵文化財調査報告第18集、本市市教育委員会
- 松本 完 2004 『九反田 (Ⅲ次調査)・観音塚 (Ⅲ次調査)』本市市埋蔵文化財調査報告第28集、本市市教育委員会
- ・大熊季広・藤波啓容・亀田直美他 2009 『浅見山Ⅰ遺跡 (Ⅲ次)・久下東遺跡 (Ⅲ次) A1・B1地点・北堀久下塚北遺跡』本市市埋蔵文化財調査報告書第13集、本市市教育委員会
- ・町田奈緒子 2002 a 『久下前遺跡第3地点発掘調査報告書』本市市埋蔵文化財調査報告第25集、本市市教育委員会
- ・————— 2002 b 『大久保山遺跡浅見山Ⅰ地区 (第2次)・北堀前山古墳群 (第2・3次) 発掘調査報告書』本市市遺跡調査会報告第6集、本市市遺跡調査会
- ・————— 2004 『東本庄』本市市埋蔵文化財調査報告第29集、本市市教育委員会
- ・的野善行 2007 『発掘調査情報Ⅰ 本市市北堀新田前遺跡の調査』『情報』28、埼玉考古学会
- ・————— 2010 『久下前遺跡 (C1地点)・北堀新田遺跡 (A1地点)・宍勝寺北裏遺跡 (A1・B1地点)』本市市埋蔵文化財調査報告書第23集、本市市教育委員会
- 美里町史編纂委員会 1986 『美里町史 通史編』美里町

图 版



久下前遺跡 F1 地点遠景（北西より）



久下前遺跡 F1～F3 地点（上空より）



久下前遺跡 F1 地点西半遺構群 (上空より、左が北)



久下前遺跡中央遺構群 (上空より、上が北)



21号住居跡（西より）



21号住居跡カマド（西より）



21号住居跡遺物出土状態（西より）



22号住居跡（西より）



31号住居跡（西より）



31号住居跡カマド（西より）



172号住居跡（南西より）



172号住居跡カマド（南西より）



172号住居跡貯蔵穴(南西より)



173号住居跡(南西より)



174号住居跡(西より)



174号住居跡カマド(西より)



175号住居跡(西より)



175号住居跡カマド(西より)



176号住居跡(南西より)



176号住居跡カマド(南西より)



177・179号住居跡（南西より）



177・179号住居跡遺物出土状態（南西より）



177号住居跡カマド（南西より）



178号住居跡（南西より）



178号住居跡カマド遺物出土状態（南西より）



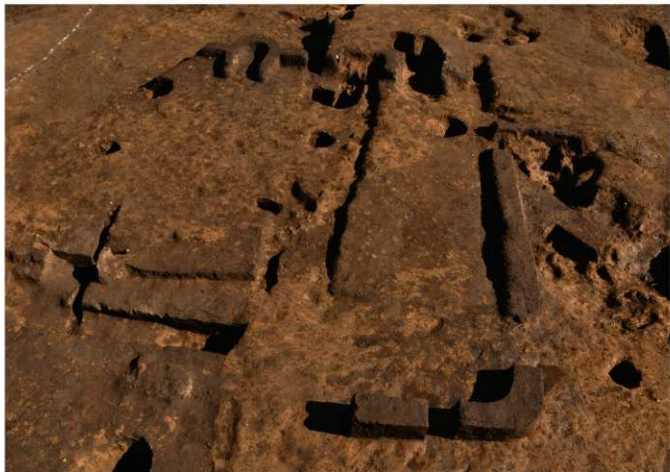
179号住居跡（南西より）



180号住居跡（南西より）



180号住居跡カマド（南西より）



180・181号住居跡（南西より）



181号住居跡カマド遺物出土状態（南西より）



181号住居跡カマド（南西より）



182号住居跡（南西より）



182号住居跡遺物出土状態（南西より）



183号住居跡（北西より）



184号住居跡（西より）



184号住居跡軒丸瓦他出土状態（東より）



185号住居跡（中央上、西より）



21・185・187号住居跡（西より）



187号住居跡（西より）



187号住居跡遺物出土状態（西より）



186号住居跡（東より）



3号井戸跡 (東より)



24号井戸跡 (北東より)



28号土坑 (南より)



421号土坑 (東より)



422号土坑 (東より)



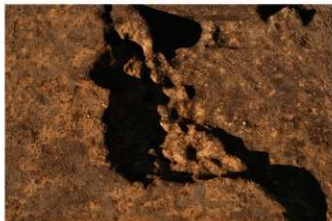
423号土坑 (東より)



424号土坑 (東より)



425号土坑 (北より)



426号土坑（東より）



427号土坑（東より）



428号土坑（東より）



429号土坑（東より）



430～434号土坑（東より）



435号土坑（南東より）



437号土坑（東より）



443号土坑（南東より）



448号土坑（東より）



449～451号土坑（東より）



452号土坑（北東より）



453号土坑（東より）



454号土坑（東より）



456号土坑（東より）



457号土坑（東より）



6号溝跡（東より）



11・12号溝跡（北より、中央左が12号溝、右が11号溝）



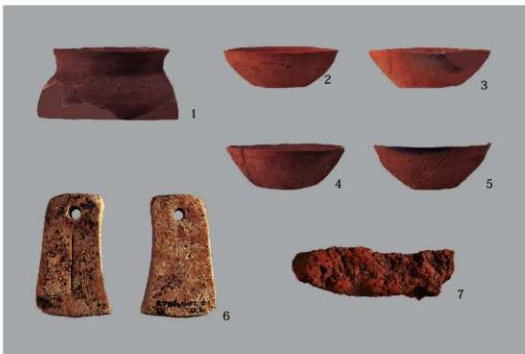
12号溝跡（北より）



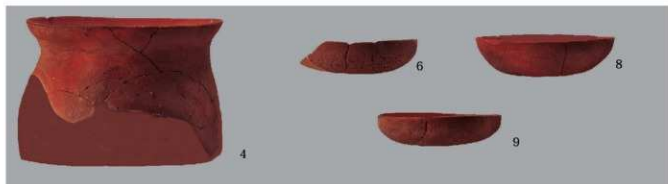
21号住居跡出土遺物



22号住居跡出土遺物



172号住居跡出土遺物



175号住居跡出土遺物



177号住居跡出土遺物



178号住居跡出土遺物



179号住居跡出土遺物



180号住居跡出土遺物



182号住居跡出土遺物



183号住居跡出土遺物



184号住居跡出土遺物



185号住居跡出土遺物



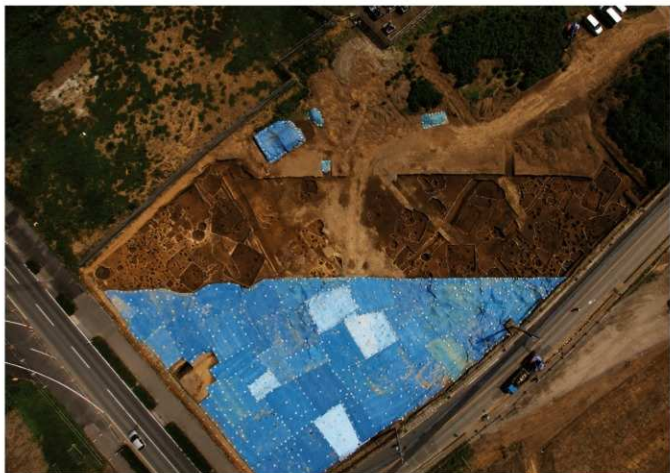
187号住居跡出土遺物



遺構外出土遺物



久下東遺跡G1地点遠景（北東より）



久下東遺跡G1地点全景（上空より、左側道路がほぼ南北方向）



北西半遺構群（上空より、上が北）



中央遺構群（上空より、溝跡がほぼ東西方向）



206号住居跡（北東より）



207・208号住居跡（西より）



209号住居跡（南より）



209号住居跡炉跡（南より）



210号住居跡（西より）



210号住居跡カマド (西より)



211号住居跡 (南東より)



212～214号住居跡 (西より)



214号住居跡カマド (南西より)



215号住居跡カマド (北東より)



216・217号住居跡 (南西より)



216号住居跡遺物出土状態 (東より)



218～220号住居跡 (南西より)



222号住居跡 (南東より)



222号住居跡カマド (南東より)



223・224a・224b号住居跡 (南より)



223号住居跡 (西より)



223号住居跡カマド (西より)



224b号住居跡カマド（南西より）



225・226・229号住居跡遺物出土状態（北西より）



225号住居跡カマド（南西より）



226号住居跡カマド（南より）



230・231号住居跡（西より、左上が231号住居跡）



230号住居跡遺物出土状態(1) (南東より)



230号住居跡遺物出土状態(2) (南東より)



230号住居跡遺物出土状態(3) (北より)



230号住居跡印跡 (南西より)



230号住居跡貯蔵穴 (南より)



232号住居跡（北西より）



232号住居跡遺物出土状態（西より）



233号住居跡（西より）



233号住居跡カマド（西より）



234号住居跡（西より）



235号住居跡（西より）



236号住居跡（南東より）



236号住居跡カマド（南より）



237号住居跡（西より）



237号住居跡カマド（南西より）



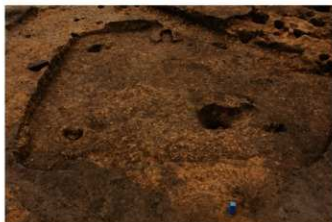
238号住居跡（西より）



238号住居跡カマド（西より）



240号住居跡（南より）



241号住居跡（南西より）



241号住居跡カマド（南西より）



242号住居跡（西より）



242号住居跡カマド（西より）



244号住居跡（西より）



245号住居跡(西より)



245号住居跡カマド(西より)



245号住居跡遺物出土状態(1)(南西より)



245号住居跡遺物出土状態(2)(西より)



245号住居跡遺物出土状態(3)(南西より)



246号住居跡(南より)



246号住居跡カマド(南より)



247号住居跡掘り方東半(南西より)



248・249号住居跡（北西より）



248号住居跡（西より）



249号住居跡カマド（北西より）



250号住居跡南半（西より）



250号住居跡北半（西より、G3地点内）



250号住居跡遺物出土状態(1) (北西より)



250号住居跡遺物出土状態(2) (北より)



250号住居跡遺物出土状態(3) (西より)



250号住居跡遺物出土状態(4) (西より)



250号住居跡P 2内遺物出土状態 (東より)



251号住居跡（西より）



251号住居跡カマド（西より）



252号住居跡（西より）



252号住居跡カマド（西より）



252号住居跡遺物出土状態（南西より）



14・15号掘立柱建物跡（上空より、上が北、左側が14号掘立柱建物跡）



21号井戸跡（北より）



22号井戸跡（北より）



23号井戸跡（南より）



24号井戸跡（南西より）



25号井戸跡 (北より)



307号土坑 (東より)



309・445号土坑 (東より)



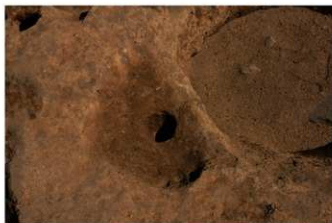
440号土坑 (東より)



441号土坑 (東より)



446号土坑 (東より)



454号土坑 (西より)



456・458号土坑 (西より)



457号土坑（北東より）



458号土坑（北西より）



459号土坑（南より）



460号土坑（北より）



462・463号土坑（南より）



464号土坑（南西より）



466・467号土坑（南東より）



468号土坑（南より）



469号土坑（西より）



470号土坑（西より）



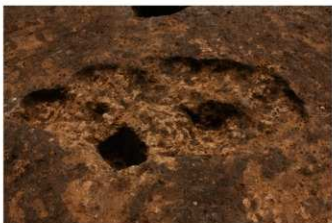
471号土坑（東より）



474号土坑（南東より）



475号土坑（南東より）



476号土坑（北西より）



477号土坑（南西より）



478号土坑（南より）



479号土坑（南西より）



480号土坑（東より）



481号土坑（東より）



482号土坑（北東より）



483号土坑（北東より）



490号土坑（南東より）



487号土坑（西より）



488号土坑 (南より)



491・492号土坑 (東より)



495号土坑 (北西より)



496号土坑 (西より)



497号土坑 (西より)



498号土坑 (南西より)



499号土坑 (南西より)



500号土坑（北西より）



502号土坑（北東より）



503号土坑（北より）



504号土坑、25号井戸跡（北西より）



56号溝跡（上空より、上が北）



56号溝跡遺物出土状態（1）（南より）



56号溝跡遺物出土状態（2）（北より）



87号溝 (南より)



88号溝 (1) (西より)



88号溝 (2) (西より)



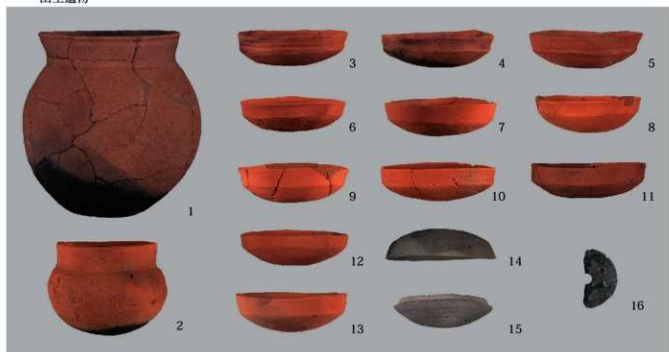
88号溝B-B' 土層断面 (西より)



88号溝C-C' 土層断面 (西より)



89号溝 (西より)



214号住居跡出土遺物



215号住居跡出土遺物

222号住居跡出土遺物

223号住居跡出土遺物



1

224 a 号住居跡出土遺物



1

3

5

7

6

226号住居跡出土遺物



6



7



9



10



8



2



3



13



19



41



18



44



45

230号住居跡出土遺物(1)



230号住居跡出土遺物(2)



231号住居跡出土遺物

232号住居跡出土遺物

233号住居跡出土遺物



234号住居跡出土遺物



236号住居跡出土遺物



238号住居跡出土遺物



242号住居跡出土遺物



243号住居跡出土遺物



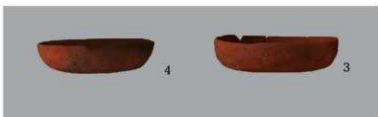
244号住居跡出土遺物



245号住居跡出土遺物



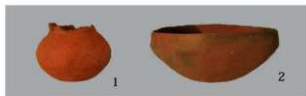
247号住居跡出土遺物



248号住居跡出土遺物



250号住居跡出土遺物



249号住居跡出土遺物



251号住居跡出土遺物



252号住居跡出土遺物



24号井戸跡出土遺物



25号井戸跡出土遺物



土坑出土遺物



56号溝跡出土遺物



ビット出土遺物

報告書抄録

フリガナ	クゲマエイセキV (F1チテン)・クゲヒガシイセキVI (G1チテン)							
書名	久下前遺跡V (F1地点)・久下東遺跡VI (G1地点)							
副書名	本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6							
シリーズ	本庄市埋蔵文化財調査報告書	巻次	第32集					
編著者	松本 完							
編集機関	本庄市教育委員会							
所在地	〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号 TEL 0495-25-1185							
発行日	西暦2013年(平成25年)3月14日							
フリガナ	フリガナ	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡	(°'")	(°'")			
久下前遺跡 F1地点	本庄市北堀1786-1・ 2、1955、1958-3、 1968	112119	53-065	36°13'17"	139°11'4"	20100609～ 20110228	801㎡	道路建設
久下東遺跡 G1地点	本庄市北堀1559-1・ 3～5・7、1560-1、 1561-1・2	112119	53-064	36°13'20"	139°11'1"	20110105～ 20110629	1,628㎡	道路建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			
久下前遺跡	集落	縄文・弥生時代			縄文土器片			
		古墳時代前期	竪穴住居跡1軒		土師器			
		古墳時代中期	竪穴住居跡2軒		土師器・磨石			
		古墳時代終末期～奈良・平安時代	竪穴住居跡16軒		土師器・須恵器・土製紡錘車・石製紡錘車・鉄鎌			
		古墳～平安時代	竪穴住居跡3軒、土坑2基		土師器片・須恵器片			
		中・近世	井戸跡2基、土坑37基、溝跡4条、ピット		中世在地産土器・カワラケ・中世瓦・古銭			
		久下東遺跡	集落	縄文・弥生時代			縄文土器片・弥生土器片・打製石鏃	
古墳時代前期	竪穴住居跡1軒			土師器				
古墳時代中期	竪穴住居跡3軒			土師器・土鍾・磨石・青銅環				
古墳時代後期	竪穴住居跡14軒			土師器・須恵器・土鍾・石製紡錘車・磨石・耳環				
古墳時代終末期～奈良・平安時代	竪穴住居跡17軒、井戸跡1基			土師器・須恵器・灰軸陶器・土鍾・土製紡錘車・石製勾玉・磨石・砥石				
古墳～平安時代	竪穴住居跡9基、土坑5基			土師器片・須恵器片				
中・近世	掘立柱建物跡2棟、井戸跡7基、土坑63基、溝跡4条(館跡の堀を含む)、ピット多数			中世在地産土器・陶器・土鍾・砥石				

本庄市埋蔵文化財調査報告書 第32集

久下前遺跡Ⅴ(F 1 地点)・久下東遺跡Ⅵ(G 1 地点)

—本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6—

平成25年3月11日 印刷

平成25年3月14日 発行

発行／本庄市教育委員会

埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号

印刷／株式会社タカサキ印刷

埼玉県本庄市小島南1丁目10番27号